

令和3年度補正予算

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業

「多機関と連携したひきこもり支援体制の向上と情報の相互共有事業」

オンラインを活用した
ひきこもり支援の在り方に関する
調査報告書

特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会

令和5年(2023年)3月

目 次

はじめに	1
第1部 家族調査	3
第2部 本人調査	44
第3部 全体のまとめ	85
第4部 自由記述	112
おわりに	163

参考・引用文献

資料

資料1 KHJ支部調査（ご家族用）

資料2 KHJ支部調査（ご本人用）

図表一覧

第一部 家族調査

- 図1-1 ご本人のひきこもり状態の有無（現在）
- 図1-2 ご本人のひきこもり経験の有無（過去）
- 図1-3 ご本人の性別
- 図1-4 ご本人の年齢
- 図1-5 ひきこもりの初発年齢
- 図1-6 ひきこもり期間1回目（年）
- 図1-7 ご本人の1ヶ月の平均外出日数
- 図1-8 ひきこもりの程度
- 表1-1 ご家族が住んでいる場所
- 図1-9 ご家族の続柄
- 図1-10 ご家族の年齢
- 図1-11 ご本人にとって支援は必要か
- 図1-12 支援・医療機関の利用状況（ご本人）
- 図1-13 医療を必要としていても、受診が難しい状況にあるか
- 図1-14 訪問型の医療サービスの充実は必要か
- 図1-15 ご家族にとって支援は必要か
- 図1-16 支援・医療機関の利用状況（ご家族）
- 図1-17 家族会への参加経験（ご家族）
- 図1-18 家族会に参加したことで、気持ちや家族関係などに何らかの良い変化があったか
- 図1-19 家族会への所属（ご家族）
- 図1-20 ご家族の家族会所属支部（地方別）
- 表1-2 家族会所属支部（ご家族）
- 図1-21 各機器の使用頻度
- 図1-22 通信手段
- 表1-3 各音声通話の使用頻度
- 表1-4 各文字の使用頻度
- 表1-5 各ビデオ通話の使用頻度
- 表1-6 その他の通信手段の使用頻度
- 図1-23 検索サイト
- 図1-24 SNS
- 図1-25 動画や文章
- 図1-26 掲示板
- 図1-27 ウェブサイト
- 図1-28 マスメディア

- 図1-29 オンラインとマスメディア以外
- 図1-30 ひきこもりに関する相談機関を検索する際に、どんな情報を知りたいか
- 図1-31 オンライン支援を利用したことがあるか
- 図1-32 リアルタイムかどうか
- 図1-33 発信者は誰か
- 図1-34 やり取りする相手は誰か
- 図1-35 受け取る情報の種類は
- 図1-36 やり取りの時の匿名性
- 図1-37 利用時間
- 図1-38 オンライン支援を何のために使いたいか
- 図1-39 利用料金が月平均でいくらまでならオンライン支援を利用したいか
- 図1-40 ご本人の就労経験の有無
- 図1-41 現在ご本人に働きたいという思いがあるか
- 図1-42 ご本人にオンラインやテレワークで働きたいという思いがあるか

第二部 本人調査

- 図2-1 ひきこもり状態の有無（現在）
- 図2-2 ひきこもり経験の有無（過去）
- 図2-3 ご本人の年齢
- 図2-4 ご本人の性別
- 表2-1 ご本人が住んでいる場所
- 図2-5 ひきこもりの初発年齢
- 図2-6 ひきこもり期間1回目（年）
- 図2-7 ひきこもりの程度
- 図2-8 ご本人の1ヶ月の平均外出日数
- 図2-9 これから生活していくうえで、何らかの支援を望んでいるか
- 図2-10 支援・医療機関の利用状況（ご本人）
- 図2-11 医療を必要としていても、受診が難しい状況にあるか
- 図2-12 訪問型の医療サービスの充実は必要か
- 図2-13 家族会への参加経験（ご本人）
- 図2-14 家族会への所属（ご本人）
- 表2-2 家族会所属支部（ご本人）
- 図2-15 ご本人の家族会所属支部（地方別）
- 図2-16 家族会への参加経験（ご家族）
- 図2-17 ご家族が家族会に参加したことで変化があったか
- 図2-18 家族会への所属（ご家族）
- 表2-3 家族会所属支部（ご家族）
- 図2-19 ご家族の家族会所属支部（地方別）

- 図 2-20 各機器の使用頻度
- 図 2-21 通信手段
- 表 2-4 各文字の使用頻度
- 表 2-5 各音声通話の使用頻度
- 表 2-6 各ビデオ通話の使用頻度
- 表 2-7 その他の通信手段の使用頻度
- 図 2-22 検索サイト
- 図 2-23 SNS
- 図 2-24 動画や文章
- 図 2-25 掲示板
- 図 2-26 ウェブサイト
- 図 2-27 マスメディア
- 図 2-28 オンラインとマスメディア以外
- 図 2-29 ひきこもりに関する相談機関を検索する際に、どんな情報を知りたいか
- 図 2-30 オンライン支援を利用したことがあるか
- 図 2-31 リアルタイムかどうか
- 図 2-32 発信者は誰か
- 図 2-33 やり取りする相手は誰か
- 図 2-34 受け取る情報の種類は
- 図 2-35 やり取りの時の匿名性
- 図 2-36 利用時間
- 図 2-37 オンライン支援を何のために使いたいか
- 図 2-38 利用料金が月平均でいくらまでならオンライン支援を利用したいか
- 図 2-39 就労経験の有無
- 図 2-40 現在働きたいという思いがあるか
- 図 2-41 オンラインやテレワークで働きたいという思いがあるか

第三部 全体のまとめ

- 図 3-1 ご本人の平均年齢の推移
- 図 3-2 ご家族の平均年齢の推移
- 図 3-3 平均ひきこもり期間の推移
- 図 3-4 40 歳以上の割合の推移
- 図 3-5 50 歳以上の割合の推移
- 図 3-6 支援の必要性
- 図 3-7 医療が必要でも受診が難しい状況
- 図 3-8 訪問型医療サービス充実の必要性
- 図 3-9 情報電子機器の使用頻度
- 図 3-10 通信手段の使用頻度

- 図 3-1-1 就労意欲 (本人調査)
- 図 3-1-2 就労意欲 (家族調査)
- 図 3-1-3 オンライン就労への意欲 (本人調査)
- 図 3-1-4 オンライン就労への意欲 (家族調査)
- 表 3-1 検索キーワード (本人調査)
- 表 3-2 検索キーワード (家族調査)
- 図 3-1-5 検索キーワードの共起ネットワーク (本人調査)
- 図 3-1-6 検索キーワードの共起ネットワーク (本人調査/性別との関連)
- 図 3-1-7 検索キーワードの共起ネットワーク (本人調査/年齢層との関連)
- 図 3-1-8 検索キーワードの共起ネットワーク (家族調査)
- 図 3-1-9 検索キーワードの共起ネットワーク (家族調査/続柄との関連)
- 図 3-2-0 検索キーワードの共起ネットワーク (家族調査/年齢層との関連)
- 表 3-3 職場や働き方として求めていることの因子分析結果 (家族調査)
- 表 3-4 職場や働き方として求めていることの因子分析結果 (本人調査)

はじめに

本報告書は 20 年目の節目になる報告書です。

このような長期にわたる調査は、これまでのひきこもりの実態の変遷を如実に表しており、貴重な報告になります。

今までの調査を振り返ると、それまで言われていた「あなたの努力が足りなかったのでは？」や「厳しく躰をしなかったから・・・」等、様々な言葉で親や本人の責任を揶揄されることが多くあり、そのため相談できずに諦めた方々や家族ごとひきこもってしまう事が過去には沢山ありました。現在もまったくなくなった訳ではないのですが、当初よりひきこもりへの理解が進んできていることを実感しており、そのような経緯がこの報告書から読み取れます。

今回の報告書については、今までの報告書にはなかった部分が新たに浮かび上がってまいりました。

掻い摘んで説明しますと、就労に関する報告になりますが、以前から報告があった「就労失敗」や「就労挫折」についてもっと詳しくわかってきました。そしてそこから一步踏み込んだ調査になりますが、そのうえで当事者の方々は何を望んでいるのかが分かってきました。

本人調査では「就労したい」と回答した方の割合がどの年代でも 7 割を超える結果となっており、「就労したくない」と回答した方の割合は年齢が上がるにつれて上昇する傾向がありました。

この結果はよくよく考えてみると当たり前の欲求ではないかと思えます。人は一人では暮らしていくことがとても難しい生物ですから、私たちの歴史では常に集団を形成し、人と人との関りの中で生活を維持してきたことが伝わってきています。

その集団で役割があり、その役割を担うことで承認されたり、自己有用感が養成されたりすることが人の成長につながってきたのではないのでしょうか。

役割の一つが「仕事」ということになり、人は成長するにつれ心からの要求が「仕事」という要求に繋がっていることは容易に理解できます。

ひきこもりはすそ野が広く奥行きが深く理解することはとても大変な労力がいると思いますが、そもそも、人間という生き物を理解することから始めれば納得できるのではないのでしょうか？

山形県出身の小説家で藤沢周平が描いている物語は、一般的な武士の生き方ですが、エピソードを私なりに紹介しますと、人生における様々な困難に対してどのように生きるかを示唆しているように思います。そこから藤沢周平が私

たちに伝えなかったことは、どのような困難があったとしても「普通に生きる。」という事がとても大事な事と伝えるテーマにしていたと思います。

「普通に生きる。」とは簡単な事のように思いますが、とても難しい生き方です。なぜなら価値観が一人ひとり違いますし、個人を取り巻く環境も違うからです。

私はその「普通」をこのように捉えています。「自分らしく生きる。」という言葉に変えることで様々な困難も乗り越えることが出来るのではないかと思います。もう少し言い換えれば「自主・自立した生き方。」で沢山の方々から支えてもらい、初めて自立した生き方が出来るのではないかと思います。孤立や孤独では成しえない生き方が自立であれば、私たちが目指している地域共生社会が実現しないと難しいと考えます。

就労も同じで、企業の深い理解と豊かな協力がなければ就労が難しいでしょう。この調査で本人の方々の意向が分かったことで、私たち家族会は社会参加の仕組みを積極的に行っていないといけないと思います。

これからはデジタル技術がこれまで以上に飛躍的に進歩していく社会になります。その技術を利用し様々な社会参加の仕組みを社会全体で構築していくことがひきこもっている方々の生きる道標になるのではないのでしょうか。

これからもこのような調査を継続していき、人間の本質を理解することに繋がる活動を担っていきたいと思います。

この調査に協力していただいた全国の支部活動に参加しているご本人やご家族の皆様とともに20年にわたり調査をしいただいた境先生はじめスタッフの皆様、ご協力いただいた関係者の皆様に深く感謝の意をお伝えし、はじめの言葉にさせていただきます。

令和5年3月吉日

特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会
共同代表 伊藤 正俊

第一部
家族調査

1. 目的

本調査は、ひきこもり支援におけるオンライン活用で求められていることを明らかにすることを目的としています。

2. 調査方法

【 調査対象者 】

特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会（以下、「家族会」とする。）の支部が令和4年11月～令和5年1月に開催した月例会において調査を実施するとともに、ウェブ調査を実施しました。また、全国のひきこもり地域支援センターにも調査用紙を配布するとともに、ウェブ調査を実施しました。その結果、344名（調査用紙による回答308名、ウェブによる回答36名）から回答が得られました。

【 調査内容 】（注：調査内容の詳細は、巻末の資料を参照してください。）

（1）基礎情報 家族調査に回答した方（以下、ご家族）及び、ひきこもり状態にある人（以下、ご本人）に関する以下の情報について回答を求めました。

- ・現在のひきこもり状態の有無
- ・過去のひきこもり経験の有無
- ・ご本人の性別
- ・ご本人の年齢
- ・ひきこもりの初発年齢および期間
- ・ご本人の1ヶ月の平均外出日数
- ・現在のひきこもりの程度
- ・ご本人が家庭内で貢献している家事等
- ・ご家族の居住地
- ・ご家族の続柄
- ・ご家族の年齢

（2）支援・医療機関について

- ・ご本人にとっての支援の必要性
- ・ご本人の支援・医療機関の利用状況
- ・ご本人が医療を必要としていても、受診が難しい状況にあるか
- ・受診が難しい理由について
- ・ご本人にとって訪問型の医療サービスの充実は必要か
- ・医療受診で必要なサービスについて

- ・ご家族にとっての支援の必要性
- ・ご家族の支援・医療機関の利用状況

(3) KHJ 家族会について

- ・家族会への参加経験
- ・家族会に参加したことで、気持ちや家族関係などに何らかの良い変化があったか
- ・家族会への所属の有無
- ・家族会の所属支部

(4) ウェブサイトの閲覧などに使用するデバイスとその使用頻度

(5) 各通信手段の使用頻度

(6) ひきこもりに関する情報を入手する際に使用する手段とその使用頻度

- ・検索サイト
- ・SNS
- ・動画や文章
- ・掲示板
- ・ウェブサイト
- ・マスメディア
- ・オンラインとマスメディア以外

(7) ひきこもりに関する相談機関を検索する際にどんな情報を知りたいか

(8) オンライン支援の利用経験

(9) オンライン支援を受けるときに重要だと思うこと

- ・リアルタイムかどうか
- ・発信者は誰か
- ・やり取りする相手は誰か
- ・受け取る情報の種類は何か
- ・やり取り時の匿名性
- ・利用時間
- ・オンライン支援を何のために使いたいか
- ・料金の有無は

(10) ご本人の就労経験と就労意欲

- ・ご本人の就労経験の有無
- ・ご本人の就労意欲の有無
- ・ご本人のオンライン就労への意欲の有無

【 調査手続き 】

調査の趣旨に関する文書を読んだ上で、調査協力に同意された方のみが調査用紙に回答をしました。調査の趣旨に関する文書は、調査用紙から切り離して、持ち帰っていただくように依頼しました。回答者には、月例会において調査用紙と返信用封筒を配布し、返信用封筒に入れて郵送にて回収をしました。ウェブ調査においては、**GoogleForm** で作成した調査フォームのリンク情報を各支部にメールで送信し、同意の得られたご家族が回答を行いました。

結果

(1) 基礎情報

1. 現在のひきこもり状態の有無

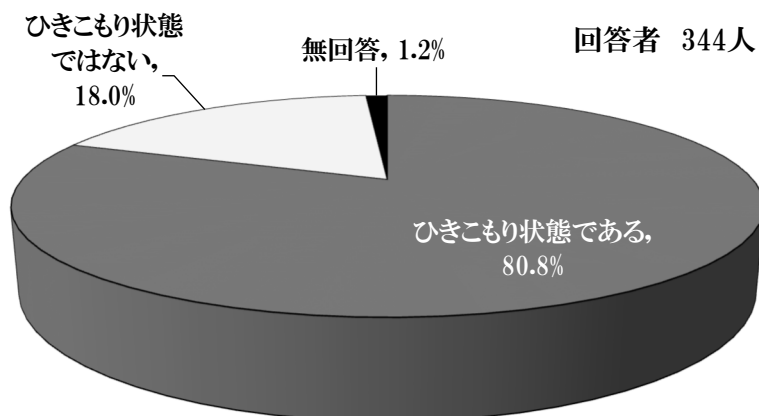


図1-1 ご本人のひきこもり状態の有無(現在)

図 1-1 に、ご家族がご本人の現在のひきこもり状態について回答した結果を示しました。ご本人が現在「ひきこもり状態である」と回答した方が 80.8% (80.1%)、「ひきこもり状態ではない」と回答した方が 18.0% (18.7%)、無回答が 1.2% (1.2%) でした (カッコ内は昨年度の値)。

2. 過去のひきこもり経験の有無

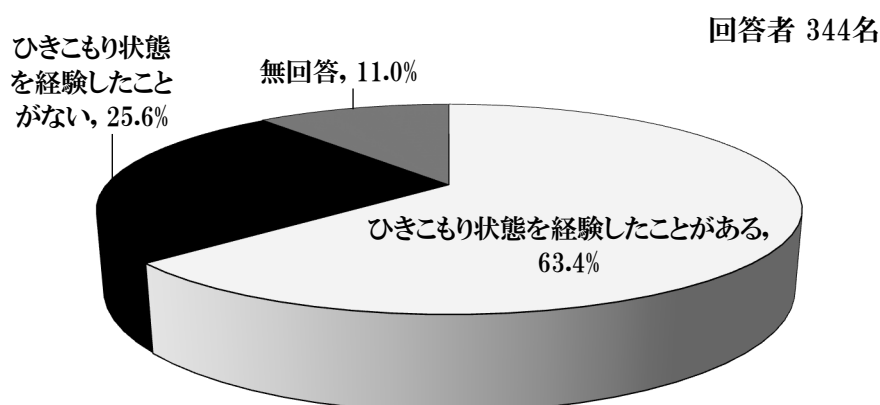


図1-2 ご本人のひきこもり経験の有無(過去)

過去にひきこもり状態を経験したことがあるかについて、図 1-2 に示しました。「ひきこもり状態を経験したことがある」と回答した方が 63.4% (65.7%)、「ひきこもり状態を経験したことがない」と回答した方が 25.6% (26.2%)、無回答が 11.0% (8.1%) でした (カッコ内は昨年度の値)。

※これ以降は、ご本人が現在ひきこもり状態ではなく、過去にひきこもり状態を経験したことがないと回答した方を除外して、338名のご家族のアンケートを集計しています。

3. ご本人の性別

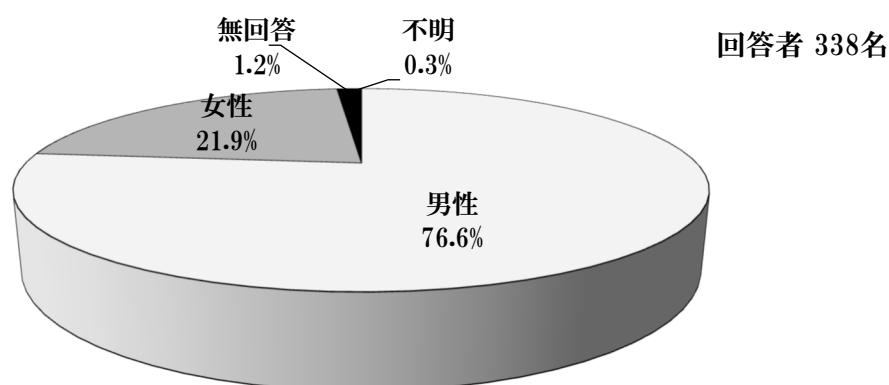


図1-3 ご本人の性別

図 1-3 のとおり、ご本人の性別については、男性が 76.6% (81.3%)、女性が 21.9% (16.3%)、不明が 0.3% (2.1%) でした (カッコ内は昨年度の値)。

4. ご本人の年齢

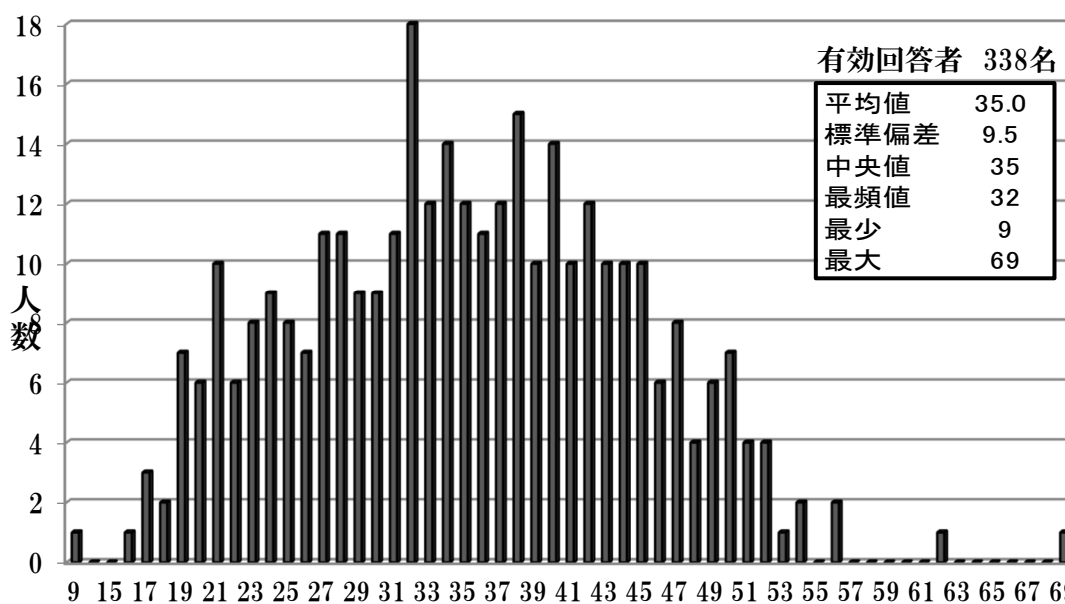


図1-4 ご本人の年齢

ご本人の年齢は図 1-4 のとおりです。平均年齢は 35.0 歳 (34.6 歳) で、最年少が 9 歳 (13 歳)、最年長が 69 歳 (72 歳) でした (カッコ内は昨年度の値)。

5. ひきこもりの初発年齢

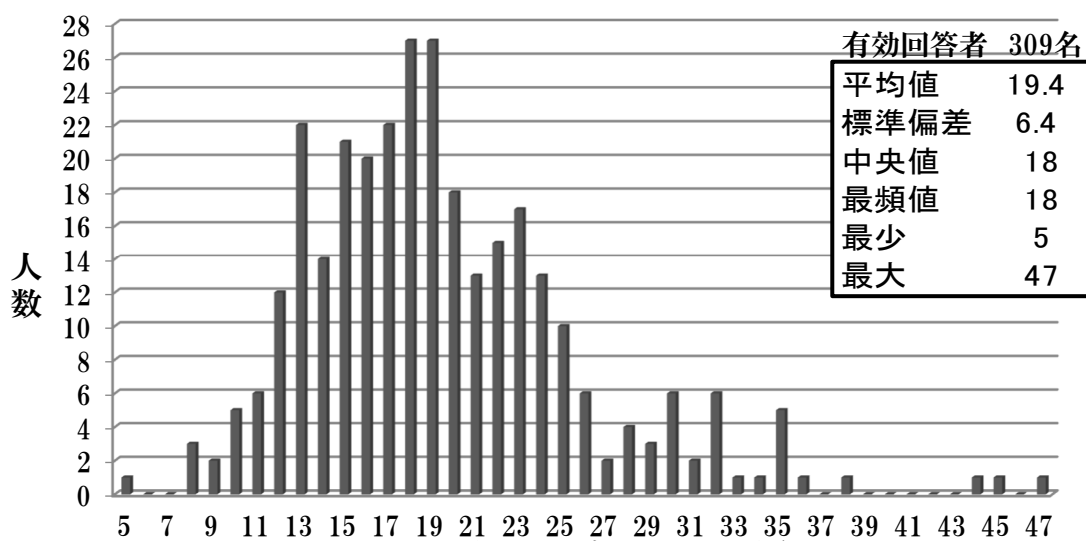


図1-5 ひきこもりの初発年齢

図 1-5 にご本人のひきこもり初発年齢について示しました。ひきこもりが始まった時期についての平均年齢は 19.4 歳 (19.9 歳)、最年少が 5 歳 (7 歳)、最年長が 47 歳 (68 歳) でした。もっとも多かった年齢は 18 歳 (22 歳) でした (カッコ内は昨年度の値)。

6. ひきこもりの期間

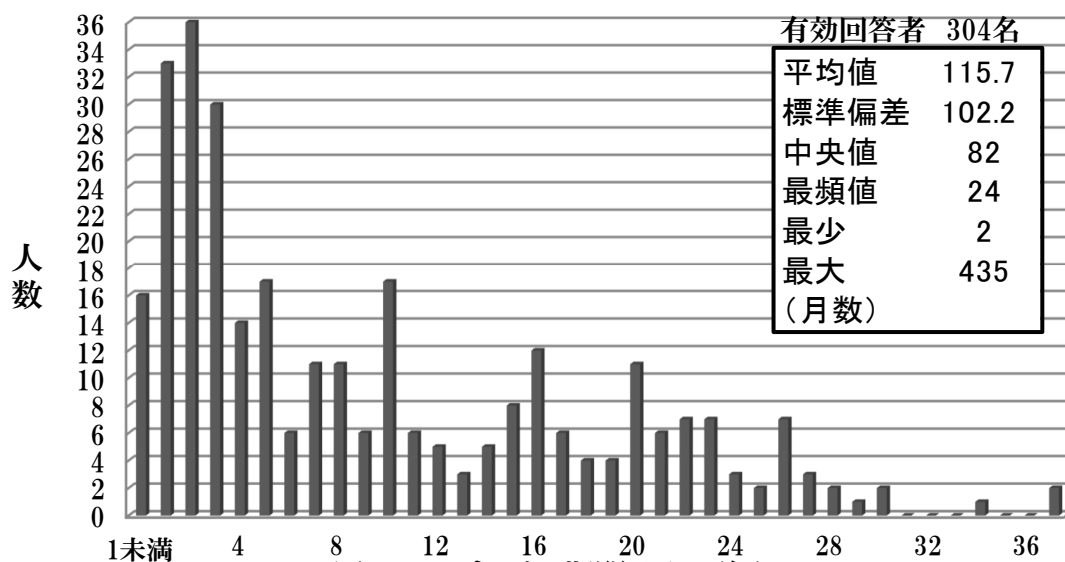


図1-6 ひきこもり期間1回目(年)

図 1-6 にひきこもり期間について示しています。平均は 9.6 年 (9.2 年)、最短が 2 ヶ月 (2 ヶ月)、最長が 36 年 (33 年) でした (カッコ内は昨年度の値)。

7. ご本人の1ヶ月の平均外出日数

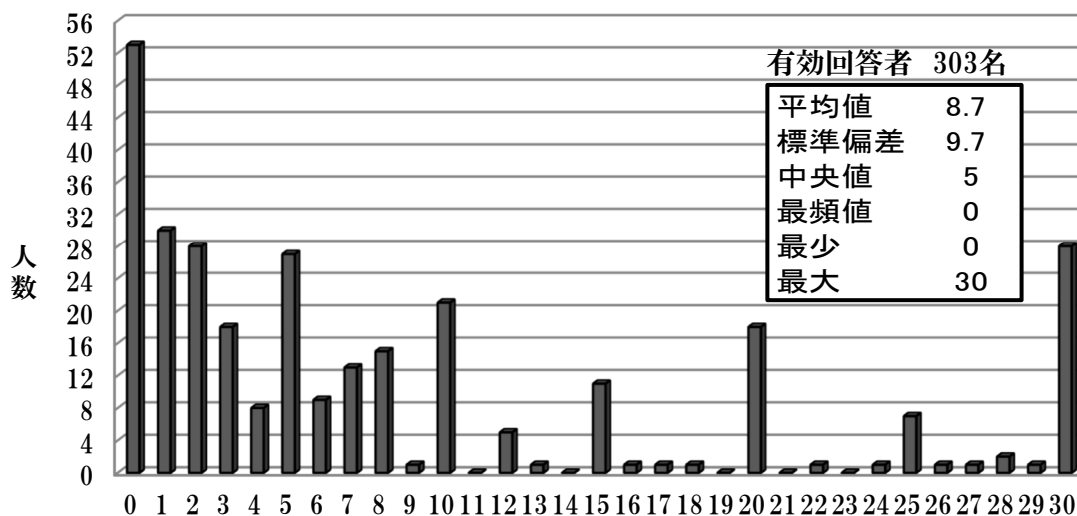


図1-7 ご本人の1ヶ月の平均外出日数

図1-7に、ご本人の1ヶ月の平均外出日数について示しました。「毎日外出している」「31日外出している」と回答した場合は、「30日」として示しました。平均外出日数は8.7日(9.7日)、最少は0日(0日)、最大は30日(30日)でした(カッコ内は昨年度の値)。今回の調査では「0日」と回答した方が53名と、一番多く見られました。

8. 現在のひきこもりの程度

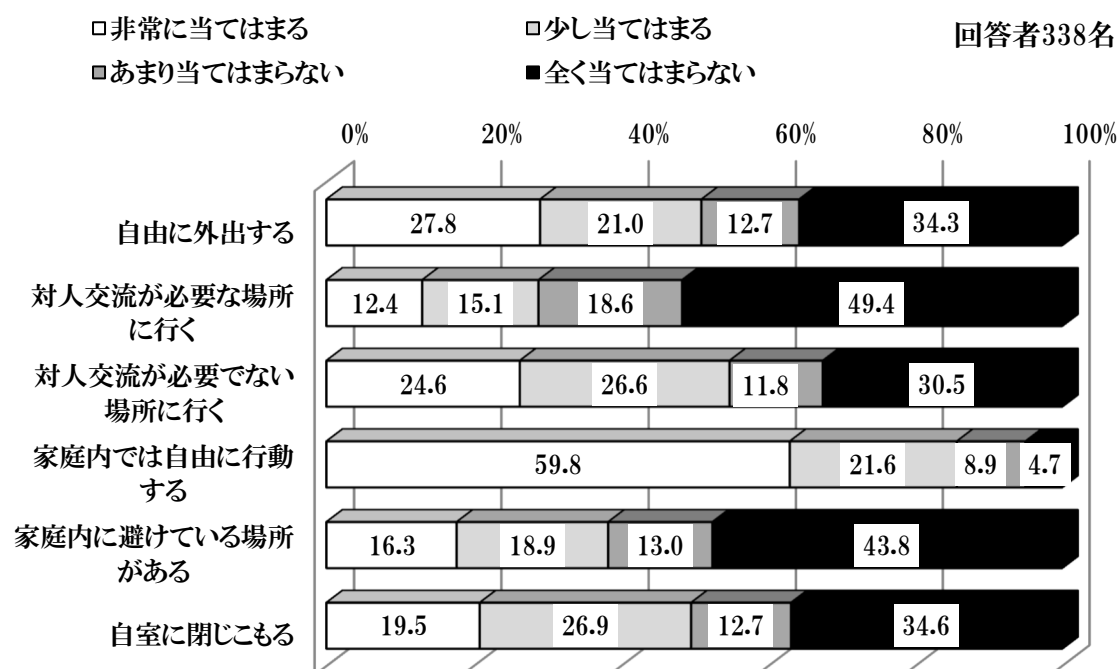


図1-8 ひきこもりの程度

現在のひきこもりの程度について、図 1-8 に示します。家庭内では自由に行動し、対人交流が必要ではない場所へ行く方、自由に外出する方が多く、昨年度の調査と同様の結果となりました。

9. ご本人が家庭内で貢献している家事等

ご本人が家庭内で貢献している家事等について、自由記述で回答を求めた結果を以下に示します。()内の数字は、回答者数を表しています。

○食事関連

- ・食事作り（料理・炊事）（49）
- ・食事の準備（7）
- ・ご飯を炊く（5）
- ・自分の食事作り（4）
- ・料理補助、夕飯時食品運び、はし・皿設置、お米洗い、海鮮丼を作る、食事全般（つくる、片づけ）、米を炊く準備、麦茶作り、パン、うどん、ソバ作り

○食器洗い、食後の片付け

- ・食器洗い（32）
- ・自分の食器を洗う（13）
- ・食後の片付け（7）
- ・食器の片付け（3）
- ・自分の食器の後かたづけ（2）
- ・皿を食洗器に入れ鍋を洗う、食器拭き、後片付け、自分の食器を流しに持っていく

○掃除関連

- ・掃除（26）
- ・掃除機（10）
- ・自室の掃除（5）
- ・トイレ掃除（4）
- ・自分の部屋の片付け（2）
- ・高い所のそうじ、片付け、エアコンそうじ、自室の掃除機、階段掃除、台所かたづけ、整理整頓

○洗濯

- ・洗濯（23）
- ・洗濯物取り込み（17）
- ・洗濯物たたみ（10）
- ・本人の洗濯（8）
- ・洗濯物干し（5）
- ・夜寝る前の洗たく機のタイマーセット、タオルたたみ

○風呂掃除・準備

- ・風呂掃除（52）
- ・風呂の準備（5）
- ・お風呂の排水口掃除

○買物関連

- ・買物 (28)
- ・買物 (ネット) (4)
- ・生協の注文表作成 (2)

○ゴミ出し

- ・ゴミ出し (21)
- ・ゴミのかたづけ、一応なんでもごみ捨て、ペットボトルの回収、新聞をしぼる、ゴミの分別

○家事全般

- ・家事全般 (7)
- ・除雪など体を使う家事 (4)
- ・灯油補充 (3)
- ・カーテンを閉める (2)
- ・雪かき (2)
- ・宅配便などの対応 (2)
- ・布団敷きと片付け、ネット関係 (通販など)、給油、洗車、ウーバーイーツ、畑の空き缶拾い、戸締り、換気扇カバー交換、高い所のけい光灯等の交換、電気をつける、冷蔵庫の整理をする、家事手伝い、親の布団あげ、電球交換

○家族の手伝い

- ・車での送迎 (7)
- ・重い物の持ち運び (4)
- ・留守番 (3)
- ・介護 (2)
- ・子守り (2)
- ・祖母の居住先への顔出し、頼めば、食品をしまったり運んだりする、重い買い物の配び、積おろし、力仕事、開店準備、父親の仕事 (パソコンでデータを出す) を手伝う、家人が留守中の荷物の受け取り、味見、自営業、おばあちゃんの見守り、オンラインショップ

○ペットの世話

- ・ペットの世話 (8) (犬・猫・魚)
- ・犬の散歩 (6)
- ・愛犬のペットシート買い

○作業

- ・修理 (2)
- ・パソコン操作、パソコンのメンテ、家電の修繕、スマホや電化製品のメンテナンス、パソコンの操作やトラブルの解消などに協力してくれる、スマホの不具合時の対応など機械関係対応、大工仕事、高い所の作業、機器系の故障修理、電子機器等の接続

○庭、畑仕事

- ・庭木の剪定 (3)

- ・草刈り処理、ガーデニング、やさいづくり、庭の水まき、夏野菜の栽培と収穫、畑の荒起こし、ブドウ、洋なし、りんごの手入れ

○1人暮らし・別居

- ・1人暮らし (6) ・別居 (3)

○その他

- ・家の中の気になる所を直してる、ほとんどの穴をふさぐ ・伝えたい新聞記事があれば切り取っておいてくれる ・こちらが言ったことはぼちぼちしてくれる ・高い所の物を取る、高い所へ物を上げる ・車の事についてくわしく助かっている ・妻の一周忌の対応は大体代行している ・自分で仕事を見つけて家庭内で就労 ・親の散歩の付き合い (公園など) ・家の管理、電気、水道など ・ガスを直してくれた ・電子機器などの操作 ・自宅警備員 ・専業主婦

○特になし

- ・なし (27)、あまりない (2)
- ・ないと思われる

10. ご家族の居住地

表1-1 ご家族が住んでいる場所

地方	都道府県	人数	地方	都道府県	人数
北海道	北海道	17	近畿地方	三重県	3
東北地方	青森県	5		京都府	1
	岩手県	2		大阪府	16
	宮城県	1		兵庫県	7
	秋田県	3		奈良県	2
	山形県	4	中国地方	岡山県	2
関東地方	福島県	5		広島県	12
	茨城県	5		山口県	2
	栃木県	10	四国地方	香川県	6
	群馬県	13		愛媛県	3
	埼玉県	22		高知県	10
	千葉県	21	九州地方	福岡県	11
	東京都	17		長崎県	1
	神奈川県	18		宮崎県	9
中部地方	新潟県	2		鹿児島県	3
	富山県	9		沖縄県	8
	石川県	5	無回答		7
	福井県	3	合計		338
	山梨県	2			
	長野県	6			
	岐阜県	8			
	静岡県	26			
	愛知県	31			

表 1-1 のとおり、ご家族が住んでいる場所は 39 都道府県（39 都道府県）に分布しています。各地方の割合としては、北海道・東北地方が 11.2%（10.7%）、関東地方が 32.0%（37.8%）、中部地方が 27.8%（20.7%）、近畿地方が 8.8%（11.3%）、中国地方が 4.8%（3.0%）、四国地方が 5.7%（6.4%）、九州地方が 9.7%（10.1%）となっています（カッコ内は昨年度の値）。

11. ご家族の続柄

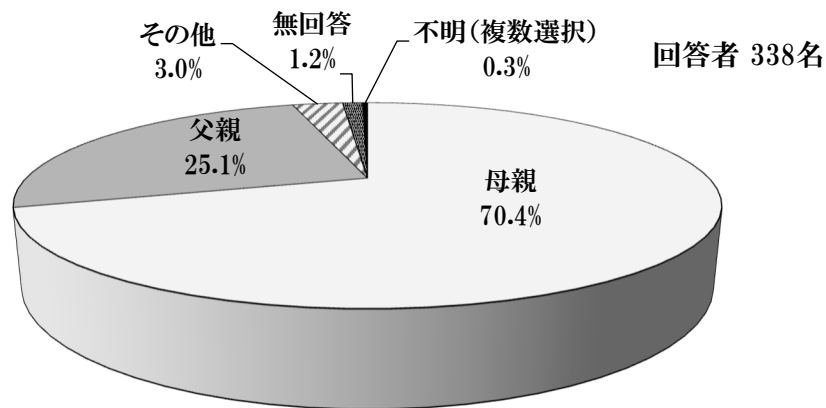


図1-9 ご家族の続柄

図 1-9 のとおり、ご家族とご本人との続柄は、母親が 70.4%（73.2%）、父親が 25.1%（22.6%）、その他が 3.0%（2.7%）、無回答が 1.2%（1.5%）でした（カッコ内は昨年度の値）。その他としては、兄弟、姉妹、叔父、伯母という回答がありました。

12. ご家族の年齢

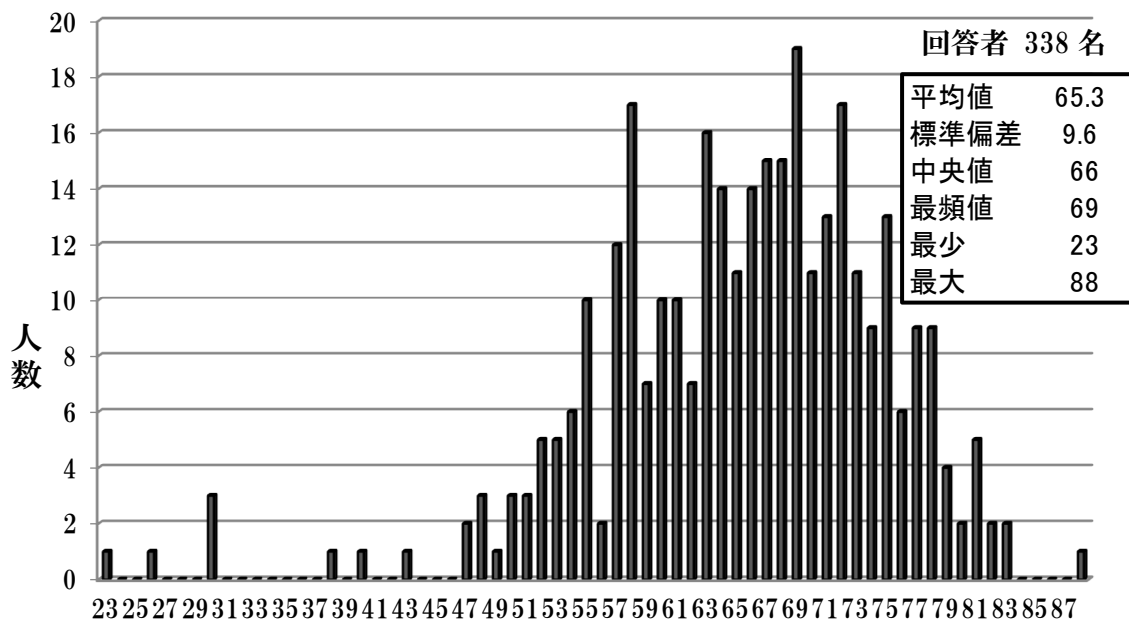


図1-10 ご家族の年齢

ご家族の年齢を図 1-10 に示します。ご家族の平均年齢は 65.3 歳（65.3 歳）、最年少が 23 歳（26 歳）、最年長が 88 歳（87 歳）でした（カッコ内は昨年度の値）。昨年度の調査の値と類似しています。

(2) 支援・医療機関について

1. ご本人にとっての支援の必要性

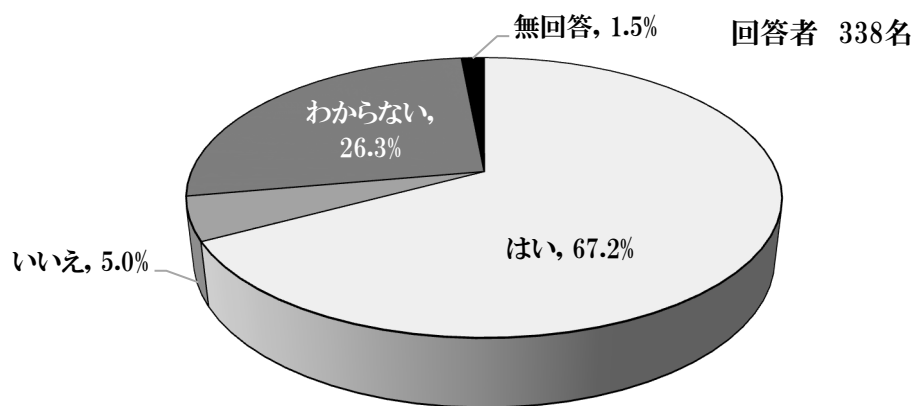


図1-11 ご本人にとって支援は必要か

図 1-11 に、ご本人にとって支援が必要かどうかについて示しました。「必要である」と回答した方が 67.2%（67.8%）、「必要ない」と回答した方が 5.0%（4.5%）、「わからない」と回答した方が 26.3%（25.0%）、無回答が 1.5%（2.7%）でした（カッコ内は昨年度の値）。約 7 割のご家族がご本人にとって何らかの支援が必要であると回答しました。

2. 支援・医療機関の利用状況

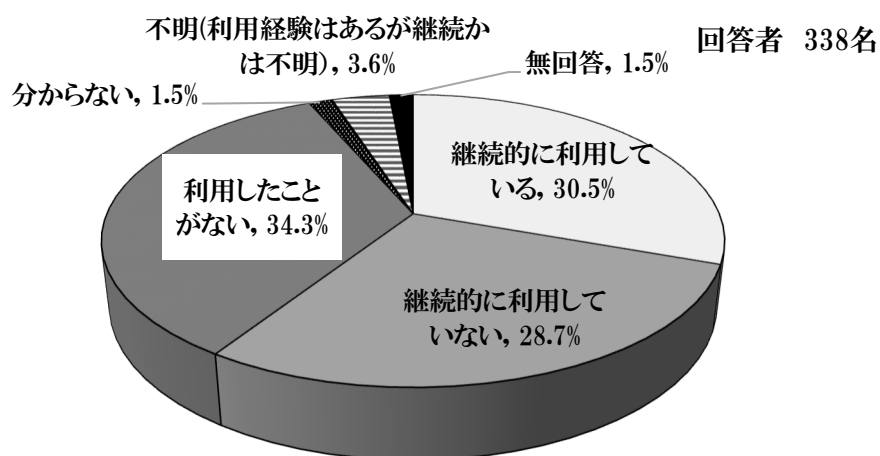


図1-12 支援・医療機関の利用状況(ご本人)

ご本人の支援・医療機関の利用状況については図 1-12 のとおりです。「ご本人が支援・医療機関を利用したことがある」と回答した方が、59.2% (56.3%) でした。そのうち、「支援・医療機関を継続的に利用している」と回答した方が 30.5% (29.8%)、「継続的に利用していない」と回答した方が 28.7% (26.5%) でした。また、「支援・医療機関を利用したことがない」と回答した方が 34.3% (36.7%)、分からないは 1.5% (2.7%)、無回答は 1.5% (4.2%) でした（カッコ内は昨年度の値）。

3. ご本人が医療を必要としていても、受診が難しい状況にあるか

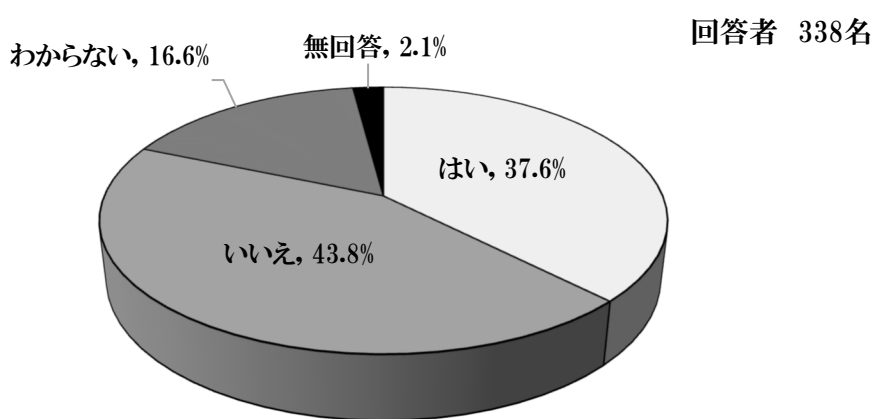


図1-13 医療を必要としていても、受診が難しい状況にあるか

図 1-13 にご本人が医療を必要としていても、受診が難しい状況にあるかどうかについて示しました。「受診が難しい状況にある」と回答した方が 37.6% (41.6%)、「難しい状況にない」と回答した方が 43.8% (38.6%)、「わからない」と回答した方が 16.6% (16.9%)、無回答が 2.1% (3.0%) でした（カッコ内は昨年度の値）。

また、受診が難しいと回答した方にはその理由について自由記述で回答を求めました。（ ）内の数字は、回答者の数を表しています。

○本人の拒否

- ・本人が行きたがらない (7)
- ・本人が拒否している (7)
- ・本人が希望しない (3)
- ・受診しようとしらない (2)
- ・本人は、特別障害があるわけではなく、行く理由もなく、行く意味もないと思っている。何かを変えたいとも思っていない。
- ・両親こそが受診すべきとの思い込みが強い。本人のこだわり、思い込みが強いので受診がむずかしいです。
- ・声を掛けても「行く必要ない」と言う。コロナワクチンも、2回目までは受け

たが3回目から行こうとせず

- ・持病があって通院していたが、コロナになってからは「コロナに感染するから行かない」と言っている
- ・本人ががんこである。病気ではないという。アレルギーと思っているので薬等無理
- ・少々のことでは、行きたくない意志が強いため
- ・本人はわかっているが、自分から行こうとしない
- ・本人が病気でないから行きたくない、と言う
- ・本人が必要ない、行きたくないと言います
- ・医療の必要性をそれほど感じていない
- ・本人がその気になっていない
- ・何ともないとの事で行かない
- ・自室から出たがらない
- ・本人が強く拒否する

○病院、医師に対してネガティブな感情を持っている

- ・医師に対する不信感がある (3)
- ・本人は医療機関に対して不信感をもっている (2)
- ・相手が精神科医師であっても、何回か面談による診療を受けていると人間関係を辛いと感じたり、本人のこだわりが強く薬を拒否したり、など色々です。
- ・通院していたが、やめた。決まった予約時間に行くのが難しい。母親や姉が通院中(躁うつ病)、父方祖母も認知症になった。
- ・医師に説明するのは嫌な事を思い出しづらい、理解してもらえない。薬で治るとは思えない。
- ・わずらわしいのと、受診すればたくさんの治療と食事制限などの制約
- ・自分は、必要ではないと思っている、かつ、医療を信用していない
- ・信頼できる(ひきこもりについて理解のある)医療従事者に出会えない
- ・医者から処方される薬に対して副作用を気にしているよう
- ・人間ドック等など病院(特に精神科)を避ける
- ・病院に行って医師と会うことを拒否するから
- ・薬に対して同意しない。副作用とか・・・
- ・医師の訪問に対して、面会出来ない
- ・医師の診断をさける傾向がある
- ・受診に抵抗感あり
- ・病院を拒否する
- ・薬品の不信

○外出困難

- ・外に出られない (7)
- ・外出ができないため (3)
- ・外出を嫌がる (2)
- ・外出しない (2)
- ・外出できないので。カゼの時救急車呼んで欲しいと言うので困ってます
- ・本人が行けないからまた私が視覚障害者で車に乗れない
- ・アレルギー（花粉 etc）症状がこわくて外へ出られない
- ・体調が悪いと、病院まで行くのが辛い。
- ・家の外へ出ることを極端に嫌がるため
- ・緊張が強く外出困難

○対人恐怖

- ・対人恐怖がある (3)
- ・外部の人と接するのはまだむずかしい
- ・家族以外の者とは交流しない
- ・多分人の目がこわいのでは、、、
- ・外に出られない。対人不安
- ・他人に逢いたがらない
- ・人との接触が恐ろしい
- ・外に出るのがこわい
- ・人に会いたくない
- ・全く人と会わない

○コミュニケーションがとれない

- ・本人とのコミュニケーションが困難 (2)
- ・コミュニケーションがとれず受診について話し合えない
- ・家族以外の人との対面を避ける状況だから
- ・親と全く会話しない
- ・部屋から出ない、家族と会話しない
- ・医師でも接することが難しい
- ・家族との交わりがない
- ・人との対面が難しい

○病識の欠如

- ・病気と認識していない (3)
- ・本人は発達障害の傾向有、本人は正常と思い込んでいる。両親の方が発達障害
と思い込んでいる
- ・自分はどこも悪くないと思っている（現在、潔癖症障害あり）
- ・本人が医療を必要としていない。

○精神的理由

- ・本人はバイト、仕事をして途中で倒産した店とかもありやめた仕事など有り
失業した様に思ってそれが続いている様なところがあります
- ・好まない
- ・恐怖心

○家族の見解

- ・本人は医療に受診する気持ちがない様に思えます。
- ・本人が同意するとは考えにくい
- ・本人の自覚が乏しい

○親に対してネガティブな感情を持っている

- ・こうなったのはてめえらの責任だから行かない！

○その他

- ・受診が必要な状況になった事がない。(2)
- ・プライドの高さからなのか、事実を認めたくない？逃げてみたいに思える。受診にたいして偏見をもっているように思える。
- ・本人と医療従事者（医者）が信頼関係（本人が納得出来る説明等）を、お互いに築けるかどうかによる。
- ・引きこもって27年間になりますが、その間一度も病院受診ありません
- ・本人は受診できていず、母の私がカウンセリングを受けている
- ・受診してくれたらいいと言われているのに、なぜか行かない
- ・現在訪問看護を受けている（病院に行くのは抵抗がある）
- ・風邪をひいてもしばらくすると直って一安心します
- ・診療時間内に起きられない 夜診だとなんとか
- ・受診の仕方がわからない（本人いわく）
- ・本人が納得しないと動かない
- ・医師等の指示を守れない
- ・問診等に対応出来ない
- ・質問に答えられない
- ・敷居が高い

4. ご本人にとって訪問型の医療サービスの充実が必要か

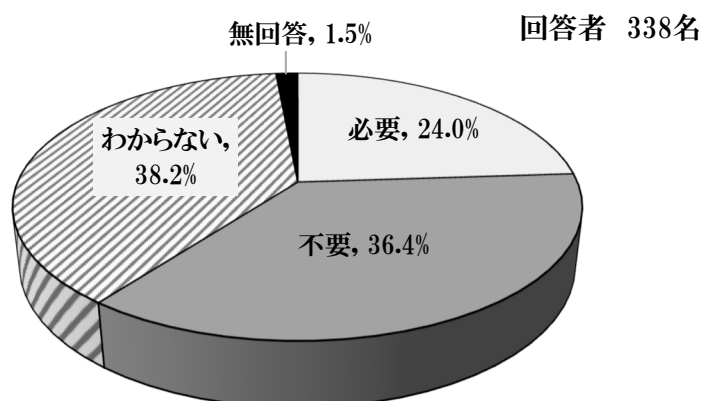


図1-14 訪問型の医療サービスの充実が必要か

ご本人にとって訪問型の医療サービスの充実が必要かどうかについて、図 1-14 に示しました。「必要である」と回答した方が 24.0% (25.6%)、「必要でない」と回答した方が 36.4% (29.8%) と、訪問型の医療サービスを必要としない方が必要としている方を上回る結果となりました。また、「わからない」と回答した方が 38.2% (41.6%) と多く見られ、無回答は 1.5% (3.0%) でした (カッコ内は昨年度の値)。

また、医療受診で必要なサービスについて自由記述で回答を求めました。

() 内の数字は、回答者の数を表しています。

○医療サービス

- ・ カウンセリング (9)
- ・ オンライン診療 (4)
- ・ ひきこもりに理解のある歯科医 (3)
- ・ 訪問サービス (3)
- ・ 保険適用 (2)
- ・ カウンセリングなどの訪問が必要と思いますが、家に来て下さると外出しようという気持ちがなくなるのでは、とも思うので難しいかも。
- ・ 現在訪問看護の (精神) 支援を受けています。週 1。助かっています。
- ・ 精神的なカウンセラー (例) 対人恐怖 etc が必要と思うが…
- ・ 病気以外の事で相談出来る場所院内に設置してほしい
- ・ 対人恐怖があるので精通した医療従事者の対応
- ・ ひきこもりであることを理解した上での診察
- ・ 親からみて、口腔ケアの必要性を感じています。
- ・ コロナワクチンの来宅接種があれば良い
- ・ カウンセラの回数を増やして欲しい
- ・ メンタルケア、ピアサポーター
- ・ 月 2 回の診察日を希望する。

- ・喘息治療、糖尿病予防
- ・定期的な訪問
- ・デイサービス
- ・心療内科等
- ・健康診断
- ・歯、目

○送迎サービス・同行サービス

- ・現在は親が帯同しているが、将来ひとりで行けるのか不安。帯同していただけるサービスがあると良い。
- ・タクシーチケット（公共交通が利用できない。こわい。下り）
- ・送迎があれば受診しやすい。（同行）
- ・搬送サービス

○対話・傾聴・理解・相談

- ・対面でなくても症状を相談すればどうしたらいいか教えてくれたり、適切な医療機関につないでくれたりする
- ・受診内容を家族が共有し、家族が出来る対応を話し合いたい
- ・つないで終わりではなく、何度でも相談に対応してくれる
- ・ひきこもりの人に理解のある対応
- ・心を話せる人と対話をさせたい
- ・同年代(20~30代)の人との交流。
- ・完全ひきこもり状態への理解
- ・傾聴（就労導入目的でなく）
- ・親亡き後の相談者

○情報提供

- ・係付の内科で「インフルエンザ予注」をすすめられ、注射をしたそう。ありがたい事とは思いますが、生活保護は事前に市役所で書類の手つづきをしていけば無料ですが、知らなかったので4000円支払ったとの事。情報提供があると良いと思う。
- ・本人も私共夫婦も今の薬に頼る精神医療について懐疑的なので薬によらないアプローチがあれば知りたいです。

○その他

- ・以前、精神科に受診。医師から、受診の必要はないと診断。軽い発達障害との

診断。軽いので、就労もできるが、難しい場合もあると。

- ・引きこもりの他に他の病気を持っているのかどうか、例えば統合失調症などの。
- ・本人は訪問ヘルプサービスが必要と言っているが、支援側は必要なしと判断。
- ・サービスが必要だと思うが、訪問して頂いても、本人は会いたがらない。
- ・ひきこもっていることにより生活が不規則であり不健康になっている
- ・病院にかかっているが、ただ薬を出すだけなので不満に思っている
- ・対面が無理で、対人恐怖症 強迫神経障害
- ・散髪等が必要であったと当時思いました
- ・うつ病で気分の良い時悪い時がある
- ・転院が必要となった時のスムーズさ
- ・医療費の問題
- ・就労支援

○特になし

- ・なし、わからない(8)
- ・本人が受け付けていないのでわかりません。
- ・本人は行くかどうかわからないので
- ・予後、現状がわからない
- ・よくわからない

5. ご家族にとっての支援の必要性

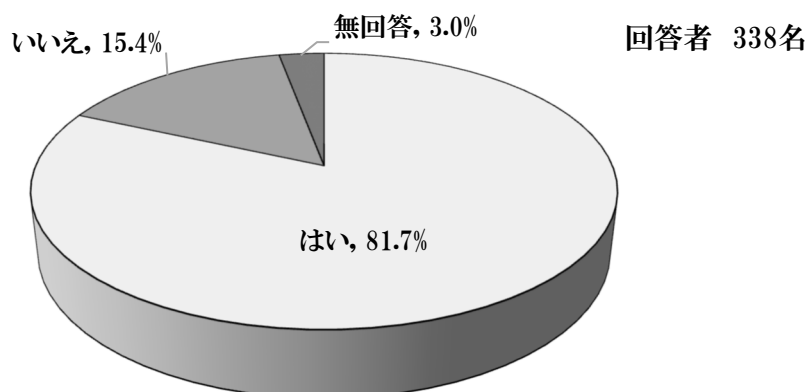


図1-15 ご家族にとって支援は必要か

ご家族にとって支援が必要かどうかについて、図 1-15 に示しています。「必要である」と回答した方が 81.7% (78.6%)、「必要でない」と回答した方が 15.4% (7.5%)、無回答が 3.0% (3.0%) でした。約 8 割のご家族が何らかの支援を必要としていることがわかります。

6. ご家族の支援・医療機関の利用状況

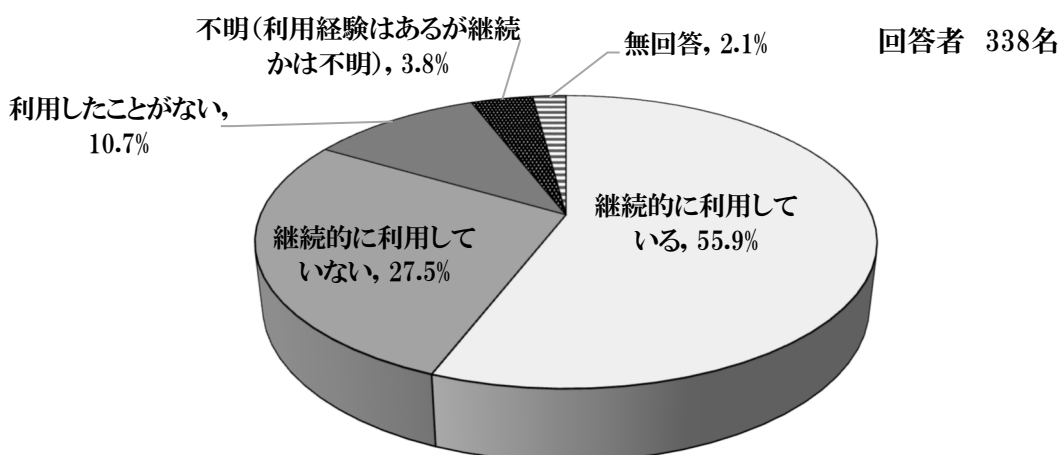


図1-16 支援・医療機関の利用状況(ご家族)

図 1-16 のとおり、ご家族の支援・医療機関の利用状況については、「利用したことがある」と回答した方が 83.4% (80.7%) でした。そのうち、「支援・医療機関を継続的に利用している」と回答した方が 55.9% (54.8%)、「継続的に利用していない」と回答した方が 27.5% (25.9%) でした。また、「支援・医療機関を利用したことがない」と回答した方が 10.7% (9.9%)、無回答が 2.1% (6%) でした (カッコ内は昨年度の値)。

(3) KHJ 家族会について

1. 家族会への参加経験

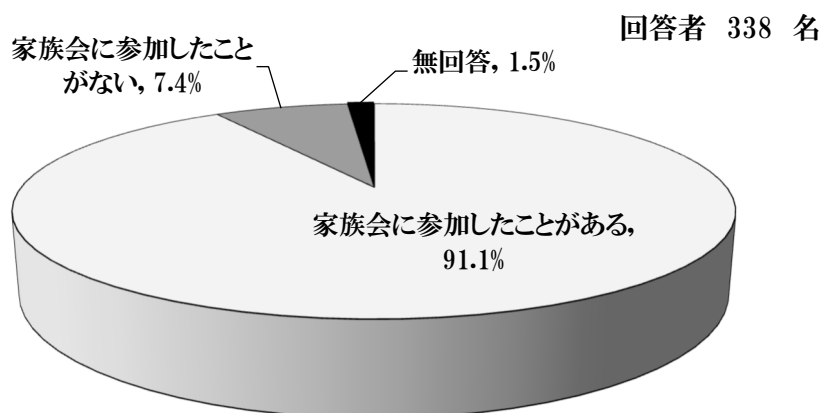


図1-17 家族会への参加経験(ご家族)

図 1-17 にご家族の家族会への参加経験について示しました。「家族会に参加したことがある」と回答した方が 91.1% (88.3%)、「参加したことがない」と回答した方が 7.4% (9.9%)、無回答が 1.5% (1.8%) でした。約 9 割のご家族が家族会への参加経験があることがわかります。

2. 家族会に参加したことで何らかの良い変化があったか

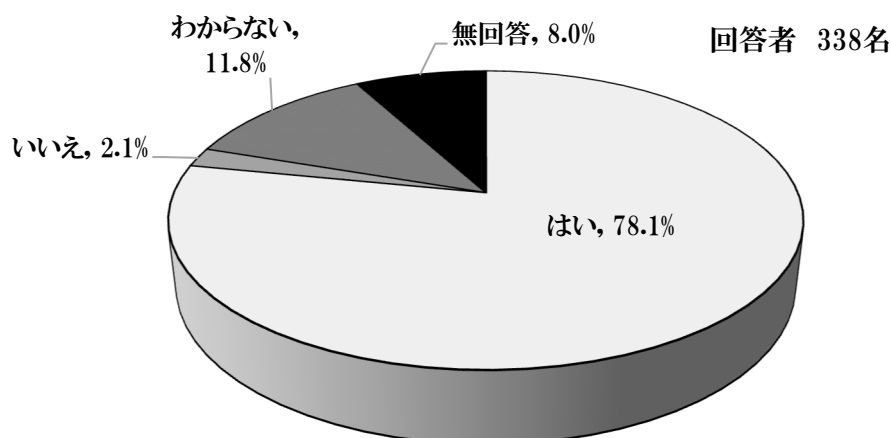


図1-18 家族会に参加したことで、気持ちや家族関係などに何らかの良い変化があったか

家族会に参加したことで、ご家族の気持ちや家族関係などに何らかの良い変化があったかどうかについて、図 1-18 に示しました。「良い変化があった」と回答した方が 78.1%、「良い変化がなかった」と回答した方が 2.1%、「わからない」と回答した方が 11.8%、無回答が 8.0% でした。

3. 家族会への所属の有無

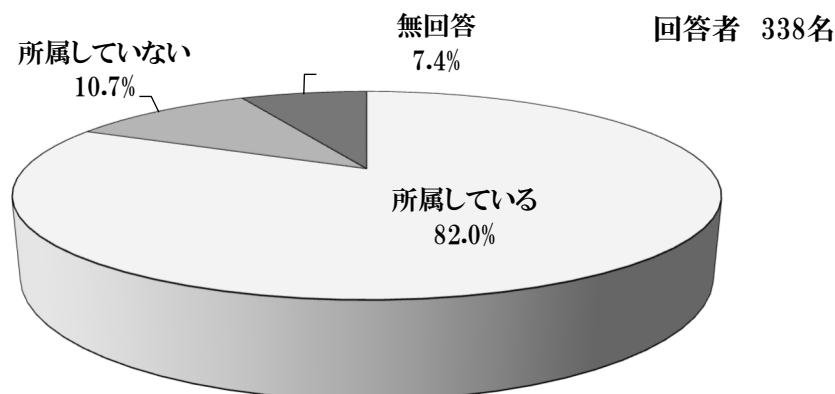


図1-19 家族会への所属(ご家族)

図 1-19 に、ご家族の家族会への所属の有無について示しました。「家族会に所属している」と回答した方が 82.0% (75.3%)、「所属していない」と回答した方が 10.7% (16.9%)、無回答が 7.4% (7.8%) でした(カッコ内は昨年度の値)。

4. 家族会の所属支部

図 1-20 と表 1-2 に「家族会に所属している」と回答したご家族の所属支部について、地方別に示しました。関東地方がもっとも多いことが分かります。次に東海地方、北海道・東北地方と多い傾向にありました。

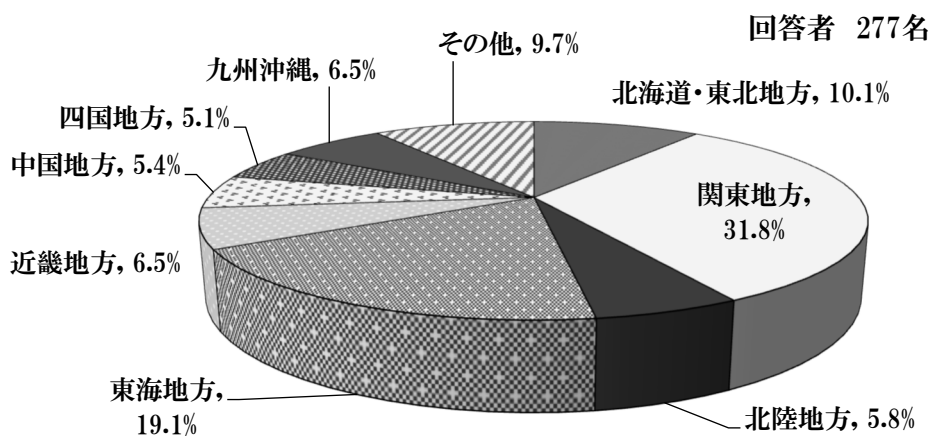
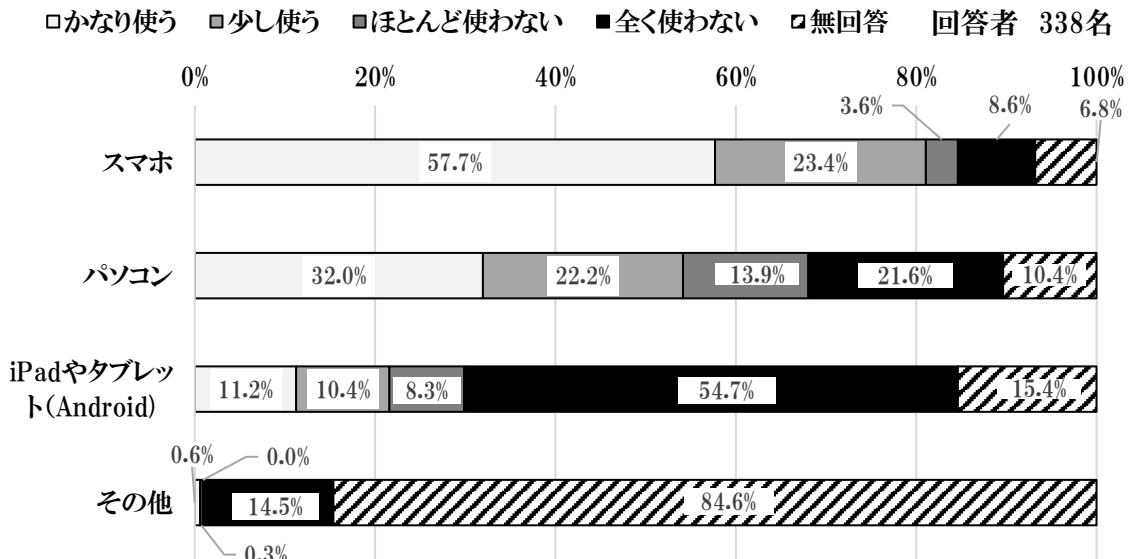


図1-20 ご家族の家族会所属支部(地方別)

表1-2 家族会所属支部(ご家族)

地方	支部名称	人数	地方	支部名称	人数
北海道	KHJ北海道「はまなす」	12	東海地方	KHJ静岡県「いっぶく会」	13
東北地方	KHJ秋田ばっけの会	3		NPO法人てくてく	5
	KHJ青森県「さくらの会」	4		豊田・大地の会	3
	KHJいわて石わりの会	2		KHJ三重県「みえオレンジの会」	4
	KHJ秋田ばっけの会	2		KHJ東海NPO法人なでこの会	15
	KHJ福島県花もの会	5		KHJ岐阜県「岐阜オレンジの会」	6
関東地方	NPO法人KHJとちぎ「ベリー会」	9		KHJ岐阜県レミファの会	7
	KHJ群馬県はるかぜの会	7	近畿地方	兵庫県宍粟支部 ひまわりの家家族会	2
	NPO法人埼玉けやきの会家族会	14		NPO法人大阪虹の会	11
	NPO法人千葉県なの花会	18		KHJ「つばさの会大阪」	1
	KHJ町田家族会	5		特定非営利活動法人陽だまりの会	1
	NPO法人楽の会リーラ	21		特定非営利活動法人百生一輝	1
	KHJ山梨県桃の会	1		KHJ奈良県わかさの会	2
	KHJ長野県セიმハート	5	中国地方	NPO法人KHJ岡山きびの会	2
	NPO法人あわの風 南房総家族会	2		KHJ広島もみじの会	12
	KHJ横浜ばらの会	6		KHJ山口県「きらら会」	1
北陸地方	KHJ北陸会	1	四国地方	KHJ香川県オリーブの会	6
	NPO法人KHJにいがた「秋桜の会」	2		KHJ高知県親の会「やいろ鳥」の会	8
	KHJ石川県南加賀支部「いまこ親の会	4	九州・沖縄	KHJ宮崎「楠の会」	6
	とやま大地の会	9		KHJ福岡県「楠の会」	8
				KHJ沖縄「ていんさぐぬ花の会」	4
			その他		27

(4) ウェブサイトの閲覧などに使用するデバイスとその使用頻度



ウェブサイトの閲覧などに、普段どのデバイス（情報電子機器）をどの程度使用しているかについて、図1-21に示します。「かなり使う」「少し使う」と回答した方が多かった順に、「スマホ」が81.1%、「パソコン」が54.2%、「iPadやタブレット」が21.6%、「その他」が0.9%でした。その他としては、「携帯電話（ガラケー）」という回答がありました。

(5) 各通信手段の使用頻度

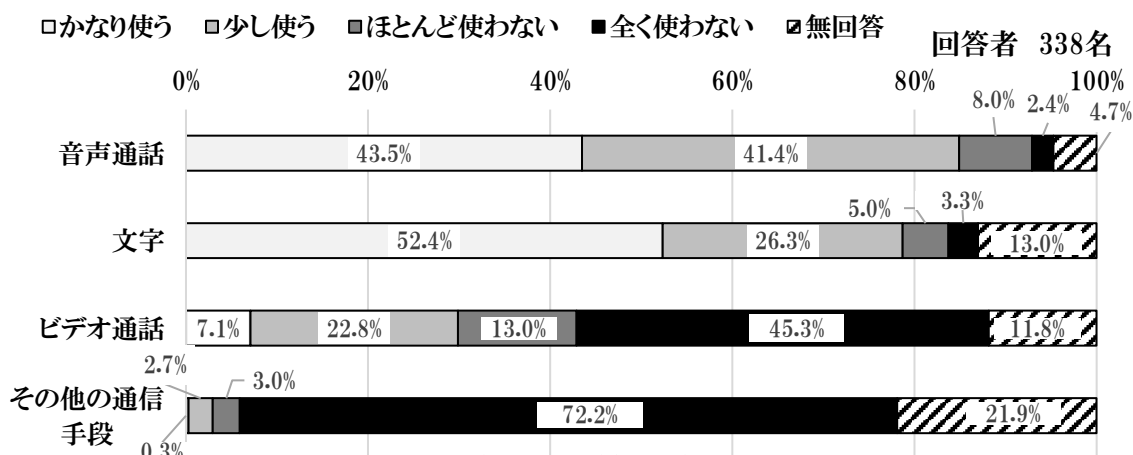


図1-22 通信手段

普段使用している通信手段について、どの通信手段をどの程度使用しているかを図1-22に示します。「かなり使う」「少し使う」と回答した方が多かった順に、「音声通話」が84.9%、「文字」が78.7%、「ビデオ通話」が29.9%、その他が3.0%でした。

(表1-3 各音声通話の使用頻度)

	かなり使う	少し使う	ほとんど使わない	使用頻度不明	全く使わない	無回答
携帯電話	40.2%	36.7%	4.7%	2.1%	2.1%	14.2%
LINE通話	24.6%	24.6%	3.3%	0.9%	1.2%	45.6%
固定電話	18.0%	20.7%	3.0%	0.9%	1.5%	55.9%
その他	2.1%	0.6%	0.3%	0.3%	1.2%	95.6%

また、「音声通話」と回答した方が普段使用している手段とその使用頻度について、表1-3に示します。頻度を複数選択した場合は「使用頻度不明」として扱います。

「携帯電話」について「かなり使う」「少し使う」と回答した方が最も多く、76.9%、次いで「LINE通話」が49.2%、「固定電話」が38.7%、「その他」が2.7%でした。その他としては、「Zoom」や「facetime」といった回答がありました。

次に、「文字」と回答した方が普段使用している手段とその頻度について、表1-4に示します。「かなり使う」「少し使う」と回答した方が多かった順に、「メール」が62.1%、「LINE」が59.2%、「ショートメッセージ」が45.3%でした。次いで、「手紙、ハガキ」が21.9%、「Fax」が6.5%、「Facebookメッセージ」が5.0%、「Twitterのメッセージ」が3.3%、「Instagramのメッセージ」「ブログ」が3.0%、「電子掲示板」が0.6%、「その他」が0.9%でした。その他として「スカイプのチャット」という回答が得られました「TikTokのメッセージ」について、「かなり使う」「少し使う」と回答した方はいませんでした。

(表 1-4 各文字の使用頻度)

	かなり使う	少し使う	ほとんど使わない	使用頻度不明	全く使わない	無回答
メール	42.6%	19.5%	2.4%	3.0%	27.8%	4.7%
LINE	41.7%	17.5%	1.2%	3.8%	3.3%	32.5%
ショートメッセージ	31.1%	14.2%	1.5%	3.6%	2.7%	47.0%
手紙、ハガキ	15.1%	6.8%	1.5%	2.4%	2.7%	71.6%
Fax	5.3%	1.2%	0.3%	0.6%	2.7%	89.9%
Facebook メッセージ	3.8%	1.2%	0.0%	0.6%	3.0%	91.4%
Twitterの メッセージ	3.3%	0.0%	0.0%	0.3%	3.0%	93.5%
Instagramの メッセージ	3.0%	0.0%	0.0%	0.3%	3.0%	93.8%
ブログ	2.1%	0.9%	0.0%	0.0%	3.0%	94.1%
電子掲示板	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	96.4%
TikTokの メッセージ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	97.0%
その他	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	96.4%

また、「ビデオ通話」と回答した方がどの手段をどの程度使用しているかについて表 1-5 に示します。「Zoom」について、「かなり使う」「少し使う」と回答した方が最も多く 25.1%、次いで「Teams」が 3.3%、「Google ミート」が 1.5%、「その他」が 4.5%でした。その他としては「LINE」や「Skype」といった回答が得られました。「V-cube」について「かなり使う」「少し使う」と回答した方はいませんでした。

(表 1-5 各ビデオ通話の使用頻度)

	かなり使う	少し使う	ほとんど使わない	全く使わない	無回答
Zoom	5.9%	19.2%	12.7%	45.0%	17.2%
Teams	0.9%	2.4%	0.3%	45.0%	51.5%
Googleミート	0.6%	0.9%	0.9%	45.0%	52.7%
V-cube	0.0%	0.0%	0.0%	45.0%	55.0%
その他	1.5%	3.0%	0.6%	45.3%	49.7%

次に、「その他の手段」と回答した方について、その詳細を表 1-6 に示します。表に示す通り、各手段についての使用頻度は高くないことがわかります。

(表 1-6 その他の通信手段の使用頻度)

	かなり使う	少し使う	ほとんど使わない	全く使わない	無回答
Slackなどのビデオチャットツール	0.3%	1.2%	0.3%	72.2%	26.0%
メタバース	0.3%	0.3%	0.0%	72.2%	27.2%
オンラインゲーム	0.3%	0.6%	0.6%	72.2%	26.3%
その他	0.0%	0.3%	0.6%	71.9%	27.2%

(6) ひきこもりに関する情報を入手する際に使用する手段とその使用頻度

1. 検索サイト

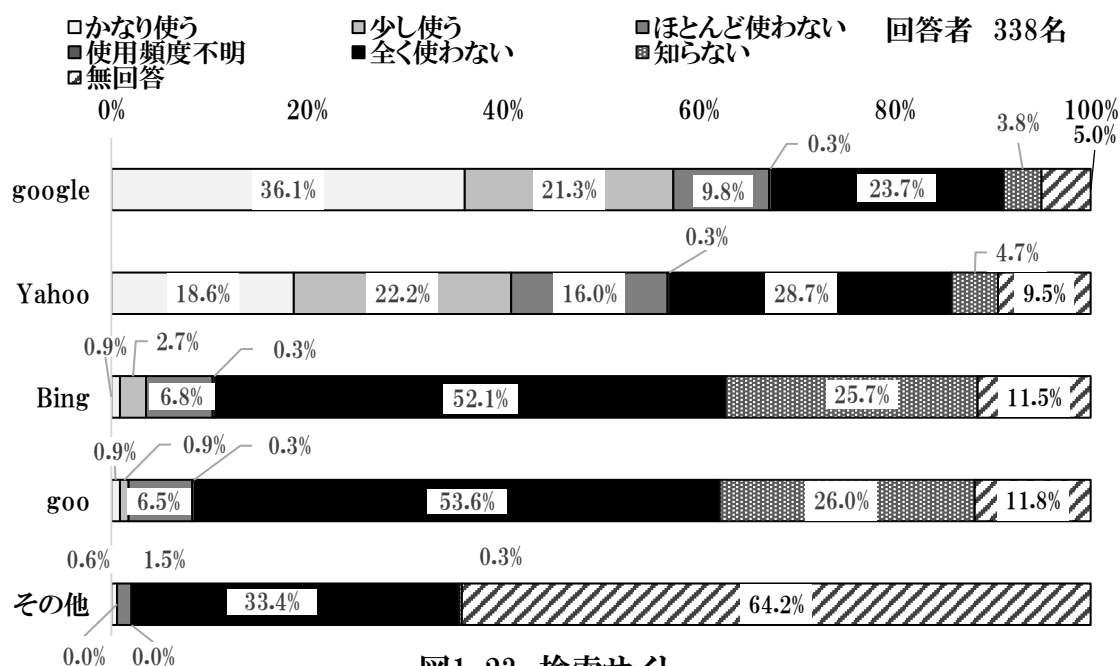
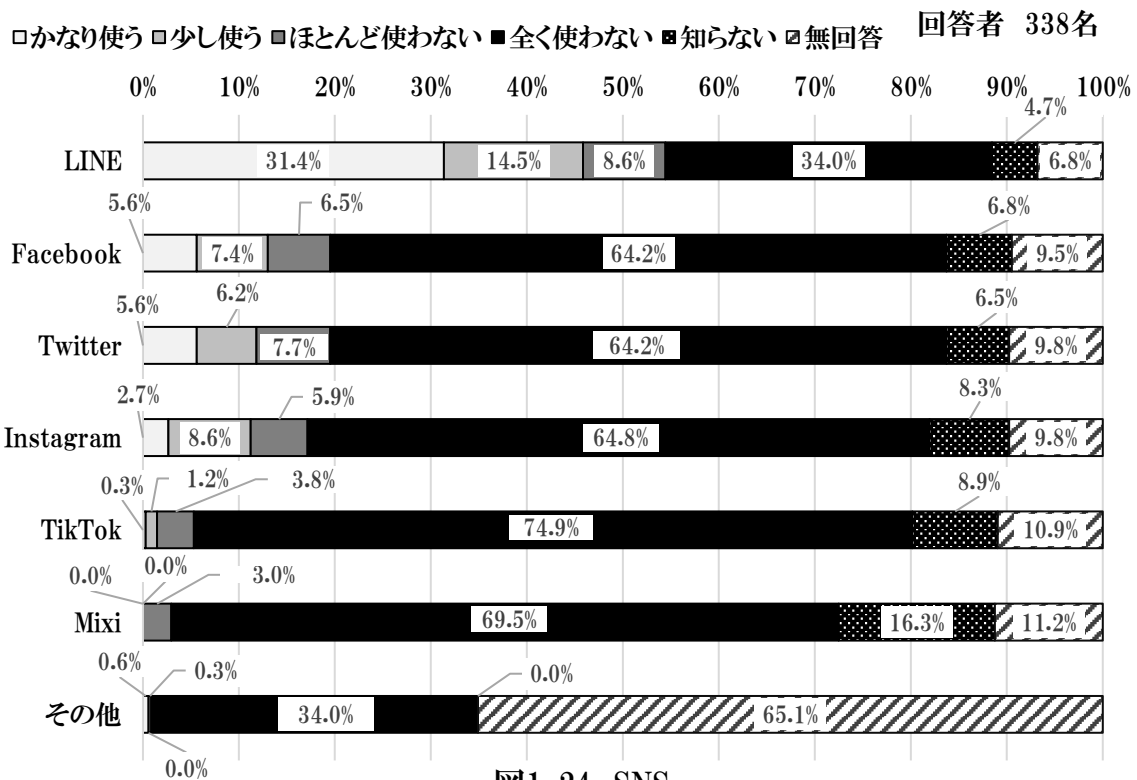


図1-23 検索サイト

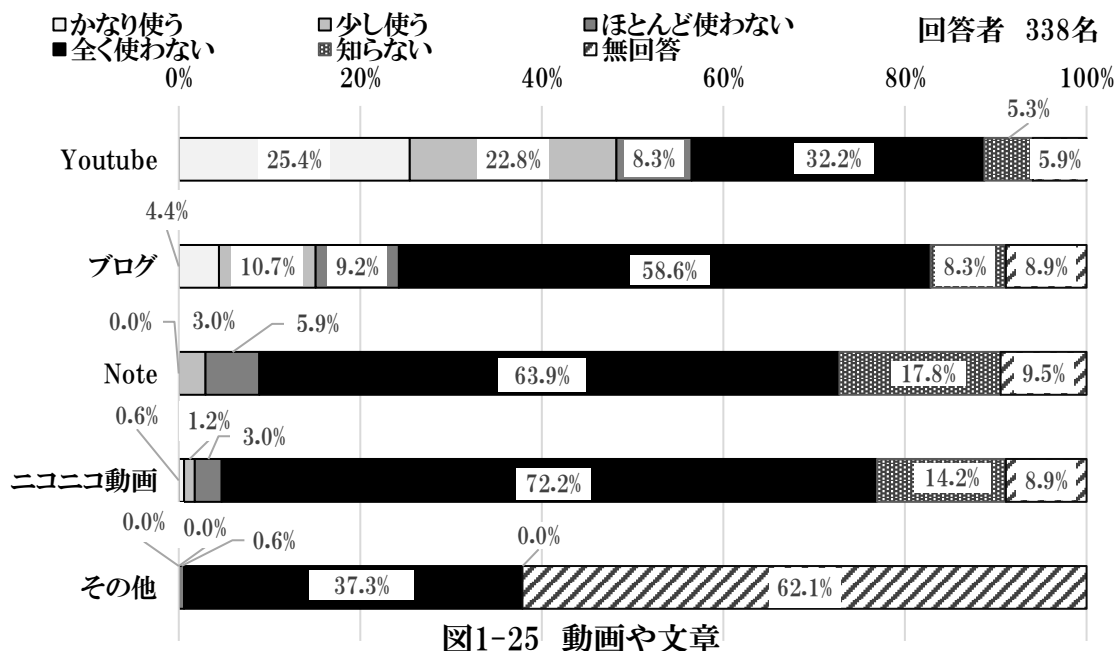
普段、ひきこもりに関する情報を入手する際に使用する検索サイトと、その使用頻度について図 1-23 に示します。「かなり使う」「少し使う」と回答した方が多かった順に、「google」が 57.4%、「Yahoo」が 40.8%、「Bing」が 3.6%、「goo」が 1.8%、「その他」が 0.6%でした。その他としては、「Duck Duck」、「nifty」といった回答が得られました。

2. SNS

普段使用する SNS とその使用頻度について図 1-24 に示します。「LINE」について「かなり使う」「少し」使う」と回答した方が最も多く 45.9%、「Facebook」が 13.0%、「Twitter」が 11.8%でした。次いで「Instagram」が 11.3%、「TikTok」が 1.5%、その他が「0.6」%でした。その他としては、「家族会のグループメール」、「サークルスクエア」といった回答が得られました。「Mixi」について、「かなり使う」「少し使う」と回答した方はいませんでした。



3. 動画や文章



普段使用する動画や文章と、その使用頻度についてまとめたものが図 1-25 です。「かなり使う」「少し使う」と回答した方が多い順に「YouTube」が 48.2%、

「ブログ」が15.1%、「Note」が3.0%、「ニコニコ動画」は1.8%でした。

4. 掲示板

□かなり使う □少し使う ▨ほとんど使わない ■全く使わない ■知らない □無回答

回答者 338名

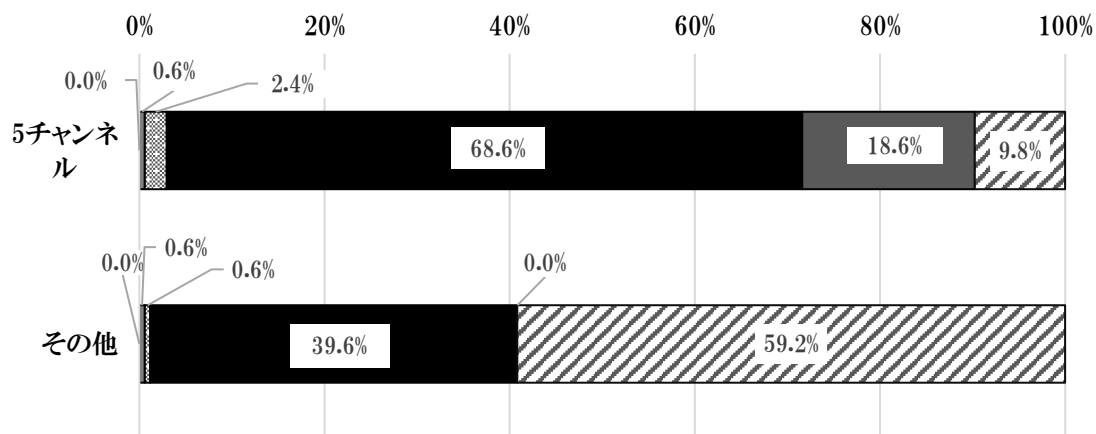
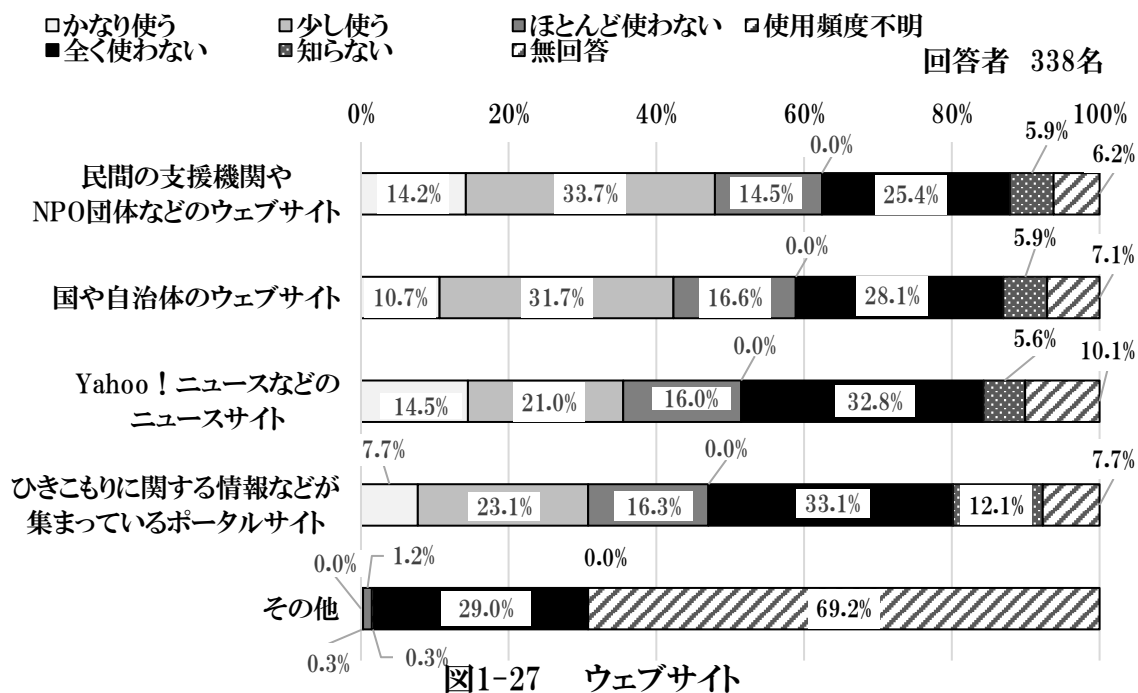


図1-26 掲示板

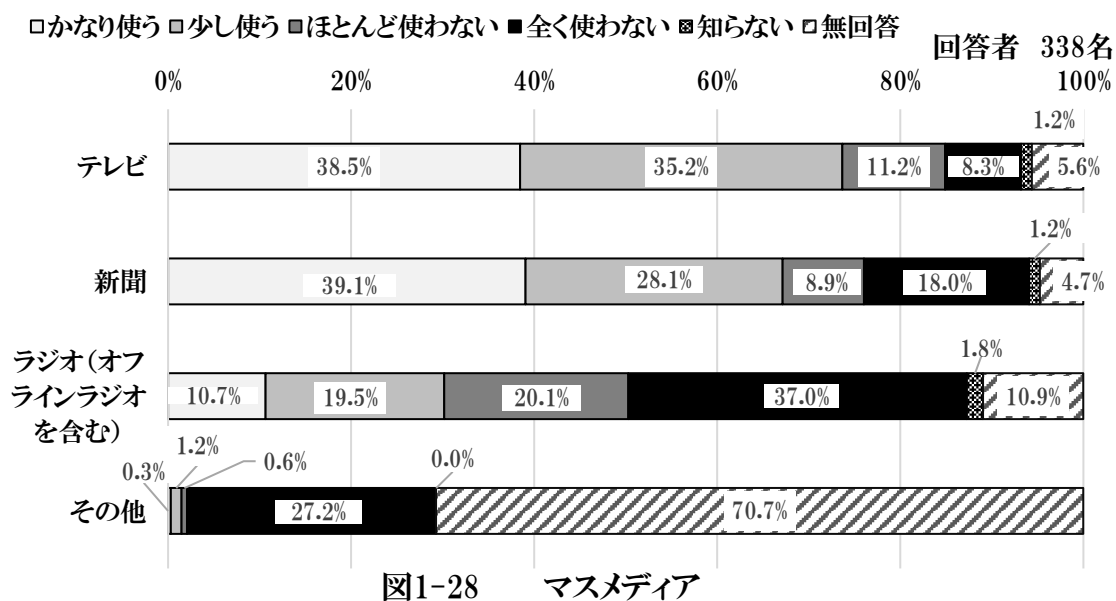
次に、普段使用している掲示板とその使用頻度についての回答を図1-26に示します。「5チャンネル」について「かなり使う」「少し使う」と回答した方は0.6%で、「その他」と回答した方も同じく0.6%でした。その他としては、「がーずちゃんねる」という回答がありました。

5. ウェブサイト

普段使用しているウェブサイトとその使用頻度についての回答を図1-27に示します。「民間の支援機関やNPO団体などのウェブサイト」について、「かなり使う」「少し使う」と回答した方が最も多く47.9%、次いで「国や自治体のウェブサイト」が42.4%でした。また、「Yahoo!ニュースなどのニュースサイト」が35.5%、「ひきこもりに関する情報などが集まっているポータルサイト」が30.8%、「その他」が0.3%でした。その他としては、「元ひきこもりの人のYouTube」といった回答がありました。

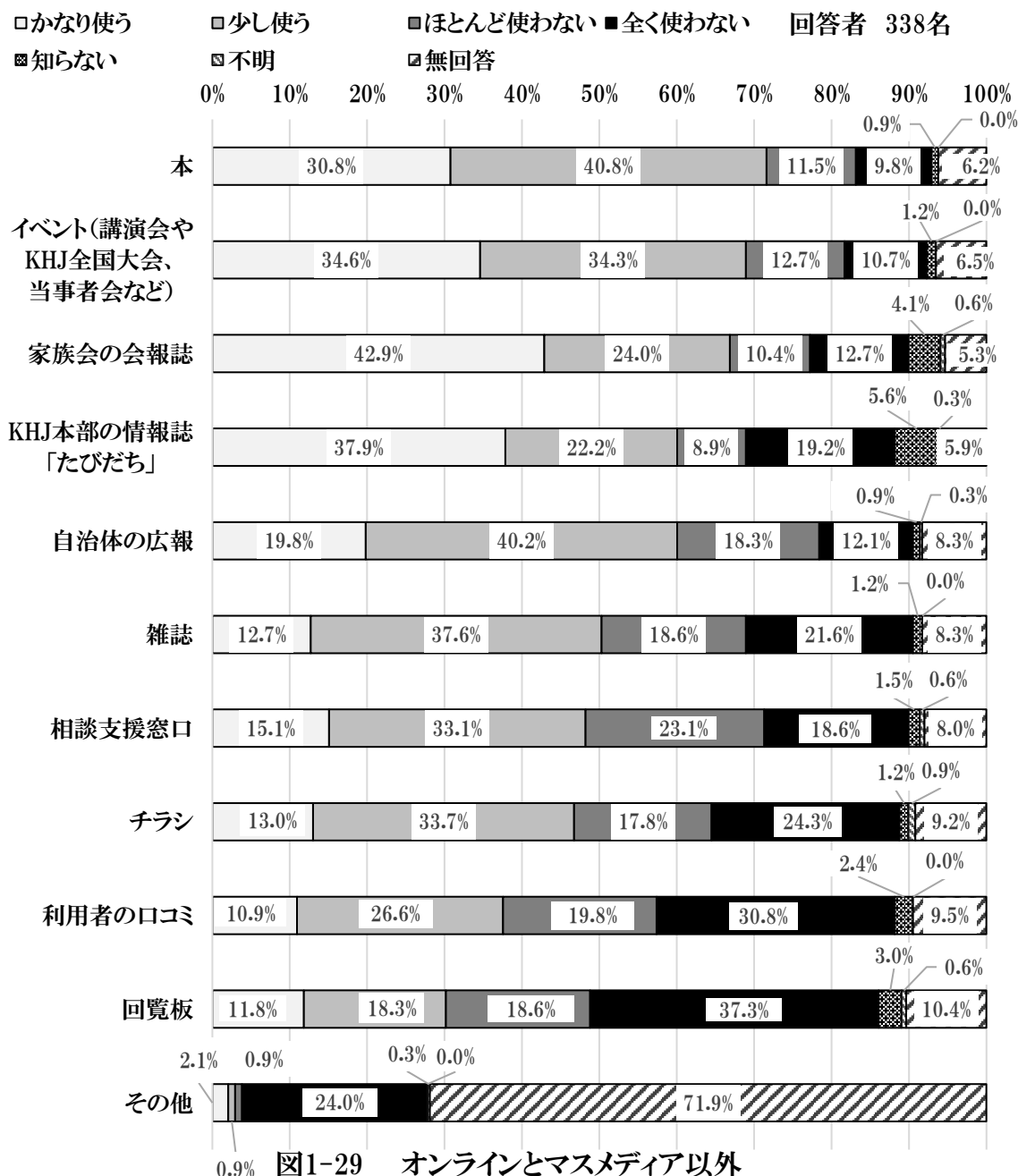


6. マスメディア



次に、普段使用しているマスメディアとその使用頻度についての回答を図1-28に示します。「かなり使う」「少し使う」と回答した方が多い順に、「テレビ」が73.7%、「新聞」が67.2%、「ラジオ」が30.2%、「その他」が1.5%でした。その他としては、「週刊誌、不定期の小冊子」や「雑誌」といった回答がありました。

7. オンラインとマスメディア以外



オンラインとマスメディア以外に使用している情報源と、その使用頻度についての回答を図1-29に示します。「本」について「かなり使う」「少し使う」と回答の方が最も多く71.6%、次いで「イベント（講演会やKHJ全国大会、当事者会など）」が68.9%、「家族会の会報誌」が66.9%、「KHJ本部の情報誌（たびだち）」が60.1%、「自治体の広報」が60.0%と、いずれも使用頻度が6割を超えました。次に「雑誌」が50.3%、「相談支援窓口」が48.2%、「チラシ」が46.7%、「利用者の口コミ」が37.5%、「回覧板」が30.1%、「その他」

が3.0%でした。その他としては、「グループカウンセリング」、「こどもからの情報」、「メール会報」といった回答が得られました。

(7) ひきこもりに関する相談機関を検索する際に、どんな情報を知りたいか
次に、ひきこもりに関する相談機関を検索する際に、どんな情報を知りたいかについて図1-30に示します。「支援の内容」と回答した方が最も多く82.8%、次いで「場所」が64.5%、「スタッフがひきこもりに詳しいか」が57.1%、「利用料金」が55.0%でした。「支援対象エリア」「電話番号」については49.7%、「スタッフの資格」が49.4%、「開所時間」が45.3%、「スタッフの情報」が44.7%、「対象年齢」「予約の要不要」は共に43.8%でした。「予約方法」、「評判（口コミ）」、「メールアドレス」、「必要な手続き」、「ウェブサイト」については3~4割の方が知りたいと回答し、順に37.6%、35.2%、34.9%、34.0%、32.0%でした。また、2割以下の方が知りたいと回答したのは、順に「オンラインでの利用が可能か」が19.5%、「動画情報（メッセージなど）」、「画像情報（施設の外観など）」が17.5%、「メッセージ」が15.1%、「立場」が14.2%、「スタッフの男女比」が9.2%、「その他」が5.6%でした。「その他」としては、「今まで取り扱ったひきこもり事例、対応方法」、「スタッフの人間性、熱意、活動年数」、「利用者の感想」、「年間スケジュール」といった回答が得られました。

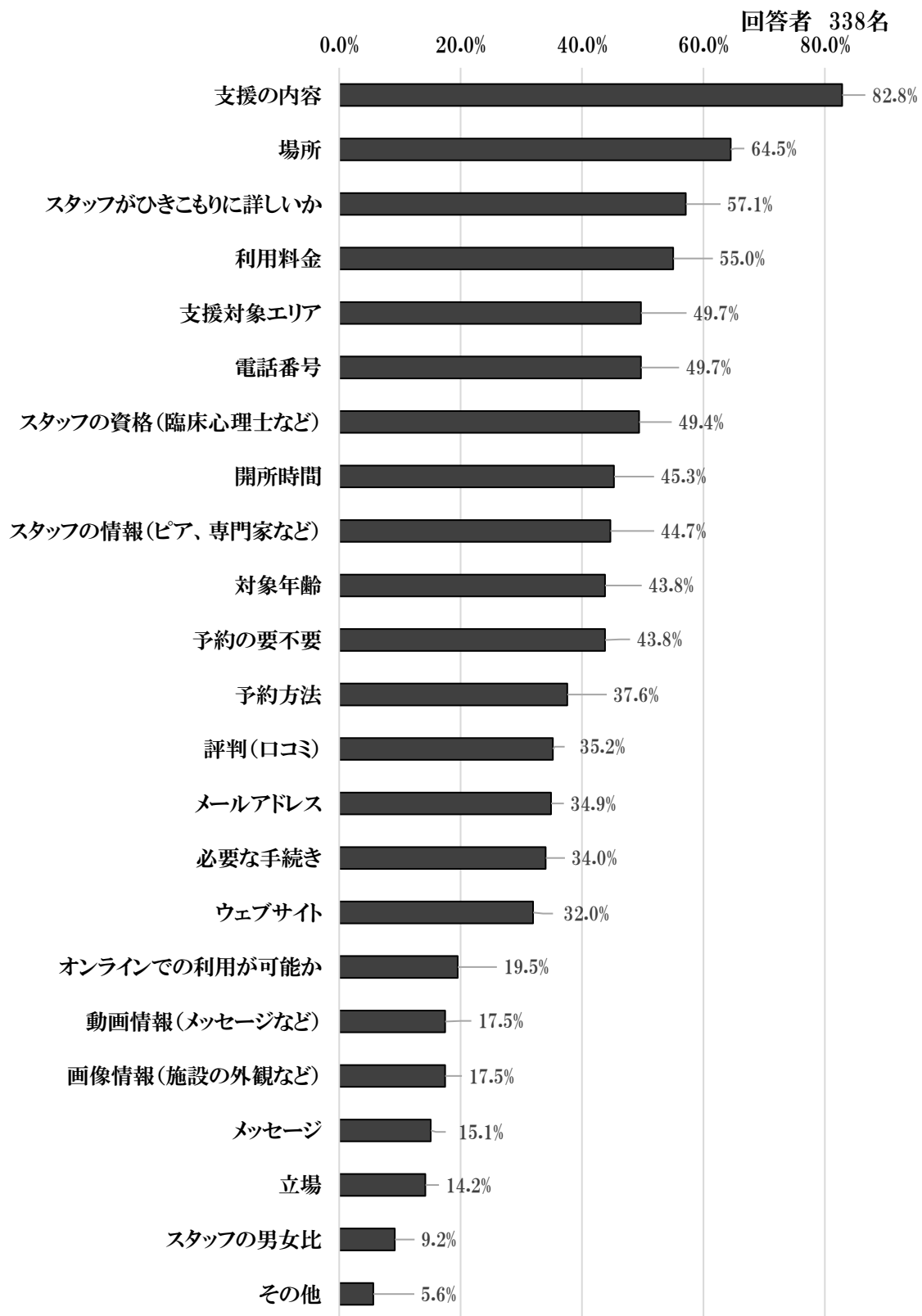


図1-30 ひきこもりに関する相談機関を検索する際に、
どんな情報を知りたいか

(8) オンライン支援の利用経験

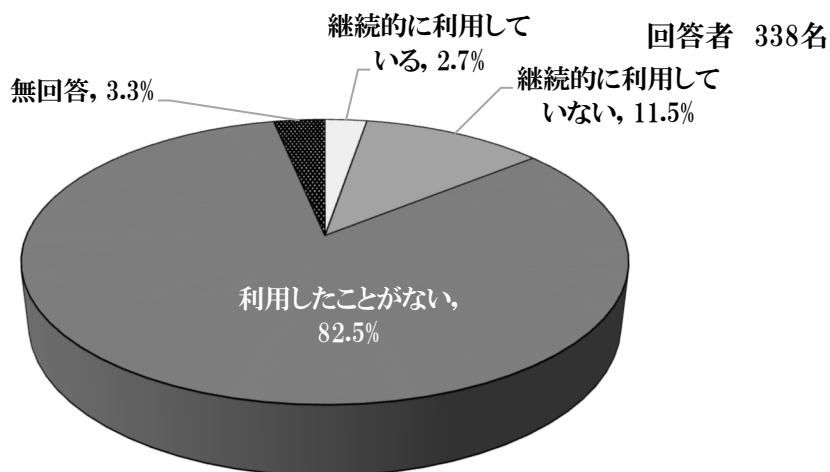


図1-31 オンライン支援を利用したことがあるか

図 1-31 にオンライン支援の利用経験についての回答を示します。「オンライン支援を利用したことがある」と回答した方が 14.2%で、そのうち「継続的に利用している」と回答した方が 2.7%、「継続的に利用していない」と回答した方が 11.5%でした。「オンライン支援を利用したことがない」と回答した方が 82.5%と、8割を超える結果となりました。

(9) オンライン支援を受けるときに重要だと思うこと

1. リアルタイムかどうか？

かなり重要だ 少し重要だ ほとんど重要ではない
 全く重要ではない わからない 無回答

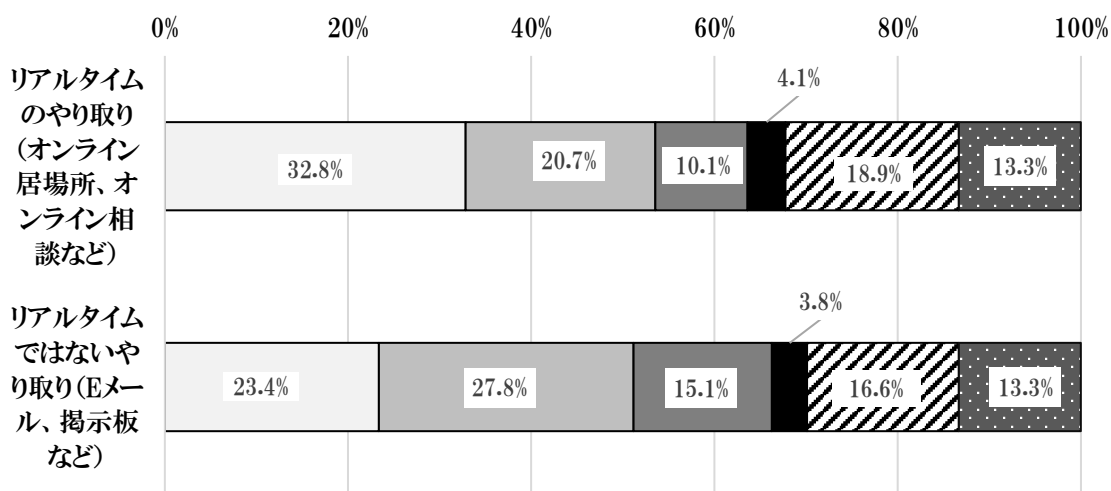


図1-32 リアルタイムかどうか

次に、オンライン支援を受けるときにリアルタイムであるかどうかについて、どれほど重要だと思っているのかを図 1-32 に示します。「リアルタイムのやり取り（オンライン居場所、オンライン相談など）」、「リアルタイムではないやり取り（Eメール、掲示板など）」について、「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方はそれぞれ 53.5%、51.2%と、どちらも半数を超える結果となりました。

2. 発信者は誰か？

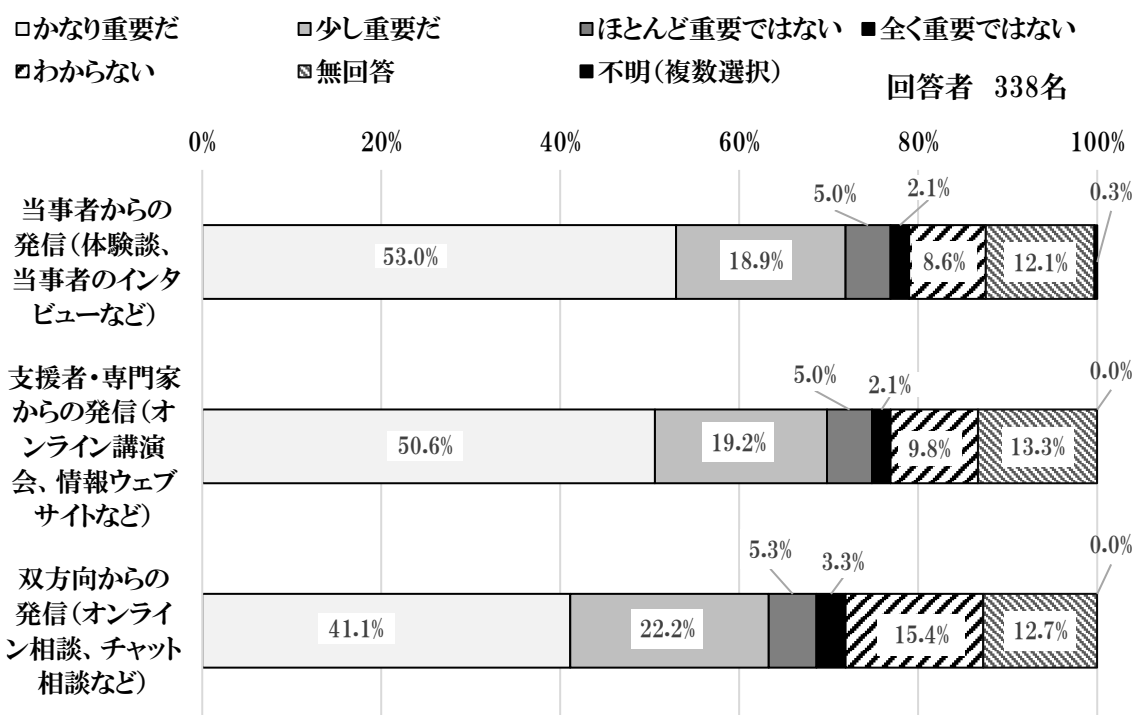


図1-33 発信者は誰か

次に、オンライン支援を受ける時の発信者について、その重要度を図 1-33 に示します。「当事者からの発信（体験談、当事者のインタビューなど）」について、「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方が最も多く 71.9%、次いで「支援者・専門家からの発信（オンライン講演会、情報ウェブサイトなど）」が 69.8%でした。「双方向からの発信（オンライン相談、チャット相談など）」について「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方も 63.3%で、いずれも 6 割を超える方が上記の発信を重要だと考えていることがわかります。

3. やり取りする相手は誰か？

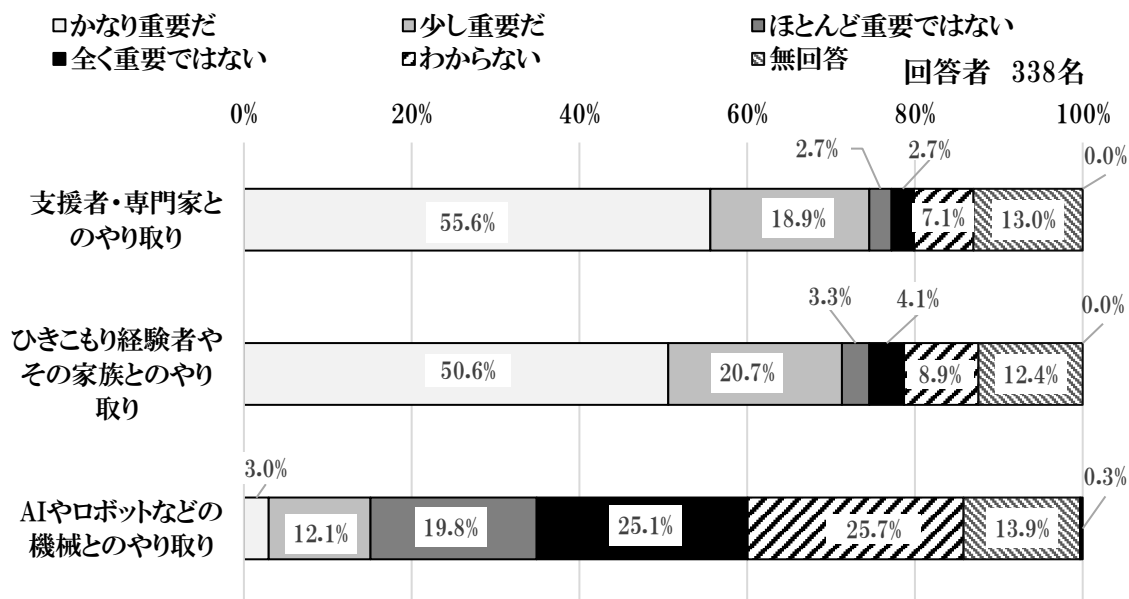


図1-34 やり取りする相手は誰か

やり取りする相手と、その重要度についての回答を図 1-34 に示します。「支援者・専門家とのやり取り」、「ひきこもり経験者やその家族とのやり取り」について、「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方が7割を超え、それぞれ74.5%、71.3%でした。一方、「AI やロボットなどの機械とのやり取り」について、「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方は15.1%でした。

4. 受け取る情報の種類は何か？

次に、受け取る情報の種類とその重要度について図 1-35 に示します。「文字情報（メールマガジン、イベント情報など）」について、「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方が最も多く 65.4%でした。「音声情報（ラジオ、Twitterのスペースなど）」、「画像情報（漫画、写真など）」、「動画情報（アニメ、ビデオなど）」について、「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方はそれぞれ46.1%、44.7%、43.2%と同程度の割合を示しました。

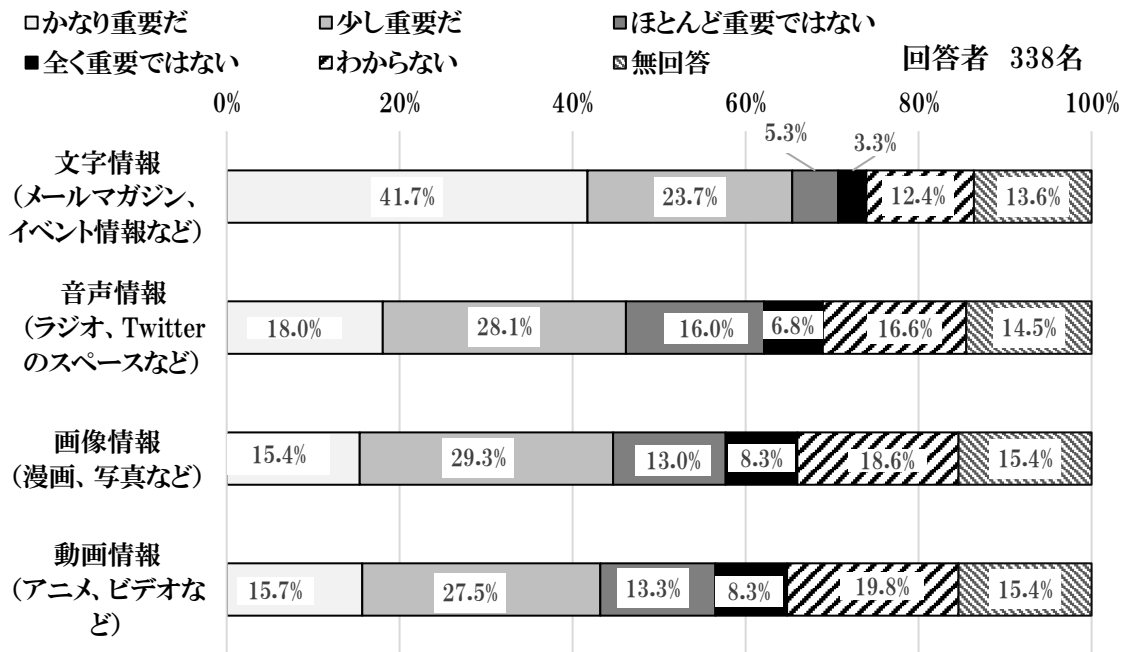


図1-35 受け取る情報の種類は

5. やり取りの時の匿名性は？

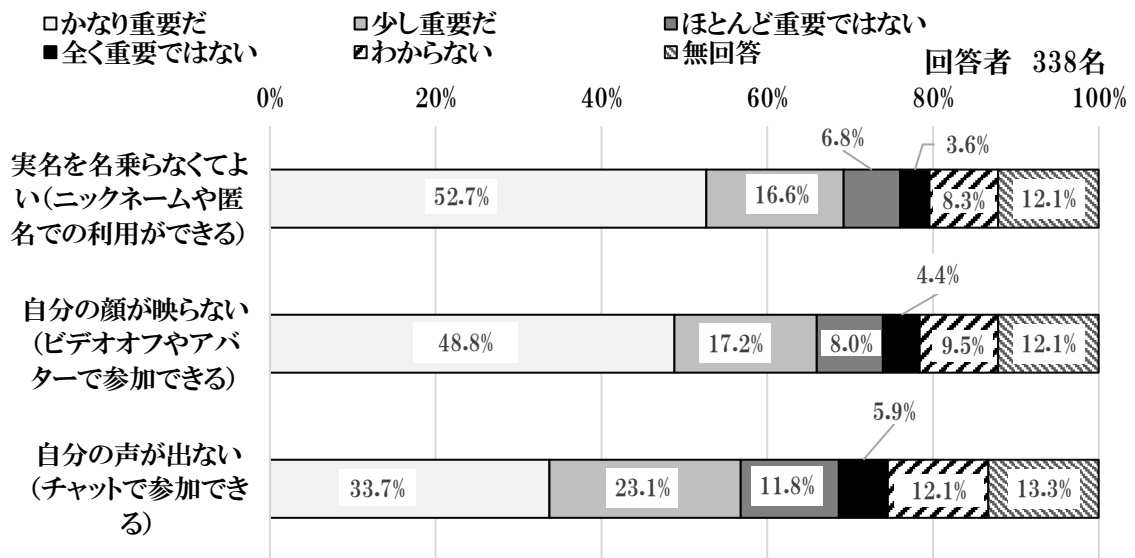


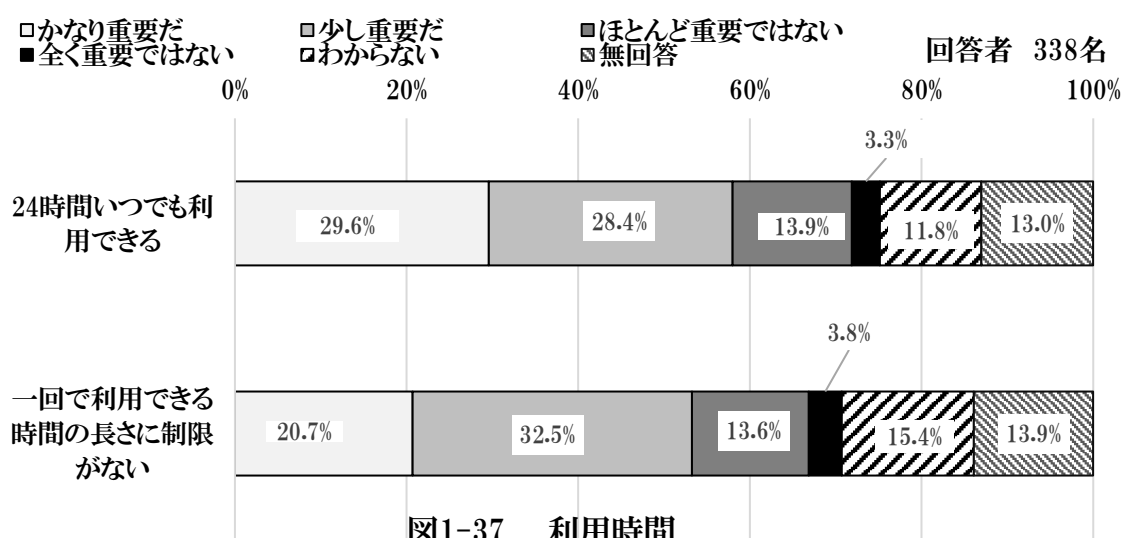
図1-36 やり取りの時の匿名性

やり取りの時の匿名性について、その重要度を図 1-36 に示します。「実名を名乗らなくてよい(ニックネームや匿名での利用ができる)」、「自分の顔が映らない(ビデオオフやアバターで参加できる)」について、「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方の割合はそれぞれ高く、69.3%、66.0%でした。「自

分の声が出ない（チャットで参加できる）」については、56.8%の方が「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答しました。

6. 利用時間は？

次に、利用時間についてどの程度重要と考えているかについての回答を図1-37に示します。「24時間いつでも利用できる」について、「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方が58.0%、「一回で利用できる時間の長さの長さに制限がない」は53.2%でした。



7. オンライン支援を何のために使いたいのか？

図1-38にオンライン支援を何のために使いたいのかについての回答を示します。「講演を聞く」、「福祉情報の収集・相談」、「医療情報の収集・相談」について「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方の割合がそれぞれ高く、74.9%、73.1%、70.7%でした。次いで「ご本人のことについて相談する」が66.6%、「就労（支援を受ける、収入を得る、情報を受け取るなど）」が65.3%、「居場所に参加する」が62.2%、就学（支援を受ける、資格を取る、情報を受け取るなど）が54.4%、「自己表現（文章、イラスト、動画などを発信する）」が47.4%でした。その他として、「本人が外出できないので、情報収集やおしゃべりできる」、「親の気持ちのはき出し、共感、よりそい」、「福祉の相談」といった回答が得られました。

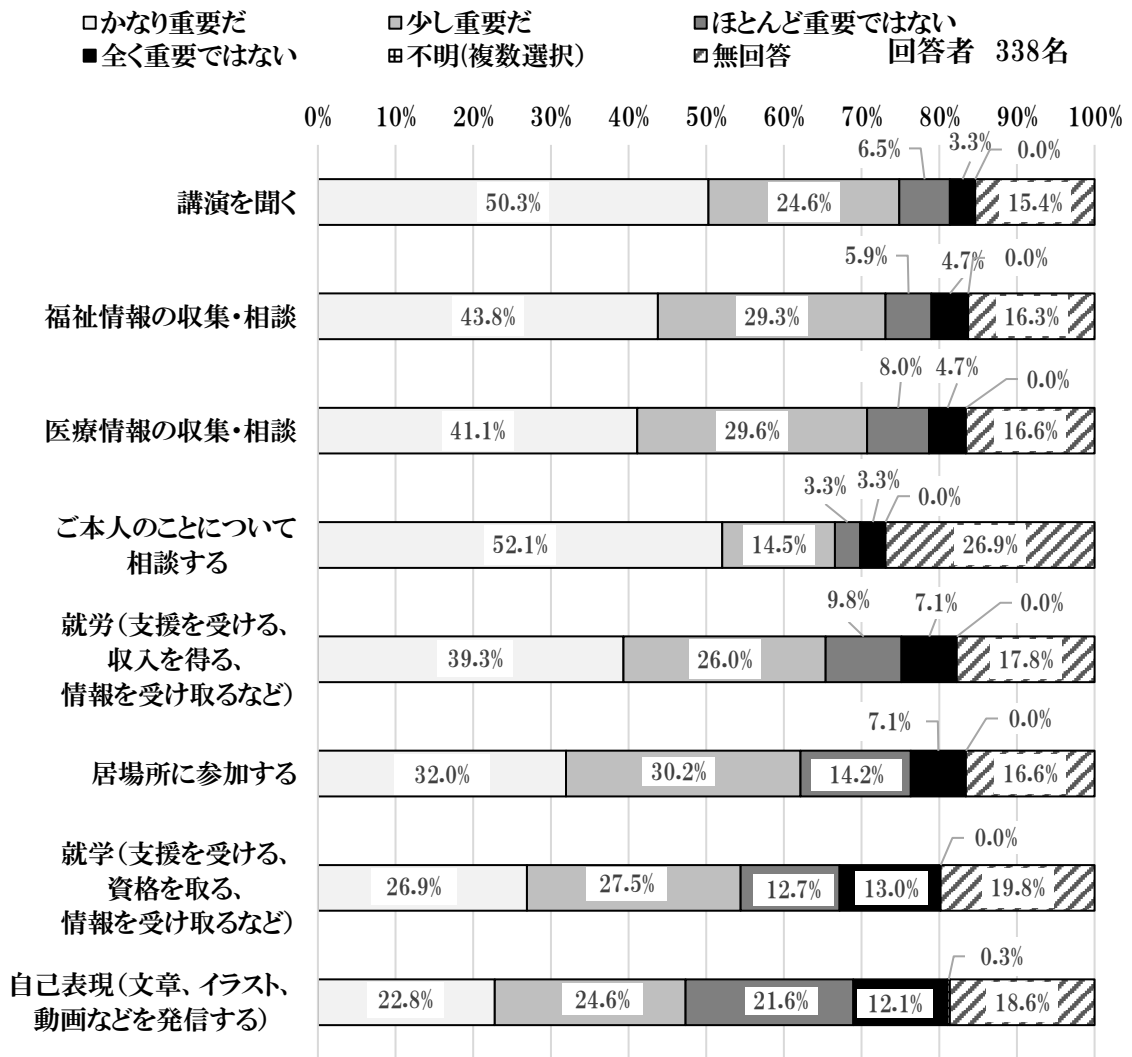


図1-38 オンライン支援を何のために使いたいのか

8. 料金の有無は？

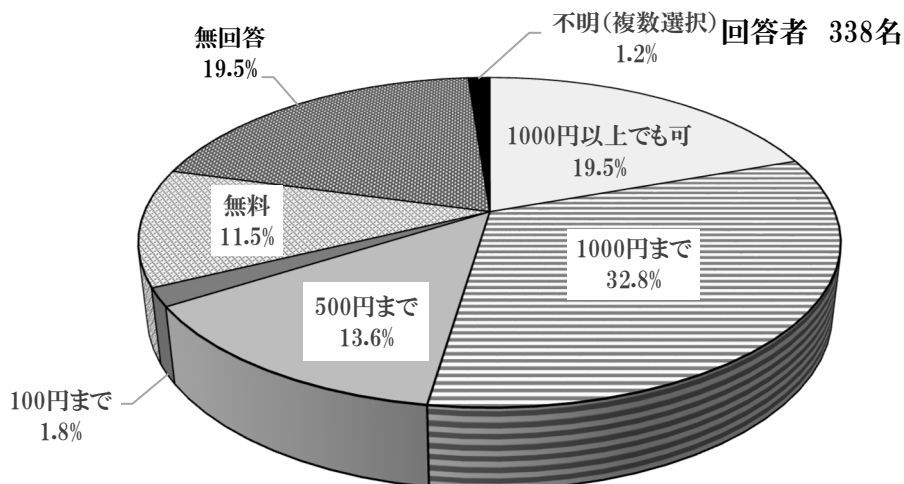


図1-39 利用料金が月平均でいくらまでなら
オンライン支援を利用したいか

利用料金が月平均でいくらまでなら、オンライン支援を利用してみたいかについての回答を図1-39に示します。「1000円まで」と回答した方が最も多く32.8%、次いで「1000円以上でも可」が19.5%、「500円まで」が13.6%、「無料」が11.5%でした。また、「100円まで」と回答した方が1.8%、複数を選択していた方が1.2%、無回答が19.5%でした。

(10) ご本人の就労経験と就労意欲

1. ご本人の就労経験の有無

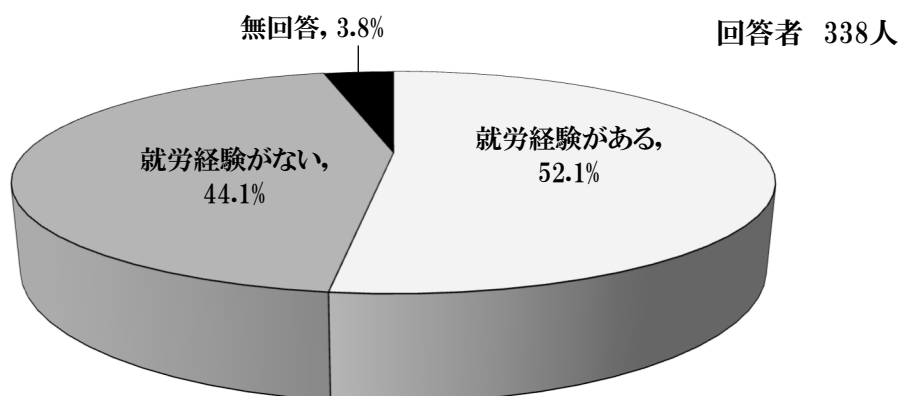


図1-40 ご本人の就労経験の有無

ご本人の就労経験の有無について、図1-40に示します。「就労経験がある」と回答した方が52.1%と半数を占め、「就労経験がない」と回答した方は44.1%、無回答は3.8%でした。

2. ご本人の就労意欲の有無

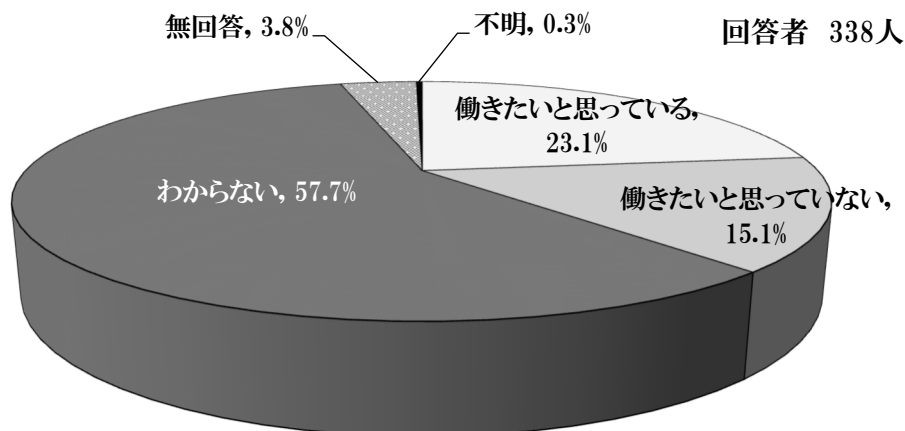


図1-41 現在ご本人に働きたいという思いがあるか

現在、ご本人は働きたいと思っているかどうかについて、図1-41に示します。「働きたいと思っている」と回答した方が23.1%、「働きたいと思っていない」と回答した方が15.1%でした。また、約6割の方が「わからない」と回答し、無回答が3.8%、不明（複数選択）が0.3%でした。

3. ご本人のオンライン就労への意欲の有無

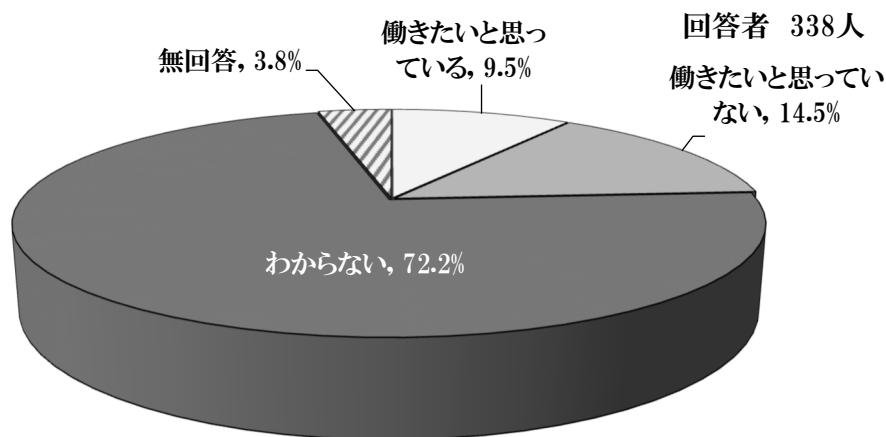


図1-42 ご本人にオンラインやテレワークで働きたいという思いがあるか

次に、ご本人がオンラインやテレワークで働きたいという思いがあるかについて、図1-42に示します。「働きたいと思っている」と回答した方が9.5%、「働きたいと思っていない」と回答した方が14.5%、無回答が3.8%でした。こちらは7割を超える方が「わからない」と回答しました。

第二部 本人調査

1. 目的

本調査は、ひきこもり支援におけるオンライン活用で求められていることを明らかにすることを目的としています。

2. 調査方法

【 調査対象者 】

特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会（以下、「家族会」とする。）の支部が令和4年11月～令和5年1月に開催した月例会において調査を実施するとともに、ウェブ調査を実施しました。また、全国のひきこもり地域支援センターにも調査用紙を配布するとともに、ウェブ調査を実施しました。その結果、127名（調査用紙による回答92名、ウェブによる回答35名）から回答が得られました。

【 調査内容 】（注：調査内容の詳細は、巻末の資料を参照してください。）

（1）基礎情報 本人調査に回答した方（以下、ご本人）に関する以下の情報について回答を求めました。

- ・現在のひきこもり状態の有無
- ・過去のひきこもり経験の有無
- ・ご本人の年齢
- ・ご本人の性別
- ・ご本人が住んでいる都道府県
- ・ひきこもりの初発年齢および期間
- ・現在のひきこもりの程度
- ・1ヶ月の平均外出日数
- ・外出できている場合、どんな所に出かけているか

（2）支援・医療機関について

- ・これから生活していくうえで、何らかの支援を望んでいるか
- ・支援・医療機関の利用状況
- ・医療を必要としていても、受診が難しい状況にあるか
- ・受診が難しい理由について
- ・訪問型の医療サービスの充実は必要か
- ・医療受診で必要なサービスについて

（3）KHJ家族会について

- ・ご本人の家族会への参加経験の有無

- ・ご本人の家族会への所属の有無
- ・ご本人の所属支部
- ・ご家族の家族会への参加経験の有無
- ・ご家族が家族会に参加したことで変化があったか
- ・変化があった場合、どのような変化があったか
- ・ご家族の家族会への所属の有無
- ・ご家族の所属支部

(4) ウェブサイトの閲覧などに使用するデバイスとその使用頻度

(5) 各通信手段の使用頻度

(6) ひきこもりに関する情報を入手する際に使用する手段とその使用頻度

- ・検索サイト
- ・SNS
- ・動画や文章
- ・掲示板
- ・ウェブサイト
- ・マスメディア
- ・オンラインとマスメディア以外

(7) ひきこもりに関する相談機関を検索する際にどんな情報を知りたいか

(8) オンライン支援の利用経験

(9) オンライン支援を受けるときに重要だと思うこと

- ・リアルタイムかどうか
- ・発信者は誰か
- ・やり取りする相手は誰か
- ・受け取る情報の種類は何か
- ・やり取りの時の匿名性
- ・利用時間
- ・オンライン支援を何のために使いたいか
- ・料金の有無は

(10) 就労経験と就労意欲

- ・就労経験の有無
- ・就労意欲の有無
- ・オンライン就労への意欲の有無

【 調査手続き 】

調査の趣旨に関する文書を読んだ上で、調査協力に同意された方のみが調査用紙に回答をしました。調査の趣旨に関する文書は、調査用紙から切り離して、持ち帰っていただくように依頼しました。回答者には、月例会において調査用紙と返信用封筒を配布し、返信用封筒に入れて郵送にて回収をしました。ウェブ調査においては、**GoogleForm** で作成した調査フォームのリンク情報を各支部にメールで送信し、同意の得られたご家族が回答を行いました。

結果

(1) 基礎情報

1. 現在のひきこもり状態の有無

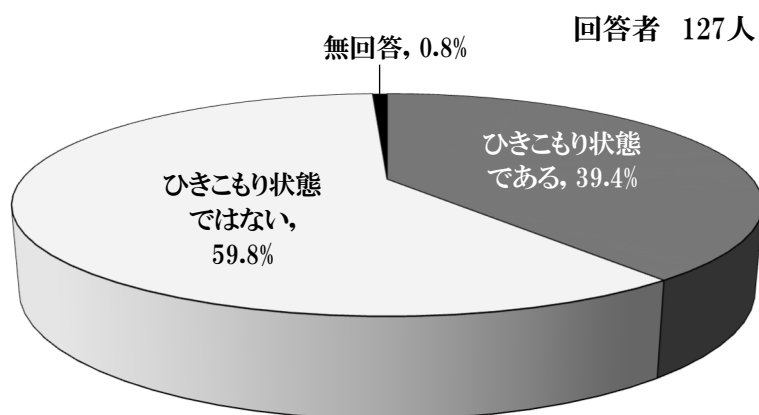


図2-1 ひきこもり状態の有無(現在)

図 2-1 に、ご本人の現在のひきこもり状態について示しました。現在ひきこもり状態である方が 39.4% (49.6%)、現在ひきこもり状態ではない方が 59.8% (48.1%)、無回答が 0.8% (2.3%) でした。(カッコ内は昨年度の値)。

2. 過去のひきこもり経験の有無

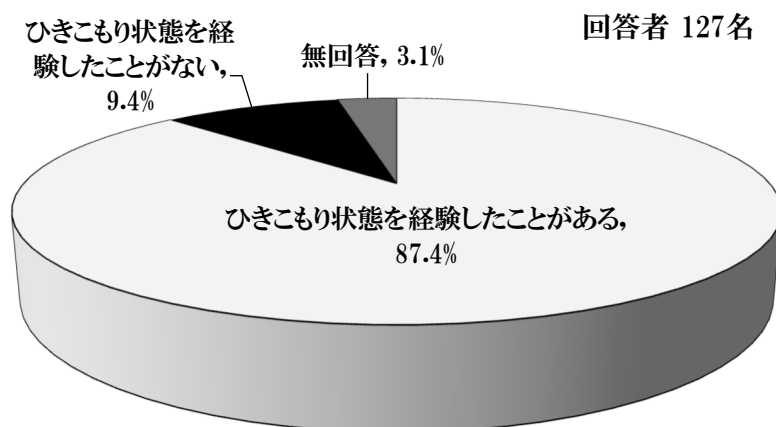


図2-2 ひきこもり経験の有無(過去)

図 2-2 に、ご本人の過去のひきこもり状態について示しました。過去にひきこもり状態を経験したことがある方が 87.4% (87.8%)、過去にひきこもり状態を経験したことがない方が 9.4% (6.9%)、無回答が 3.1% (5.3%) でした (カッコ内は昨年度の値)。

※これ以降は、現在ひきこもり状態ではなく、過去にひきこもり状態を経験したことがないと回答した方を除外して、123名のご本人のアンケートを集計しています。

3. ご本人の年齢

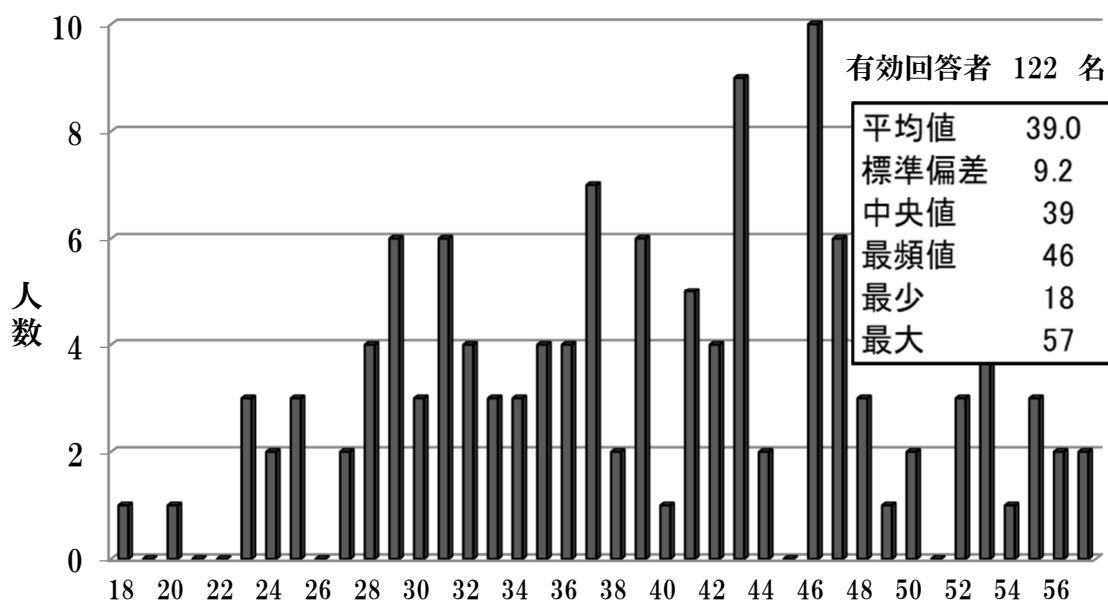


図2-3 ご本人の年齢

図 2-3 のとおり、ご本人の平均年齢は 39 歳±9.2 歳（38 歳±10 歳）で、最年少が 18 歳（17 歳）、最年長が 57 歳（63 歳）でした（カッコ内は昨年度の値）。

4. ご本人の性別

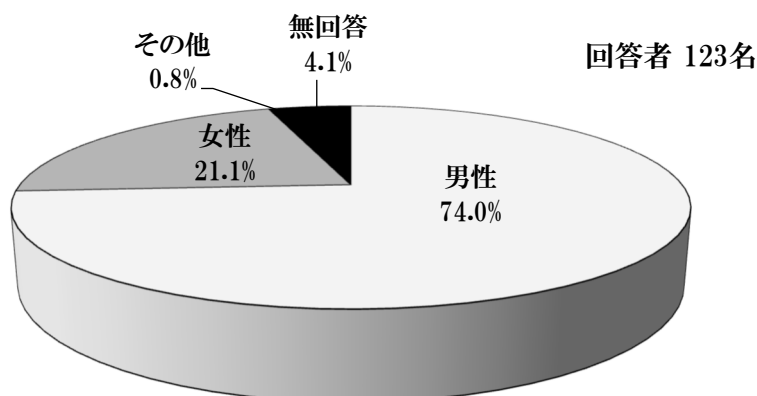


図2-4 ご本人の性別

図 2-4 にご本人の性別を示しました。男性が 74.0% (74.0%)、女性が 21.1% (21.4%)、その他が 0.8% (2.3%)、無回答が 4.1% (2.3%) でした (カッコ内は昨年度の値)。男女比は昨年度の数値とほぼ変わらない結果となりました。

5. ご本人が住んでいる都道府県

表2-1 ご本人が住んでいる場所

地方	都道府県	人数	地方	都道府県	人数	
北海道	北海道	8	近畿地方	三重県	1	
	東北地方	3		大阪府	5	
関東地方	岩手県	1		兵庫県	5	
	宮城県	1		奈良県	3	
	秋田県	4		中国地方	岡山県	2
	山形県	3	広島県		0	
	茨城県	1	山口県		1	
	中部地方	栃木県	1	四国地方	徳島県	0
		群馬県	2		高知県	5
		埼玉県	4	九州地方	福岡県	3
		千葉県	9		長崎県	3
		東京都	11		熊本県	3
神奈川県		6	宮崎県		2	
新潟県		5	沖縄県		1	
中部地方		富山県	2	無回答	4	
		石川県	5	合計	123	
		福井県	1			
	山梨県	3				
	岐阜県	1				
	静岡県	6				
	愛知県	8				

表 2-1 に示したとおり、ご本人が住んでいる場所は 35 都道府県 (34 都道府県) に分布しています。各地方の割合としては、北海道・東北地方が 16.8% (18.3%)、関東地方が 28.6% (24.6%)、中部地方が 26.1% (23.8%)、近畿地方が 11.8% (7.9%)、中国地方が 2.5% (6.3%)、四国地方が 4.2% (4.8%)、九州地方が 10.1% (14.3%) となっています (カッコ内は昨年度の値)。

6. ひきこもりの初発年齢

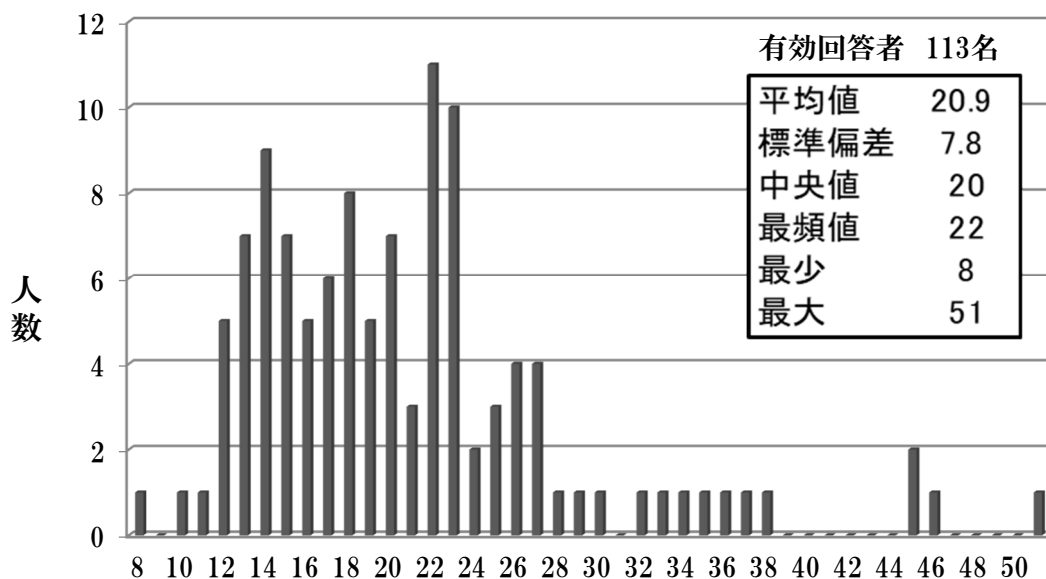


図2-5 ひきこもりの初発年齢

図 2-5 のとおり、ひきこもりが始まった時期の平均年齢は、20.9 歳（20.6 歳）、最年少が 8 歳（9 歳）、最年長が 51 歳（48 歳）でした（カッコ内は昨年度の値）。

7. ひきこもりの期間

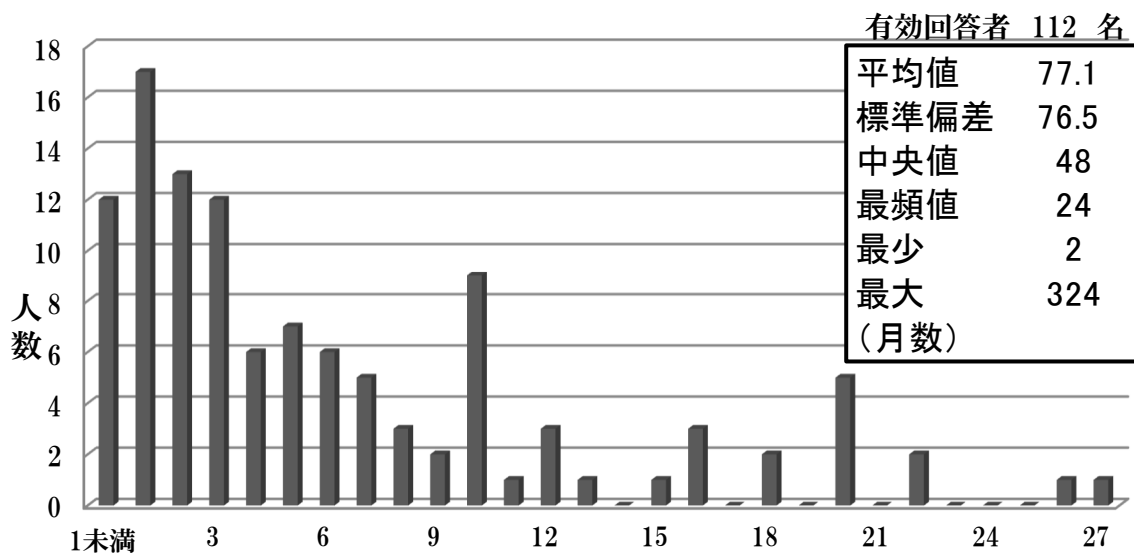


図2-6 ひきこもり期間1回目(年)

図 2-6 にひきこもり期間を示します。ひきこもり期間は平均 6.4 年（8.0 年）、最小が 2 ヶ月（2 ヶ月）、最大は 27 年（34 年）でした（カッコ内は昨年度の値）。

8. 現在のひきこもりの程度

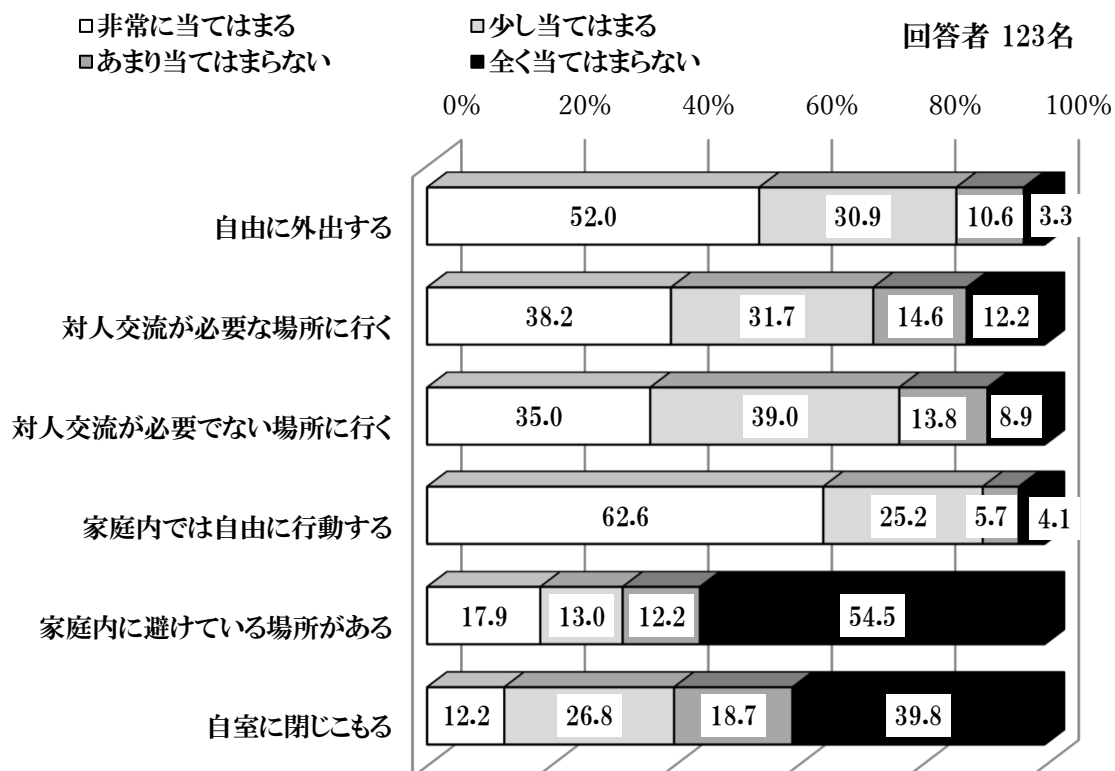


図2-7 ひきこもりの程度

図 2-7 にひきこもりの程度について示しました。「自由に外出する」について「非常に当てはまる」もしくは「少し当てはまる」と回答した方は 82.9% (83.2%) でした。「対人交流が必要な場所に行く」について、「非常に当てはまる」「少し当てはまる」と回答した方は 69.9% (67.1%)、「対人交流が必要でない場所に行く」については 74.0% (73.3%) の方が「非常に当てはまる」もしくは「少し当てはまる」と回答しました。「家庭内では自由に行動する」について、「非常に当てはまる」または「少し当てはまる」と回答した方は 87.8% (88.5%) で、昨年度と同様、最も多い結果となりました。「家庭内に避けている場所がある」「自室に閉じこもる」については、「非常に当てはまる」「少し当てはまる」と回答した方はそれぞれ 30.9% (35.1%)、39.0% (38.2%) でした。全体的に、昨年度の調査の値に近い結果となりました(カッコ内は昨年度の値)。

9. 1ヶ月の平均外出日数

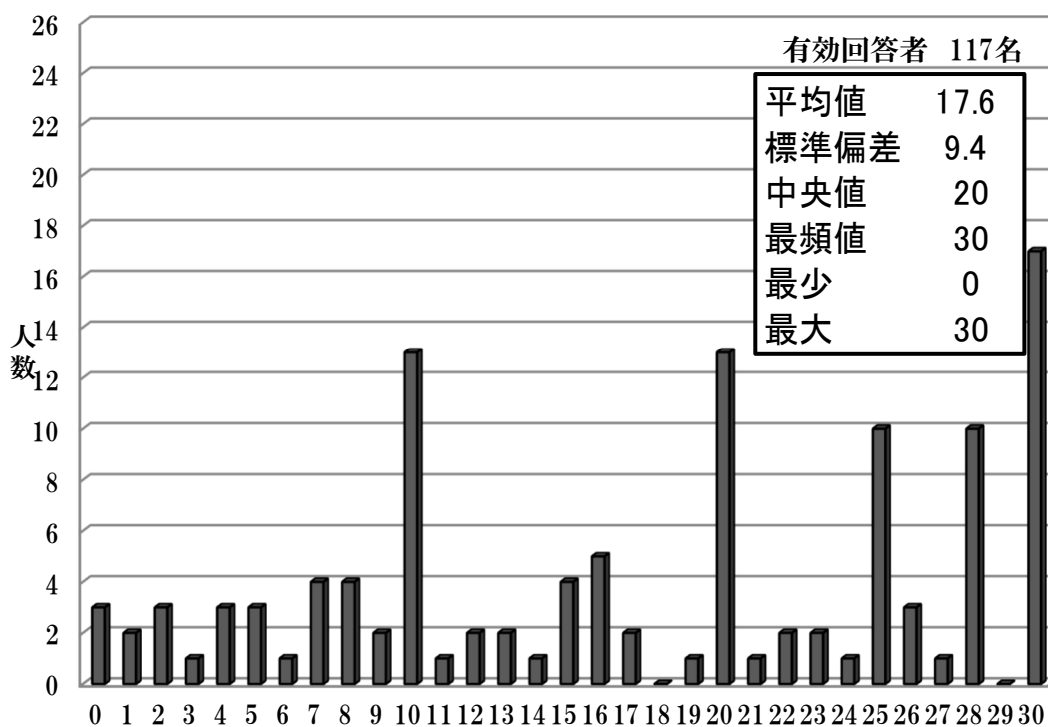


図2-8 ご本人の1ヶ月の平均外出日数

図 2-8 に、ご本人の1ヶ月の平均外出日数について示しました。毎日外出している場合、31日外出している場合は、「30日」として示しました。外出日数の平均は17.6日（15.9日）で、最少は0日（0日）、最大は30日（30日）でした（カッコ内は昨年度の値）。

また、外出できている場合、どんな所に出かけているか、について自由記述で回答を求めました。（ ）内の数字は、回答者の数を表しています。

○買物

- ・スーパー (29)
- ・コンビニ (16)
- ・買物 (17)
- ・書店(本屋) (11)
- ・商業施設(ショッピングセンター) (7)
- ・お店 (3)
- ・食品の買い出し (2)
- ・繁華街 (2)
- ・ショッピングモール (2)
- ・百円ショップ (2)
- ・ドラッグストア、イオン、商店街、こぢんまりしたお店、しゅみの店、デパート、アニメのグッズ売り場、ガソリンスタンド、Bookoff、ゲオ、ゲームショップ、楽器店、駅ビル、リサイクルショップ

○病院

- ・病院（通院）（14） ・薬局（2） ・精神科（2）
- ・医療機関、心療内科、内科、メンタルクリニック、歯科、病院のカウンセリング、心の健康センター

○仕事、学習

- ・仕事（職場）（13） ・バイト（2） ・就労支援場所（2） ・習い事（2）
- ・A型就労、支援事業所、作業所、職業訓練校、B型作業所、大学、ハローワーク

○趣味、娯楽

- ・図書館（12） ・公園（6） ・映画館（5）
- ・ドライブ、ゲームセンター（3） ・山のぼり（2） ・パチンコ（2）
- ・イベント、市民ホール、フラリエ、カラオケ、畑、ネットカフェ、

○居場所等の集い

- ・教会（2） ・フリースペース（2） ・デイケア（2）
- ・サポートステーション（2） ・各地の居場所（2）
- ・ひきこもりセンター、●アリーナ、病院のデイケアサービス、、スポーツスタジアム、月例会、●親の会、ピアサポーター活動、地域活動センター、ひきこもりの居場所、ひきこもりピアサポートセンター、サードプレイス、当事者会、●の会、自助グループ、ひきこもり支えん相談、居場所支えん、集まり

○美容・健康

- ・散歩（4） ・床屋（2） ・ジム（2）
- ・整体、ジョギング、美容室

○飲食店

- ・レストラン、カフェ（3） ・飲食店（2） ・外食（2）
- ・ファーストフード店（2）
- ・喫茶店

○支援センター、支援組織

- ・ひきこもり地域支援センター（4） ・就労移行支援の事業所（2）
- ・●仕事センター●、●（●市の障害者向けサービス）、支援施設、

○公共機関

- ・役所 (3) ・銀行 (3)
- ・駅のまど口、福祉課 (就労支援)、保健所

○公益活動

- ・ボランティア (4)
- ・公益活動の場

○講演会

- ・セミナー (2)
- ・公演会

○その他

- ・人が少ない所 (2)
- ・近場であればどこでも、土手、生活に必要な場所 (2)
- ・近所、問題なし、できるだけ人ごみはさけ午前中外出する、必要な時だけ
- ・県外、都市部、金銭的な理由以外で行けないと思うところは無い、1人で行動できる場所
- ・知り合いや同級生に合う可能性が少なそうな場所。にぎやかそうでなさそうな場所。
- ・絶対に出かけなきゃいけない場所、支援団体等の面談
- ・母の職場の迎え

○外出しない

- ・必要がないと外出しない

(2) 支援・医療機関について

1. これから生活していくうえで、何らかの支援を望んでいるか

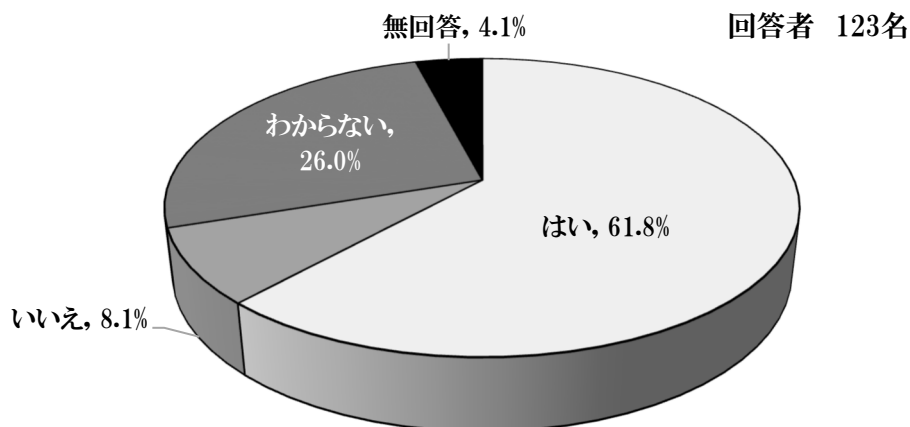


図2-9 これから生活していくうえで、何らかの支援を望んでいるか

これから生活していくうえで、ご本人が何らかの支援を望んでいるかについて、図 2-9 に示します。「何らかの支援を望んでいる」と回答した方が 61.8% (62.6%)、「支援を望んでいない」と回答した方が 8.1% (9.2%)、「わからない」と回答した方が 26.0% (25.2%)、無回答が 4.1% (3.1%) でした。昨年度の調査と同様、「わからない」と回答した方が全体の約 4 分の 1 を占める結果となりました。

2. 支援・医療機関の利用状況

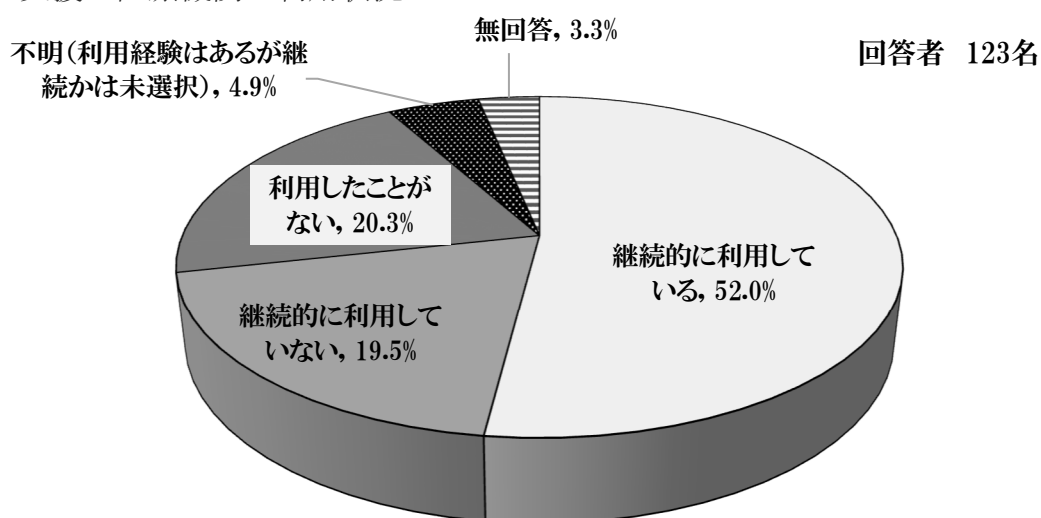


図2-10 支援・医療機関の利用状況(ご本人)

図 2-10 のとおり、支援・医療機関を継続的に利用している人が 52.0% (55.7%)、利用したことがあるが継続的ではない人が 19.5% (16.8%)、利用していない人が 20.3% (18.3%)、無回答が 3.3% (9.2%) でした (カッコ内は昨年度の値)。

3. 医療を必要としていても、受診が難しい状況にあるか

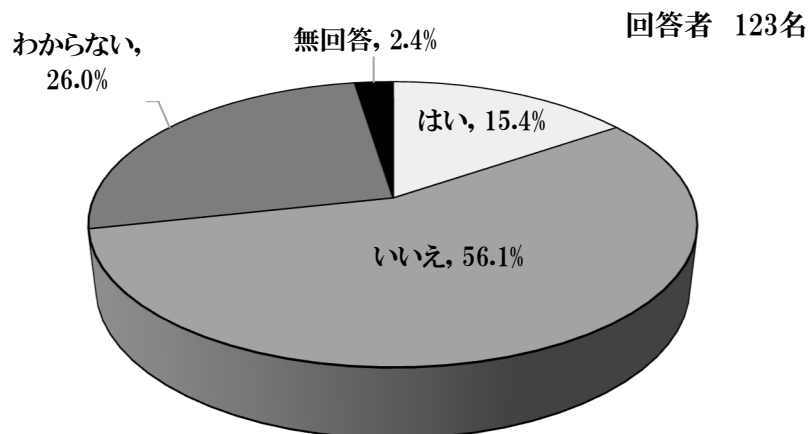


図2-11 医療を必要としていても、
受診が難しい状況にあるか

ご本人が医療を必要としていても、受診が難しい状況にあるかについて、図 2-11 に示します。「受診が難しい状況にある」と回答した方が 15.4% (10.7%)、「受診が難しい状況にない」と回答した方が 56.1% (70.2%)、「わからない」と回答した方が 26.0% (16.0%)、無回答が 2.4% (3.1%) でした。

また、「受診が難しい状況にある」と回答した方には、その理由について自由記述で回答を求めました。

○病院、医師に対してネガティブな感情を持っている

- ・ 医師と会ってあまり話が通じないと感じると、余計に体調が悪くなる
- ・ 精神科で医師により精神障害発達障害の判断基準が違い過ぎる
- ・ 精神科のドクターショッピングに成り、金銭、心理で損失大
- ・ カウンセリングを続けていたが、逆にしんどくなる事がある
- ・ 薬だけなら、処方箋なしの睡眠改善薬でいいかとなる
- ・ 必要な医療を提供してくれる医療機関は存在しない
- ・ 医者など、先生の肩書を持っている人が苦手
- ・ 精神科を受診したところ疾患がない
- ・ 自分の状態をうまく説明できない

- ・合う病院が分からない
- ・診察が合わない

○精神的理由

- ・いきなり対人はハードルが高すぎる
- ・気持ちで長続きしない
- ・継続的な受診が面倒
- ・人に会いたくない
- ・人の目が気になる

○経済的理由

- ・世帯年収が低く（年収 150 万前後）貯蓄もないため
- ・お金がかかる

○外出が困難

- ・持病のてんかんで自動車免許が無い
- ・自分で行けない

○時間の問題

- ・短い時間のために必死になるのがむなしい
- ・予約しても何か月か先になる
- ・予約時間を守るのが辛い

○その他

- ・受診するために、小学校～中学校の成績表が必要と言われているが失くしてしまっている
- ・家族がいないので、症状によっては緊急連絡先などが無いため難しくなる
- ・病院が遠い

4. 訪問型の医療サービスの充実が必要か

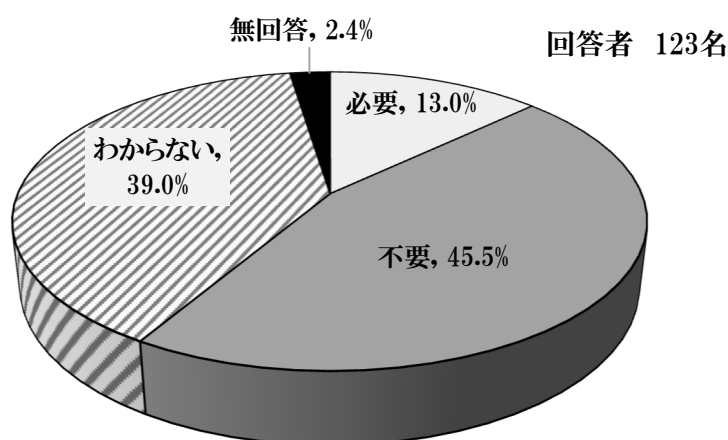


図2-12 訪問型の医療サービスの充実が必要か

ご本人にとって、訪問型の医療サービスの充実が必要であるかどうかについて、図 2-12 に示します。「必要である」と回答した方が 13.0% (15.3%)、「必要でない」と回答した方が 45.5% (41.2%)、「わからない」と回答した方が 39.0% (38.9%)、無回答が 2.4% (4.6%) でした。

また、医療受診で必要なサービスについて、自由記述で回答を求めました。

○医療サービス

- ・医学的に健常者で世間・人事視点で健常者でない人間でも診てもらえるところ
- ・薬局から処方薬を郵送でもらう、ないし、院内処方でもらう
- ・統合失調症だけでなく、自閉スペクトラム症を考慮に入れた精神科医療
- ・心あるカウンセラーによるカウンセリング、実際は不可能
- ・待合室に各種プリントなんかがあると暇がつぶせていい
- ・HP にわかりやすい説明があるとありがたい
- ・訪問型の医療カウンセリング
- ・電話での診察サービス
- ・薬の宅配サービス

○オンライン診療

- ・地元の病院が、「初診以外はオンライン OK」となって、今度行く時はそうしたいです。
- ・スマホをつかった相談チャット
- ・オンラインでの診察サービス

○その他

- ・今後之人生之見通し展望失敗失望時乃相談 祖父母、両親、親戚親類縁者兄弟姉妹先輩同輩後輩友人知人御○所、自治会全無 1●寺ご住職 2● 3ひきこもり家族会 4主治医 以外無
- ・自助グループの紹介チラシとかもあるといい
- ・とにかく、出かけずにできる部分がほしい
- ・B型作業所という所に興味がある
- ・訪問しても拒否してしまう

(3) KHJ 家族会について

1. ご本人の家族会への参加経験の有無

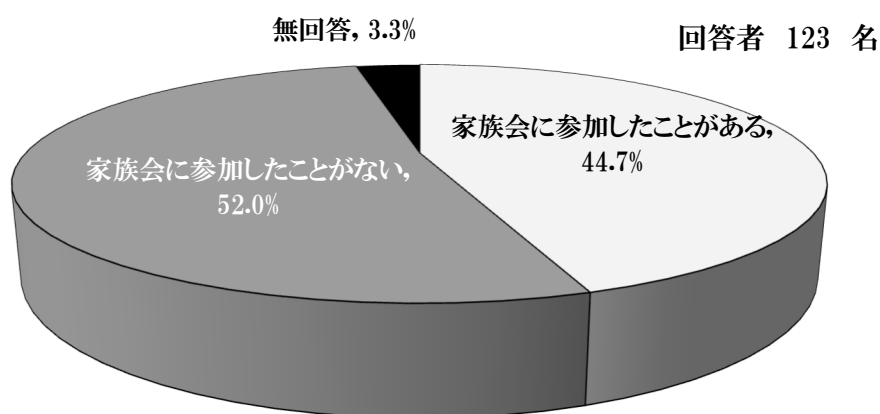


図2-13 家族会への参加経験(ご本人)

図 2-13 に、ご本人が家族会に参加したことがあるかについて示しました。「家族会に参加したことがある」と回答した方が 44.7% (45.8%)、「家族会に参加したことがない」と回答した方が 52.0% (49.6%)、無回答が 3.3% (4.6%) でした。

2. ご本人の家族会への所属の有無

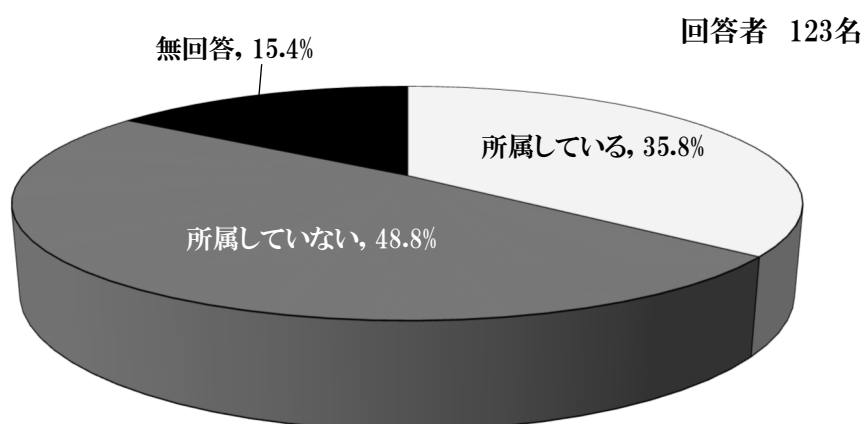


図2-14 家族会への所属(ご本人)

図 2-14 にご本人の家族会への所属の有無について示しました。「所属している」と回答した方が 35.8% (37.4%)、「所属していない」と回答した方が 48.8% (41.2%)、無回答が 15.4% (21.4%) でした。(カッコ内は昨年度の値)

さらに、ご本人が所属している家族会支部の詳細を表 2-2 と図 2-15 に示しています。

表2-2 家族会所属支部(ご本人)

地方	支部名称	人数	地方	支部名称	人数
東北地方	KHJ北海道「はまなす」	2	北陸地方	KHJ長岡フェニックスの会	1
	NPO法人から・ころセンター	1		NPO法人KHJにいがた「秋桜の会」	1
	KHJ青森県「さくらの会」	3		「いまこ親の会」	3
	KHJ石巻まきっこの会	1		とやま大地の会	1
	KHJ秋田ぼっけの会	3		東海地方	KHJ静岡県「いっぶく会」
関東地方	KHJ埼玉けやきの会家族会	1	KHJ東海NPO法人なでしこの会	1	
	KHJ千葉県なの花会	5	豊田・大地の会	1	
	KHJ鹿行地区家族会	1	近畿地方	兵庫県宍粟支部 ひまわりの家家族会	1
	KHJ町田家族会	1	NPO法人大阪虹の会	3	
	NPO法人楽の会リーラ	1	KHJ奈良県わかぐさの会	1	
	KHJ山梨県桃の会	3	四国地方	KHJ高知県親の会「やいろ鳥」の会	3
	NPO法人から・ころセンター	1	九州沖縄	KHJ福岡県「楠の会」	2
	KHJ横浜ぼらの会	1	その他		2
	24	合計		45	

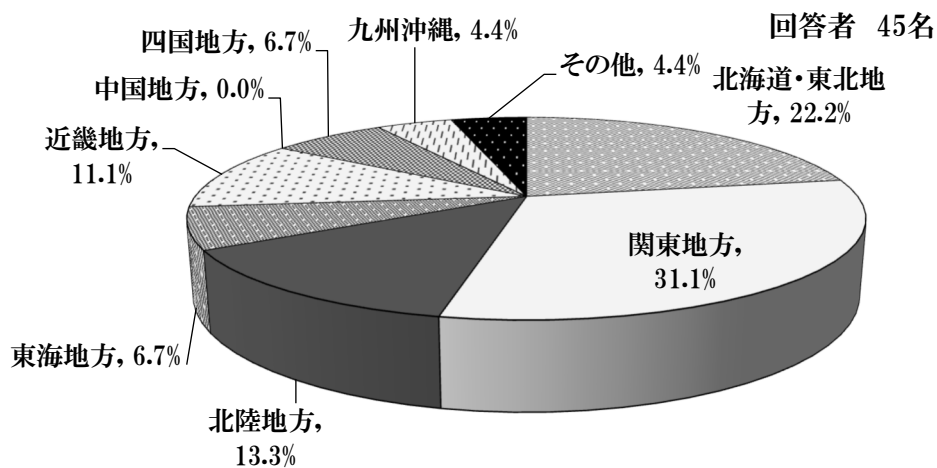


図2-15 ご本人の家族会所属支部(地方別)

3. ご家族の家族会への参加経験の有無

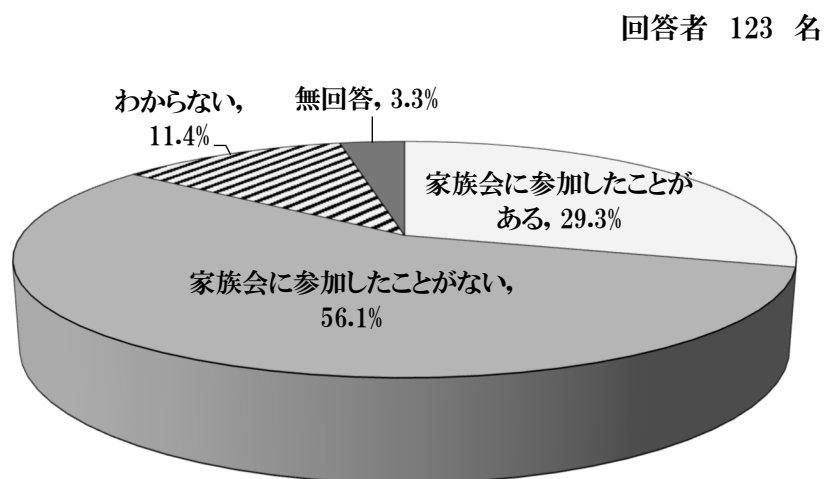


図2-16 家族会への参加経験(ご家族)

ご家族の家族会への参加経験を図 2-16 に示しました。「ご家族が家族会に参加したことがある」と回答した方が 29.3% (32.1%)、「参加したことがない」と回答した方が 56.1% (59.5%)、「わからない」と回答した方が 11.4%、無回答が 3.3% (8.4%) でした。

4. ご家族が家族会に参加したことで変化があったか

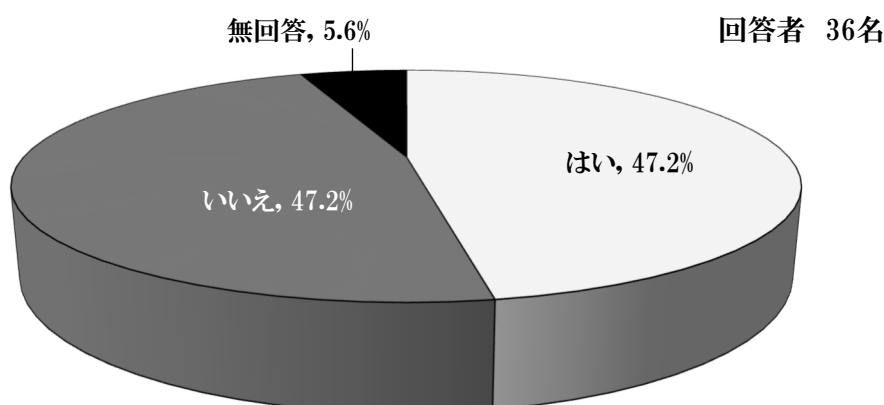


図2-17 ご家族が家族会に参加したことで変化があったか

「ご家族が家族会に参加したことがある」と回答した方に、ご家族が家族会に参加したことで変化があったかどうかについて、図 2-17 に示しました。「変化があった」、「変化がなかった」と回答した方はどちらも 47.2%で、無回答が 5.6%でした。

また、「ご家族が家族会に参加したことで、変化があった」と回答した方には、どのような変化があったかについて自由記述で回答を求めました。

○親の対応が変わった

- ・自分に対しての対応が優しくなりました。そして、家庭環境の充実に繋がりました。
- ・客観的な話をお互いできるようになった。家庭内だけで悩まなくなった。
- ・多少なりとも他者との会話が増したように思える
- ・少しは、私の苦しみを理解するようになった。
- ・干渉してくる機会が減った
- ・圧力が減少した

○気持ちの変化

- ・特別何か言われたりとかは無かったが、「家族会に行っている」ということを知って親が悩んでいることがわかった。(1回目の引きこもりの時)
- ・大きな変化ではないが共感・共有できる人々がいることの安堵による落ち着き
- ・自分だけが大変だと思っていたが、大変な方も多いんだと感じました
- ・ココロに余裕ができています
- ・心の距離が短くなった
- ・前向きになった

○その他

- ・ひきこもりを責める視線が向けられなくなる
- ・プライバシーを尊重されるようになる

○なし

- ・最初からガンガン行く人だったため、“変化”はわかりません。「私をほったらかして出かける人だよな、この人は…」って感じでもあり。(母とは、けっこう長く互いに一人暮らししてから、再同居なので、まあ別々に暮らしてシェア、みたいな同居なんですけども)「私のため」とか言わず、「楽しいから」みたいな人なので、冷めた気持ちで見てた面もありますが。そういう母を、今は嫌いじゃないし。 両親ともに“心配”のしかたが変でろくなことにならなかったし、こっちに寄ってこられるのはイヤなので(さんざんイヤな寄られ方をしてきたので)、そうならないですむことになっているのを感じます。防波堤のような？ 親子だけで煮詰まっても地獄にしかならないから、それらの場所が、長く母の居場所になってくれていることに感謝しています。
- ・会長さんと話す事で励まされた。つながりを持つ事で安心感が出た。
- ・特になし

5. ご家族の家族会への所属の有無

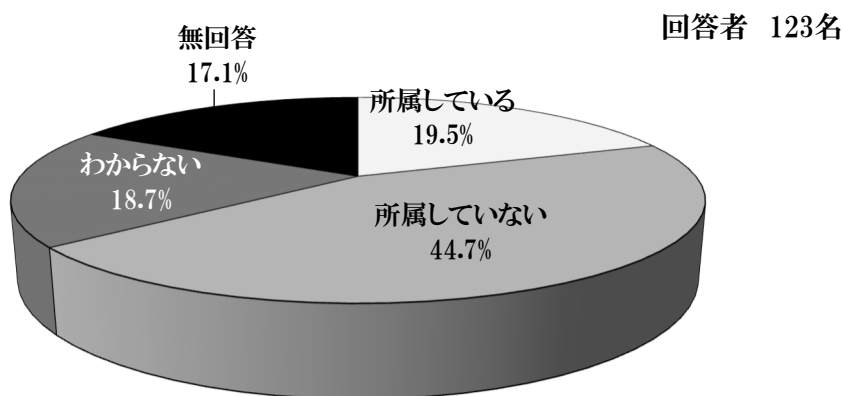


図2-18 家族会への所属(ご家族)

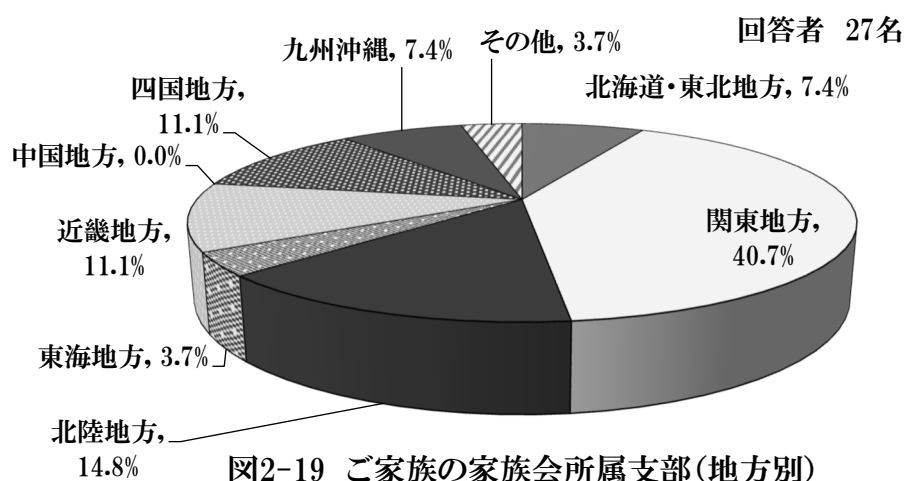
図 2-18 にご家族が家族会に所属しているかについて示しました。「ご家族が家族会に所属している」と回答した方が 19.5% (19.1%)、「所属していない」と回答した方が 44.7% (55.7%)、「わからない」と回答した方が 18.7%、無回答が 17.1% (25.2%) でした。(カッコ内は昨年度の値)。

さらに、ご家族が所属している家族会支部の詳細を表 2-3 と図 2-19 とに示しています。

表2-3 家族会所属支部(ご家族)

地方	支部名称	人数
北海道	KHJ北海道「はまなす」	1
東北地方	KHJ秋田ぼっけの会	1
関東地方	NPO法人KHJとちぎ「ベリー会」	1
	KHJ群馬県はるかぜの会	1
	KHJ千葉県なの花会	4
	KHJ町田家族会	1
	NPO法人楽の会リーラ	2
	KHJ横浜ばらの会	2
	北陸地方	KHJ長岡フェニックスの会
東海地方	「いまこ親の会」	2
	とやま大地の会	1
	豊田・大地の会	1
近畿地方	兵庫県宍粟支部 ひまわりの家家族会	1
	NPO法人大阪虹の会	1
	NPO法人KHJ「つばさの会大阪」	1
四国地方	KHJ高知県親の会「やいろ鳥」の会	3
九州沖縄	KHJ福岡県「楠の会」	1
	KHJみやざき「楠の会」	1
その他		1

27



(4) ウェブサイトの閲覧などに使用するデバイスとその使用頻度

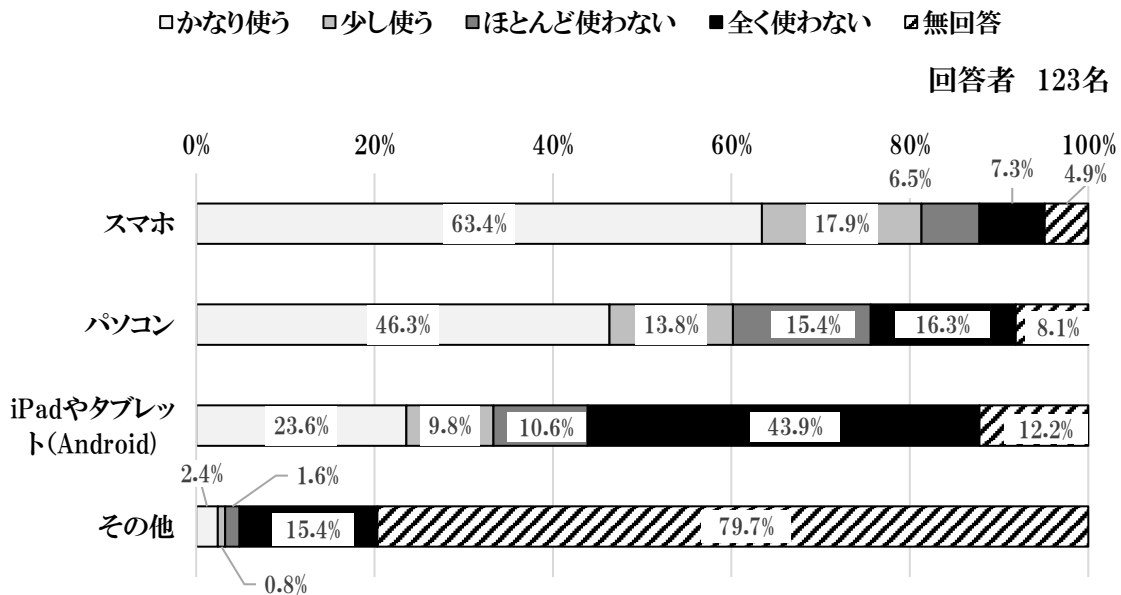


図2-20 各機器の使用頻度

ウェブサイトの閲覧などに、普段どのデバイス（情報電子機器）をどの程度使用しているかについて、図 2-20 に示します。「かなり使う」「少し使う」と回答した方が多かった順に、「スマホ」が 81.3%、「パソコン」が 60.1%、「iPad やタブレット」が 33.4%、「その他」が 3.2%でした。その他としては、「携帯電話（ガラケー）」という回答がありました。

(5) 各種手段の使用頻度

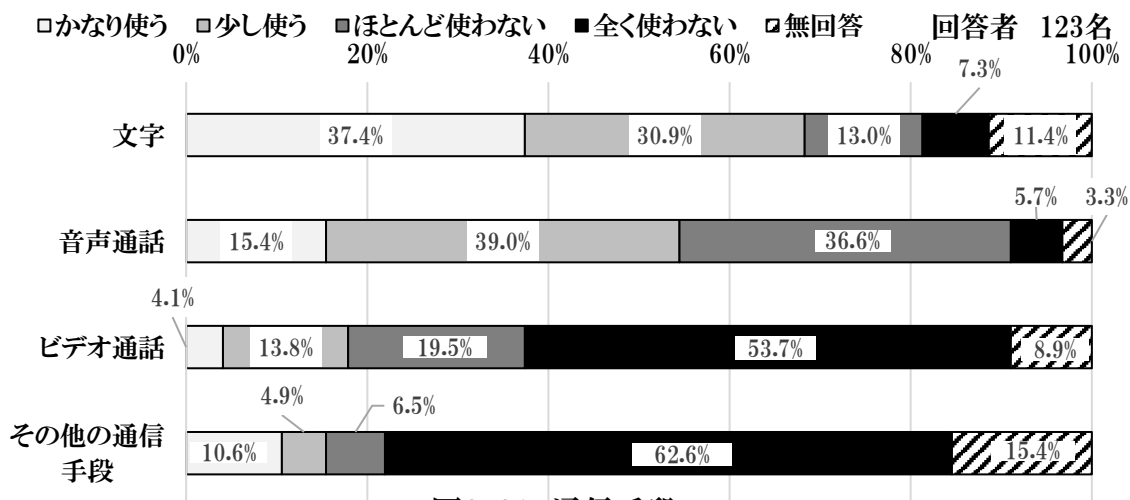


図2-21 通信手段

普段使用している通信手段について、どの通信手段をどの程度使用しているかを図2-21に示します。「かなり使う」「少し使う」と回答した方が多かった順に、「文字」が68.3%、「音声通話」が54.4%、「ビデオ通話」が17.9%、その他が15.5%でした。

(表2-4 各文字の使用頻度)

	かなり使う	少し使う	ほとんど使わない	使用頻度不明	全く使わない	無回答
メール	27.6%	20.3%	5.7%	3.3%	7.3%	35.8%
LINE	27.6%	18.7%	6.5%	4.9%	8.1%	34.1%
ショートメッセージ	17.9%	13.0%	1.6%	3.3%	7.3%	56.9%
Twitterのメッセージ	13.0%	5.7%	0.8%	2.4%	8.1%	69.9%
Facebookメッセージ	8.9%	4.1%	0.0%	0.8%	8.1%	78.0%
手紙、ハガキ	8.1%	4.9%	0.8%	1.6%	7.3%	77.2%
Instagramのメッセージ	7.3%	0.8%	0.0%	0.8%	8.1%	82.9%
ブログ	5.7%	1.6%	0.0%	0.8%	8.1%	83.7%
電子掲示板	3.3%	2.4%	0.0%	0.8%	8.1%	85.4%
Fax	1.6%	0.0%	0.8%	0.8%	8.1%	88.6%
TikTokのメッセージ	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%	8.1%	90.2%
その他	1.6%	0.0%	1.6%	0.0%	7.3%	89.4%

また、「文字」と回答した方が普段使用している手段とその頻度について、表2-4に示します。「かなり使う」「少し使う」と回答した方が多かった順に、「メール」が47.9%、「LINE」が46.3%、「ショートメッセージ」が30.9%でした。次いで、「Twitterのメッセージ」が18.7%、「Facebookメッセージ」、「手紙、ハガキ」が13.0%、「Instagramのメッセージ」が8.1%、「ブログ」が7.3%、「電子掲示板」が5.7%、「Fax」が1.6%、「TikTokのメッセージ」が0.8%、「その他」が1.6%でした。また、その他として「ディスコー

ド」、「タンブラー」、「フリッカー」、「イルカ」といった回答がありました。

(表 2-5 各音声通話の使用頻度)

	かなり使う	少し使う	ほとんど使わない	使用頻度不明	全く使わない	無回答
携帯電話	14.6%	29.3%	30.1%	1.6%	4.9%	19.5%
LINE通話	7.3%	20.3%	13.8%	0.0%	5.7%	52.8%
固定電話	2.4%	9.8%	9.8%	1.6%	4.9%	71.5%
その他	3.3%	1.6%	1.6%	0.0%	5.7%	87.8%

次に、「音声通話」と回答した方が普段使用している手段とその使用頻度について、表 2-5 に示します。頻度を複数選択した場合は「使用頻度不明」としています。「携帯電話」について「かなり使う」「少し使う」と回答した方が最も多く 43.9%、次いで「LINE 通話」が 27.6%、「固定電話」が 12.2%、「その他」が 4.9%でした。その他としては、「Zoom」、「Discord」、「Facebook のウェブ通話」といった回答がありました。

(表 2-6 各ビデオ通話の使用頻度)

	かなり使う	少し使う	ほとんど使わない	使用頻度不明	全く使わない	無回答
Zoom	4.1%	11.4%	16.3%	1.6%	53.7%	13.0%
Googleミート	0.8%	0.8%	0.0%	0.0%	53.7%	44.7%
V-cube	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	53.7%	45.5%
Teams	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	53.7%	45.5%
その他	0.0%	3.3%	0.8%	0.0%	53.7%	42.3%

また、「ビデオ通話」と回答した方がどの手段をどの程度使用しているかについて表 2-6 に示します。「Zoom」について「かなり使う」「少し使う」と回答した方が最も多く 15.5%、次いで「Google ミート」が 1.6%、「V-cube」「Teams」について、「かなり使う」「少し使う」と回答した方はいませんでした。「その他」は 3.3%で、「Facetime」、「whereby」といった回答がありました。

(表 2-7 その他の通信手段の使用頻度)

	かなり使う	少し使う	ほとんど使わない	使用頻度不明	全く使わない	無回答
オンラインゲーム	8.1%	4.1%	1.6%	1.6%	62.6%	22.0%
Slackなどのビデオチャットツール	4.1%	0.8%	2.4%	0.0%	62.6%	30.1%
メタバース	1.6%	0.0%	0.0%	0.8%	62.6%	35.0%
その他	1.6%	0.0%	0.8%	0.0%	62.6%	35.0%

次に、「その他の手段」と回答した方について、その詳細を表 2-7 に示します。「かなり使う」「少し使う」と回答した方が多い順に、「オンラインゲーム」が 12.2%、「Slack などのビデオチャットツール」が 4.9%、「メタバース」、「その他」が 1.6%でした。

(6) ひきこもりに関する情報を入手する際に使用する手段とその使用頻度
 1. 検索サイト

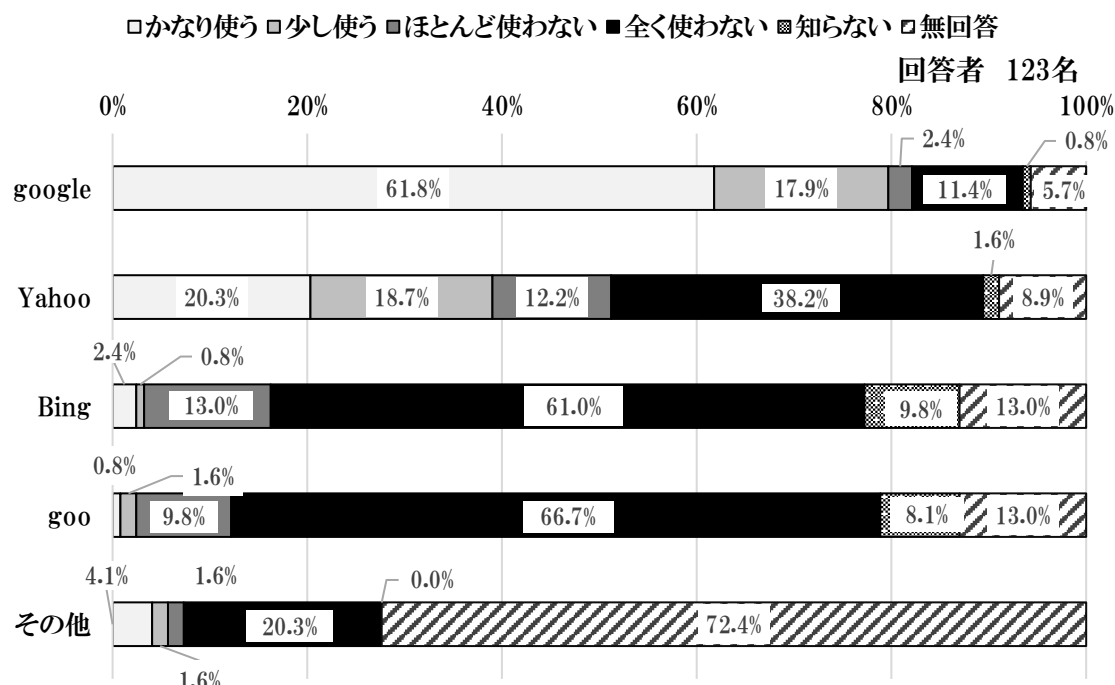


図2-22 検索サイト

普段、ひきこもりに関する情報を入手する際に使用する検索サイトと、その使用頻度について図 2-22 に示します。「かなり使う」「少し使う」と回答した方が多かった順に、「google」が 79.7%、「Yahoo」が 39.0%、「Bing」が 3.2%、「goo」が 2.4%、「その他」が 5.7%でした。

2. SNS

普段使用する SNS とその使用頻度について図 2-23 に示します。「Twitter」について、「かなり使う」「少し使う」と回答した方が最も多く 49.6%、「LINE」が 43.1%、「Instagram」が 24.4%でした。次いで、「Facebook」が 19.5%、「TikTok」が 5.7%、「Mixi」が 3.2%、その他が 1.6%でした。

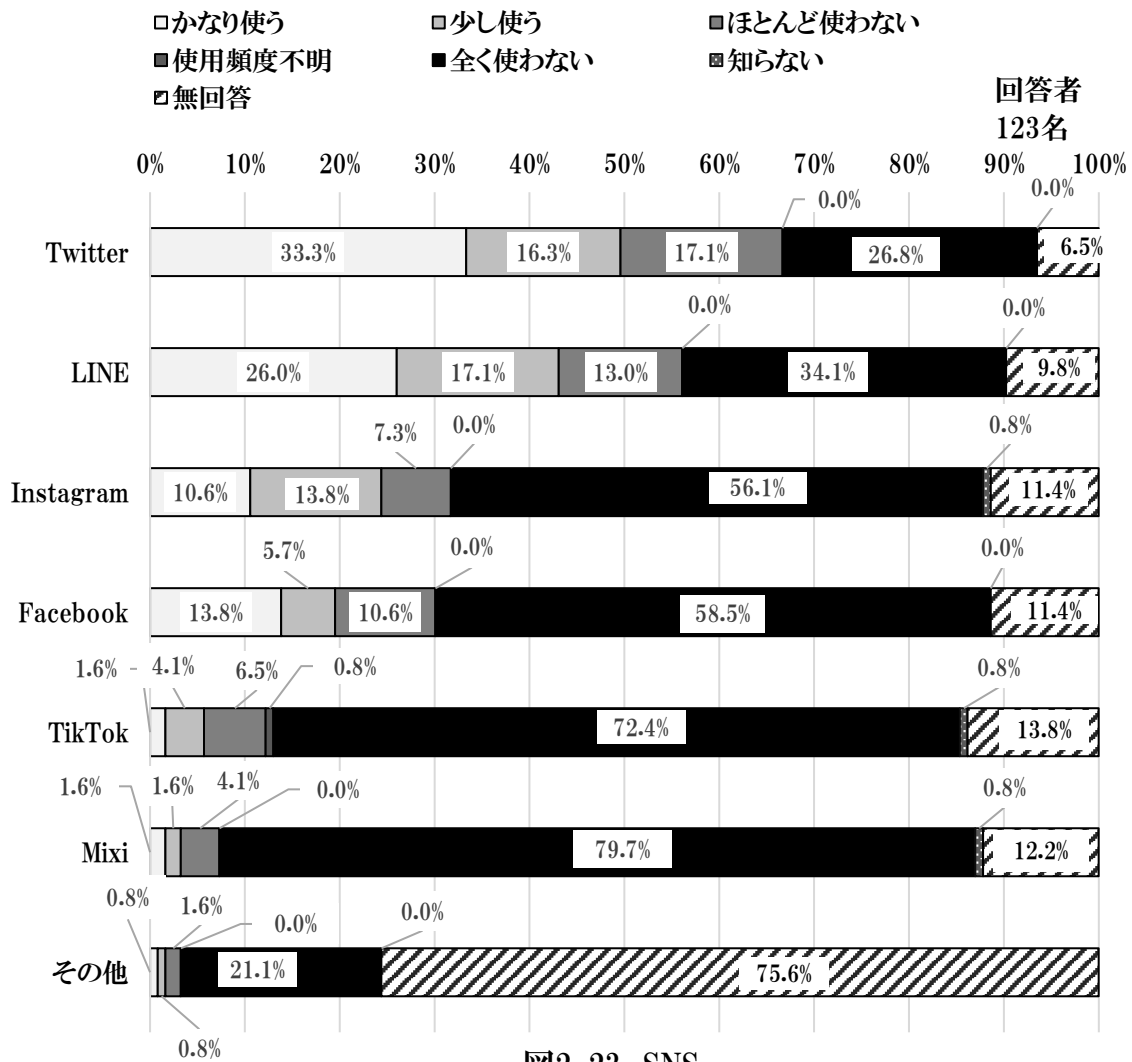
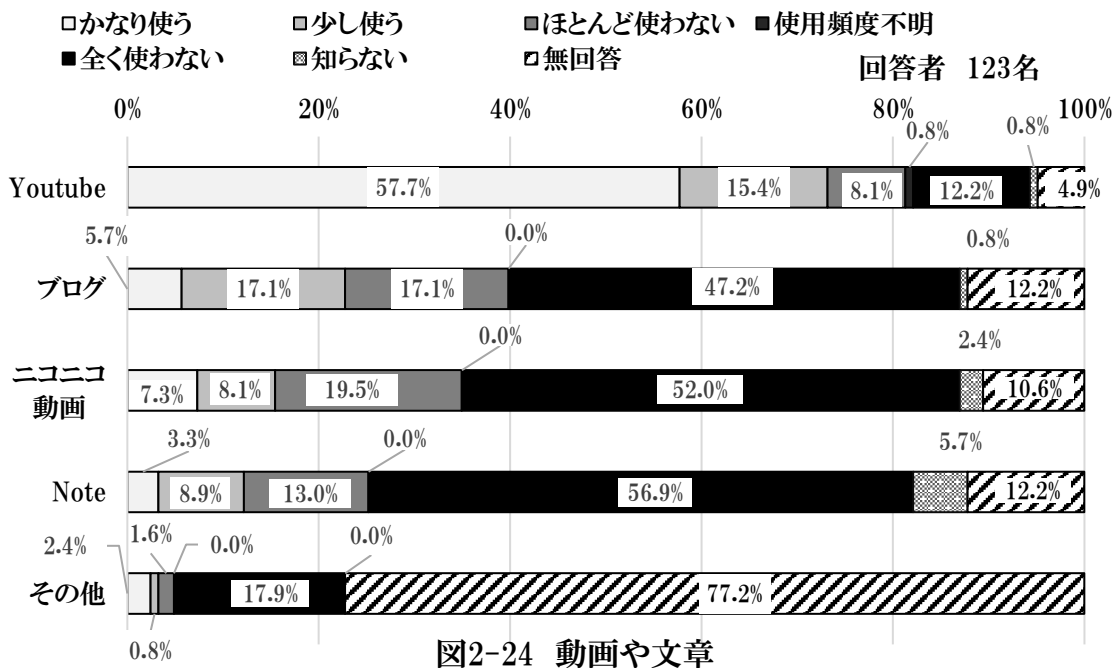


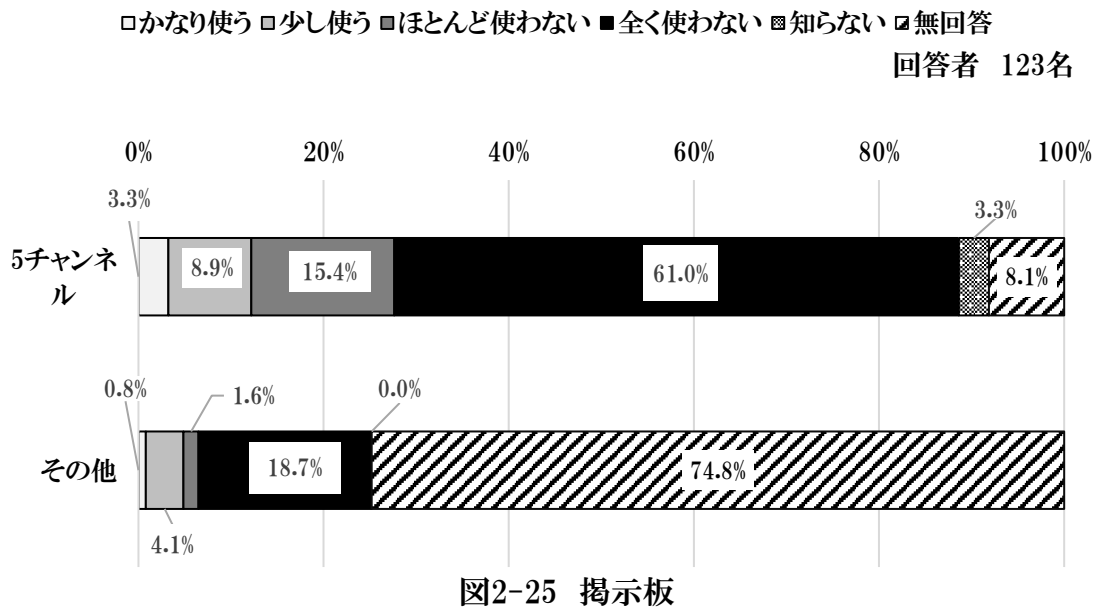
図2-23 SNS

3. 動画や文章

普段使用する動画や文章と、その使用頻度についてまとめたものが図 2-24 です。「かなり使う」「少し使う」と回答した方が多い順に「YouTube」が 73.1%、「ブログ」が 22.8%、「ニコニコ動画」が 15.4%、「Note」が 12.2%、「その他」が 3.2%でした。



4. 掲示板



次に、普段使用している掲示板とその使用頻度についての回答を図2-25に示します。「5チャンネル」について「かなり使う」「少し使う」と回答した方は12.2%で、「その他」は4.9%でした。

5. ウェブサイト

□かなり使う □少し使う □ほとんど使わない ■全く使わない ▨知らない □無回答

回答者 123名

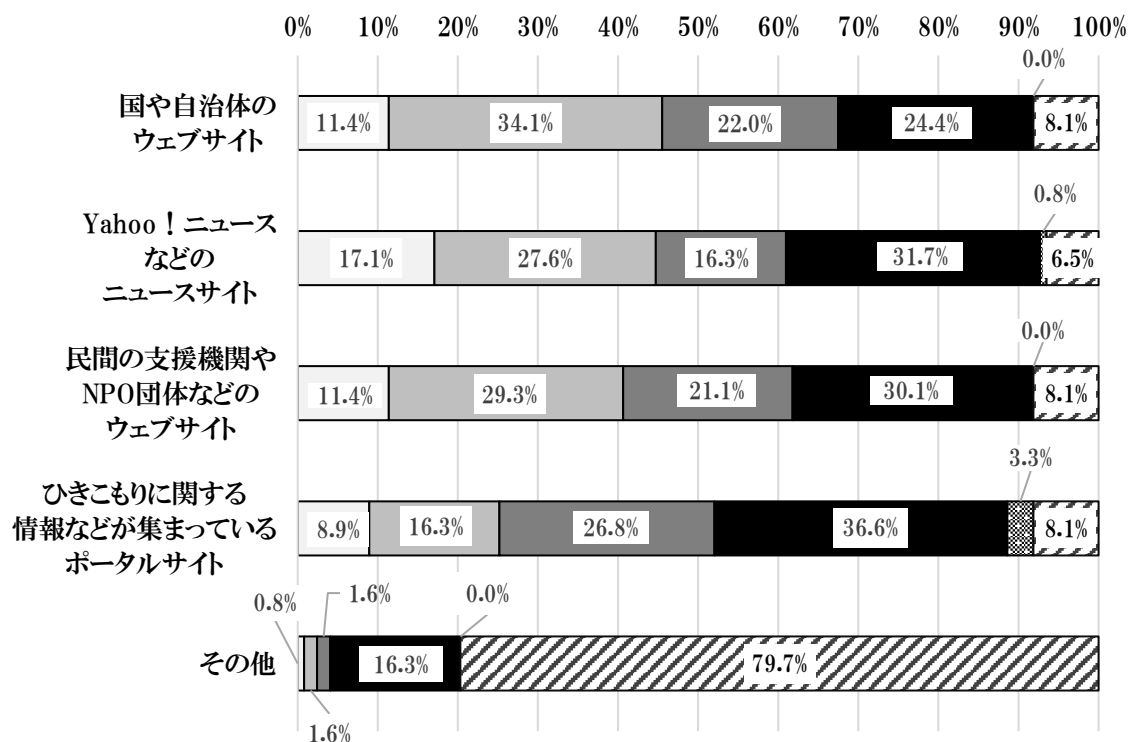
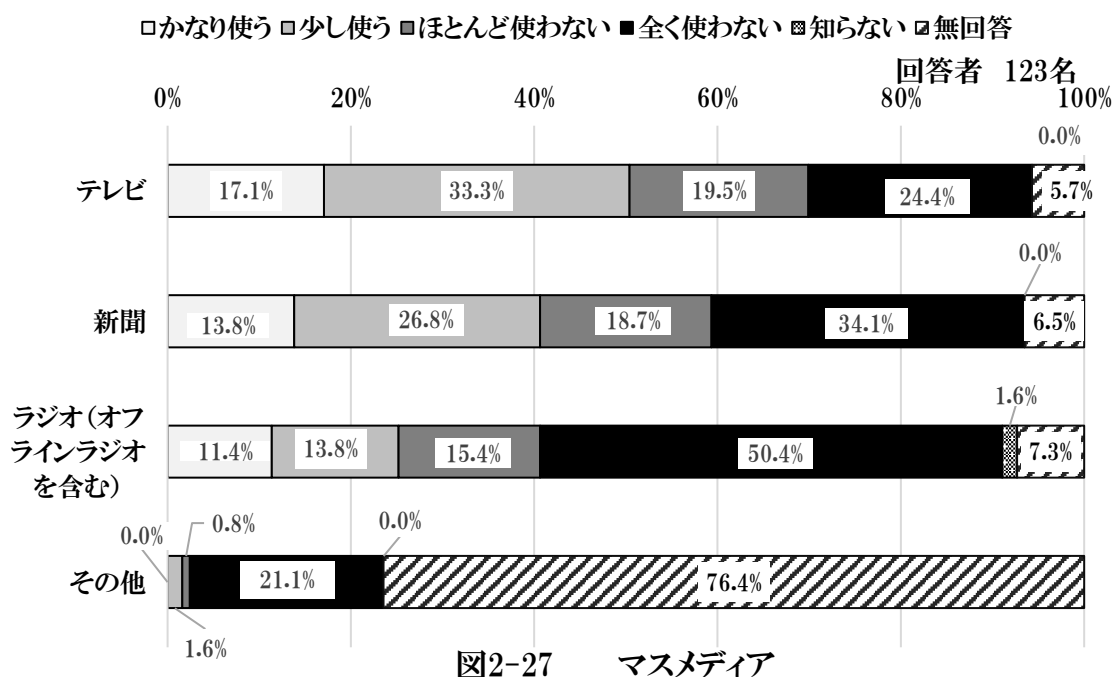


図2-26 ウェブサイト

普段使用しているウェブサイトとその使用頻度についての回答を図2-26に示します。「国や自治体のウェブサイト」について、「かなり使う」「少し使う」と回答した方が最も多く45.5%、次いで「Yahoo!ニュースなどのニュースサイト」が44.7%でした。また、「民間の支援機関やNPO団体などのウェブサイト」が40.7%、「ひきこもりに関する情報などが集まっているポータルサイト」が25.2%、「その他」が2.4%でした。

6. マスメディア



次に、普段使用しているマスメディアとその使用頻度についての回答を図2-27に示します。「かなり使う」「少し使う」と回答した方が多い順に、「テレビ」が50.4%、「新聞」が40.6%、「ラジオ」が25.2%、「その他」が1.6%でした。

7. オンラインとマスメディア以外

オンラインとマスメディア以外に使用している情報源と、その使用頻度についての回答を図2-28に示します。「本」について「かなり使う」「少し使う」と回答した方が最も多く50.4%、次いで「イベント（講演会やKHJ全国大会、当事者会など）」が37.4%、「自治体の広報」が35.0%、「相談支援窓口」32.5%、「雑誌」が30.9%「家族会の会報誌」が29.2%でした。また、「チラシ」が28.4%、「KHJ本部の情報誌（たびだち）」が23.6%、「利用者の口コミ」が21.9%、「回覧板」が10.6%、「その他」が0.8%でした。

回答者 123名

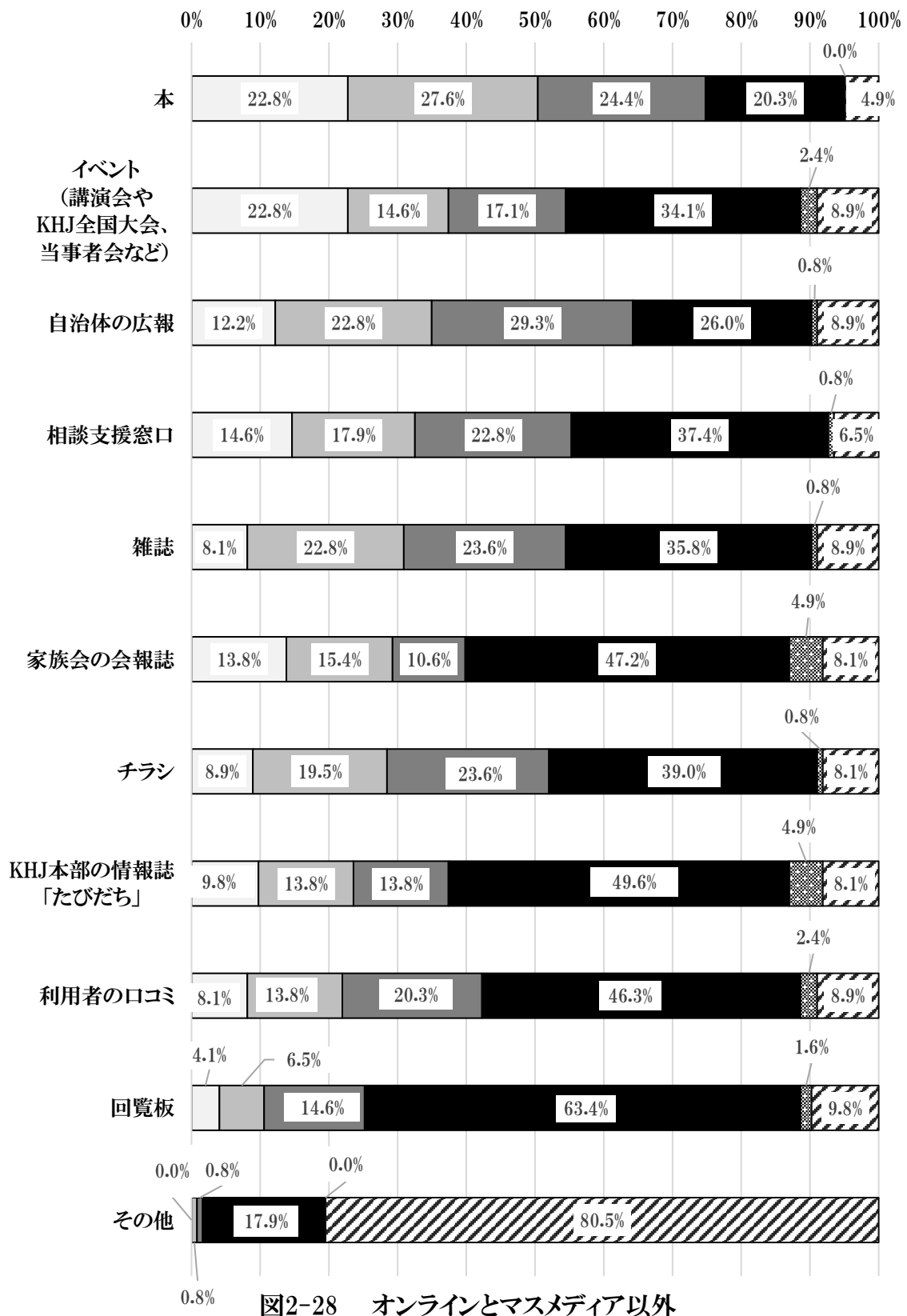


図2-28 オンラインとマスメディア以外

(7) ひきこもりに関する相談機関を検索する際に、どんな情報を知りたいか

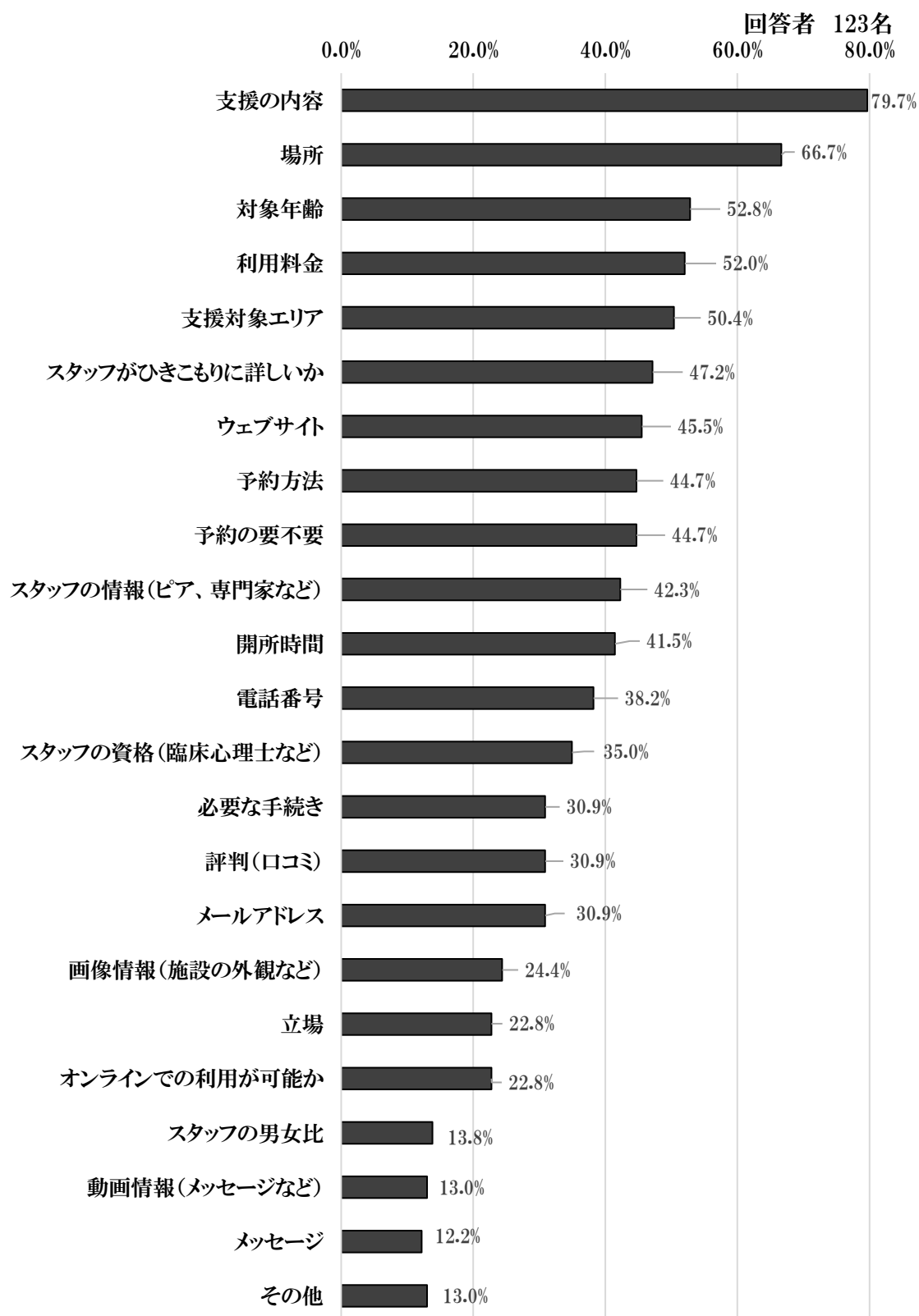


図2-29 ひきこもりに関する相談機関を検索する際に、どんな情報を知りたいか

次に、ひきこもりに関する相談機関を検索する際に、どんな情報を知りたいかについて図 2-29 に示します。「支援の内容」と回答した方が最も多く 79.7%、次いで「場所」が 66.7%、「対象年齢」が 52.8%、「利用料金」が 52.0%、「支援対象エリア」が 50.4%でした。また、約 3 割から 5 割の方が知りたいと回答したものは、順に「スタッフがひきこもりに詳しいか」が 47.2%、「ウェブサイト」が 45.5%、「予約方法」、「予約の要不要」が 44.7%、「スタッフの情報（ピア、専門家など）」が 42.3%、「開所時間」が 41.5%、「電話番号」が 38.2%、「スタッフの資格（臨床心理士など）」が 35.0%、「必要な手続き」、「評判（口コミ）」、「メールアドレス」が 30.9%でした。また、それ以下の割合としては、「画像情報（施設の外観など）」が 24.4%、「立場」、「オンラインでの利用が可能か」が 22.8%、「スタッフの男女比」が 13.8%、「動画情報（メッセージなど）」が 13.0%、「メッセージ」が 12.2%、「その他」が 13.0%でした。また、「その他」としては、「具体的な活動記録」、「支援の目的、ゴールをどこに置いているか」、「相談後の流れ」といった回答が得られました。

(8) オンライン支援の利用経験

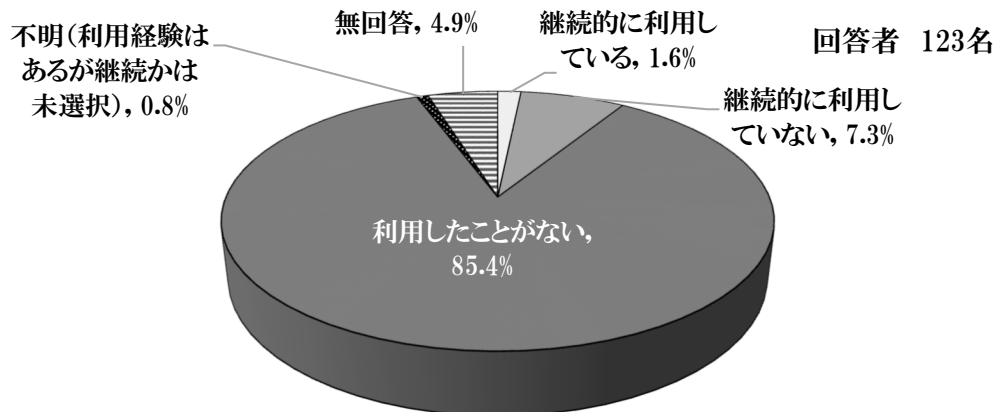


図2-30 オンライン支援を利用したことがあるか

図 2-30 にオンライン支援の利用経験についての回答を示します。「オンライン支援を利用したことがある」と回答した方が 8.9%で、そのうち「継続的に利用している」と回答した方が 1.6%、「継続的に利用していない」と回答した方が 7.3%、無回答が 4.9%でした。「オンライン支援を利用したことがない」と回答した方が 85.4%と、8 割を超える結果となりました。

(9) オンライン支援を受けるときに重要だと思うこと

1. リアルタイムかどうか？

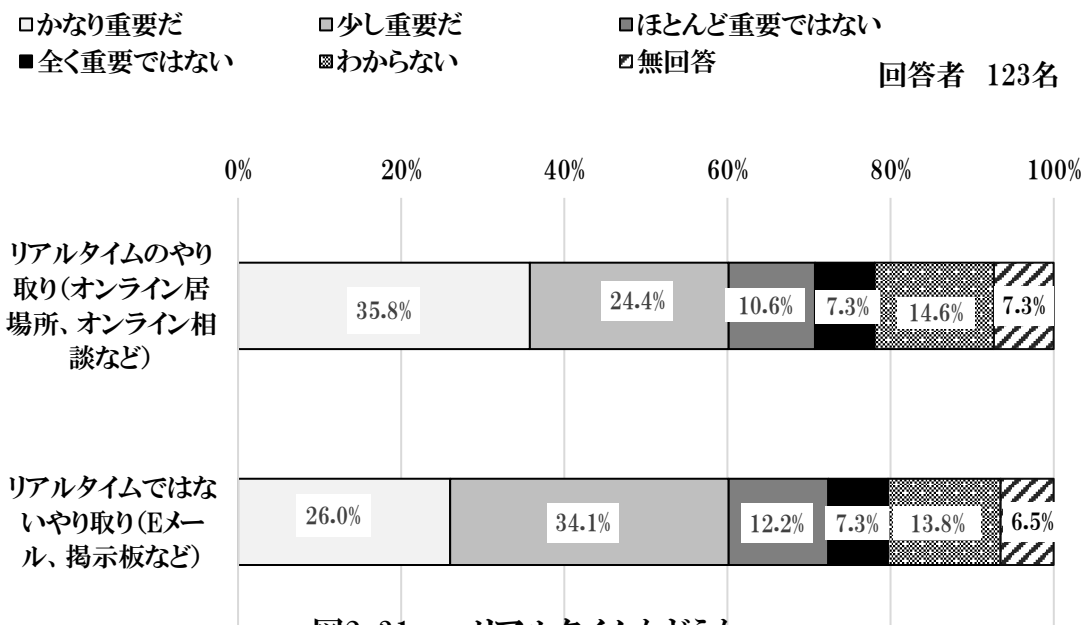


図2-31 リアルタイムかどうか

次に、オンライン支援を受けるときにリアルタイムであるかどうかについて、どれほど重要だと思っているのかを図 2-31 に示します。「リアルタイムのやり

取り（オンライン居場所、オンライン相談など）」、「リアルタイムではないやり取り（Eメール、掲示板など）」について、「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方はそれぞれ60.2%、60.1%と、どちらも6割を超える結果となりました。

2. 発信者は誰か

□かなり重要だ □少し重要だ □ほとんど重要ではない
 ■全く重要ではない ■わからない □無回答 回答者 123名



図2-32 発信者は誰か

次に、オンライン支援を受ける時の発信者について、その重要度を図2-32に示します。「当事者からの発信(体験談、当事者のインタビューなど)」について、「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方が最も多く67.5%、次いで「支援者・専門家からの発信(オンライン講演会、情報ウェブサイトなど)」が66.7%でした。「双方向からの発信(オンライン相談、チャット相談など)」について「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方も62.6%で、いずれも6割を超える方が上記の発信を重要だと考えていることがわかります。

3. やり取りする相手は誰か？

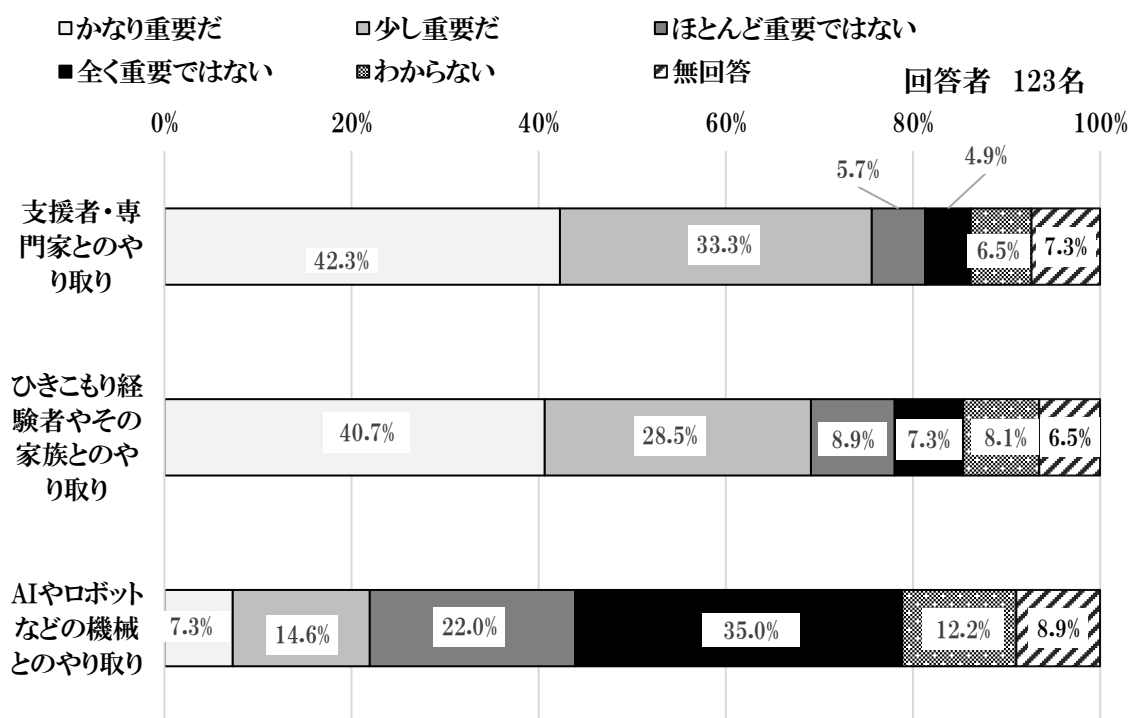


図2-33 やり取りする相手は誰か

やり取りする相手と、その重要度についての回答を図 2-33 に示します。「支援者・専門家とのやり取り」について、「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方が 75.6%、「ひきこもり経験者やその家族とのやり取り」が 69.2%でした。一方、「AI やロボットなどの機械とのやり取り」について、「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方は 21.9%でした。

4. 受け取る情報の種類は何か？

次に、受け取る情報の種類とその重要度について図 2-34 に示します。「文字情報（メールマガジン、イベント情報など）」について、「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方が最も多く 73.2%、「音声情報（ラジオ、Twitter のスペースなど）」が 53.6%、「画像情報（漫画、写真など）」が 51.2%、「動画情報（アニメ、ビデオなど）」が 41.4%でした。

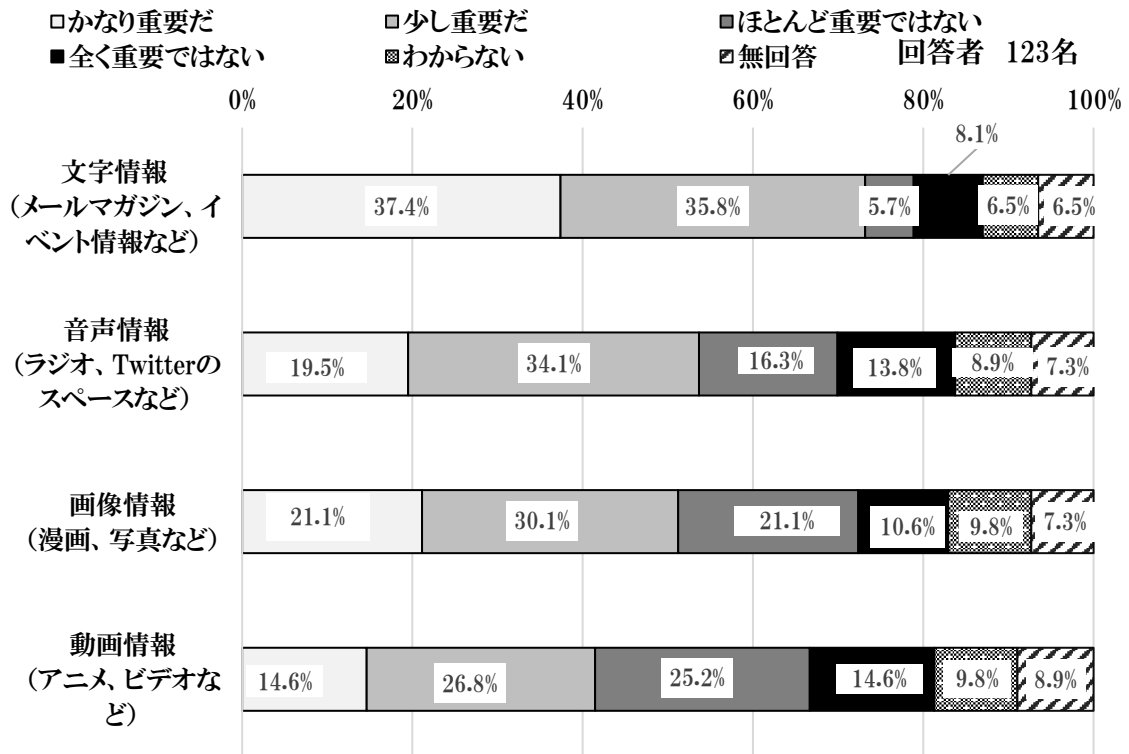


図2-34 受け取る情報の種類は

5. やり取りの時の匿名性は？

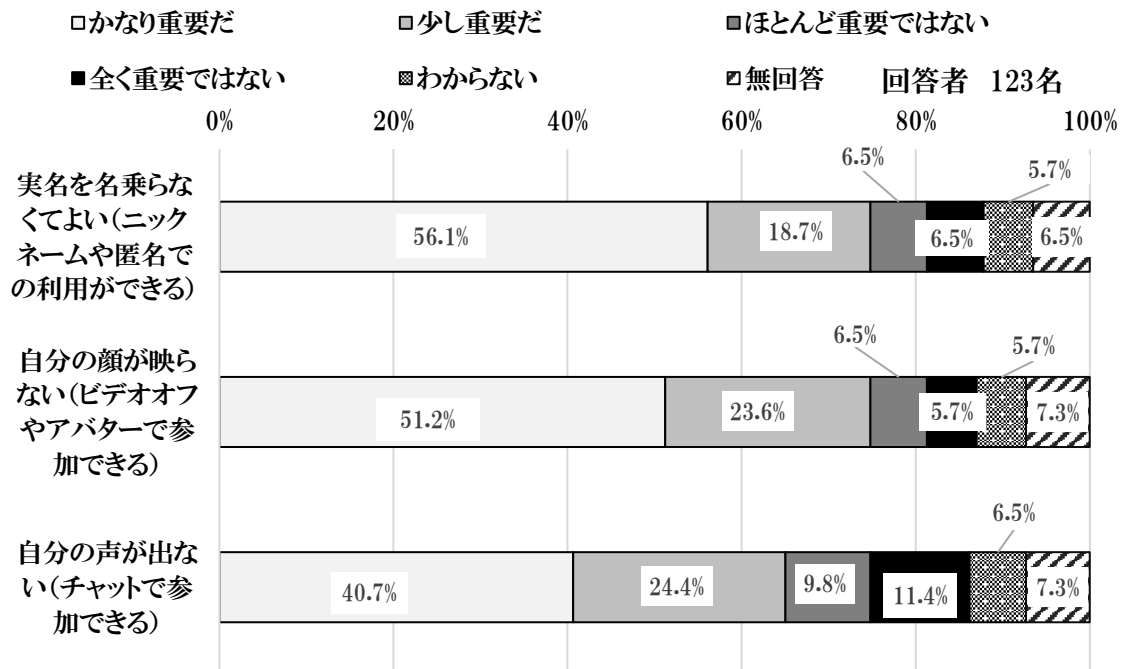


図2-35 やり取りの時の匿名性

やり取り時の匿名性について、その重要度を図 2-35 に示します。「実名を名乗らなくてよい（ニックネームや匿名での利用ができる）」、「自分の顔が映らない（ビデオオフやアバターで参加できる）」について、「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方の割合はどちらも 74.8%で、「自分の声が出ない（チャットで参加できる）」が 65.1%でした。

6. 利用時間は？

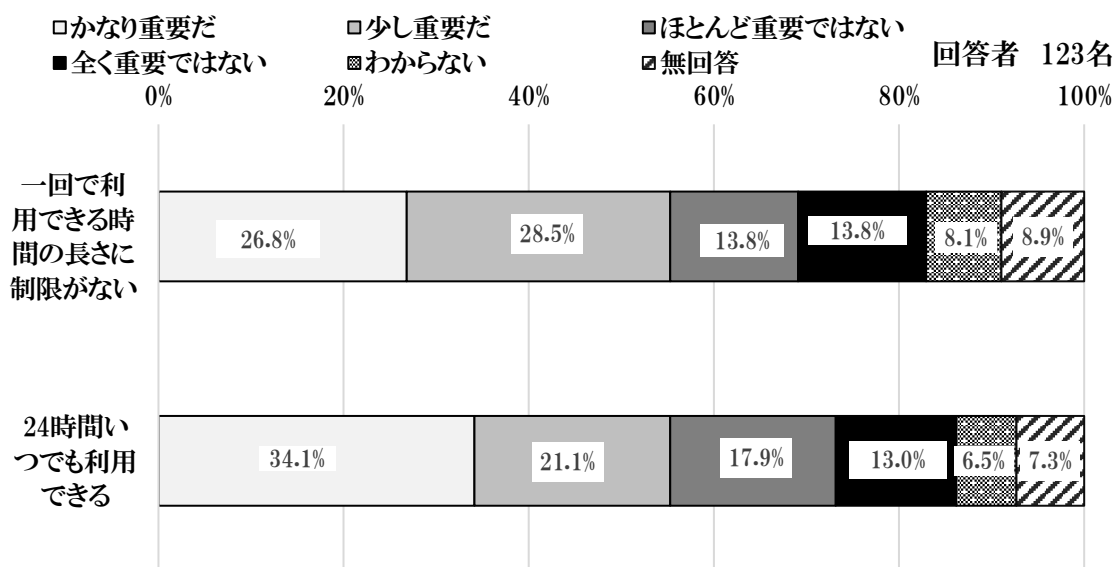


図2-36 利用時間

次に、利用時間についてどの程度重要と考えているかについての回答を図 2-36 に示します。「一回で利用できる時間の長さに制限がない」、「24 時間いつでも利用できる」について、「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方は 55.3%、55.2%と、同程度の割合となりました。

7. オンライン支援を何のために使いたいのか？

図 2-37 にオンライン支援を何のために使いたいのかについての回答を示します。「居場所に参加する」について「かなり重要だ」「少し重要だ」と回答した方が最も多く 75.6%、「就労（支援を受ける、収入を得る、情報を受け取るなど）」が 70.8%、「福祉情報の収集・相談」が 69.1%、「医療情報の収集・相談」が 66.7%でした。また、「講演を聞く」、「就学（支援を受ける、資格を取る、情報を受け取るなど）」がどちらも 61.8%、「自己表現（文章、イラスト、動画などを発信する）」が 52.9%でした。

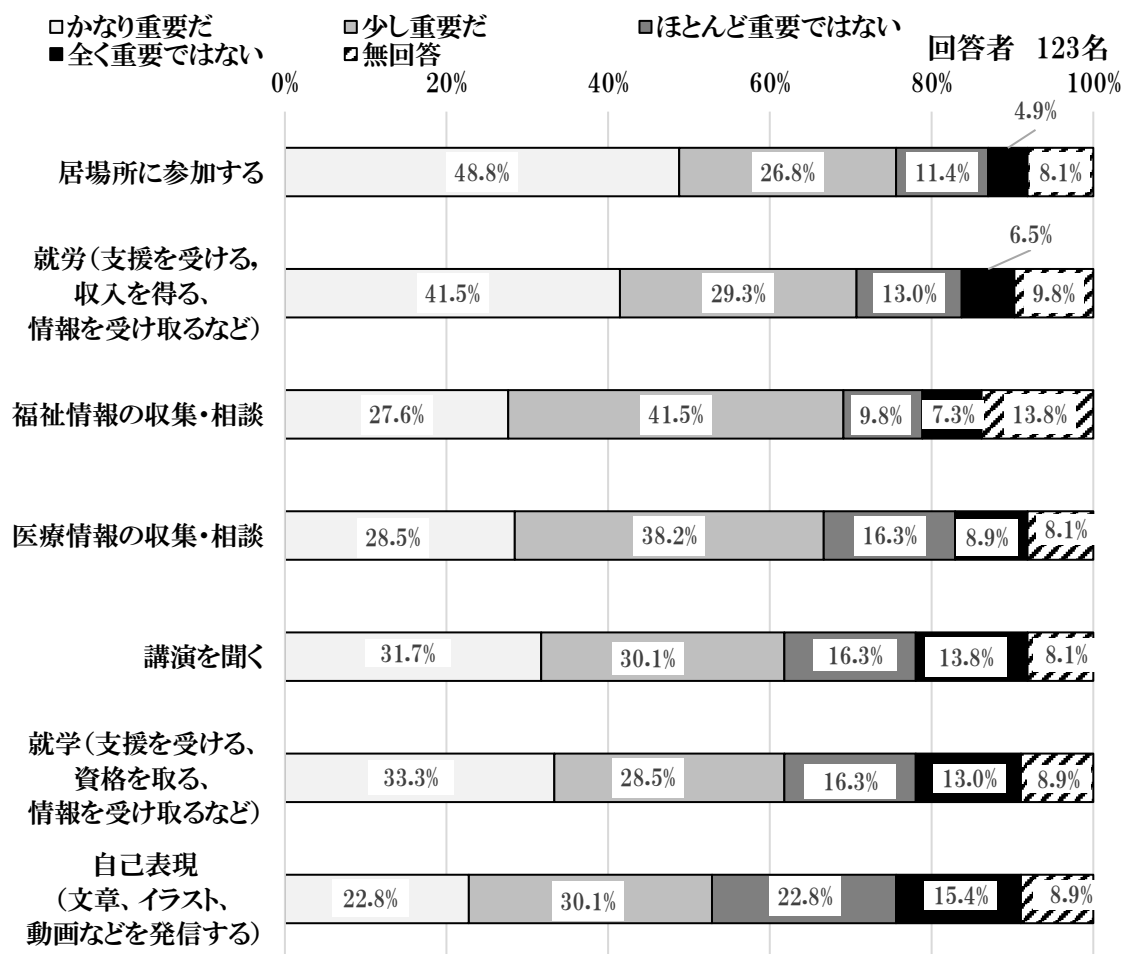


図2-37 オンライン支援を何のために使いたい

8. 料金の有無は？

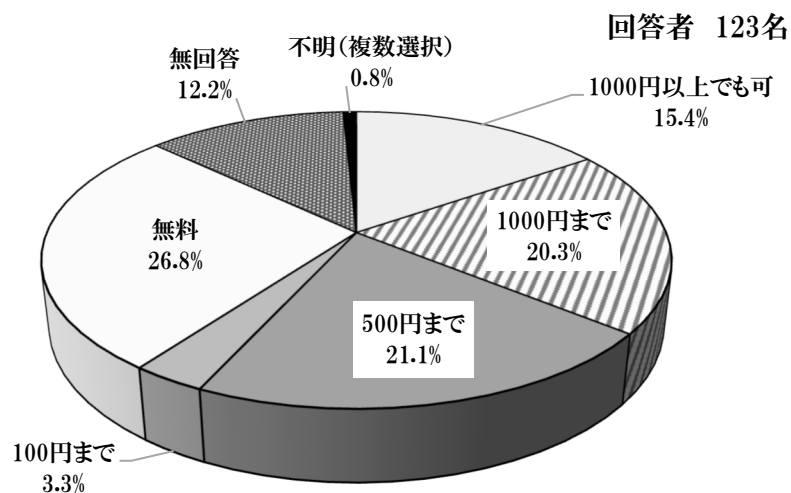


図2-38 利用料金が月平均でいくらまでならオンライン支援を利用したいか

利用料金が月平均でいくらまでなら、オンライン支援を利用してみたいかについての回答を図 2-38 に示します。「無料」と回答した方が最も多く 26.8%、次いで「500 円まで」が 21.1%、「1000 円まで」が 20.3%でした。また、「1000 円以上も可」と回答した方が 15.4%、複数を選択した方が 0.8%、無回答が 12.2%でした。

(10) 就労経験と就労意欲

1. ご本人の就労経験

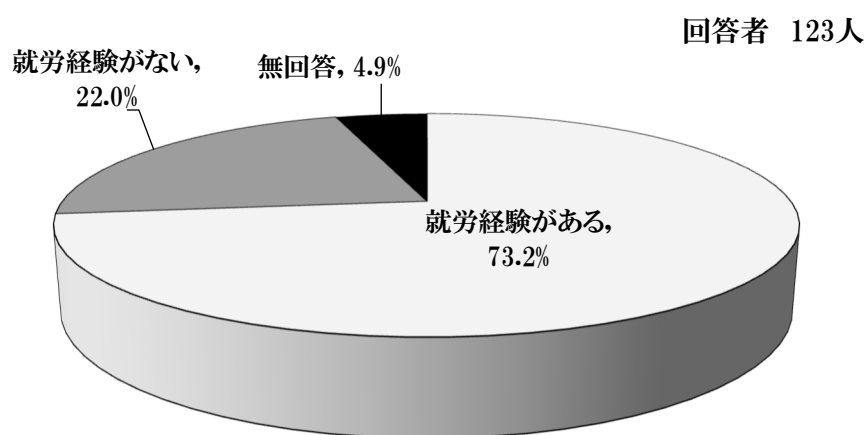


図2-39 就労経験の有無

ご本人の就労経験の有無について、図 2-39 に示します。「就労経験がある」と回答した方が 73.2%と 7 割を超え、「就労経験がない」と回答した方は 22.0%、無回答は 4.9%でした。

2. 就労意欲の有無

現在、ご本人が働きたいと思っているかどうかについて、図 2-40 に示します。「働きたいと思っている」と回答した方が 74.8%、「働きたいと思っていない」と回答した方が 17.1%でした。また、無回答が 7.3%、「その他（条件による）」と回答した方が 0.8%でした。7 割以上の方に就労に対する意欲があることがわかります。

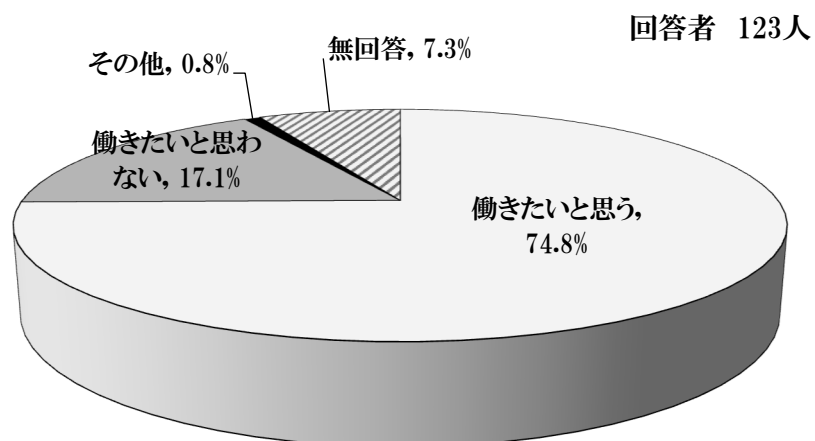


図2-40 現在、働きたいという思いがあるか

3. オンライン就労への意欲の有無

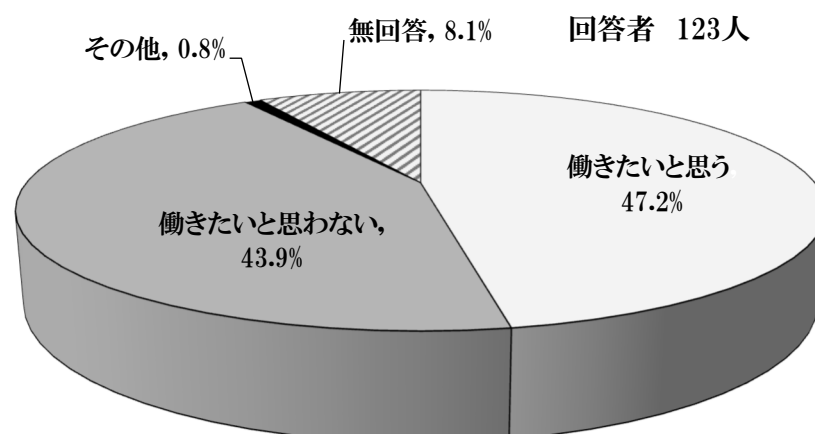


図2-41 オンラインやテレワークで働きたいという思いがあるか

次に、ご本人がオンラインやテレワークで働きたいという思いがあるかについて、図2-41に示します。「働きたいと思っている」と回答した方が47.2%、「働きたいと思っていない」と回答した方が43.9%、「その他（条件による）」と回答した方が0.8%、無回答が8.1%でした。こちらも「働きたいと思っている」と回答した方の数が、「働きたいと思っていない」と回答した方の数を上回る結果となりました。

第三部 全体のまとめ

1. ひきこもり本人の年齢の推移

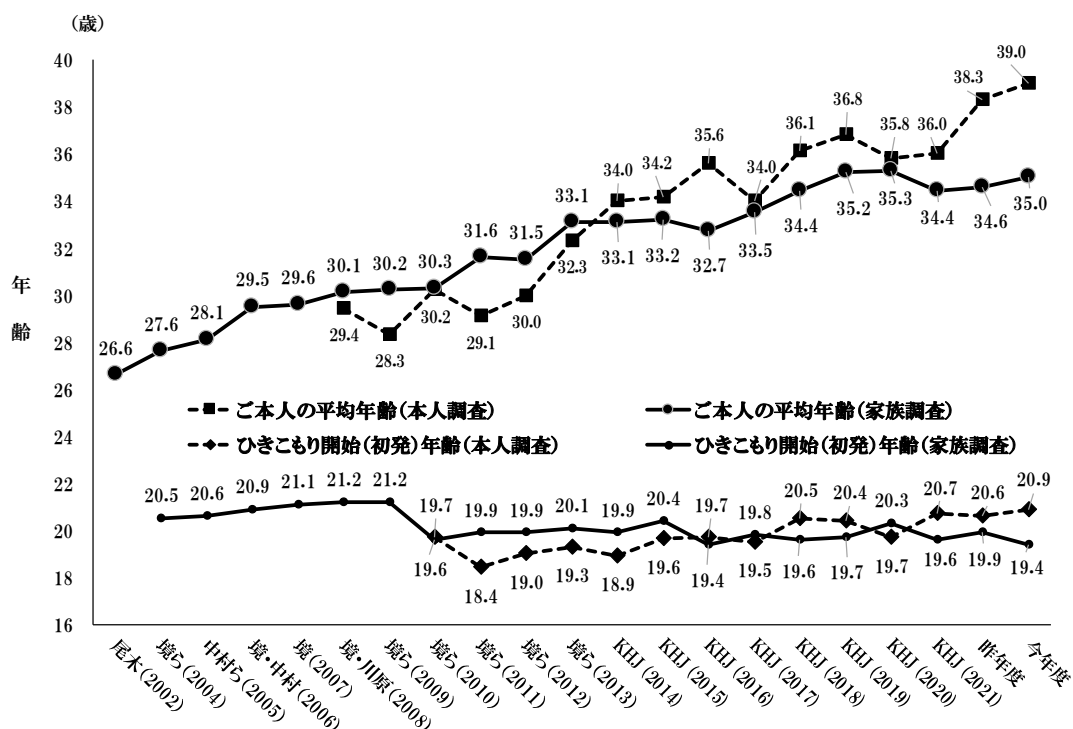


図3-1 ご本人の平均年齢の推移

当会の調査を開始した2002年以降のご本人の年齢の推移を図3-1に示しました（中村ら，2005；尾木，2002；境ら，2004；2005；2007；2008；2009；2010；2011；2012；2013；特定非営利活動法人全国引きこもりKHJ親の会，2014；2015；特定非営利活動法人KHJ全国引きこもり家族会連合会，2016；2017；2018；2019；2020；2021；2022）。図中の実線の折れ線は家族調査の結果を示し、点線の折れ線は本人調査の結果を示しています。

家族調査の結果をみると、ご本人の平均年齢は本年度35.0歳となり、昨年度（34.6歳）からやや上昇しました。その一方で、2018年度以降、ご本人の平均年齢はほとんど上昇しておらず、どのような経緯かは不明なものの、近年は当会に参加する家族の入れ替わりが生じていることが伺われます。その一方で、本人調査の結果の推移をみると、本年度は39.0歳であり、過去最高年齢であった昨年度の平均年齢38.3歳をさらに超えたことがわかります。

調査開始時期からの全体的な傾向としては、高年齢化の傾向が示されており、いわゆる「8050問題」という言葉に代表されるように、若年層へのサポートに加えて高年齢層の方のニーズにも合わせたサポートを充実させることが重要であると考えられます。

また、ひきこもりの開始（初発）の平均年齢については、本人調査の結果では20.9歳と近年では最高年齢でしたが、家族調査の結果では昨年度の19.9歳よりも低く、ここ数年でもっとも低い19.4歳でした。平均年齢の推移とは異なり、開始（初発）年齢は調査開始時から一貫して20歳前後を推移している傾向が示されています。これは、高年齢化が注目を集めている現状であっても、中学生、高校生から20代までのひきこもり好発期における予防的対応の重要性は変わらないことを示していると考えられます。

2. ご家族の年齢の推移

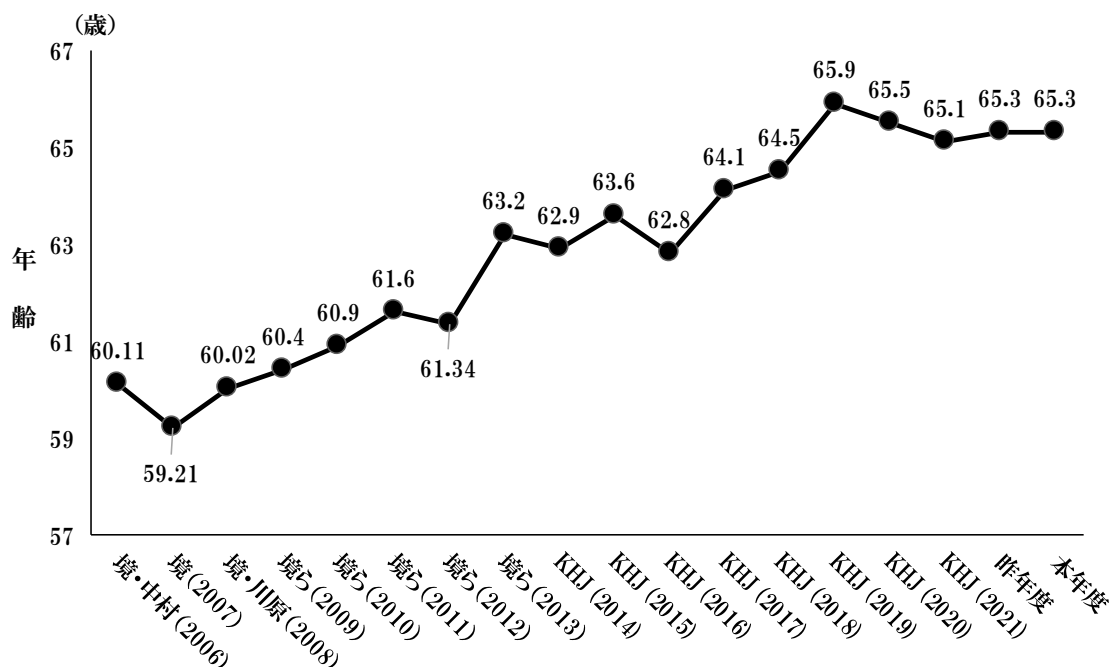


図3-2 ご家族の平均年齢の推移

2006年以降の当会の調査における、ご家族の平均年齢の推移を図3-2に示しました。ご家族の平均年齢は、2018年度に初めて65歳を超えて以降、上昇せずに今年度も約65歳という結果でした。本年度の結果からも、65歳を超えるご家族が多く、すでに定年を迎えている場合も少なくないことが分かります。そのため、現在、さらには将来的に経済的にも困窮する家庭も増加するかもしれません。世帯年収等を尋ねた過去の当会の調査等でも、当会会員家庭の多くの世帯年収は高くないことが示されています。さらには、ご家族の高年齢化に

よって定例会に足を運ぶことが難しくなる等、家族会に直接的に参加することも難しくなったり、介護が必要な家族が増加したりする等が推測されます。これらを踏まえれば、このような家庭に対して生活そのものを成り立たせるための福祉的対策が急務であるでしょう。

3. ひきこもり期間の推移

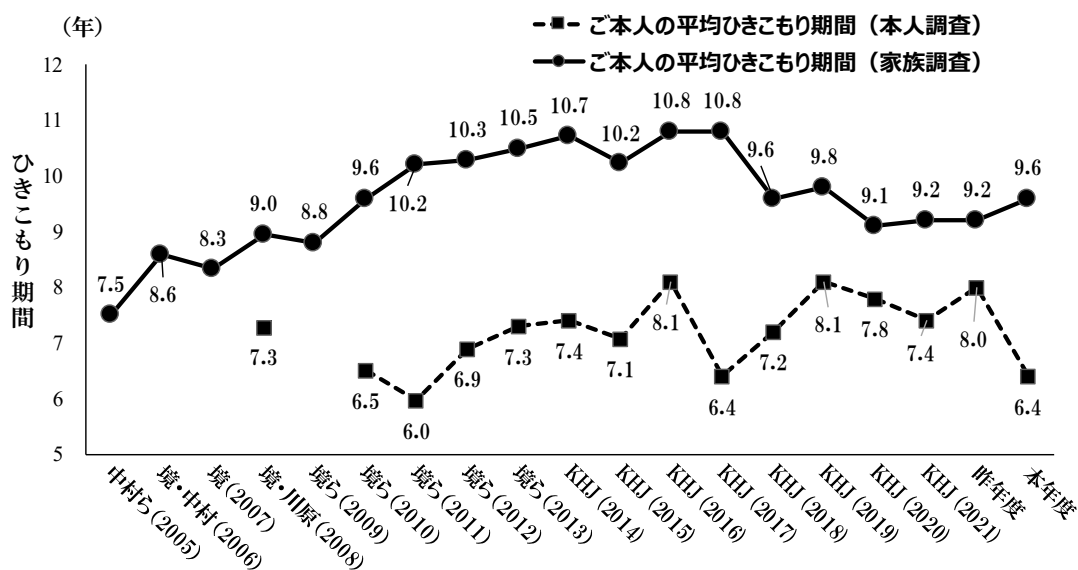


図3-3 平均ひきこもり期間の推移

2005年以降のひきこもり期間の推移を図3-3に示しました。図中の実線の折れ線は家族調査の結果を示し、点線の折れ線は本人調査の結果を示しています。家族調査におけるひきこもり期間は、昨年度の平均9.2年からやや長期化し、平均9.6年という結果でした。その一方で、本人調査においては、昨年度の平均8.0年から平均6.4年と短期化した結果でした。この本人調査の結果を踏まえれば、昨年度から本人調査の参加者が入れ替わっていると考えられます。また、調査開始時期から一貫して、本人調査よりも家族調査の方がひきこもり期間が長い傾向にあります。この傾向は、本人調査よりも家族調査の方が長期化した深刻な場合が多いことを示唆しています。特に家族調査においては10年近くひきこもっている場合も多く、家族会参加者は長期化したケースが中心であるといえます。

4. 40歳を超える高年齢化事例の特徴

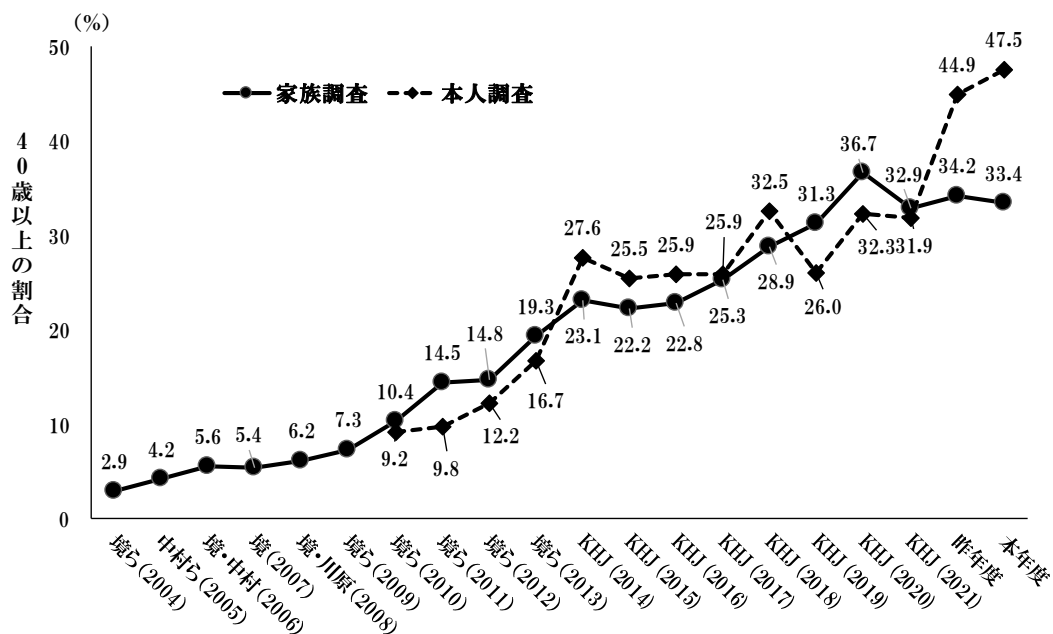


図3-4 40歳以上の割合の推移

本調査では、高年齢化した40歳を超える割合の推移を検討しました。40歳以上の割合、および50歳以上の割合の推移を図3-4、図3-5に示しました。本人調査では、40歳以上の割合が昨年度に続いて過去最多を更新し、47.5%にもなりました。昨年度は10%以上も上昇しましたので、2年間で15%近く上昇したことになります。その一方で、家族調査では、40歳以上の割合が昨年度の34.2%からやや低下し、今年度は33.4%でした。調査開始時から40歳以上の割合をみると、本人調査、家族調査ともに一貫して右肩上がりの傾向であることが伺われます。

また、本人調査における50歳以上の割合も、大きく上昇した昨年度の14.2%からほとんど変わらず、今年度は13.9%という結果でした。家族調査においても、昨年度の4.6%から上昇して今年度は6.6%であり、過去最高割合を更新しました。2011年頃から本人調査において50歳以上の方の増加がみられるようになって以降、本人調査も家族調査も全体的には上昇傾向がみられるようになっていますが、特に本人調査においてはこの傾向が顕著にみられています。

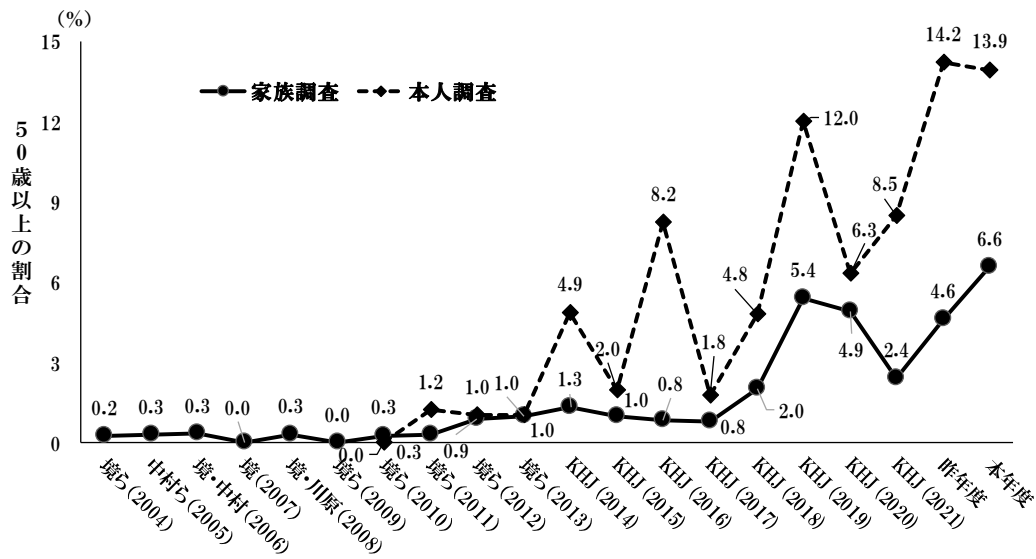


図3-5 50歳以上の割合の推移

5. 支援の必要性について

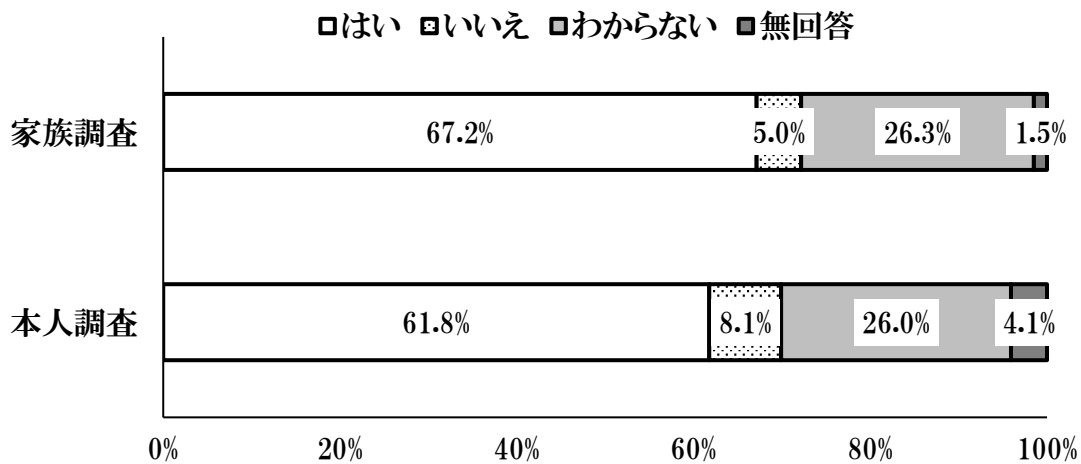


図3-6 支援の必要性

支援の必要性について、本人調査においては「これから生活していくうえで、何らかの支援を望んでいますか?」、家族調査においては「ご本人にとって支援は必要ですか?」とお尋ねした結果を図3-6に示しました。

本人調査においては61.8%、家族調査においては67.2%が「はい」（支援を望んでいる/支援が必要）という結果でした。昨年度は「はい」と回答した方が、本人調査においては64.6%、家族調査においては81.1%でしたので、家族調査において「はい」と回答した方の割合が大きく減少したことがわかります。その一

方で、家族調査で「いいえ」と回答した方の割合も昨年度の 7.8%からやや減少して今年度は 5.0%であり、大きく増加したのは「わからない」（昨年度 11.2%、今年度 26.3%）でした。この「わからない」の割合は本人調査においては昨年度からほとんど変化しておらず、家族調査の結果と本人調査の結果の差異が小さくなったといえます。また、全体的な傾向としては、いずれも大部分の方が支援を必要としていると認識していることがわかりました。

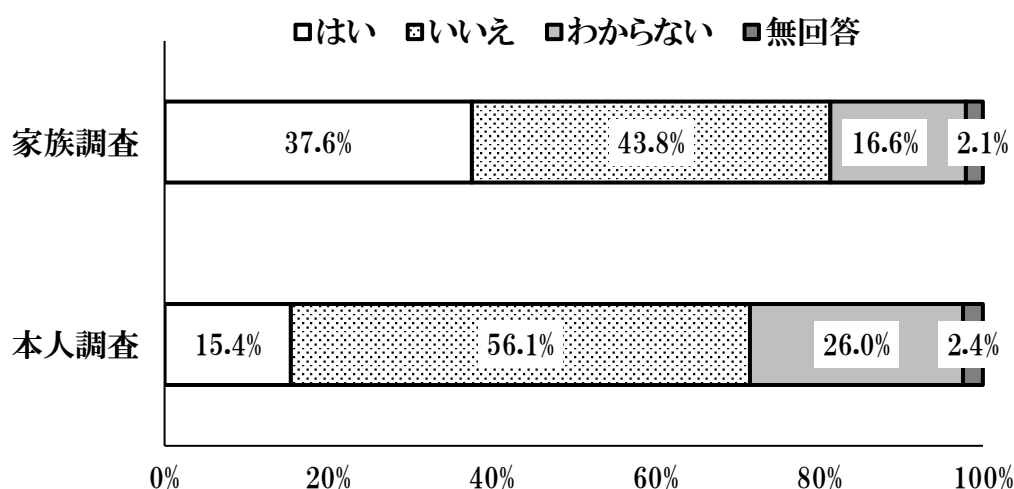


図3-7 医療が必要でも受診が難しい状況

ご本人に医療が必要でも受診が難しいという状況について、本人調査においては「あなたが医療を必要としても、受診が難しい状況にありますか？」、家族調査においては「ご本人が医療を必要としても、受診が難しい状況にありますか？」とお尋ねした結果を図 3-7 に示しました。「はい」と回答した割合は、本人調査において 15.4%、家族調査において 37.6%、「いいえ」と回答した割合は、本人調査において 56.1%、家族調査において 43.8%でした。したがって、ご本人よりもご家族の方が、ご本人の医療受診が難しいと認識していることがわかります。その一方で、本人調査の 26.0%は「わからない」と回答しており、一定の方が現在は医療を必要としないため必要としたときの状況がわからないと考えている可能性もあります。

また、訪問医療サービス充実の必要性について、本人調査においては「あなたにとって訪問型の医療サービスの充実が必要ですか。」、家族調査においては「ご本人にとって訪問型の医療サービスの充実が必要ですか。」とお尋ねした結果を

図 3-8 に示しました。

家族調査においては、昨年度（42.9%）に続いて「わからない」がもっとも多く、38.2%を占めました。これはご家族にご本人の意向を尋ねているためであると思われます。また、「必要」という方よりも「不要」という方の方が多いという結果でした。また、本人調査においては昨年度に続いて「いいえ」がもっとも多く（45.5%）、続いて「わからない」が39.0%でした。「はい」は13%に過ぎず、昨年度の16%と同様に少ない傾向にありました。したがって、訪問型医療サービスの充実を求める方は家族でも本人でも一定の割合で見られましたが、一部の方に限定されているようでした。

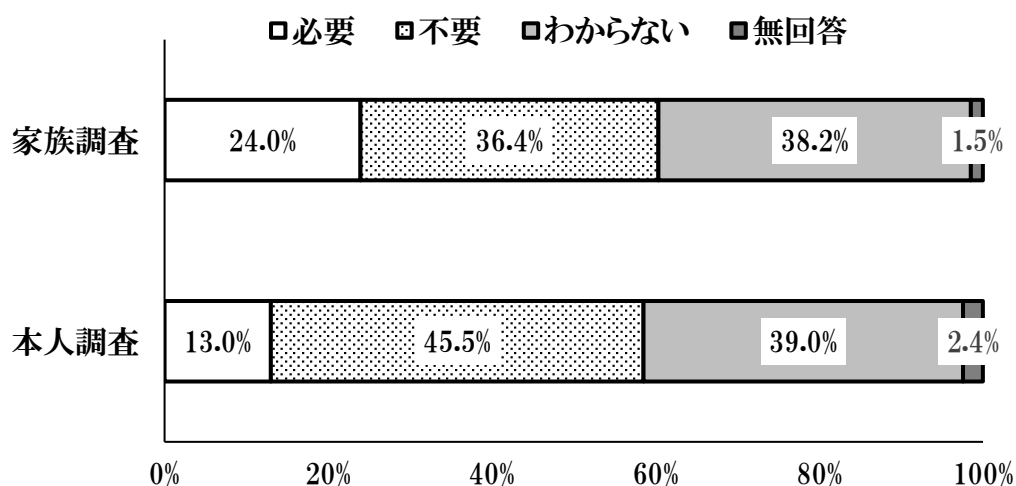


図3-8 訪問型医療サービス充実の必要性

6. 情報通信方法について

普段ウェブサイトの閲覧などに使用されるデバイス（情報電子機器）についてお尋ねした結果を図 3-9 に示しました。図は、「全く使わない」、「ほとんど使わない」、「少し使う」、「かなり使う」のうち、「少し使う」または「かなり使う」と回答した方の割合を示しています。ご本人、ご家族ともに、使用頻度が多い順から、スマホ、パソコン、iPad やタブレット（Android）、その他でした。スマホの使用頻度についてはご本人とご家族でほとんど違いはありませんでしたが、パソコンとタブレットについては、ご家族よりもご本人の方の使用頻度が多い傾向にありました。

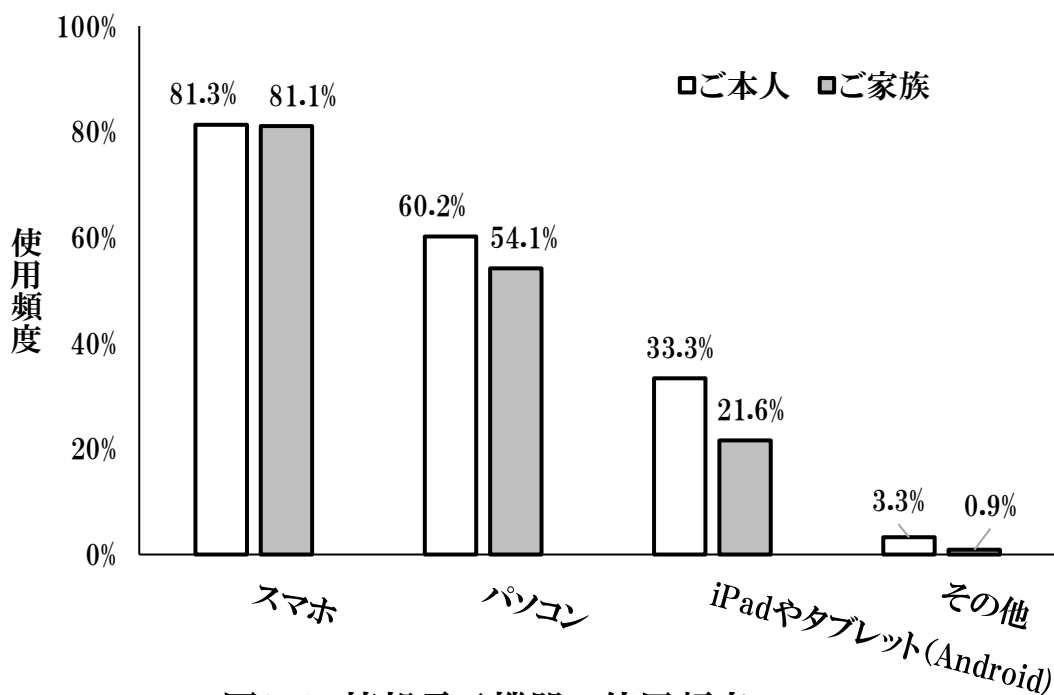


図3-9 情報電子機器の使用頻度
(かなり使う/少し使うの割合)

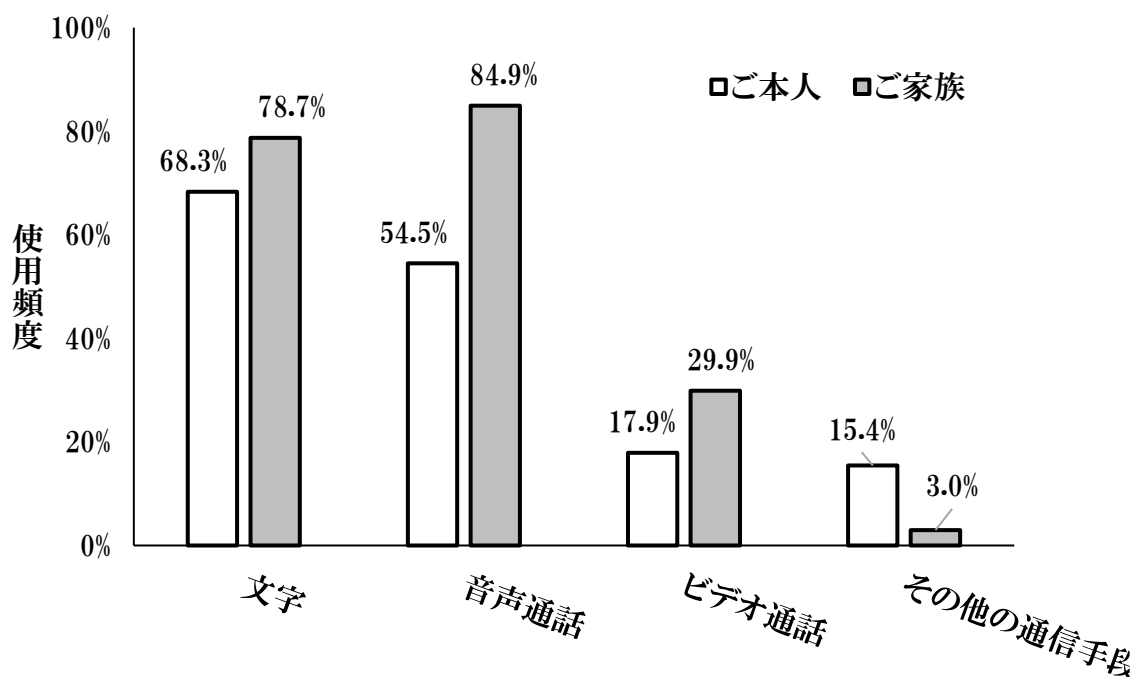


図3-10 通信手段の使用頻度
(かなり使う/少し使うの割合)

普段使用している通信手段についてお尋ねした結果を図 3-10 に示しました。図は、「全く使わない」、「ほとんど使わない」、「少し使う」、「かなり使う」のうち、「少し使う」または「かなり使う」と回答した方の割合を示しています。本人調査においては、使用頻度が高い順に、「文字」、「音声通話」、「ビデオ通話」、「その他の通信手段」であり、家族調査においては、使用頻度が高い順に、「音声通話」、「文字」、「ビデオ通話」、「その他の通信手段」でした。「その他の通信手段」を除き、ご本人よりもご家族の方が各通信手段について使用頻度が高い傾向にありました。

7. (1) 就労意欲

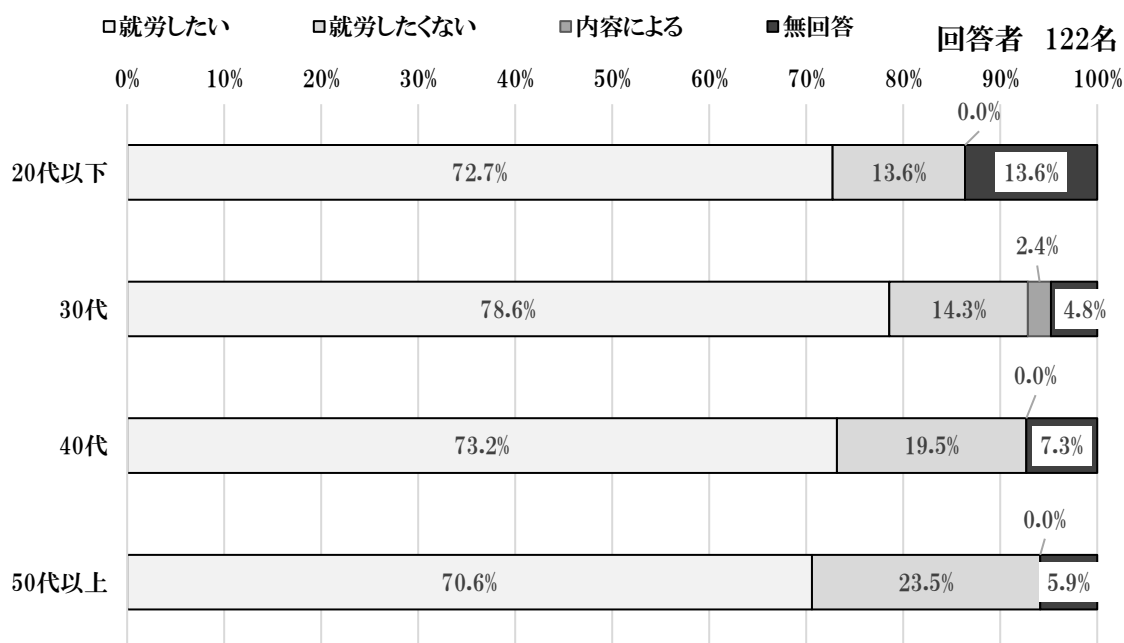


図3-11 就労意欲(本人調査)

就労意欲について、本人調査においては、「あなたは現在、働きたいという思いがありますか?」、家族調査においては、「ご本人は、現在働きたいという思いがありますか?」とお尋ねした結果を図 3-11、図 3-12 に示します。

本人調査において、「就労したい」と回答した方の割合はどの年代でも7割を超える結果となり、「就労したくない」と回答した方の割合は年齢が上がるにつれて上昇する傾向にありました。

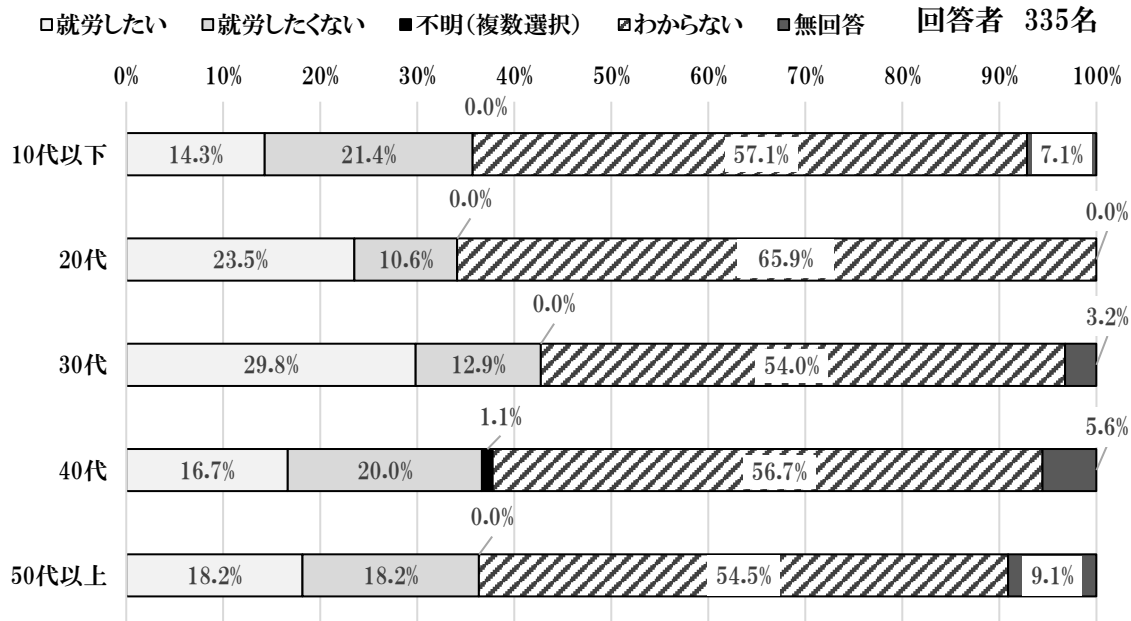


図3-12 就労意欲(家族調査)

家族調査において、「現在、本人が就労したいと思っている」と回答した割合が最も高かったのはご本人が 30 代のご家族で、「現在、本人は就労したいと思っていない」と回答した割合が高かったのは、ご本人が 10 代以下のご家族でした。どの年代のご家族も「わからない」と回答した方が半数以上を占め、特にご本人が 20 代のご家族は 65.9%と高い割合を示しました。

(2) オンライン就労への意欲

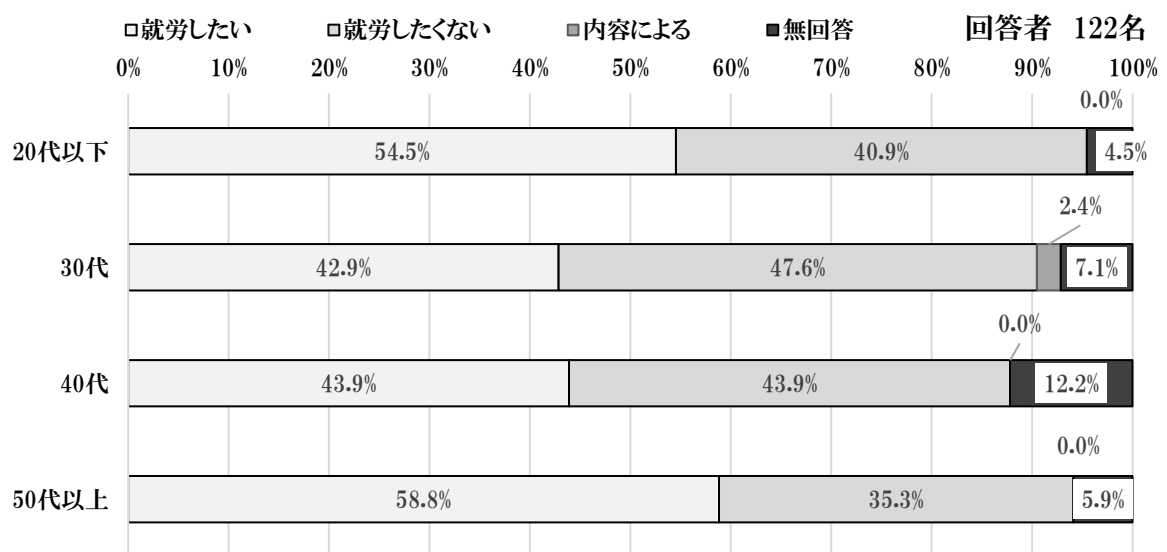


図3-13 オンライン就労への意欲(本人調査)

オンライン就労への意欲について、本人調査においては、「あなたは、オンラインやテレワークで働きたいという思いがありますか?」、家族調査においては、「ご本人は、オンラインやテレワークで働きたいという思いがありますか?」とお尋ねした結果を図 3-13、図 3-14 に示します。

本人調査においては、20 代以下、50 代以上のご本人の半数以上が「就労したい」と回答し、特に 50 代以下のご本人は「就労したくない」と回答した方の割合が最も低い結果となりました。

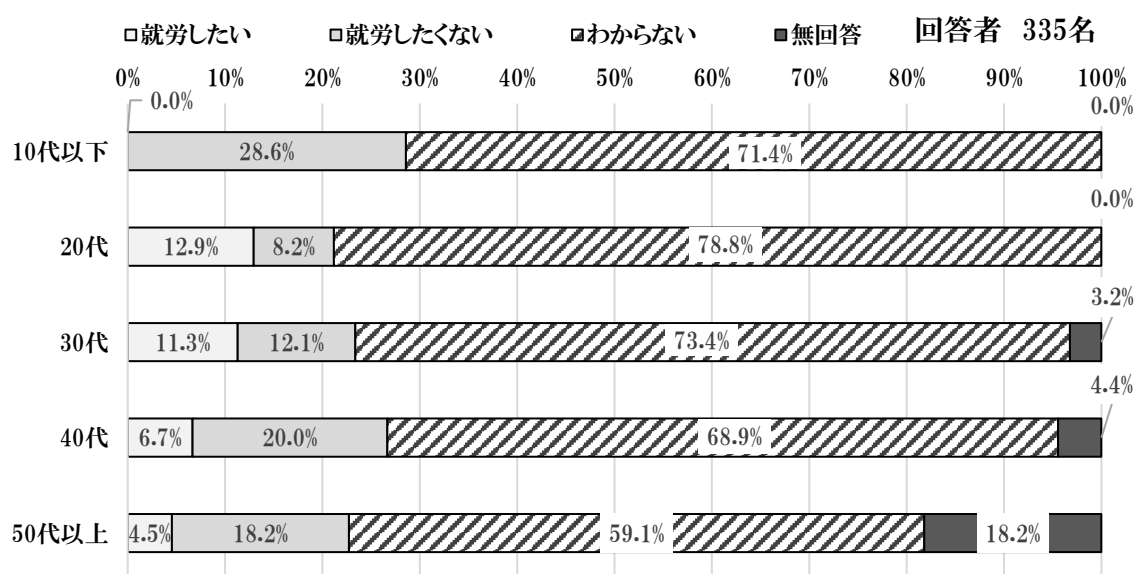


図3-14 オンライン就労への意欲(家族調査)

家族調査においては、ご本人が 20 代のご家族が「本人がオンライン就労をしたいと思っている」と回答した割合が最も高くなった一方、他の年代では「本人がオンライン就労をしたいと思っていない」と回答した方が、「本人がオンライン就労をしたいと思っている」と回答した方の数を上回る結果となりました。また、こちらも「わからない」と回答した方の割合がどの年代も高い傾向にありました。

8. ひきこもりに関する情報を検索する際のキーワード

ひきこもりに関する情報を検索する際のキーワードを自由記述でお尋ねした結果を表 3-1、表 3-2 に示しました。表には 2 回以上キーワードとしてあげられたものが含まれています。ただし、特定の個人名が含まれた場合、表から除外しています。

表 3-1 検索キーワード（本人調査）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
ひきこもり	58	UX	2
支援	11	ニート	2
引きこもり	8	楽	2
検索	8	記事	2
居場所	7	具体	2
当事者	6	原因	2
自殺	4	自分	2
ラジオ	3	就労	2
仕事	3	生活	2
		相談	2
		団体	2
		地域	2
		登校	2
		乃	2
		発達障害	2

表 3-2 検索キーワード（家族調査）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
ひきこもり	169	OSD	2
支援	43	いろいろ	2
発達障害	18	キーワード	2
居場所	11	サイト	2

KHJ	10	ニュース	2
家族会	9	パソコン	2
検索	9	ポータル	2
相談	9	医療	2
親	8	茨城	2
引きこもり	7	気	2
登校	7	兄弟	2
就労	5	見る	2
情報	5	原因	2
団体	5	講演	2
家族	4	仕事	2
会	4	子供	2
機関	4	自閉症	2
自立	4	人	2
ニート	3	生きる	2
社会	3	対策	2
障害	3	地域	2
		特に	2
		問題	2

さらに、本人調査におけるそれぞれのキーワード同士の関連性を図 3-15、図 3-16、図 3-17 に示しました。この図は、円が大きいほどキーワードとしてあげられた頻度が多いことを示しており、円同士を結ぶ線が濃いほど関係性が強いことを示しています。これらの図では、複数の方から抽出されたワードが含まれています。キーワードとしてもっとも多くあげられていた「引きこもり」とは、「支援」や「当事者」、「引きこもり」、「居場所」などのキーワードが関連していました。これらのキーワードは同時に検索に使われている可能性があります。

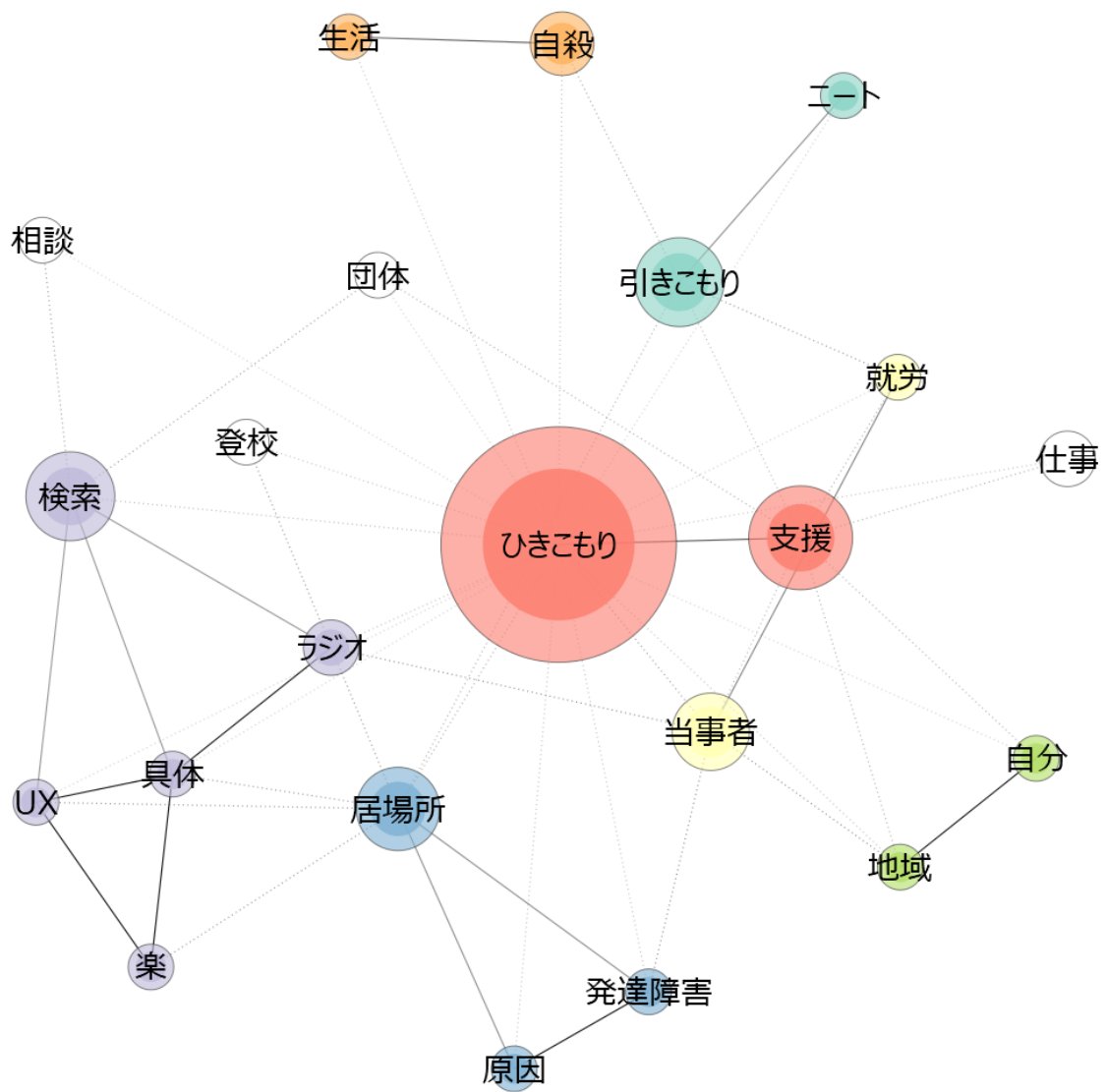
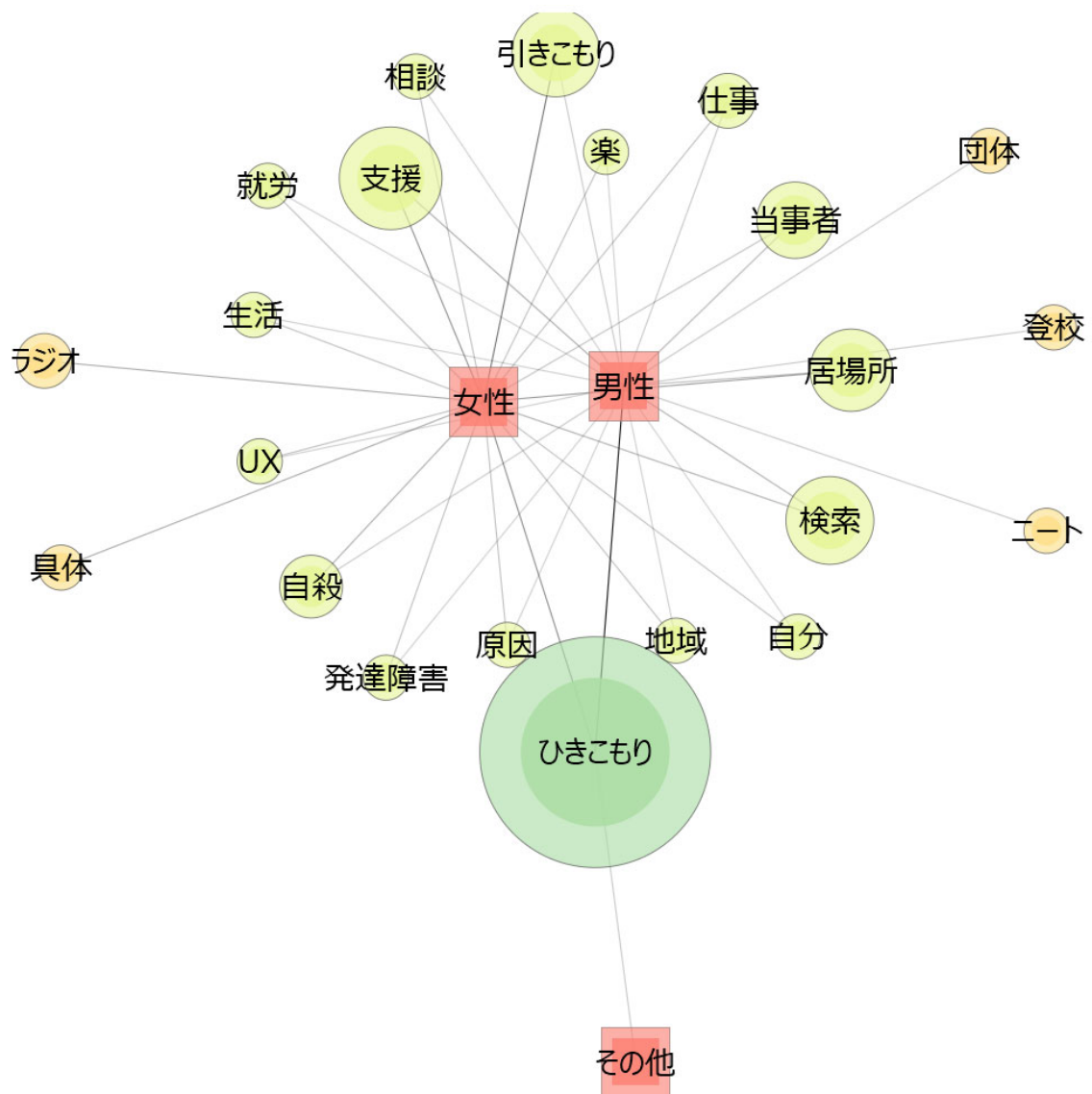
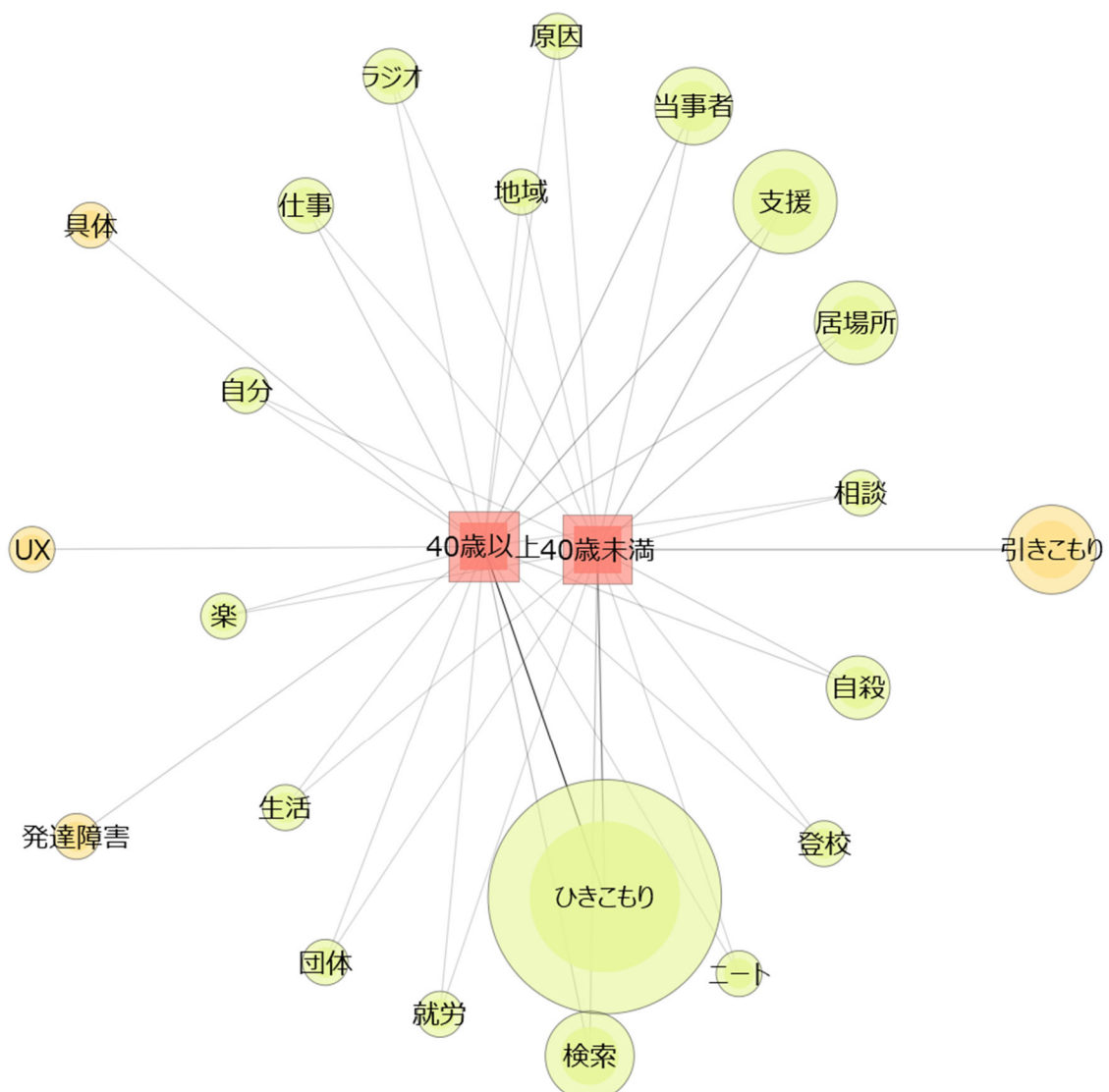


図3-15 検索キーワードの共起ネットワーク (本人調査)



**図 3-16 検索キーワードの共起ネットワーク
(本人調査/性別との関連)**

性別との関連を図示した図 3-16 をみると、男性も女性も一部を除きおおよそ共通のキーワードで検索していることがわかります。その一方で、「ラジオ」、「具体」は女性において、「団体」、「登校」、「ニート」は男性において検索キーワードとしてあげられていました。



**図3-17 検索キーワードの共起ネットワーク
(本人調査/年齢層との関連)**

年齢層との関連を示した図3-17をみると、おおよそ40歳未満の場合も40歳以上の場合も同様の検索キーワードを使っていることが示されています。その一方で、「発達障害」、「UX」、「具体」は40歳以上の方において検索キーワードとしてあげられていました。

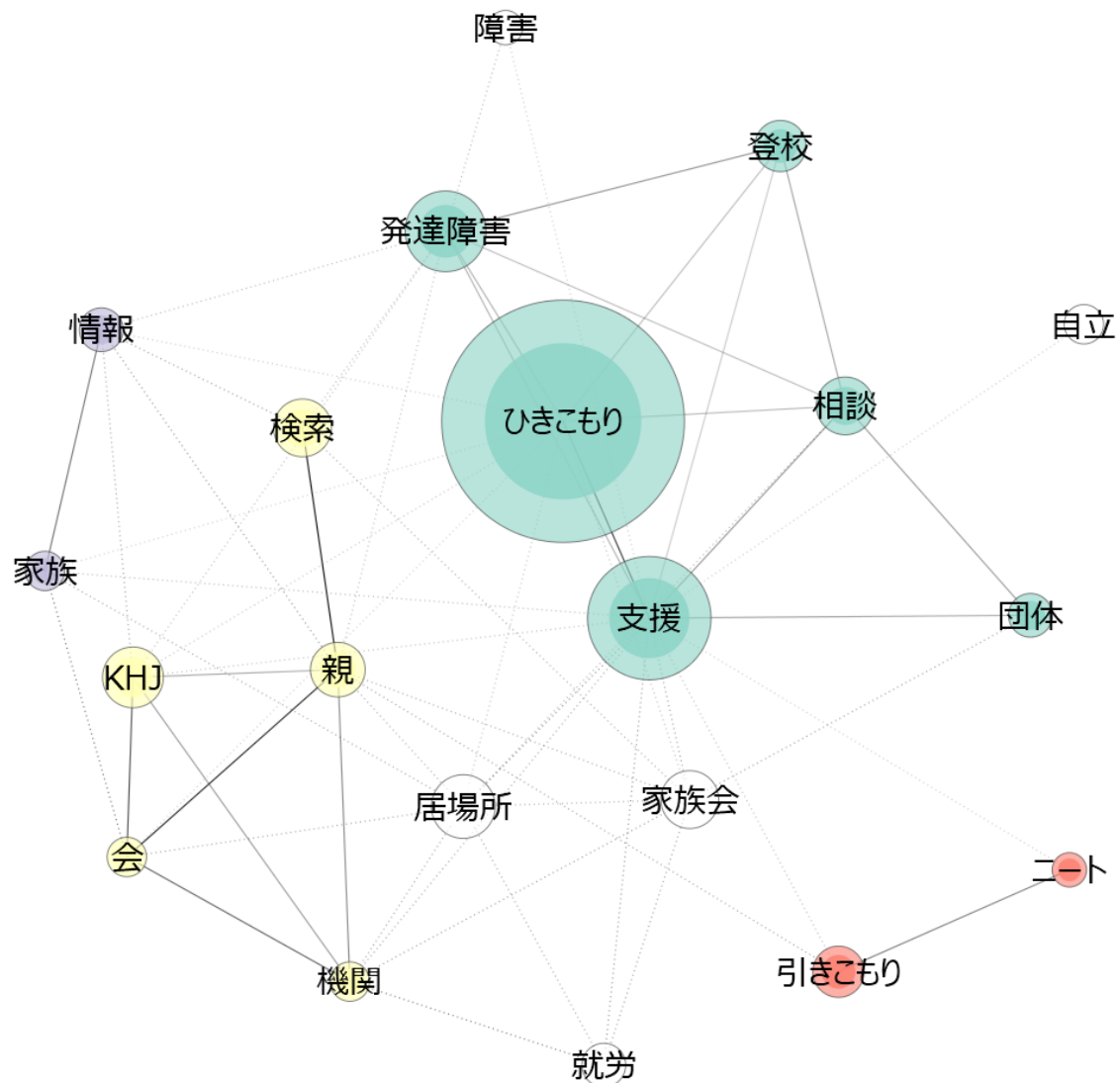
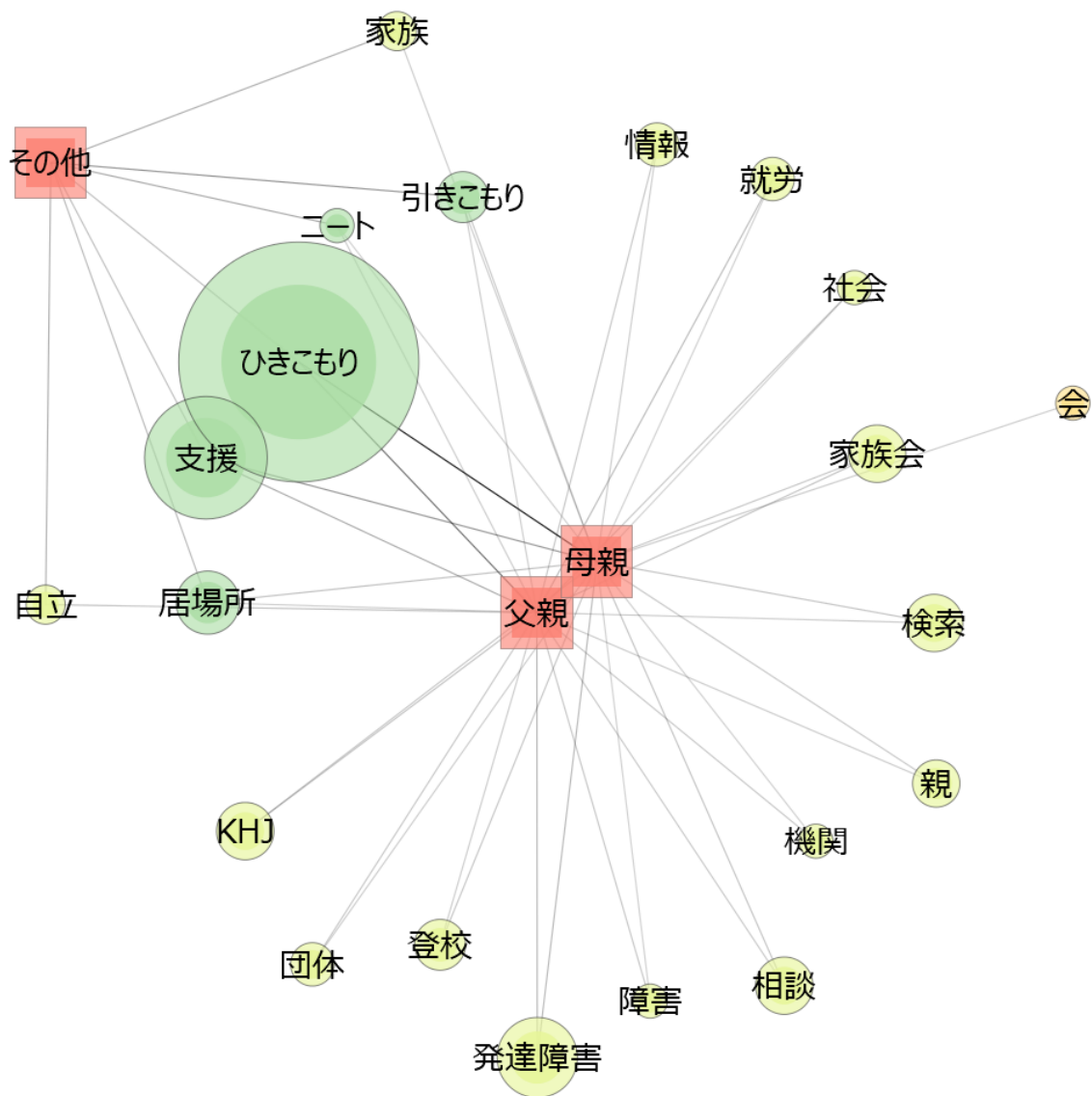


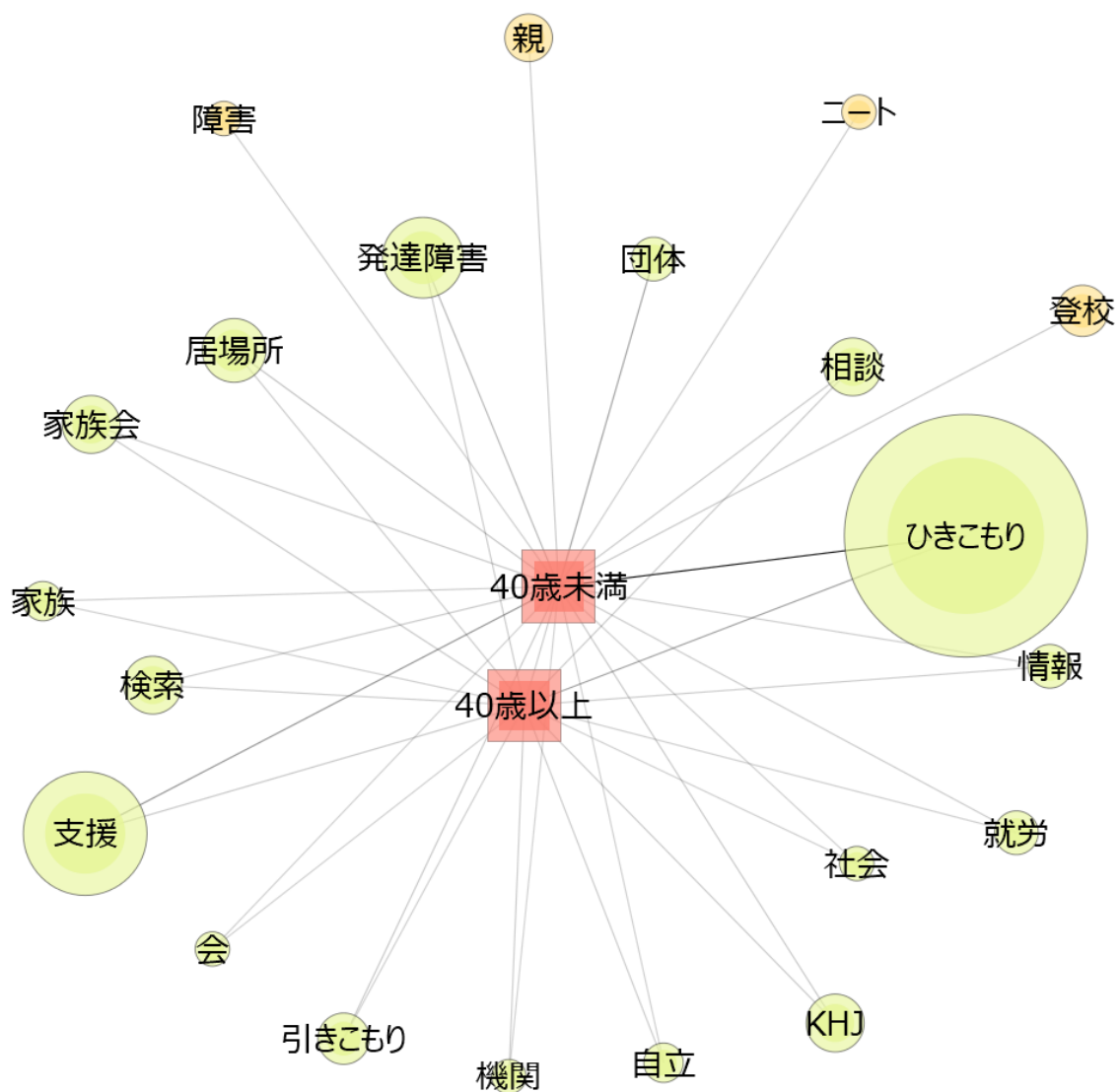
図 3-18 検索キーワードの共起ネットワーク (家族調査)

家族調査におけるそれぞれのキーワード同士の関連性を図 3-18、図 3-19、図 3-20 に示しました。キーワードとしてもっとも多くあげられていた「ひきこもり」とは、「支援」や「発達障害」、「相談」、「登校」などのキーワードが関連していました。これらのキーワードは同時に検索に使われている可能性があります。



**図 3-19 検索キーワードの共起ネットワーク
(家族調査/続柄との関連)**

続柄との関連を図示した図 3-19 をみると、父親も母親も一部を除きおおよそ共通のキーワードで検索していることがわかります。その一方で、「会」は母親において、「家族」は母親とその他において、「自立」は父親とその他において検索キーワードとしてあげられていました。



**図 3-20 検索キーワードの共起ネットワーク
(家族調査/年齢層との関連)**

年齢層との関連を図示した図 3-20 をみると、40 歳未満の場合も 40 歳以上の場合も一部を除きおおよそ共通のキーワードで検索していることがわかります。その一方で、「登校」、「ニート」、「障害」、「親」は 40 歳未満において検索キーワードとしてあげられていました。

9. 職場や働き方として求めていることについて

働く上で職場や働き方として求めていることについて、因子分析を用いて潜在的な因子を調べた結果を表 3-3 と表 3-4 に示しました。この報告書においては、64 項目すべてを含めた結果を予備的に示しています。家族調査も本人調査も 6 つの因子から構成されている可能性が示されました。

家族調査においては、各因子において影響が強い順に、第 1 因子は「どういう業務がありその内容も詳しくわかるような情報を公開している」、「職場の人が誰に対しても丁寧な言葉づかいで声かけをしている」、「言葉だけでなく紙に書いて指示をしている」などの情報伝達に関する項目、第 2 因子は「日雇いなどの単発的な働き方ができる」、「在宅で働ける」、「就労経験がない人でも採用している職場である」などの柔軟な働き方に関する項目、第 3 因子は「働く経験が少ない人の心情や個性を理解しようとしている」、「上から目線、頭ごなしの指導はしない」、「働く経験が少ない人の体力・精神状態に配慮している」などの仕事上の配慮に関する項目、第 4 因子は「お客さんに喜んでもらえる経験ができる」、「職場の人に認められる経験ができる」、「やりがいのある仕事がある」などの働きがいに関する項目、第 5 因子は「定期的にご本人へのアンケートを実施している」、「毎日、体調を職場の人に伝える仕組みがある」、「仕事以外で楽しめる場（スポーツ大会など）を用意している」などの心身の状態への配慮に関する項目、第 6 因子は「定期的支援機関とご本人を交え働き方を検討する場を設けている」、「ご本人の状態、必要な配慮などを記載した資料を関係者に配布している」、「ストレスとの付き合い方を学ぶ機会がある」などの知識や連携に関する項目から構成されていました。ご家族が職場や働き方として求めていることはこれらの 6 因子から構成されていることが示唆されました。

表 3-3 職場や働き方として求めていることの因子分析結果（家族調査）

項目	負荷量
因子 1 情報伝達に関する項目	
どのような業務がありその内容も詳しくわかるような情報を公開している	0.739
職場の人が誰に対しても丁寧な言葉づかいで声かけをしている	0.669
言葉だけでなく紙に書いて指示をしている	0.633

図や写真等で具体的な作業手順が書かれている業務マニュアルがある	0.577
出勤時や退勤時に挨拶などの声かけをしている	0.522
やる気を維持するために、仕事内容を選択できる	0.505
話し合いは自由に感想などを言えるようにしている	0.491
早い時期に会社でご本人を理解するために十分な時間を設けている	0.485
職場に慣れるためのプランを作成し、実施状況の確認をしている	0.475
雇用条件が明確である	0.429
業務を確実に遂行できているか確認している	0.423
言葉での説明だけでなく、実際に手順をやって見せている	0.41
仕事上の感謝や今後の期待を伝えている	0.378
非効率であったとしても多様な人材を受け入れている	0.342
一つが終わってから次の指示を出すなど、業務指示は1つずつ行う	0.313
因子2 柔軟な働き方に関する項目	
日雇いなどの単発的な働き方ができる	0.702
在宅で働ける	0.672
就労経験がない人でも採用している職場である	0.606
対人関係のない仕事や作業がある	0.539
自宅の近くで働ける	0.501
採用の年齢制限がない	0.501
短時間から徐々に始めることができる	0.482
責任の少ない働き方（インターンシップ、アルバイト）から始められる	0.411
職場の人がひきこもりに偏見なく対応している	0.408
通院などのために休暇を柔軟に取れる	0.407
同じことを何度聞いても嫌がらずに答えている	0.403
仕事が重荷になっていないかなどについて定期的な面談がある	0.305
因子3 仕事上の配慮に関する項目	
働く経験が少ない人の心情や個性を理解しようとしている	0.774
上から目線、頭ごなしの指導はしない	0.725
働く経験が少ない人の体力・精神状態に配慮している	0.712

仕事内容に変更があった場合は、できそうか確認がある	0.698
こまめな休憩をとるように職場が指示している	0.662
他人とくれない	0.637
専門家（臨床心理士、産業カウンセラーなど）を職場に配置している	0.629
職場にひきこもり経験者がいる	0.59
ひきこもりに理解のある企業であるかがわかる情報を公開している	0.586
電話対応が少ない	0.569
会社がひきこもりに関する研修を実施している	0.429
因子4 働きがいに関する項目	
お客さんに喜んでもらえる経験ができる	0.508
職場の人に認められる経験ができる	0.483
やりがいのある仕事がある	0.462
キャリアアップ、スキルアップのサポートがある	0.436
楽しめる仕事がある	0.378
失敗した後、その失敗をマイナスに捉えず、どう生かすかの助言がある	0.358
出張がない	-0.342
仕事以外でも親身になってくれる仲間が職場にいる	0.338
ご本人の気持ちをよく聞こうとしている	0.307
いい所はほめて育てようとしている	0.263
因子5 心身の状態への配慮に関する項目	
定期的にご本人へのアンケートを実施している	0.783
毎日、体調を職場の人に伝える仕組みがある	0.779
仕事以外で楽しめる場（スポーツ大会など）を用意している	0.675
職場でいつでもひとりになれる休憩場所がある	0.649
体調や集中力に応じて仕事量が柔軟である	0.504
社会に役に立った経験ができる	0.471
指示した内容について、ご本人がメモを取る時間を設けている	0.438
連絡帳などで職場がご家族と情報交換をしている	0.373
いつでも相談できる担当者が職場にいる	0.359

ご本人が快適に仕事ができる物理的環境（人の出入り、温度、騒音、光など）がある 0.348

因子6 知識や連携に関する項目

定期的に支援機関とご本人を交え働き方を検討する場を設けている 0.972

ご本人の状態、必要な配慮などを記載した資料を関係者に配布している 0.399

ストレスとの付き合い方を学ぶ機会がある 0.364

欠勤をご本人がマイナスと捉えないよう職場が精神面をケアしている 0.337

ご本人に治療が必要かを確認している 0.334

採用時、複数の職場を見学し、働きやすい職場の方を選べる 0.323

本人調査においては、各因子において影響が強い順に、第1因子は「職場に慣れるためのプランを作成し、実施状況の確認をしている」、「早い時期に会社にご本人を理解するために十分な時間を設けている」、「雇用条件が明確である」などの仕事上の配慮に関する項目、第2因子は「やりがいのある仕事がある」、「社会に役に立った経験ができる」、「お客さんに喜んでもらえる経験ができる」などの働きがいに関する項目、第3因子は「仕事以外で楽しめる場（スポーツ大会など）を用意している」、「定期的にご本人へのアンケートを実施している」、「業務を確実に遂行できているか確認している」などの心身の状態への配慮に関する項目、第4因子は「職場の人がひきこもりに偏見なく対応している」、「働く経験が少ない人の体力・精神状態に配慮している」、「ご本人が快適に仕事ができる物理的環境（人の出入り、温度、騒音、光など）がある」などの職場環境に関する項目、第5因子は「定期的に支援機関とご本人を交え働き方を検討する場を設けている」、「ご本人に治療が必要かを確認している」、「ご本人の状態、必要な配慮などを記載した資料を関係者に配布している」などの知識や連携に関する項目、第6因子は「対人関係のない仕事や作業がある」、「責任の少ない働き方（インターンシップ、アルバイト）から始められる」、「日雇いなどの単発的な働き方ができる」などの柔軟な働き方に関する項目から構成されました。ご本人が職場や働き方として求めていることはこれらの6因子から構成されていることが示唆されました。

表 3-4 職場や働き方として求めていることの因子分析結果（本人調査）

項目	負荷量
因子1 仕事上の配慮に関する項目	
職場に慣れるためのプランを作成し、実施状況の確認をしている	0.764
早い時期に会社でご本人を理解するために十分な時間を設けている	0.713
雇用条件が明確である	0.682
やる気を維持するために、仕事内容を選択できる	0.647
こまめな休憩をとるように職場が指示している	0.597
上から目線、頭ごなしの指導はしない	0.582
他人とくらべない	0.568
図や写真等で具体的な作業手順が書かれている業務マニュアルがある	0.543
どういう業務がありその内容も詳しくわかるような情報を公開している	0.521
仕事内容に変更があった場合は、できそうか確認がある	0.518
職場の人が誰に対しても丁寧な言葉づかいで声かけをしている	0.474
言葉での説明だけではなく、実際に手順をやって見せている	0.459
出張がない	0.419
欠勤をご本人がマイナスと捉えないよう職場が精神面をケアしている	0.414
因子2 働きがいに関する項目	
やりがいのある仕事がある	0.836
社会に役に立った経験ができる	0.773
お客さんに喜んでもらえる経験ができる	0.724
楽しめる仕事がある	0.629
キャリアアップ、スキルアップのサポートがある	0.525
職場の人に認められる経験ができる	0.446
仕事以外でも親身になってくれる仲間が職場にいる	0.441
失敗した後、その失敗をマイナスに捉えず、どう生かすかの助言がある	0.406
ご本人の気持ちをよく聞こうとしている	0.389
話し合いは自由に感想などを言えるようにしている	0.38
いつでも相談できる担当者が職場にいる	0.328
採用の年齢制限がない	0.305
自宅の近くで働ける	0.264
因子3 心身の状態への配慮に関する項目	
仕事以外で楽しめる場（スポーツ大会など）を用意している	0.636

定期的にご本人へのアンケートを実施している	0.541
業務を確実に遂行できているか確認している	0.514
毎日、体調を職場の人に伝える仕組みがある	0.493
言葉だけでなく紙に書いて指示をしている	0.44
体調や集中力に応じて仕事量が柔軟である	0.436
指示した内容について、ご本人がメモを取る時間を設けている	0.426
仕事上の感謝や今後の期待を伝えている	0.42
いい所はほめて育てようとしている	0.416
出勤時や退勤時に挨拶などの声かけをしている	0.415
一つが終わってから次の指示を出すなど、業務指示は1つずつ行う	0.391
通院などのために休暇を柔軟に取れる	0.313
因子4 職場環境に関する項目	
職場の人がひきこもりに偏見なく対応している	0.785
働く経験が少ない人の体力・精神状態に配慮している	0.767
ご本人が快適に仕事ができる物理的環境（人の出入り、温度、騒音、光など）がある	0.592
働く経験が少ない人の心情や個性を理解しようとしている	0.535
ひきこもりに理解のある企業であるかがわかる情報を公開している	0.499
職場にひきこもり経験者がいる	0.473
非効率であったとしても多様な人材を受け入れている	0.423
電話対応が少ない	0.404
就労経験がない人でも採用している職場である	0.385
同じことを何度聞いても嫌がらずに答えている	0.346
採用時、複数の職場を見学し、働きやすい職場の方を選べる	0.262
因子5 知識や連携に関する項目	
定期的に支援機関とご本人を交え働き方を検討する場を設けている	0.816
ご本人に治療が必要かを確認している	0.681
ご本人の状態、必要な配慮などを記載した資料を関係者に配布している	0.663
連絡帳などで職場がご家族と情報交換をしている	0.515
ストレスとの付き合い方を学ぶ機会がある	0.483
会社がひきこもりに関する研修を実施している	0.456
専門家（臨床心理士、産業カウンセラーなど）を職場に配置している	0.38

在宅で働ける	0.376
仕事が重荷になっていないかなどについて定期的な面談がある	0.33
因子6 柔軟な働き方に関する項目	
対人関係のない仕事や作業がある	0.545
責任の少ない働き方（インターンシップ、アルバイト）から始められる	0.542
日雇いなどの単発的な働き方ができる	0.415
短時間から徐々に始めることができる	0.386
職場でいつでもひとりになれる休憩場所がある	0.257

第四部 自由記述

自由記述では、以下のことについて回答を求めました。

- ①オンライン支援を受けたことがある場合、その感想や効果について具体的にお書きください。
- ②就労経験がある場合、就労する中でご本人が傷ついたことがあれば具体的にお書きください。
- ③ひきこもり支援をオンラインで受ける際に、どのようなことが心配ですか？あなたの考えを自由にお書きください。
- ④現在、ひきこもり地域支援センターを拡充する政策がすすめられています。拡充する際にどのような点を強化して欲しいと考えていますか？あなたの考えを自由にお書きください。ひきこもり地域支援センターをご存知ないようでしたら、なぜご存知ないのかを可能な範囲でお書きください。

以下には、それぞれの質問についての回答を、ご家族、ご本人の回答に分けて記載しています。大半の自由記述は掲載しておりますが、記述の量や重複を考慮し、掲載されていない自由記述もあります。また、読み取ることの困難であった記述や個人を特定しうる固有名詞は「●」で示しています。

- ①オンライン支援を受けたことがある場合、その感想や効果について具体的にお書きください。

【ご家族の回答】

良かった、視野が広がった、有意義だった

- ・引きこもりではありませんが、不登校の親の茶話会や、相談会、講演会に何度か参加させてもらいました。地元のリアルな親の会にも参加しているのですが、同年代の参加が少なく残念に思っていました。その点、オンラインでは全国から多数の方が参加、同年代の方を悩みの共有もでき、とても良かったです。
- ・KHJ 全国大会や講演会（各団体主催）などに参加、視聴。遠方でこれまで参加が叶わなかったのが、オンラインで参加でき、良かった。見聞きした内容が参考になり、子どもとの関係のヒントや、会運営（家族会）で、役立つことがあった。・・・相談者の方に、市内だけでなく、県内外の情報が届けられたなど。
- ・直接ではないが、●、●、全国の方とのリアルタイムにて会話出来る事は素晴らしい事と思う。またみんなが共通の立場での会話なので、皆さんが真剣に傾聴して頂ける事は、有難いと思うし、自分の想いを何らか参考にももらえてもと・うれしく思う。
- ・東北地方や東海地方など遠方の専門家の話が聞けた際に、大変視野が広がり、転機になりました。関西地域の家族と話した際も逆に会える距離でないからざっばらんに話せました。情報の多い首都圏であっても同じ専門家や同じ地域性の中での情報になるので、地方だけでなく首都圏の人にとってもオンラインの活用はありがたいと思う。また、体力や時間、交通費を節約できることも、継続や自分の健康維持には利点です。
- ・当事者と会話することで助言やどのような感じを親に対していただいているだとか聞けて、

参考になり、その会話を息子（本人）が聞いていたのか、KHJの会に2回参加してくれた（3年前）

- ・①地域が遠くても新しいことを学べる②他地域の支援の実態がわかる③ひきこもりについての情報を得られる
- ・●の講演を拝見しました。とっても有意義と感じました。
- ・実際に体験した方の意見は貴重だと思う。

わざわざ出向く必要がなく便利

- ・居ながらにして情報を得ることができ便利だと思う（田舎に住んでいるので）
- ・遠くまで出るのが、不自由な為、オンラインは、とても有難いです。
- ・オンラインだとわざわざ行かなくてもいいので便利
- ・時間がとられない、移動しなくていい→とても有効
- ・コロナの為、移動しなくて済んだので良かった
- ・移動しなくていいので楽に相談できる
- ・出向かないので、感染の心配がない。
- ・●の地理的問題がなくなります。

対面の方がよい、電話の方がよい

- ・家族（夫）の操作によってオンラインを使用することはあるが、なんだかしっくりとこない。よって、あまり効果も感じなかった。親の世代は元来なじんでいないオンラインなどというものを、いくら時代の先端を行くとはいえ、親の世代（一番重要な人間）が解らないことを当たり前のこととして使用している関係者に疑問を感じることもある。
- ・コロナで対面が難しかった時、定期的な面談をZoomで行っていただきましたが、やはり対面の方が話しやすかったです。
- ・講演を視聴したが、集中して視聴するので気を使い目が疲れて長い時間は無理だと思った。
- ・やはり直接対面に比べて効果が薄く感じられます
- ・対面でないと細かい部分が伝わりにくい
- ・面倒、電話が一番簡単

オンラインのメリットもあるが、やはり対面が良い

- ・コロナ禍で対面での相談ができなかったのでZoomでカウンセリングを受けたが私個人としては対面でお話できる方が安心感があるし、本音を言い易い。ただ、どこに居ても受けれるというメリットは感じた。第一選択肢ではないが、あっても良いと思う。
- ・相談場所が離れた所にある場合に有用である。自宅だと本人がいるため、外で接続して利用するなど、制限も多かった。できれば直接面談するのが良いと思った。
- ・外出をしなくて良いから便利ではあるが、子供に聞こえないようにしないとイケないので気を遣う。話す時も聞こえているのではないかと心配になる

気軽に利用できて便利

- ・オンラインで、お互いに画面表示音声がある場合は、慣れると十分に話していくことができると思います。
- ・ショートメール、あまり詳しい事は相談できないが、気軽に時間に関係なく相談できたので良かった
- ・自宅やホテルなど Wi-fi 環境があるところで気軽に受けれてよかった

満足できなかった

- ・研修会、講演会、もしくはワークショップ形式の場合は、発言をすると自分の画面ばかりがアップになり周りの反応が全く分からず、どちらかという壁に向かって話しているような感覚となります。いつも消化不良のような気持ちになります。
- ・自分の思った事をうまく伝えられず終わってしまった。

慣れていないので難しい

- ・オンラインの機器取り扱いや環境が苦手なので、積極的には参加していない。知人の手前、付き合いでの参加でした。
- ・未だ慣れていないので利用が難しい

高額で継続できない

- ・とても親身になって対応して頂き、その当時は話せなかった息子と話ができるようになって、本当にありがたい気持ちでした。ただ、半年という期限と、それなりの料金があった為、続けることはできませんでした。
- ・その場限りで家族の会への勧誘がほとんどで料金相談料 1 時間 15000 円で高額。その他、入会金、月々の利用料の高さに断念した。

その他

- ・家族会で Zoom を使い、コロナ禍の中学学習会を開催していました。Zoom だと、どこに住んでいても参加できる利点があり、移動時間もなく誰でも顔を出さずに参加できるので良かったです。しかし、運営側になると参加者のメールアドレスへ招待メールを送るなど、機器操作に弱い私は苦勞しました。申し込んでいても招待メールが届かなければ参加できないわけで……。オンライン支援は、家族会の学習会は、入らないかもしれませんね。
- ・子は時々パソコンでやっているようです。
- ・ただ見守って下さいと言われてただけで何も気持ちが楽にならなかった。
- ・ズーム、スカイプでの相談

特になし

- ・有りません
- ・なし

【ご本人の回答】

ある程度必要性を感じる

- ・訪問してくれている人と zoom は何度か。不慣れでドタバタしましたが、「こういうものなんだ〜」「ひとつ新しいことをした」って感じは、悪くありません。「このやり方もある」というのは、コロナ時代、心強いし。知らない人と最初からオンラインは…どうでしょう。ひきこもり zoom 会に参加したい気持ちはあり、その場合、“支援”よりはグループですね（「聞いてるだけでも OK」の）
- ・いじめ被害者の自助グループ（オンライン）という形の会合だったのですが、ひきこもり当事者を自認する方も何人かおられました。頻繁に出入りしている訳ではないので、効果のほどは判りにくい面もありますが、自分の苦しい経験について心の中を整理する上で意味があると思いました。
- ・直接支援して下さっている事業所さんに行く手間が省くことが出来、普段とは違ったメッセージでのやり取りも出来るので新鮮で楽しく便利である。その反面すぐ近くにいる人との実際にやりとりしている感覚はうすれるので、少しさみしくもある。
- ・出かけることがムズカシイ人にとっては必要だと思う。出かけるのにも交通費がかかり支援をあきためるということが、オンラインでは少なくできる。
- ・ないけどあればうれしい

残念だった

- ・顔が見える時が良い場合があるが（本当の信用出来る人かわかる）、だいたい口がうまい人が多く、あやしい人がいっぱいだった
- ・LINE で相談をしましたが、話を聞いてあとは支援団体を紹介されました。できれば他の方法も教えてほしかったです。

その他

- ・よく分かりません。
- ・自分できめる

②就労経験がある場合、就労する中でご本人が傷ついたことがあれば具体的にお書きください。

【ご家族の回答】

いじめ、パワハラ、高圧的な態度、暴力、暴言等

- ・パワハラ (5)
- ・●型作業所でのスタッフからの横柄な態度や、言葉により、行けなくなった。何年もひきこもり、又、発達障害をかかえており、ようやく作業所に行く気持ちになったにもかかわらず、仕事が出来ない事や、あいさつが出来ない等出来ない事だけに目をやり、横柄な態度をとる、親としては、●型に行けた事を第一に認めてほしかった。まだまだ、理解のない支援者があまりにも多い。もっともっと学習してほしい。誰の為の何の為の●型なのか？支援者なのか？

- ・本人はすごい頑張り屋さんです。優しく通勤時間にも関係なくてやりたい仕事には責任持ってやりますが。あまり継続して働けなく短期間の仕事選び契約社員で働いてました。2～3年働きましたがパワハラに合い自分自身が人との接触をさげ、家から出れなくなりました。
- ・(アルバイトですが)年齢は同じ位か少し上で、本人に教える立場の人だが(研修中の人)、言われた通りやってもその人の考えた通りに行動しないと、まちがっていなくても、本人をコントロールしようとして、けんかぎたになったことがあったらしい。3年位前のことですが、今だに尾を引いているのか、何かのひょうしに思い出すと、その人のことをとてもひどく言う。2日前そうだった。
- ・少人数の会社に勤務するが上司が上から目線・パワハラ、同僚の方も不親切な職場でした。一生懸命仕事にがんばっていましたが、時間外の仕事が多く、体がもたず、辞めてしまいました。世の中には、良い人、悪い人いろいろな方が居ると実感させられたそうです。
- ・大学卒業して就職した会社で「どうしてできないんだ！」ばかり言われたそうです。1～2ヶ月位でうつ、やめました。パワハラと思われませんが、それから PTSD、社交不安症、人がこわくなり、人と話せなくなった。あまりその時の話しをしないのでわからない。
- ・大卒で市役所に就職したが、運転免許がないと露骨に嫌な顔をされ、日常的に大声でみんなの前で罵倒されたりしたようだ(指導者の先輩に)未経験なのに、泊まりがけの(ベテランばかりの)勉強会に参加させられた。
- ・子どもの頃のいじめの経験と同様な状況になり、職場の人から疎外されていると感じた。悩みが人に言えない事なので、職場では精神的に問題があるとは理解されていなかったのでも本人もつらい思いをした。
- ・施設内の掃除担当でした(当時16才)本人以外は年配のおばさんばかりで、色々なじられた感じで家に戻るとその反動でストレス限界になり退社(人前で自分の気持ちを言えない性格の為か?)
- ・ジョブコーチが高圧的で、自分の言う事を無視した。その事で、障害者は信用されていないと思って、今度働いてもまた、同じ事がされるのではないかと恐ろしくて働けない。
- ・対人恐怖がある中で、元々パワハラ癖のある上司の下で、新規採用となり半年ほどは頑張っていたが、その後体と心に変調を来し、再度ひきこもることになってしまった。
- ・アルバイトですが、理解が悪く、叱られたり、仲間はずれや、トイレに入った時に電気を消されたり、等、本人がいじめと感ずることがありました。
- ・コミュニケーション能力などに問題があるので、指示どおりにできないとか、からかわれたりすることがある。
- ・上司のパワハラ。派遣で、中国上海と日本を一週間も経たないうちに、行ったり来たり(経費削減の為?)
- ・アイサツ返事が出来ないで怒る→相手新聞配達でいつも部数が少なくいやがらせとの事
- ・就労中にいじめにあつて尾を引いている。その為就労してもうまくいかなかった。
- ・仕事がこれほどできないのは、今までおらんかったと言われたこと
- ・仕事の作業が遅かったり、口数が少ない事で「死ね」とか言われた

- ・ASD 傾向が強く仲間と合わない。いじめ、いやがらせを受ける。
- ・ひきこもりとも知らず上司の心ない言葉だと思います
- ・同僚や上司につきまとわれた事がある
- ・過剰なノルマ、責任
- ・ハラスメント●いじめを受けた
- ・バイト先の店長になぐられた
- ・ブラック企業
- ・上司が高圧的

対人関係

- ・人間かんけい、対人関係 (12)、コミュニケーションが苦手 (4)
- ・ひきこもりの前も、就労経験があり、現在も就労していますが、職場では自分のことは、全く話してないので、コミュニケーションが苦手な所が、今も人間関係では苦勞している様に感じます。
- ・対人関係で相当傷ついてもめたようだ (ケンカによくなった) → (口ぶりからの推測ですが)
- ・プレッシャーに対し、悩み多い。身体に影響が出て、倒れ込む。
- ・短期バイト 異性に冷たくされた様に感じて傷ついたようである
- ・板挟みになってどう対応したらいいのか分からない
- ・パートの女性達の中で、男は一人で、話があわなかった。
- ・意見のちがいでトラブル
- ・人に会わなければならないことで
- ・ASD 傾向が強く仲間と合わない。
- ・同僚の何げない一言

叱責

- ・バイトが日にちが進むと、あれこれ仕事を言われても、パニックになり思うように出来ず、「日にちもたつんだから、こなしてもらわないと困る」と強めに注意され、落ち込み泣きながらご飯を食べていました。
- ・本人にとってはいわれのないことで非難された。試用期間後本採用にならなかった。本人は理由を理解できていない。本人が理解できていないので、親である私も理由がよくわからない。
- ・娘は、今ひきこもっている状態だが、今までにパート、正社員、●型作業所と職を4回ほど経験しています。どの職場でも、娘に対する同僚からのきびしい指摘等があったようです。
- ・上司ごとに指導や言うことが違うため注意を受けたこと。辞める時にこんなことで辞めたら今後の人生心配だと言われたこと。怒鳴られること。
- ・仕事がおそいと注意される。理解するまでに時間がかかりどなられる。
- ・口やかましく注意される。具体的に指示されない。

- ・会長が、立ち居振舞いについて長々と説教する。
- ・他の人に「遊んで見える」と言われたようだ
- ・職長が職人さんでかなり厳しい
- ・職場の人からの強い口調の注意。
- ・発達障害のためよくおこられる。
- ・しかり方の強、話し方
- ・上司が厳しかった。
- ・おこられた

詳細不明、本人から直接は聞いていない

- ・本人が言わないのでわからない (6)
- ・はなれて住んでいてメールのやりとりも十分ではないので、具体的なことはほとんどわからない。
- ・専門学校を出てから2年2カ月仕事をしたがその時の話はしてない
- ・具体的にはわからない(同居のときでなく、●でひとり住い)
- ・何があったか全然不明、そこから引きこもりに
- ・別居での学生生活中のアルバイトであり、不明
- ・短期バイトのため、深くきいたことはなし
- ・不明

詳細不明だが職場で嫌な思いをした

- ・本人の非番の日に(人手不足の飲食店のバイト先から)出勤してもらいたいと依頼があった。「ダメです」と断ることができず、不当な扱いをされたと傷つく。倉庫仕事で、牛馬のようにひたすら働かされ(=効率優先で人間扱いされていなく(本人の感覚)くたびれ切って傷つく。本人が話すことはあまりないが、見ていて←こんなように傷ついている様子がみれる。
- ・休職→退職後、もう仕事はしたくないと言ってました。何が傷かは本人から聞いてません。親が感じた事・わからない所を聞けなかったのかも→ガミガミ言われる。
- ・担当のリーダーは早口で流れるようにしゃべる(電話からもれる声で判断ですが)わかりづらい。
- ・かげ口が多く、自分のことも言われていたことで、行けなくなった。(本人が語りたくないのだからわかりません具体的には)
- ・職場で嫌な思いをしたらしいが、職場を辞めた後に、友達の母親からその話を聞く(本人は全く話さない)
- ・バイト先の間人関係(上司とのやりとり)(詳細不明)

労働環境

- ・食品会社で色々な部署に回され、言われるままにやらされ、仕事を覚えられる事は良い面もあるが、慣れた所をずっとやった方が、安心して働ける気がします。

- ・数カ月間アルバイトをしたことがあります。10人ほどの小さな会社ですが、社長がワンマンで、気まぐれで指示を出していて、朝令暮改がひどくて悩んでいたようです。
- ・自分の意に反する仕事をさせられた。自分の仕事に対する評価がされない。
- ・職場内でいじめにあっている人を見て、つらくなり辞めたことがある。
- ・低賃金で保険つけてもらえず、先の見通しなくシフト組まれる。
- ・職場の対応が悪く、無気力になった

慣れていない仕事に注文が多かった

- ・医療事務で正職で入ったのですが、入って数日しか経っていないのに先輩は指導もせず、後からじっとみているだけで辛かった。レジを閉める時も、激しくしているわけではないのに静かに閉めるよう言われた。先輩が初日から1~10まで教えようとして、とても大変で辛かった。一生懸命やっていたが、1週間でうつになってしまい、結局退職せざるを得ない状況になって、とても傷つき自信をなくし、また自己肯定感を下げってしまった。
- ・慣れていない仕事に注文が多かった。

長時間労働、サービス残業

- ・正社員の時はもちろん仕事の就労時間も長いのでその疲れもあったとは思いますが。
- ・朝早くから夕方までの就労時間が長く、ゆっくり休む事ができなかった
- ・勤務時間が過ぎているのに、無償で仕事を終わらせるように強要された
- ・仕事の時間に区切りがない（長時間勤務）
- ・長時間労働

頑張りすぎて限界がきてしまった

- ・連続して休まず、何日間来ると1万プラスとか言われまじめにそれを引き受け、たしかにお金は頂けるから良い面もあるが身体がついていけなくて結局は長く休むことになり、やめざるをえなくなる。使い方が悪い。
- ・一生懸命やっていたが、1週間でうつになってしまい、結局退職せざるを得ない状況になって、とても傷つき自信をなくし、また自己肯定感を下げってしまった。
- ・最初に頑張りすぎて、パタッと行けなくなったりしました。

学歴、職歴、資格がない

- ・正規の採用ではありませんが引きこもりが長引くと履歴書を書く段階で困るみたいです。
- ・多分、高卒の資格がないから履歴書ではねられたと思う
- ・学歴資格がない事と思う

賃金未払い

- ・きびしく言われ給料がおくれて払ってもらわず
- ・報酬がもらえなかったこと
- ・賃金も未払い

試用期間後本採用にならなかった、正社員になれなかった

- ・試用期間後本採用にならなかった。本人は理由を理解できていない。本人が理解できていないので、親である私も理由がよくわからない。
- ・障害（パニック障害）の内容を先方が調べ、試用期間後クビになる。
- ・正社員になれなかった事と思われる

問題が起きた時の対応が難しかった

- ・本人は何回か就労したが、だいたい3カ月くらいで退職していた。本人は一生懸命頑張っているが、問題が起きた場合の相談をする事が出来なかった。とふり返っていた。
- ・1人住まいだった時、けがして出社できなかつた時、うまく対応できなかつた。

体力的にきつかった

- ・●の年末アルバイトを1カ月半ほどしました。初めての就労体験でした。体力的にもきつかったようで、自分には向いていないと言って、継続しませんでした（仕事内容は仕分けでした）
- ・肉体労働だったので、心より体の負担が大きかった。

就労に至るまでに苦勞し傷ついた

- ・就労での傷つきではありませんが、今のアルバイトに合格するまで、何社も立て続けに不合格でしたので、落ち込みようはすごかったです。
- ・まだ本人の発達障害の事がよくわかっていなかった時に一般の職の面接のところで就労できないまになったところがあった。面接だけでハードルになってしまっていることは本人が傷ついたのではないかと思われる。

職場で必要とされていないと感じた

- ・経験不足のため他の人と比べられる事が多く仕事の成果を直接伝えられず 自分は必要のない人員と自身で思い込んでしまいつらくて仕事を継続する事が困難になってしまう
- ・本人が職場で必要とされているのか、わからなくなったのではと思います。

雇用側と本人側との求めていることに違いが生じた

- ・本人が求めていることと、就労先で求めていることの差に辛さを感じたと思います。
- ・今後のキャリア形成に関して、雇用側と本人で食い違いが生じた。

ミスした

- ・仕事の待ち合わせ時刻に遅れたことで動揺した。
- ・会社の物を紛失した。
- ・失敗した。

理解のある職場なので特にない

- ・現在本人は、●県庁内にあるメンタル面で課題を抱えた人達向けに「●オフィス」が設置され、特別枠として就業しています。(●オフィスから県庁内の別の部署で働いています)大変、皆様には気を使っているようです。年2回の面談でも本人の心情をくみ取ってもらっています。
- ・理解のある環境のようで、今のところない。

その他

- ・発達障害の診断で二級の手帳を取得し、一般企業の特例子会社で働いています。障害者の配慮はしてくれますが、単純作業で、キャリアアップは、望めないようです。本人は、お金を稼ぐためと、諦めているようです。
- ・軽度発達障害と、今は発達障害もあり、適材適所の職場選びもだいじだと思っています。そこへつなげる手段が今はわかりません。また会社全体が、弱者に配慮してくださる事を望みます。
- ・高校卒業後（高校時代アルバイトで収入を得ていた）印刷関係に就職するが職場の環境にな○○○9ヶ月務めて退社、その後5社面接したが不採用となり引きこもり生活になり現在にいたる。
- ・就労の際賃金形態、雇用条件、期間等の約束事が果たされない。クレームをつけると雇用環境を故意に悪くされた。本人は当初の約束がホゴされる事を極端に嫌う。
- ・働きたいという気持だけが先走り、体も精神的にもきつく何日ももたない。ひとつの部屋の中にいる作業は苦しくていられない。人に対する怖さ。
- ・上司の無理解と本人の申し出がかみ合わない為誤解が生じた。(本人の意志表示不足とこだわりが他人に理解出来ないところあり)
- ・どうしても経営者の人間性や経営のやり方が気になり黙っていられず、話して傷つく。いっしょに働く人のためという思いもある。
- ・強制的にソフトボールのチームに入れられ、飲み会の送り迎えも飲めない息子が担当していた。
- ・仕事の作業において、他の人とのちがいで（自分ができていないことで）本人が悩んでいる。
- ・仕事がなかなかおぼえられず、やめるか続けるのか選択の電話がかかってきた
- ・本人が作ったものに対し、これはダメだと否定された（商品にならない）
- ・10年ほど働いたが、4月の人事ではじめて昇格して5月に退職した。
- ・家で委託業務を受ける旨承知したが、仕事がほとんど来なかった。
- ・直接注意されるのではなく書留で文書で送られてきた。
- ・仕事の内容が自分にあわなかった。
- ・ありますが中々続かない
- ・非正規雇用だった。
- ・転職がむづかしい
- ・とつぜん解雇

- ・指を切断した

【ご本人の回答】

暴言、暴力、パワハラ、いじめ、かげぐち等

- ・パワハラ (4)
- ・いやがらせ (2)
- ・派遣で入った職場で初日に社〇の派遣先社員に暴言を言われた。本来派遣社員は、派遣先から見れば協力会社という他社の社員という立場の人であるはずですが。このような勘違い社員の元では働けないと思い一日で辞めた。そのことで体調を崩し数年ひきこもることになった。
- ・ほとんど知的しょうがい、発たつしょうがいがあるために他人には分からない苦しみや生きずらさがある、パワハラを良く受けた事があった。経験や学歴に差があったのことで。
- ・明らかに無茶な仕事量を強いられる(残業を強制させられる) 適性のない仕事をさせられる。体調不良が続いた時に責められる。
- ・人の名前が覚えられずかなりおこられた。ば声をあびせられた。仕事が覚えられず、つかえない人間だと言われた。
- ・同僚に“バカ、” “バーカ” と呼ばれたこと。どもってうまくしゃべれなかった時に” だめだこりゃ” と笑われた。
- ・職場の人に自分の知らない所で悪く言われていると、人伝に聞いた時(直接聞いていない)
- ・上司からのパワハラ。無視される、上司にもつらく当たられる→今は無い
- ・「バカ・アホ」「死ね」などの暴言 蹴る、殴るなどの暴力
- ・肉体ではなく心がしんどい時、ムリヤリやられる
- ・いじめ、強い口調、社長のみくだした内容の言葉
- ・むずかしい仕事させられたとき。おこられたとき。
- ・横暴な客・嫌な客の相手押し付けられる
- ・ば声をあびせる、人格否定
- ・ミスをしたら、ぶっ殺すと言われた
- ・むしされる。かげぐちを言われる。
- ・上司から無視される
- ・偏見

対人関係、対人コミュニケーション

- ・年齢相応の社会経験を積んでいない上に、子供の頃から集団に適応できてこなかったため、一般就労時のコミュニケーションのハードルが非常に高い。いつも周囲に気を遣い、緊張しながら過ごしているが、それでもコミュニケーションでのミスは発生した。ミスの度合いが大きいと、集団内での立場が取り返しのつかないレベルで悪くなった。
- ・人間関係を築く時、基本受け身になるため、人によっては全くなじむことができず、苦勞することがあった。1対1との関係は、気まずくて友好的にできない。
- ・人との関わりがこわくて、ずっと人の顔色をうかがって、一定の距離を保っていて、ほと

んど一人でいたこと。(飲み会とか、とくに辛かった)

- ・職場での人間トラブル、シフト変更や退職についてのトラブル、客とのトラブル、
- ・他人と関わる(小売店)だったので、もう人が関わらない仕事しかしたくない。
- ・同僚とのコミュニケーション(空気を読んで行動できないことを責められる)
- ・人間関係、迷惑をかけて嫌われる、頭が悪いので嫌われる
- ・公私問わずコミュニケーション全般
- ・人との会話がうまくできないこと。
- ・人間関係指導

社会的空白の期間について話をするのが苦痛である

- ・大学時代の話が聞かれた時、(ほとんど通わず休学を3年しての中退だったが、履歴書には3年在籍の記録しか記入しなかった)ので何も知らずに、引きこもっていた人間ではなく普通に通っていた人間として話された際にはっきり答えられずごまかしてしまっていたこと。相手にも自分にもウソをついているようで苦しかった。でも、反応がこわくて、本当のことは言えなかったこと。
- ・社会的空白もあり「ひきこもっていた」ことを全く知らない人達との壁。雑談などのコミュニケーションが上手に取れず、全体から距離をとられることがあった(女性、年配の方の方が多い環境)一人、孤立して、運営者からも、一方的に責められ、離れる(辞める)ことになった経験、誰にも相談出来なかった
- ・履歴書にひきこもり期間があると、面接での誤魔化し方を考える必要がある等の負担がある。履歴書を書くだけでも傷つく。数回面接に落ちた後、ひきこもり歴を隠すようになった。ひきこもり経験のある人間は、社会から必要とされていないのだと感じた。
- ・傷ついた経験というよりは、学生時代欠席日数がけっこうあり、一時的に不登校だった時期もあり、働いてから学生時代の話をかかれても、人に話すエピソードがないこと。学校や部活、交友関係の話よりもインターネット上の話のほうが話題として話しやすくて困った。
- ・大学を中退しているなど色々ハンデがあったためそれについて詳しく聞かれると困った。仕事について先輩とかに聞くのが苦手だったのでそれがすごくストレスだった。
- ・経歴のブランクについての話
- ・職歴の話

配慮のない注意を受けた

- ・30人程度の工場で、雑務で働いた時、「遊んで見える」という理由で怒られました。ですが、この工場では「休んだ人の代わり」が雑務の仕事なので、全ての工程を覚えなくてはならないし、休む人がいなければ仕事がなく、探さないといけないので、理不尽に思いました。
- ・電話対応が苦手だけど、自分なりに頑張ってやってみた。あまり上手くいかなかった。同じ職場の人にもっとしっかりやってみたいなことを言われた。
- ・アルバイトのみ。きつい言い方や嫌な言い方で指示を出す人がいたこと

- ・仕事の指示はいい加減なのに、仕事をミスするともんくを言われた。
- ・上司から配慮のない注意を受ける
- ・服装に関して凄く注意された

職場の無理解

- ・引きこもりから脱出して間もない時期、フルタイムパートの仕事をしていた時上司から「目を見て話せ」と叱責を受け、自身の行動の自覚がなく驚いた（確かに他人が怖い気持ちは強かった）
- ・学校に殆んど通学していなかった為、集団の中での振る舞いが分からず「空気が読めない」と上司から言われた。改善したく「どうしたら良いですか」と問うた所「そういう所だよ」と言われどうしたら良いかわからず途方に暮れた。
- ・うつ病や介護等に関する無理解。サボリやだらしなさとして片付けられてしまうこと。うつ病を持っているというだけで「弱い」「頭がおかしい」「障害者」と馬鹿にされてしまう事。面接官から今までの生き方を説教されてしまう。
- ・「社会人として」「普通は」「常識だよ？」というような、一般の普通の人や方法に当たって、それに合わせる事ができない。努力してかろうじてできるもの普通の人の何倍も時間と体力、精神力を使ってしまう。「あなたには何を頼めばいいのかわからない」と言われてしまう。
- ・ひきこもり経験を開示したこともあったが、その後職場集団の中で立場が悪くなった。
- ・リストカット跡を見られ、嫌な顔をされました。

差別的な態度、発言をされた

- ・山のようにある。「年次休暇、療養休暇、取り放題（上司から）」「あなた変な人だから」「あなた変なことするから」（同僚から毎日のように）「空気を読んで仕事して」「あなたが（職場に）来ると、事務所の空気が緊張してるの気付いてないの?!」「指示した事終わったら、就業時間内でも家に帰って、テレワークして」勝手にシフトから外された。仕事上のグループLINEから外された。などなど。
- ・就労する中で、傷ついたことはありませんが、最後に勤めていた会社が会社精算という形で退職後、先に対する不安から、ひきこもりというよりは、無職の期間が数年ありその後受けた面接において、自分の中では引きこもりとも無職ともつかない期間について、興味本位な必要ない追及や差別的な言葉を受けたことに深く傷つき、社会からひきこもることになり、今に至りました。
- ・面接で差別的な質問を受けた「両親はいるのか？」求人票に記載されている給与と実際の給与が異なる（求人票「時給 900 円」→実際は「650 円」）障がい者の方に対して差別的な扱いをしている（いじめ）
- ・下に見られた時
- ・差別

職場の雰囲気

- ・自分がしてしまったミスや、できていなかったことが噂のようにチーム内で広められることが何度かあった。「周りに信頼されてない」「チームだけでなく、全体まで広まっているのでは」など不安がつのり、そのミス等の理由、その時の状況を知ってもらう（説明する）機会もなくずっと悲しみが残った。
- ・仕事先で人事の人が卒業した中学校へ電話をして担任の先生が私がいじめられていた事を伝えてしまい同期の社員達が私をなんとなく敬遠しているかんじがして居ずらくなって辞めざるを得ませんでした
- ・職場でいじめられキャラに設定され、いちいちからかわれたりマウントをとられたりするものがストレスではあった。

劣等感を感じている

- ・周りに自分と同年代の人が多くて、その人たちがすごくしっかり働いていて、何もかも中途半端な自分が情けなかったこと。
- ・新卒で就職していないので、いわゆる正社員の業務を任されたことがないので劣等感を感じている

労働環境

- ・時間が不規則で、朝の開店前に出勤するのがつらかった。
- ・労働条件
- ・長時間残業
- ・休みがとれない

突然の解雇

- ・一方的に事業主の都合で打ち切られた。そのため収入がなくなり生活が大変になった。文句を述べたらお礼として商品券が送られてきてそれでごまかされてしまった。
- ・とつぜんやめさせられたとき。

セクハラ

- ・職場の年配女性が必要以上に私生活のことを聞いてくる。
- ・セクハラを受けた

その他

- ・ひきこもりの居場所でスタッフをしていたのですが、当事者から攻撃されて入院することになってしまいました。その当事者は「あいつが何で入院したのかわからない」とひきこもり界限にふれ回り、しかも後日私が独りでいる所にやって来て「あなたの考えは判っているんですよ」とこちらを恫喝してきました。あまりの頑固さと自己中心ぶりに正直な話腹が立ちました。
- ・僕自身が失敗して、上司に厳しく注意されていて、そういう時にはフォローするから、

と言った人がいて約束をしたのに、いざそういう状況になったら、様子をただ見ているだけで、フォローは何もなかったこと。フォローどころか、責められるようなことを言われ、僕が何か言おうとすると「は？」と話をさえぎろうとすること。裏切られたような気分でした。

- ・必死に働いたが、いつまで経っても正社員になれず「もう一●！」が永遠に続いた。また仕事の方が乱雑な扱いを受けて怒りがたまり、相手を殴りそうになった。また、支援者にも親にも努力をしていることを認められないので、あえて取得資格名を出して、努力していることを公言している。
- ・長時間労働の中で精神しっかんを発症して何も出来なくなった。働きたいと思っても、年れいのことや、最ていフルタイムから、もしくはフルタイムを目ざすことが社会ふっきの目安となっていて、出来る気がしない。
- ・就労してる人（父）のグチを聞き続けて、充分疲れてしまいました。お金は、有償ボランティアが少し以外は、得たことがないです。
- ・いろいろありすぎて書ききれませんのですみません（自分の内面に問題があるので迷惑をかけたこと）（自閉症なので・・・）
- ・現在も働き続けているが、不安や緊張は常にある。波はあるが、傷つき体験のフラッシュバックも続いている。
- ・異なる障害をもつスタッフさんの特性を理解するのに時間がかかった
- ・アルバイトやパートの意識の低さ・・・酔っている人からんでくる人。
- ・体力がない事と、働いた経験がないことで、心身共につらい
- ・現場への送迎時の身の危険（危険な運転）
- ・研修の不足や作業の説明の不足
- ・交通事故とそれに対する冷酷さ
- ・取引先からの頻繁な要求

③ひきこもり支援をオンラインで受ける際に、どのようなことが心配ですか？あなたの考えを自由にお書きください。

【ご家族の回答】

パソコンの操作、インターネットへの接続が難しい

- ・例えば、自分が相談する事を想定すると、Zoomなどの操作に不安がある。また本人が相談するにも、パソコンすら使用経験がないため、やはり、人対人の場合は、必要かと感じる。
- ・退職する迄は、パソコンを使用していたが、ここ10年間、あまり触れていません。使い方を指導していただきたいと思います。
- ・オンラインでのひきこもり支援を受けるためには、方策が判らない、オンラインでの支援を受けることは、あきらめている。
- ・Zoomは習い事で使ったことはあるがなかなかつながらずうまくいかなかった時もあるので、あまり自信がありません。
- ・パソコンは持っているが、オンラインを受けるまでの設定ができにくい。できる様にする環境、操作に不安がある。

- ・自分のパソコンがないので、息子のタブレットを借りていますが、まだ操作をよく覚えていないので ところが不安。
- ・初歩の初歩利用できる”設定”ができない・利用できるとしても途中でのトラブル対応ができるか？心配
- ・私 75 才もケイタイや機械物のそうさができず、のりおくらせています。そう言う人も多いかと思ひます。
- ・スマホもグーグルとライン位きり使っていないので、オンラインという言葉に不安を感じます
- ・息子自身、余りパソコンなど得意ではないのでオンラインでの対面は可能ではありません
- ・私が、オンラインに対応できません。スマホも、メールとラインしかできません。
- ・オンラインで受ける手立てに対応しきれないので、不可能かと思ひます。
- ・申し訳ありません。そもそもパソコンも使えないので・・・
- ・Zoom など使用経験がないので使用方法がわからない。
- ・オンラインに不慣れなため、やり方がわからない
- ・パソコンの操作に不安がある。ストレスになりそう。
- ・自分でオンラインの経験や環境がない、苦手。
- ・インターネット環境、自宅でできるように
- ・パソコン、スマホ操作に自信がない
- ・パソコン操作できないこと、です。
- ・操作が分からずに焦ってしまう
- ・インターネット操作ができない
- ・パソコンを自由に使えない
- ・パソコン操作が不安。
- ・ネットの使い方

オンラインで微妙なニュアンスや表情、気持ちがきちんと伝わるのか不安

- ・オンライン支援にあたり、本人が、どこまで自分の気持ち等を伝える事が出来るか、(自分の考え、感情を出来るだけ伝える事が出来るか。→本人は伝達しているつもりでも、相手(受け手)が、どれだけそれを汲み取れるか。)
- ・限られた(よく事前に調べたり、対面での接触があつたり)支援者、団体での利用しかしないので特に不安や心配はありませんが、コミュニケーションが取りづらいのがやや不満になります。
- ・対●とちがって、相手の表情や動作、しぐさによる言葉を読み取る事が苦手の為、自分本位のとらえ方にならぬように、回りも配慮が必要と思ひう。
- ・オンラインでは、気持ちを相手につたえるのが難しい。表面的な言葉のやりとりで終ってしまいそうな気がする。
- ・画面を通しての対話になるので、コミュニケがちゃんととれるかどうかいまひとつわからない。
- ・お互いの気持ちが伝わりにくい、やはり対面で相手の表情や動作で伝わり合う事が良い

- ・本音、気持ちが話せるかうまく伝わるか不安(そういったふん囲気があるのか。)
- ・事務的な印象を受け易いのは? ・気持ちが伝わり難いかも知れない
- ・オンライン自体が苦手、疲れる、直接の実感がないので把握しづらい
- ・互いの意図することが、対面より伝わりにくいのではないかと思う。
- ・オンラインだと細かい事情が伝えられるかどうか不安である
- ・対面でしか得られない空気感や発言者の実感がわかりにくい
- ・オンライン上で上手く伝えることができるかどうか。
- ・対面とちがい表情がわかりにくい心配があります。
- ・本人の性格、状態などを正確に把握できるか不安
- ・お互いの思いや雰囲気は伝わるか理解できるか。
- ・細かいニュアンスが伝わるかどうか
- ・微妙な表情がわからない。

自宅だと本人、家族に聞かれてしまう、落ち着いて話せない

- ・本人が支援に対して拒否的な場合、親の側からの相談になるが、不登校、ひきこもりの子が自宅にいるので、子供に聞こえてるかもしれないと思うと、なかなか自宅では受けずらい(一軒家の1Fと2Fとかならいいが、マンションだと難しい)
- ・Zoomですと、家に息子がいるので、大きい声で話すと聞こえてしまうので、本心を正直に話すことが困難にも思う。気をつかいながら、神経をつかいます。電話相談も良いことは、話せるが困っていることは話しにくい。
- ・今現在もそうですが、支援を求めている本人がずっといる為、自宅からがほぼ不可能。相談日時を決める電話も外からかけている。先日オンラインで参加したある講演会では、音声で意見を求められ大変困った。
- ・子供達に聞かれないようにしないといけないのであまり気軽にはできないかもしれません。(うちの場合)・子供達はPCを持っていますが、私は持っていないので簡単にはできないと思います。
- ・家族がいる家の中で、本心や、話したいことを話すのは難しい。PCではなくスマホでも受けられるといい。自宅以外に、オンライン支援を受けられる場所を用意してもらえるといい。
- ・本人が、自分のことを知られたくない。支援の場に行くことを希望していないので、自宅で集中して、支援を受けることができるか心配です。
- ・同じ家でオンラインで行う場合は、その内容が本人に聞こえてしまわないか、また、それを聞いた本人がどう思うかが心配。
- ・自宅でオンライン支援を受けるという事は話を子供達に聞かれてしまうのではないか、という不安はあります
- ・オンライン中に、本人がその場所に入ってきた場合、集中できない、場合によってはケンカの原因になる。
- ・自宅からのオンラインになるとひきこもり本人が居たり、外部の方が来たりとかおちつかない。

- ・話してる内容を本人に聞かれる。本人がいやがるため自宅では話せない状況がある。
- ・息子が家にいるのに、家でオンラインで話すのは気を遣います。
- ・自宅PCの場所だと、他の家族に内容を聞かれてしまう
- ・狭い家なので、本人に相談内容などが聞こえてしまうこと
- ・自宅では相談している内容を本人が聞いてしまう
- ・家が狭いので自由に使えるかわからない。

個人情報保護、プライバシー保護

- ・個人情報が適切に管理されるか (5)
- ・本人は自分の個人的な情報がオンラインの場合はセキュリティがあっても知れ渡ってしまうということを心配しております。私は本人のことを話さない条件で参加しています。
- ・メールで相談できる場合は、個人情報がきちんと守られているか心配で、どこまで自分のことやひきこもりの息子のことを入力していいのか悩みます。
- ・情報ろえいは、大丈夫かなとゆう気がします。パソコン・スマホは便利がいいけど、利便性の高いツールのとなりにには必ずリスクがあると思う。
- ・ひきこもり当人同士だけ見れるあるいは家族が見れる、なら良いですが、他の人や、外部の人には見られたくない。
- ・オンラインを支援で受けられるなら、利用したいと思いますが、個人情報のもれ等は気になります。
- ・顔出しや音声を恐がる方もおられます。配慮していただけるとありがたいです。
- ・オンライン上での内容は、外部にもらさないかどうか。
- ・ネット環境で情報がもれたりしないか心配。
- ・プライバシーが守られること。
- ・個人の特定はやめて欲しい
- ・個人情報の開示
- ・情報漏えい
- ・本人確認
- ・守秘義務

継続的に支援を受けられるか、どのような関係を維持するのか

- ・長期 (10年) ひきこもりの当事者の親は、どこに相談してもまた講演を聞き本を読みあさってもトンネルから抜け出せないことに失望、落胆している。オンラインでは、多様性の中で個別的対応をじっくり長期にわたりしてもらえるか心配です。
- ・本人がイヤになった時に、つながらなくなった時に (ネットを切る) 次のサポートができずに支援が相互に途中で終了してしまうこと。直面談では、その場にいるので、そのようなことがなく相談が続けられる。
- ・個別に事情が異なるので、事情を分かってもらうためには、相当な時間が必要となり、そこまでの対応がしてもらえるか心配。
- ・継続的にやってもらえるか。ある程度、長期間継続しないと全体像をつかんでももらえない

と思います。

- ・ 本人が仕事になれる迄きめ細かく面倒を見てもらえるか？相談相手として気配ってもらえるか？
- ・ 仮にオンライン支援を受けたとして、オンライン支援者と、どの様に関係を維持するか
- ・ 継続的な支援が得られない。
- ・ 毎回同じ方に相談できるのか

支援者が信頼できる人かどうか

- ・ オンラインで受ける際に心配なことは、支援者の引きこもりの方に対する知識、支援経験等がどれだけあるのかということです。オンラインにたどりつける引きこもりの方は、勇気をもってその場に来ることができる人だと思うのです。その唯一の機会を大切にしていけることが、引きこもりの方に対する信頼を得られる一歩のような気がします。オンラインの中身については、家族等の支援も考えられますが、その場合でも支援者の価値観やアドバイスをすすめることなく聴く力、問う力が必要になると思っています。また、家族は不安から解決策等を早急に求める傾向にあると思いますので、その場合でも今起きている事実を伝えられ、段階的に家族の不安が解消される方向性を伝えられる継続支援であってほしいと思っています。実際私も家族として神経内科、カウンセラー等に通いましたが、限界を感じたことを覚えています。一方で本人が回復期にあり就職支援や経済支援などの専門的な知識、要件を必要とする段階であればオンライン支援はとても有効だと感じます。
- ・ 支援を受けるに当たって、相談する側としては①相手が信頼できるか方かどうか②親身になって対応してくれるかが重要なポイントだと考えます。支援者側としては上記を踏まえ「安心できる」ということが分る様に自己の開示を努める必要が求められると考えます。
- ・ 支援者の考えを一方的に言われること。支援者が、こちらのことをわかったような反応をしたり、「わかりますよ」などと言う人がいるから）自分の事を話し出す人がいる。
- ・ 私はしたことがないですが、本人がする場合、なかには悪得行者があるようなので、見きわめることが大切のように感じます。
- ・ 信用できる支援者、団体がみつければ、家族も本人も（もし、希望があれば）支援を受けてみたい気持ちはありますが・・・
- ・ 話を十分に聞いてもらえるか、本人が、心を、開けるか、続けることができるか
- ・ バカにされる。話をきちんときかない。てきとうにあしらわれる。
- ・ 相手に合わせた対等の立場での相談が気がねなく出来る事

そもそも本人が支援を受け入れるか、受け入れるまでに何をすればいいのか疑問

- ・ はたして本人がオンライン支援に興味を持ってもらえるのか？どう促していったらいいのか？家族会からの情報からイベントの参加を誘ってみても拒否されるばかりで見守る事しか出来ないでいます。
- ・ 本人がオンライン支援について、受け入れる事が出来るか、出来ないか不明な点。
- ・ まず、オンライン支援までたどり着けるかがとても気掛かりです。
- ・ 本人が受けようと思うまでに、どういう事をやったらいいか。

- ・本人がひきこもり支援を納得するかが心配である
- ・むすこに聞く耳があるのか（内容について）
- ・本人がオンラインに慣れているか
- ・本人が相談しようと思わない。
- ・本人の気持ち

オンライン支援の環境が安心できるものであるか

- ・もし利用するなら匿名性が確保されてもらいたいが、その場合、匿名なのを良いことに相手を傷付ける言動をする人が現れると嫌かなと思う。
- ・1. 入退出の自由がある 2. コメント発信の自由（語りたときそうでない時）がある
- ・親としては心がつながる様な、オンライン支援にしてほしいと願います。
- ・本人の考えを否定しないこと。逆に容易に迎合しないこと。
- ・信頼して話しやすい雰囲気

今は考えられない/難しい

- ・自主的に受けたことがないので不安。娘がひきこもり始めた頃に相談にいった人から「あなたが太陽でいて」と言われたことがずっとショックで動けない。今は母の介護と世帯主で私しかない。受ける余裕がない。
- ・私たち夫婦は、それなりに学習しているが、本人はひきこもりではないとの立場に立っており、また、今後就労することもなしとの考えなので、オンラインの支援を受けることはあまり考えられない。
- ・本人の準備ができれば必要だと思うが今の段階は難しい
- ・オンラインで支援を受ける予定はありません
- ・オンラインでの支援はむずかしいです
- ・インターネットにつながる気がない

やったことがない/やったことがないのでよくわからない

- ・そもそもオンラインを利用したことがないので、全くわからない（4）
- ・オンラインの相談・支援は、今までに全く使ったことがありません。わからないことばかりなのが心配です。
- ・スマホ、ラインなどはわかりますけど、オンラインはやった事はありません。
- ・よくわかりません
- ・わかりません

会話が苦手なので難しい

- ・本人は電話が苦手なので、オンラインもメール以外は無理かもしれない。
- ・本人が自分の思いを伝える事が苦手である
- ・発言しない、自分の本心を言えない
- ・難聴の為話をするのが苦手です

支援者との相性

- ・相性が合わなかったときに、次につなげることができるか
- ・担当者制かどうか、合わない担当者の場合交代してもらえるか
- ・支援者と面識が無い関係で継続できるかが心配です。
- ・本人に合う相談者がいない。

長時間は負担がかかる

- ・オンラインでの研修や会議に参加した事はあるが、対面とは違って時間が長いと苦痛に思った。(短かければ可) 自宅で支援が受けられるのはとても便利だが、当事者がどこまで前向きに参加できるかギモン。楽しい雑談や気心の知れた方との相談なら良いと思う。そもそも人間関係がないのだから難しい。現実によく運営している当事者会の様子や、オンラインで仕事している人の実態などを当事者自身から聞いてみたい。
- ・オンラインは直接やりとりができてよいと思いますが、長時間は緊張して負担かかるのでアバターなど使う方が話しやすいと思います。リアルで話すと言葉の使い方も配慮が大切だと思います。

年齢的に難しい

- ・特に高齢の親の場合、オンライン会議には抵抗がある。使いこなせない。
- ・私は高れいで無理だと思います
- ・年令的に無理だと思います。

受けたことがないので抵抗がある

- ・家の場合、引きこもり期間が長く、今までの経緯を1から説明するのが、オンラインでは時間がかかり躊躇すると思う。
- ・オンラインということが苦手です。やったことがないからです。
- ・受けたことがないので抵抗があります

料金が心配

- ・格安スマホに入れ替え検討中である。料金が発生する時クレカを持っていないので使用できるか心配です。
- ・支援を受ける際の利用料金が、高価であると、利用をちゅうちょするかもしれません。

本人の様子を見て進めてほしい

- ・本人の意向や当日の体調等への柔軟な対応を考慮して頂きたい。
- ・本人の反応を確認しながら進めて欲しい。

オンライン環境の快適さ

- ・オンライン講演会や、会議で、マイク音声聞きとれないことがあります。事前調整をやって欲しい。

- ・オンライン上では間をとったりがムズかしいのでどこまで快適なネット環境でいけるか。

顔出しなしならやってみたい

- ・顔を出さないでも良い条件でトークしてみたい
- ・顔出しなしでできればありがたいです

当事者が積極的に参加できる工夫

- ・本人が受講したいと思ってくれたらうれしいです。
- ・当事者が積極的に参加できるような工夫

対面の方が大事

- ・オンラインで支援を受けれると知ったら月に1回だけ人と対話しているのに、その為に外に行くのにオンラインだとまた外に出なくなります。人の直接の対話で人になれる事が息子には今大事に思えます。

特にない

- ・今のところ、特にありません。(4)
- ・心配はない

その他

- ・今のところ本人は就職する気がないようだが、新しい生活スタイルにチャレンジしている。家族会はコロナの為休会中で、通信のみ受け取っている。数年在籍したので、定例会の勉強会もひととおりしたものばかりで参加もおっくうになってきている。本人の気分が毎日ゆれているので、対処するのが大変なこともある。相談というよりは家族会で雑談するのが、自分にとって一番よい支援なのではないかと思う。
- ・オンラインだと、各地域からの参加率が上がると思われます。そうすると、対応できる支援に限度が出てくると思います。人材や、支援機関など整備が急務になり、対応できにくくなるとごく一部のみの対応になったり、支援の行き違いが発生するのではと感じます。しかし、オンラインは必要不可欠であると思います。
- ・子供と将来の話をする事もこわくて話できません。本人は一生仕事はしないで、親に面倒見てもらうと言ってます。引きこもりするようになったのは親にも責任があるからずっと親が活着している間は面倒みるようにと言われてます。夫婦はあまり元気ではなく、私は病院通いをしております。主人は後期高齢者です。まずは誰かが子供に病院に行く様に導いて欲しいです。
- ・ビデオ通話など本人の様子が見れるといいのですが。メールのやり取りの場合、伝えたいことをストレートに伝えすぎたりなど、言葉の行き違いに気をつけながらいねいなやりとりが大切だと思います。メールのよさは手軽にできることなので、日々の何げない対話ややりとりから本人の心を開いてもらえるように、少しずつ時間をかけた対応が大切だと思います。

- ・なかなか外出できない本人が、オンラインで人とつながったり相談できるようになれば本当にいいと思う。よくある問題は、本人と家族のズレだと思う。家族と本人が別々に相談していて、家族は、本人がオンラインでつながっていることに安心してしまうと、ズレが大きくなったり、本人の状態がわからなくなることはないか。
- ・仕事も、もちろんだいじな事ですが、これだけ長い間、社会ともつながっていませんので外にも出ていないので今は、とにかく体力が一番しんどいと思います。今、思う事は、とにかくこれからも体が元気ですごしてくれれば、いいと思う様になりました。先の事は、わかりません。
- ・車に乗れないのに無利やり車の勉強に行きしたりは、本人が乗りたいならよいけどちょい心配する。運転免許書の事です。眼が右シャシとかで5才ぐらいの時1年~2年眼がねをかけてたが、いつの間にかやめてる。
- ・対人関係（他者と会うのがにがてである）週に1回程度外出○4時位から3時間程。早朝の時間帯に集中している為、他者との会話もない。親との直接的な会話少ない。必要な時は文面で伝える。~文面で本人の意識を○○れている。
- ・リアルタイムで相談ができる事が大事なので、対応が出来るのか（1日1●1時間など時間単位で不安な事が起きるので）。親の立場だと、ちょっとした事でメンタルが不安になるので本人も、不安、ストレスを感じた時にすぐに気持ちを受けてくれる支援が欲しいのでは？
- ・支援を受けるタイミングが、する側される側共に有効な場合はいいですが、そっとしておいてほしい時もあるので、無理に支援を受けたいとは思えません。人生の節目となるようなきっかけが必要であったりする気がします。
- ・メタバースについて大変関心があり、全国大会に参加された会員の皆さんからも導入を急いで欲しいとの声が見えています。まずはスタートして不都合な○は是正されればよいと思います
- ・私は働らかないと強く拒否しております（私の感想ですが）ひきこもりの会、支援の窓口に行きましたが、結局何が出来るか（私に）わからずただ見守っているだけです（現在）
- ・本人が支援を必要としていない状況で、どのように本人の気持ちを変えるかという点においてオンラインで対面、どちらも相談支援では大差はないと感じている。
- ・ひきこもり支援って何ですか？ひきこもってしまった本人にしてあげられるのは見守ってあげることしかなく本人が一步を踏み出すことを待っているだけです。
- ・ひきこもりを本人の立場に立って理解してくれる人は、この国にはほとんどいません。理解してない人が、どうして、オンライン支援できますか。
- ・本人曰く、顔が見えると参加するのに抵抗がある様に感じるとのこと。直接支援者と会ったが、コミュニケーションがとれていいと言っています。
- ・いろいろな家庭があり、当事者も同じ理由や環境でひきこもりになったのではないので、やり方や答えは、一つではないと思う。
- ・親が要介護になっても 年金があるから生活できる。親がいなくなったら…夫婦だけの老後しか考えていなかった。
- ・何か行っていますが、私が解らないので話しても、あまり話してくれないので、無理に聞

かない様にしています。

- ・きちんとオンラインをつないでいる部屋にいる人の特徴や人数をお互いに明確にしておくことができるか。
- ・①労働条件や労働者の権利がきちんと守られるのか②成果主義でノルマなどの達成条件があるのではないか
- ・本人・家族・支援者ができるだけ同じ方向に向かっていけるような連携した取り組みができると思う。
- ・現在、ズームはできているが、今後メタバース空間に入る時のやり方を学習しなければついていけない。
- ・当人にとって”ひきこもり相談”とわからないような形。生きづらさを抱えている人のための相談窓口とか・・・
- ・自分に都合の良い情報だけ提示するのではないか？（ひきこもり本人、及び親が）
- ・支援申し込みから、実際に支援を受けるまで、時間を要し待たされないか。
- ・傾聴セラピーは要らないです 長いひきこもりには現実の支援が必要
- ・本人の考えや感情を十分受け止められない時点でのアドバイス
- ・1. 個人情報や伏せて他の人の相談を参考に見られるようにする
- ・対面状態よりプレッシャーは少ないメリットはありそう
- ・有用なアドバイスが受けられるか不安がある
- ・仕事をしているため、休みをとりにくい。
- ・どうも実情とじっくり行かない気がする
- ・精神的な疾患がある人への配慮
- ・対面での活○重視したい
- ・あればいいと思う

【ご本人の回答】

個人情報やプライバシーが守られるか

- ・個人情報の保護 (3)
- ・ひきこもり期間は入浴もせず髪やヒゲも伸び放題でした。そのため、自分が人から見られるという事に大きな抵抗を感じています。苦しいときにすぐ助けを求められる様に、相談員から見えないような配慮があると利用しやすいです。
- ・もし自分がひきこもり支援をうけるとした場合、プライバシーが守られているかが気になります。
- ・個人情報に配慮されるかどうか、やり取りの内容を記録として残される事に不安感がある。
- ・ビデオオフでも受けられること、プライバシーが守られるか。
- ・自分の情報がもれるか心配です。
- ・名前や住所を言いたくない
- ・本名であるか否か。
- ・プライバシーの確保

オンラインで会話がスムーズにできるか、自分を受け入れてもらえるか

- ・人つきあいが苦手で気持ちの伝え方が分からない。自分が傷つきたくないで、行動をとどまる所がありせっきよく的に受けようとするか心配
- ・会話がスムーズにできるかどうか？話した内容を理解してくれるか？聞き手に徹してくれるか？表情や仕草で苦しみが伝わるか？
- ・何か質問や確認したい場合、そのタイミングや時間の把握が難しい事
- ・オンラインであってもコミュニケーションをちゃんと取れるかどうか
- ・オンラインでひきこもり支援を受けたことがないの不安
- ・自分は他の参加者に受け入れられているか不安で心配
- ・自分自身を受け入れてもらえるかどうか不安
- ・意思疎通が難しそう
- ・うまく喋れない

操作への不安、機器がない

- ・オンラインが使えない (2)
- ・オンラインで支援を受けるための環境構築 (デバイス・マイク・カメラの用意、アプリやソフトの設定、服装やどのような部屋でオンラインに繋がればいいのか)
- ・オンラインの支援や居場所は、必要な機器のとのえ方の課題もあります。(お金)
- ・パソコンの設定の画面又は手順の手伝い。実際の動画があると安心。
- ・ひきこもりが長く Pc やスマホを始めたばかりでついていけない。
- ・操作に不慣れなことと通信状況等のトラブルが心配
- ・音声・画面の遅延、快適さ
- ・きき、ソフトの使い方
- ・自分でできるか

相手のことがわかりにくくて不安

- ・相手がどんな人 (たち) かわからないと無理なので、やっぱり私は、「すでに知っている団体 or 人」じゃないときついな。知らない場合は、相当詳しく解説があるとか、お試しショートバージョンがあるとかじゃないと… 見本動画とか (イメージとしてでいいので、顔出しなし、声だけ、とかでも) あってほしい。チャットなら、チャット見本画面。そういうのを具体的に見れたら。「向こうのことがわからない」のは不安です。
- ・自宅で受けれることは嬉しいが、画面ごしだと相手の人の感じがわかりづらくて、直接会う場合よりも精神的に距離を感じるかもしれない。オンラインに不慣れなので、慣れるまではすごく緊張したり不安が大きいかもしれない。でも逆に慣れてしまえば、すごく便利だとも思う。
- ・匿名で参加出来るのが、オンライン居場所などの良い所だとは思いますが、主催者含め、誰もその人を知らないという人物が参加されるのは不安です。偽れるオンラインだからこそ、誰かとはつながった人で限定してほしいです。
- ・実際にお互いに会うわけではないので、人によっては実感がわかず、また支援者が寄りそ

いが少ない行動をしているように見える可能性がある。

- ・どんな人が支援をしてくれるのか分からない状態から始まること。事前情報と段階を踏んで進めてくれると安心する
- ・面談は直接でない相手の表情が分かりにくく、不安に思う

(オンライン) 支援は考えていない、受ける価値があるかわからない

- ・オンラインの方が入り口として便利でいいが、オン、オフに限らず、そもそも受ける価値のあるものなのか分からない。このアンケートを見ても、専門家目線で作っている感じしかない。これでは当事者に拒否されるのは当たり前だと思う。
- ・今現在支援を必要としていませんが、オンラインはあまり望ましくない。
- ・パソコンを買う予定がないしオンラインをやる予定は全くない
- ・今は具体的な支援をしてほしいと思わない

対面の方がいい

- ・身体的な実感が持てないので、安心できる関係性につくれないのではないかと、表情、しぐさ、雰囲気等が分からないと、不安。相手を知る、安心できるかが重要だと考える。オンライン支援は今のところ考えられない。
- ・SNS はしんどいので全くしていません。電話、メールも苦手なので、うまく伝えられるか心配です。
- ・不信感があるオンラインでの支援を受けることを考えたことがないが、現状の自分は対面の方が安心
- ・オンラインは、視聴できる量に限りがあるので、できる限り対面重視でやってほしい。

不信感がある

- ・本当にあやしい支援がいるがオンラインでは見抜けない。知人のしょうかいで知り合った人が現在チャットでおどされていて、けいさつに相談している。
- ・オンラインでもそうだが、不特定多数が参加している場だと、理解のない人、差別的な人、攻撃的な人が混っていて、ダメージを受けるおそれがある。
- ・支援の為に銘打って、家族や支援機関に勝手に情報共有されるのではないかと、という不信感有り。
- ・知らない人に本音はいえない（会ったことない人に）

オンライン環境の差で受けられる支援に差ができてしまう

- ・私は今はこまっていないが、そもそもオンラインでアクセスできないひきこもりの人がいるのでは？PC やタブレット、ネット回線を用意するのは金銭的にハードルです。ネット回線やスマホは日々の維持費がかかる。障がい者などは公的な補助が受けられるが、そうではないひきこもりには何の補助も無い。なんとかして補助が受けられるようにしてほしい。中高年ひきこもりの人の中には、PC・ケータイを持っていない人も現実にいる。そういったひきこもりの人に使えるようにサポートしてほしい（使い方もふくめて）

- ・インターネットやSNS、スマホの扱いに慣れていない人もいるかもしれないという部分が少し心配。
- ・個々人のオンライン環境の差で受けられる支援に差が出来る事。
- ・支援のムラ、濃淡の発生

途中でやめることができるか

- ・フラッシュバック等が原因の体調の変化へ対応してもらえるかどうか。
- ・途中で辞められるか

支援者の変更をしないでほしい

- ・自身の過去については、担当の方がいるか、資料でまとめて、何回も話さなくて良い方がいい。要は、支援して頂ける側は、あまり変わらないで欲しい。
- ・相談を受けてくれる相手が、長期的に同じであってほしい(1回ずつ変わったりしない)

自宅では受けにくい

- ・自宅内だと、家族のことが気になり、声を出すことが難しい状況です。(普段は、自室から大きな声を出さないように、ひっそり過ごしている)メタバースは、色々な方法があり、私は今、既存のネットゲーム (FF14)をプレイして、ひきこもりグループで楽しんでいます。
- ・家で相談事の会話をしたくない

特になし、思いうかばない、わからない

- ・特になし (3)、わからない (2)
- ・今ひきこもりではないと思っているので思いうかばない
- ・パソコン操作等には慣れているので特に心配はない

その他

- ・國、都道府県〇〇市町村に熱意が感じ無い。族議員もいない。又、居たとしても、医師、學校乃担任教師、各ひきこもり担当者(役所等)各自治体、各企業、訪問・オンライン支援は望むが、熱意、実行力(能力)人間性による。恐ろしい。怖い。不安。心配。私は祖父母父母(両親)伯父叔父伯母叔母親戚親類縁者自分乃兄弟姉妹、各學校乃各先生、先輩同輩、後輩、友人、知人、御近所、自治会、全て皆無。従兄弟従姉妹て人居るが生きてるか、どこにいるのか?不明。財産相続等全て終了。繋がりは、●、●、●、虚血性心疾患乃主治医である。●寺には毎年4会乃祥月命日乃墓参りをしている。御住所に挨拶をしています。毎年乃年賀状、御歳暮、暑中見舞御中元もしている。以外関係者無。銭か健康が尽きるか?精神障害、発達障害か不明。住宅は保証人無なのでUR。母在命迄は、家賃¥15,800圓→両脚股関節症で身体障害者で家賃減免¥4,400圓。現在、家賃¥39,900圓、共益費¥3,700圓=¥43600圓。●団地に入居申込不可能。ハローワーク、●仕事センター(総合相談●) ●就労移行支援AB職業訓練校(在職者にくらベコースが少ない)

みすばらしい。全てがバラバラ。国（厚生労働省）都道府県、●市町村全て転属配置転換、障害認定医師次第！ドクターショッピング。在宅、医者、仕事、人生搜がし、歳をとる。銭、健康も少しずつ悪化！いったいどうすれば良いのですか？長生きはしたく無い。家庭家族子孫いない。生きるのが辛い！

- ・オンラインでの仕事が、可能になっている為、今後はひきこもっている状態でも働く意欲のある人は働いていけるようになるため、そのようなサポート（自宅でできる仕事）により自立していけるといいと思う。
- ・ひきこもっている状況を改善するために支援をうけたいと思っているのでひきこもっていた過去や現在を否定せずこれから改善していけるように支援してもらえたら嬉しい。
- ・いきなり利用者同士のディベート等の形式が敷居が高いため、最初は事業所の職員等の専門性が高い人に対応してもらいたい。
- ・訪問看護に対しての説明や、訪問して（されて）説明を受けたりする（できる）仕組みがあった方がいいと思います。
- ・仕事中に監視されないか不安になる。厳格な納期がなく、ある程度のいい加減さを受け入れられるかがわからない。
- ・Ipad1 台のみしか自宅になく、wi-fi が通っていない為、ギガの消費量が心配。
- ・私でよいのか、といった不安を理解してくれる人が担当してくれること。
- ・そもそもひきこもり支援という物をあまり理解出来ていない事
- ・リモートは顔がうつるし、声がわりして気にしているから×
- ・否定される、責められる、正論を言われる
- ・励ますだけではない就労支援につながるか
- ・働く事が最終目的でないと好ましい。
- ・いつでも気軽に相談しやすいか？
- ・対面で受ける支援と差異がないか

④現在、ひきこもり地域支援センターを拡充する政策がすすめられていますが、拡充する際にどのような点を強化して欲しいと考えていますか？あなたの考えを自由にお書きください。ひきこもり地域支援センターをご存知ないようでしたら、なぜご存知ないのかを可能な範囲でお書きください。

【ご家族の回答】

支援者の育成、支援者の質の強化

- ・支援する方を育成することだと思います。ひきこもり経験者やその家族が支援者として登録するようなことも見受けられますが、短期間ではなかなか支援者として活動するのは難しいのではないかと感じます。私も経験者ではありますが、他の方の支援ができるとは思えません。もちろん経験者として語る事が無いとは言えませんが、ひきこもり問題は抱える根本の部分を知ることが多くあるような気がします。ただ、全国にはすでに支援者として活動されている方は多くおられるように思いますので、そういう方から直に断続的に時間をかけて学ぶ機会を作ってもらえることも必要ではないかと感じました。

- ・ひきこもり当事者の心情や家族の心情を理解できる専門の方が常にいることが大切だと思います。異動などで他部署から来た方でひきこもりをあまり理解していない方が当事者や家族に対応するのは当事者のことを逆に傷つけてしまうことも考えられるので専門の方を育成していく体制は必要だと思います。そして、まずは家族の方にセンターに来てもらって家族を支援していくことが本人への支援につながっていくと思います。
- ・電話相談を利用したが、どうしたら良いか私自身が悩み、混乱してたのに、「しっかりしなさい」と叱責されているような感じがして、よけいに落ち込んだので定期的に研修等を行ってほしい。後にその相談員を知った時、ひきこもりのことを理解ができてない人で、対応のし方に納得したので。
- ・現在は県に1箇所あるのみですが、県庁所在地以外の市で新たに開設の動きがあります。現在の県担当者（常勤1名）は、ほぼ3カ月毎に新任者と交替を繰り返しています。最も大切なひきこもりに対する知識と理解が根付かない組織となっています。市、町にセンターが拡充を機に、使命感をもつ人材を発掘育成配置する必要性が高い。
- ・ひきこもりに対しての理解を深めた状態でのスタッフの配置をしていただきたい。研修や聞き取りなどを充分実施してから関わって欲しい。
- ・“ひきこもり”をよく理解しているスタッフが多くいること 本人のその時の精神状況をよく見てくれる所 無理に何事もさせない
- ・継続して相談できるよう、支援にあたる方に研修していただき、ひきこもりについての理解を深めてもらいたい。
- ・アウトリーチ、息の長い伴走支援の声は挙がっていますが、それを担う支援職員増員と質の確認をして欲しいです
- ・受け入れる側の資質を高めてもらい、継続的に支援してもらいたいと思うような資源にしてほしい。
- ・担当者が「ひきこもり」についてしっかりと理解した上で対応できると良いが当県は・・・
- ・ひきこもりを本当に理解することが、まず必要です。それなしでも何をやってもムダです。
- ・支援者が、相談者のことを理解し、寄りそえるような人。経験知識が豊富な人であること。
- ・気軽に電話で話せるような、カウンセリングスキルを担当者が持って欲しい
- ・ひきこもりに理解と知識を持った人材の確保。短期間の関わりで終らせない。
- ・本人や家族の気持ちを汲み取り理解できる支援者を育てて欲しいです。
- ・とり敢えず関る人がひきこもりを理解して下さることを希望します。
- ・スタッフのスキル。経験（対応経験）、人員、柔軟性、
- ・ひきこもりに対して研修された方を配置して欲しい。
- ・引きこもり間する豊富な経験と知識のある職員の養成
- ・本人への支援が、本人を理解して進めて欲しい
- ・ひきこもりに理解のある人材の育成
- ・支援者の質の向上、増員
- ・支援者の育成の強化。
- ・支援者の人材育成。
- ・優秀な人材。

事務的ではなく、真剣に、親身になって対応してほしい

- ・行政が行うひきこもり支援は、上から目線のことが多いように感じるし、ひきこもり本人や家族のことを理解していないように思われる。このことにより、職員研修では、元経験者や当事者を招いてよく話を聴く研修をやってほしい。支援ではなく、共に歩いていく伴走者であってほしい。問題は解決しないでもよいから、丁寧に聴く力を養ってほしいので傾聴の研修が必要かな。そして、そのあとにアドバイスを！！
- ・●市では「福祉部福祉総合相談室」が何でも受け付け他の課にたらい回しにしないと対応してくれるが「聞いてメモしてくれるだけ」にとどまる。専門的な窓口につなぐと言って「KHJ●という民間団体がある」と紹介されて終わる。はっきりと「ひきこもりセンター」と看板をあげ特化してとりくむ所が出てきてほしい。
- ・一度近くの支援センターへ本人と行ったが、何か取り調べを受けている感じがして馴染めず、一度で止めてしまった！「ひきこもり」の言葉に重点を置かず、誰でも何でも話せる井戸端的な気軽に話せるそんな場所がほしい。自分の近くにはそういう場所がないのであったら解決せずとも息抜き出来るかと・・・
- ・勝手な言い分ですが、ひきこもりの家族は近所、親セキにも家庭の事情を話しできない状態です。地域センターでも、本当にしんみりになって、相談に乗ってくれるのか、ただ、通り一辺の事ム的な面もあって、本当に困っている。事がわかってもらえないような気がします。
- ・「ひきこもり地域支援センター」という言葉を初めて知りました。高齢者の地域支援センターを区役所で紹介され、相談してみた所（両親のケアの相談ついでに）あまりひきこもりに理解ある対応がなかったなので、「そこは使えない」と認識しています。
- ・形だけ整えて、箱物がそろっても意味がない。窓口立つ担当者が、どこまで本気で当事者やその家族に寄りそい、専門性を持ってアドバイスできるかにかかっている。そこがただの「お仕事」となっているなら、相談に行く意味もなくなってしまふ。
- ・以前ネットでは知ったが、ネットで調べて内容を知った所で利用しようと思わなかった。形式的だと感じ、その後は「ひきこもり地域支援センター」につながる気にはならなかった。形式的なだけの点を改善してほしい。
- ・勤務している職員が、本人、もしくは家族に対して、気持ちを良くわかってくださっている方が良い。本人からもあまり行きたくないと言った事があるし、わたし自身ももう行きたくないと思った経験がある。
- ・支援センターであっても最初は良く話をきいて欲しい。それから、どんな支援があるのか、何が必要なのか相談にのって欲しいです。
- ・結局何もできないことをつきつけられることや言葉の使い方には留意してほしい。雇用体制と面談ログきちんと残すこと。
- ・公的機関の冷たさ、無関心、バカにしたような態度等に呆れて行く気がしない。従って行かないし、知らない。
- ・今のひきこもり支援センターはただ、上から目線でお役所仕事をしているだけで税金のムダ使いです。
- ・担当者が本気でひきこもりのサポート、支援を考えていない。事ム的で、無自覚、無責任。

- ・過去相談事（複数所相談行っていた）「提供できるものが何もないです」で終わった。
市の担当者は、表面だけ取り繕い、親切ごかし。相談したくなくなる。
- ・いつも忙しそうで相談しにくい、しょせん仕事としてやってるだけ
- ・支援者がある程度忙しくされずにゆっくり対応してくれること

身近な地域に支援センターを設置してほしい

- ・私の方は、子どもが50親が70の世代に入ってきていますので、心配は親なき後のことばかりです。ですから、自由にいつでも行ける所、きらかに、行ける場所、そこにはしんらい出来る方がいらっしゃる所で、そうだんできる場所が近くにあればと、いつも思います（●市内にほしいです） 本人たちが、あつまれる場所、話できる場所、もっといろんな所が近くに出来てほしいです そこには、あるていどの、しかくを持っておられる方がいて、そして本人たちのそうだんにのってやってほしいです よろしく御願い致します。
- ・アクセスが良い事 あるいは家から近い所にある事（支援センターの数を増やしてほしい）
- ・すべての市町村でひきこもりの地域支援センターが設置・運営されるようにしてほしい。
- ・各市町村レベルで拡充して欲しい。県に1箇所では少なすぎる。
- ・交通手段→電車、バス等で通える場所に・・・（駅から近い等）
- ・近くで支援を受けられたらいいと思います。
- ・本人に出向けるような地域であって欲しい。
- ・●ですが辺鄙な場所にあり通にくい
- ・身近かな場所(各市町村)にあるとよい。
- ・3交通の便の良い所に設置があると良い。
- ・市町村単位くらいに設置してほしい。
- ・本人居住地のすぐ近くにあること。
- ・近すぎても、遠くても行き辛い
- ・身近な地域に作って欲しい。

気軽に利用できる雰囲気

- ・ひきこもりと断定せず、地域包括センターとして誰でも気軽に立ち寄り、相談できる所が良い。また、健康相談、健康講座など定期的に実施し、いつでも誰でも利用できるようにし、家庭と地域のセンターがつながっている事が望ましい。家族が孤立しない仕組みがあるといいと思う。
- ・生きづらさを感じている人が気軽に出入り（利用）できる施設であってほしい。センターの職員のもの見方の共有化、「支援」というより「その人らしく」を尊重し本人の考えが大切にされて何事もその人ペースですすめられるように。
- ・最近、回りでいろいろ支援がはじまっているのを感じますが、近くで、本人が仕事をしなない事を気にしなくて、回りの人と気軽に話せるようになるふんいきがほしいと思います。
- ・本人達にとって一歩踏みこむのは、すごい勇気がいることだから暖かく迎え入れるふんいきが大事だと思う。

- ・誰でも気軽に行く窓口となるようにしてほしい（しきいを低くする）
- ・ひきこもり本人が自由に出入りできるような環境であってほしい。
- ・当事者が相談しやすい雰囲気 就労に特化しない相談窓口
- ・当事者が安心して相談できる様に対応してほしい。
- ・誰でも自由に入れようふんいきであってほしい
- ・相談しやすい窓口と、気安い雰囲気づくり
- ・自由に出入りできるような雰囲気作り
- ・気軽に相談できるようにしてほしい。

訪問支援

- ・訪問支援（4）
- ・ひきこもりから脱出できるように「こちらに来て下さい」ではなくて、家へ訪問して、当事者と話しができるようになって、脱出できるパターンがあると思う。行政は、やっているのでしょうか。当事者が動き出そうとしても、毎日顔を合わせている親では、できない事もある。他人の大人の力が必要です。病院に行きたくても行けないんです。家に来て、タンカーで、車まで連れてもらえれば受診できます。外には、行きたくないけど、病気にはなりたくないんです。救急車呼んで欲しいと言われます。
- ・息子の場合、ひきこもり歴も長いと社会との接点を持つことがかなりむずかしいと思われる。このため、家庭訪問をする専門員を拡充し、能力を強化してほしい。
- ・長期のひきこもりの方は、家庭にとどまっています、支援につながっていません。まずは、本人の意向もふまえてねばり強い訪問支援。
- ・本人が会うことができれば、自宅訪問のサービスもあれば有難いと思います。
- ・訪問による支援をお願いしたい（家族だけでの解決はむずかしい）
- ・必要に応じて医師、相談員が訪問してくれる
- ・訪問支援をあきらめないで欲しいです
- ・訪問を充実させて欲しい。

伴走支援

- ・引きこもりの状態は、一人一人異なります。マニュアルは存在しません。前例の成功例は役立つ物ばかりとは、かならずしも言えません。労働に継いで行く事を最終目標にしても、達成までには、かなりの年数が、かかります。効果(成果)も不明です。(本人の状況による)又、成功体験の維持も、どれだけ持つか不明です。粘り強い支援を行って行く点を、かなり強化していかなければ、支援の途上で家族が持たなくなる可能性が充分有ると思います。(精神的、家計的に)担当職員の方は、2~3年(長くても4~5年)程度で異動可能かも知れませんが、異動の際には、次に担当する方の為に、しっかりと伝え置いて頂きたいものです。
- ・一度本人と両親と精神科医と面談して、精神科に行くようにと指示され、これで心の健康センターから手が離れてしまいます。本人ともう少し関りを持ってもらい、どうしたら本人が外に出て行けるか教えてもらいたいです。親は何でもします。

- ・継続して、長く、付き合っていける事が人の理解に繋がると思う。本人があちこちの会に積極的だが、満足が得られないまま、渡り歩く様な事は感心しない。
- ・本人の気持ち、状態を正しく理解し、慎重にアウトリーチでき本人、家族に親身になって寄り添う伴走型支援ができる。
- ・本人の状況が変わっても継続可能である事。(ひきこもりの浅深で態度を変えられる事が一番きつい)
- ・家族の相談にも一緒に考えていただけて、伴走してもらえる支援。
- ・同じ気持ちになって一緒に伴走してくれる人材が増えて欲しい。
- ・ひとりひとりに寄り沿いずっと支援して欲しい
- ・継続的支援

就労支援、就労に向けた支援

- ・発達障害があっても短時間から働くことができる職場が近くにあるとよい。ひきこもりの子どもに対して心傷つけるような行動(言動)はしてほしくない。
- ・就労について、相談できたり、就労につながる様な、例えば、見学に行けたり、資格がとれたり、就労にむけたステップUPできたらよいと思う。
- ・外で料理とかちよとの仕事はとってもよい、生きがいになると思うのでお金もいただける仕事はよいと思うけどなかなかでしょうか。
- ・ハローワークとの連携。ひきこもりの状況、程度に応じて、どのような仕事、企業、条件が考えられるのか知りたい。
- ・支援の発展がある事。カウンセリングから就労支援に至るシステム。
- ・職業を多くおしえてほしい。働ける場所を提示してほしい。
- ・本人が可能と思われる就労プランと就労窓口の紹介
- ・多くの職種を開拓してほしい

他機関との連携強化

- ・家族会とか、当事者とかとつながっている連携できていること、支援者のみの体制ではないこと。
- ・医療とも連携して、専門家(発達障がい)などの支援もうけれる様にして欲しい。
- ・民間団体を含むいろいろな機関との双方向の連携(紹介してはいおしまいではなく)
- ・他の行政機関との連携(せめて、市内だけでも連携してほしい)
- ・支援センターと民間などとの連携も強化して欲しい
- ・地域との連携、他支援機関との連携
- ・臨床心理士のサポートが受けられる
- ・あちらこちらのつながりと、情報共有
- ・各種関係機関の連携強化
- ・民間との連携

ひきこもりの人が安心して生活できる支援

- ・在宅者の方を無理に外へ出す様な仕組みではなく、いつも忘れずにいますよ、困った事があればいつでも言ってくださいのスタンスで、距離を保った関係を持てる人、知識のあるピアサポの方がそれを仕事として生きて行ける仕組みが大変重要であると考えます。
- ・8050 問題の相談と家族の関わり方について相談していきたい事と本人が安心して、一人でも暮らせる体制づくりを強化して頂けると有り難いです。
- ・ひきこもりの人が生活しやすいようなサービスの充実
- ・本人が家庭で元気に安心して暮らしていくための支援。
- ・安心して生活できるような国であってほしい

個々に合った支援の強化

- ・ひきこもりと言っても色々なケースがあります。ひきこもりと一方的な概念にとらわれず個々に合った支援をしていただきたい。又、支援する側の考えによらず当事者の方々はどのような支援をしてほしいのか、かかわり方をしてほしいのか、逆にしてほしくない事はどのような事か等、良く聞いてほしい。なにより、当事者の立場に立った支援を望む。押しつけは一番良くない。
- ・社会的ひきこもり（ノイローゼレベル）、精神障害をかかえる場合、発達障害の場合とかなり対応がちがう必要があるのではないのでしょうか。息子の場合、ASD 傾向が強く、孤立し、家族とも困難をかかえています。この点に配慮のある政策をとって欲しいと思います。
- ・1人1人の要求することを的確に把握することが難しいと思いますが、1人1人の進みたい方向へ支援ができるようにしていただけたらと思います。
- ・幅広い年齢層を受け入れて、その年齢にあった細かい支援が希望です。
- ・個別支援の強化→カウンセリングを増やしてほしい
- ・その人それぞれに合った支援

居場所の設置、運営

- ・ひきこもりに限らず、心に悩みをかかえている人なら誰でもつどえる場所。コーヒーでも飲みながら対話のできる自由な空間。
- ・ひきこもり当事者が居場所として活用できるスペースを設けてほしい。
- ・当事者のために週1回は居場所を運営してほしいです。
- ・市町村に居場所とスタッフの配置があるとよいと思う。
- ・引きこもり本人の居場所が増えればよいと思う
- ・居場所の設置（通いに負担にならない距離）
- ・居場所を作って欲しい
- ・居場所の数を増やす。

マンパワーの強化

- ・以前相談をひきこもり地域支援センターで行いましたが、相談に到達するまで1ヶ月以上を要した。2回目、3回目も間かくが長く、早期に相談できるように担当職員の増員など対応が必要。本人ひきこもりグレーゾーンです。本人はひきこもりと思っていませんが、

限りなくひきこもりの状態と親は、とらえています。月1回本人がボランティアとして社会と関わっているということで相談は、途中で終了しました。ひきこもり支援センターのその後のフォローはありません。フォローが必要です。むしろ、家族会の学習会で学び得られることが多いと感じています。

- ・センターの人材確保が必要、有資格だけが適しているとは限らない、当事者や、経験者の起用が有効。拡充も必要だが地域性があり設置されていない市長村もあり、ひきこもりを取りこぼさず、死なせない施策が必要。
- ・一度も社会に出たことのない完全ひきこもり者にも対応できる有能なスタッフの拡充
- ・元当事者、支援経験者など、経験豊富なスタッフをひとりはおいてほしい。
- ・相談員の増員をして下されば頻回に相談できる日が多くなるのでは？
- ・担当者を増やして、担当者をなるべく変えないで欲しい。
- ・スタッフの増員、研修
- ・マンパワーの強化。
- ・スタッフの充実

支援センターの周知徹底

- ・今現在、お世話になっている支援センターの方々には、本人、私にとって良き理解者、相談者となってくれ、ありがたい存在です。偶然にも自宅近くにあり助かっています。遠方の方や、ご存知ない方へのPR、又相談員さんを増やしたり、支援場所が増えると良いと思います。本人や家族の「どうしたら良いかわからない」「どのように接したら良いかわからない」等、SOSをキャッチできる社会であってほしいと思います。当事者は言葉に出せません・・・家族にも・・・友にも
- ・今、臨床心理士の先生と、月2回お電話で相談させて頂いてます。とても親身になって相談にのって下さりありがたいです。知り合いの、ご年配の方で、お子さんが10年以上ひきこもっているようですが、誰ともつながってなく、目が悪くて新聞も読めなく、そういう情報をテレビ等で教えて下されば、いろんな方が情報をもらえるのあではないか？と思います。
- ・支援センターへの相談につなげられていない方が多くおられると思いますので、センターの広告・宣伝をもっとやってほしいです。もはや特別なことではなくなっている状況で、相談への敷居が低くなる方向に、持って行ってほしいです。
- ・引きこもり支援で検索しても煩雑と色々なサイトが上がってくるので、支援センターの情報がすぐ出てこない気がする
- ・支援センターの存在が周知されていない。親の会等いろいろな場で宣伝(?)していく必要があると思います。
- ・地域支援センターの存在は、全く知りません。行政の広報の仕方が足りないのか、わかりません。
- ・ひきこもり地域支援センターについて、あまり情報がとどいていないような気がします
- ・「ひきこもり地域支援センター」の役割を広めて行ってほしい。

夜間・休日も相談できる場

- ・17:00 時以降とセンター休館日をカバーして欲しいです。カバーすることを民間団体に委託するなら、情報を掲載するにとどまらず、その団体が存続するための予算確保等に助力をして欲しいです
- ・結局は、相談してても、解決するのは自分自身なので、何が出て、何をしてもらえるのか？リアルタイム（24h）に相談、話しを聞いてもらえる機関が必要なのではないか
- ・ひきこもりに関する相談が平日しか行われていないので、土日に相談できたらいいと思います。
- ・必要に応じて医師、相談員が訪問してくれる・休日、夜間でもつながるようにしてほしい
- ・しゅう労の初期の方のために夜間に開いている日があればいいと思います。
- ・土・日も利用・対応が可能だと利用しやすい面もあると思う。
- ・休日、夜間でもつながるようにしてほしい
- ・（土）（日）（祝）も行けるとよい
- ・役所と同じで平日だけでは困る

支援体制の充実、支援内容の明確化

- ・各地で取り組みは工夫されていると思うので、対応の方法や事例などの紹介をして、各地での取り組みがより良くなるようなコーディネートが必要だと思います。そのために、それぞれの地域の取り組みの状況を知り、市域への理解が必要なのではないかと思います。
- ・支援センターが、対応先を紹介するだけでなく、解決に向けた具体的な取組みに参画してもらいたい。
- ・行政が地域のひきこもり者を把握し、生活に対する支援の内容を具体的に示して欲しい。
- ・支援して貰える方法とか親に対する生き方とか明かりが見て来る様なアドバイス。
- ・何をしてくれるのか、何ができるのか具体的な支援内容を明確にしてほしい
- ・ひきこもりの本人と家族をすくいあげるシステムが充実されるとよい
- ・具体的な支援内容の拡充、充実などを強化してほしい
- ・今後を含めて利用できる制度やサービスの内容
- ・支援（社会生活・就労者）体制の充実
- ・当事者・家族目線での支援体制の構築
- ・もう少し支援があったらと思う

期待していない、信用していない

- ・ひきこもり地域支援センターは、存在は知っていますが、今は退職していますが、子供達が（夫も）公務員だったために内情、実情を（公務員のやる気のなさとか、知識のなさとか）いろいろ聞かされているので、信用していません。
- ・●市中核都市であるにもかかわらず、設置されていない又設置する意向もない。ひきこもり相談について担当する課もその実態は明らかになっていない又開示する考えもないように思われ、閉鎖性を強く感じます。
- ・以前、市のひきこもり担当の人のお世話になったことがあった。しかし、あまりに理解の

- ない対応に落たんし、期待していないため、それ以上の機関について調べていない
- ・知らない。行政機関は事務的に対応するイメージがあるため特に期待しておらず、情報収集していない。
 - ・行政の支援は形骸的なものが多いような印象があるので正直あまり期待はしていない。
 - ・あまり期待していない。

”ひきこもり”という言葉に抵抗がある

- ・●はひきこもりの相談は障害福祉課です。なぜかと聞くと、ずっとそうだったから、という返事でした。昔はひきこもりという言葉もなく、対応するところが他になかったのかもかもしれません。でもひきこもりは長い生きづらさの積み重ねで起こった状態だと思います。障害と呼ばれるのは親としても辛いし、その窓口には行きづらいです。(実際相談に行っていますが) 行政にひきこもりに合った窓口を設けてほしい。「ひきこもり」の名を変えてほしい。
- ・自分が意識しすぎているのかもかもしれませんが「ひきこもり」ということばに否定的な意味あい、ニュアンスを感じています。本人は「ひきこもり」を否認しています。何かよい表現はないものか。拡充する、支援がふえるのは賛成です。敷居がたかくなったら良いと思います。相談できる場、機会がふえたらよいです。
- ・「ひきこもり」という言葉を、本人達は、嫌がっていると思うので、それ以外の名前にできればしてほしい(そのままだがわかりやすくはあるけど) でもその為に行きにくい面もある。
- ・看板に”ひきこもり”の文字を入れないでほしい。
- ・「ひきこもり」という看板を掲げないでほしい

人と交流できる場、交流したいと思える場

- ・就労に向けての支援も良いが、それ以前に社会とのつながりのきっかけとなるような取り組み。例えば、居場所作りとかボランティア活動への参加とか、そういう情報にアクセスしやすくなるとよい。
- ・拡充する際に強化してほしいことは、当事者のつながりをつくる。(回復者のリーダーを育て、訪問等ができるしくみが必要では)
- ・ひきこもり当事者同士が、つながる場所、一緒に色々経験できる機会がほしいです。
- ・本人が交流したいと思える様な流れをつくれる様支援して頂きたい
- ・人との交流ができる期会を増やしてほしい
- ・体験活動の充実

オンライン支援の充実

- ・拡充する政策において強化してほしいことは、二つほどあります。一つはwebの充実です。現在はほとんどの方がスマホをもつ時代になってきていますので、わざわざPCを開く方は減っているのではないかと思います。スマホやタブレットなどの媒体を用い、すぐに欲しい情報や支援を受けられる環境が必要なのではないかと感じました。そのためには見や

すさは大切なのではないかと思います。Webの作り方などは工夫する必要があるのではと思います。現在のPCサイトでは画像を貼り付けているところもあるようですので、そのところはちゃんと文章で作ってほしいと思います。

- ・私（親世代）はオンラインなど苦手ですが本人には利用し易いツールになると思うので、これから地域支援センターでもそのような窓口があれば本人がアクセスし易いかもしれないとこのアンケートを応えながら思いました。
- ・行けない時にリモートで面談できる
- ・オンライン対応も、強化して欲しい
- ・オンラインでの相談の充実

どこに頼ったらいいのかわからない

- ・又以前に比べひきこもり支援が情報、支援活動、共に多くなってきたと思いますが、それ由に、どこに頼ったらよいかかわからないという面もあります。点在する支援の窓口（総合案内？）的な存在があるといいのですが・・・
- ・適材適所の相談窓口がよくわからないので、どいういう状態の時は、どうしたらいいかを具体的にわかる制度ができるといいと思う。
- ・名称がそうになってない（サブタイトル的にはあるが）
- ・支援先の確実な状況とか情報とか教えて欲しい。

ひきこもりを作らない支援

- ・すいません、ひきこもり支援センターの役割をよくわかっていないのですが個人的意見として。高校生になると、義務教育もはずれ、学校の対応も薄くなり、不登校から留年、退学まであつという間です。親はどうにかしなくては・・・と右往左往しているうちに、気がつくとき引きこもりになっている・・・というのはうちだけでしょうか？是非、高校生くらいからの不登校とも連携し、幅広い年齢に対応していただきたいです。
- ・ひきこもりの対策の重実も大切ですが、どうしてひきこもりが発生してしまうのか、現代の家族が致命的にかかえている根○的な問題を追求すべきだと思います。
- ・登校拒否、いじめ問題から、先生方に熱心に勉強して頂き、ひきこもりにならないように先手をうって欲しい。（ひきこもりの予備軍だから）
- ・ひきこもり支援ではなく、ひきこもりにならないような学校、社会、親への支援が必要だと思います。

専門家の配置

- ・心理士さんの配置を多めにしてほしいです。相性があると思うので、何名かいらっしやると助かります。
- ・いろいろな分野の専門家や、経験者との接触できる機会があれば良い。
- ・専門家の助言が得られる環境
- ・対応に習熟した専門家を希望。
- ・専門家の在せき

ひきこもりに対する社会の理解

- ・本人や家族に対しての支援も大切かも知れませんが、行政が取り組んでいただきたいことは、社会、世の中の人のステレオタイプのイメージを変え、一度レールをはずれても受け入れる、入りやすい仕組みを作って欲しいです。
- ・物理的な拡充も大切だと思いますが、「ひきこもり」に対する偏見をなくすような啓発活動も大切だと感じています。
- ・また、ひきこもり当事者への関りだけでなく社会の偏見がなくなる取り組みを願います。
- ・ひきこもり者への社会の理解を高めて欲しい。

支援場所に行くことができない方への支援

- ・自ら、求めていかないと、支援が受けられない現状です。支援センターに私が何度か通ったが、当人が動いて、カウンセリング等に来ないと始まらないと言われた。そうでしょうが、他人に期待をしていない本人(ひきこもり)は、動けません。
- ・相談に中々行けない人もいるし、支援センターを知らない人も多い。相談とゆうのは、大人だってハードルは高いから、本人は行けないと思う。私も、通院の方が先だし。本人が身体を壊しているのに通院しようとしなない。
- ・支援場所に行くことができないひきこもりの人達が大多数であるので、そういう人達を支援できるような体制を強化してほしい。
- ・窓口に来ることができない人達に対する対策に注目して欲しいと思います。

保護者支援

- ・ひきこもり本人だけでなくその保護者のケアの強化
- ・親に負担が軽くなる様な勉強会など材料がない。
- ・孤立しがちな家族の支援も強化してほしい。
- ・親の支援もできる場も作ってほしい。
- ・家族会が利用できるスペース

本人に支援を受ける気持ちがない

- ・政策は、私の勉強不足で存知なくて申し訳ございません。本人は、家族のコミュニケーションをさけてますがいない時は自由に家の中を行動できているようで、それは一安心ですが、一歩外出す、外が怖いようです。いつか一歩外へ出られる支援をしていただけるとありがたいです。
- ・わが家の場合、本人が行く気になっていないので、内容以上の問題でつまずいているので、参加して、仲間やスタッフの方々と話ができるところまでいけたら嬉しいという状況です。
- ・本人が一歩前に出ないと助けてもらえない、でもその一歩が出ないので困っている。
- ・まず本人のエネルギーがでていないのに親が行く意味はない気がする。

居住地の違いによる支援の格差をなくしてほしい

- ・私の住む地元のひきこもりの支援は他の市に比べ、薄いと思っています。ひきこもりの人

に寄りそい、社会にでていけるように力をかして頂きたいと思います。

- ・拡充も必要だが地域性があり設置されていない市長村もあり、ひきこもりを取りこぼさず、死なせない施策が必要。
- ・地域によって内容に差がある様で、我が家の状況が良くなるのか、果たして、よくわからない。
- ・居住地によって、支援の差があるように思う。市や町ごとにあるのが、望ましい。
- ・地域によって支援の差が激しい。横断的な支援を実施してほしい。
- ・どこでも同じ情報を平等に得られること

利用したことがないので何をしてくれるのか不明

- ・どういうことをやっているか、正直なところ分からない。PR度が少ないのか、対応してくれるの？とうたがってしまう。近くに無さそうなので。
- ・使ったことがないので、よく内容がわからない
- ・何をやっておられるか、その内容を知らない。
- ・そこでやっている内容がわからない。

担当を変えないでほしい

- ・担当の方が2年ごとに変わるので継続中の事柄があると途中でとぎれてしまうのではないかと、当事者との信頼関係をまた作っていかねばいけないのが不安。
- ・職員の方は、専門職として、移動がなく、変わらないで担当して欲しい。ひきこもり経験者や家族なども、その中に採用して欲しい（他人事でなくなるから）
- ・担当される方と何度か面談し、あわなければかわってもらえる
- ・担当される方を変えないでほしい（本人とあっていれば）
- ・担当者をひんばんに変えない。

ひきこもりの方が活躍できる場

- ・本人の思いや作品などを世間に向けて発表できるような機会をつくること（本人のやる気の向上や承認欲求を満たすことのできる何かしらのしくみ）
- ・ひきこもりは頭の良い方が多いので、もったいない。他の良い分野での活やく場所を見つけて欲しい。

支援センターを知らない

- ・知らない。あるかもしれないが、満足したことはない。何が支援なのかを考えるとところから始めてほしい。一人一人内容は違うと思う。ひきこもりであってもなくても同じ人間として扱う支援。お役所仕事、上から目線NG、共に成長できるような支援
- ・ひきこもり地域支援センターを知りませんが、一般的な情報が身近にありません。
- ・地域支援があることは知りません。遠い場所に相談に行っています。

出張相談、出前相談

- ・小規模な出前相談の様なことは出来ないでしょうか。
- ・出張してきてもらって相談できる所が欲しい。

就労に特化しない

- ・就労ありきで対応して欲しくない。先ず寄り添う事から不安が弛んで来さえすれば、本人が仕事をしたい、収入を得たいと自分から思うようになり、前に進むエネルギーが出て来るものだと思います。実際に当家の2人の娘も、自分から自主的にやれる事をやり始めました。このアンケート対象でない娘は、自分から働きたいと思っている、と私に言いました。
- ・就労に特化しない相談窓口

相談内容を共有し、何度も同じ話をしないでいいようにしてほしい

- ・電話で話した後、来所予約を取ったが電話で話したことをもう一度繰り返して聞かされただけでした。会社を休んでまで行った甲斐は何一つ得られなかった。もう知っている家族会を紹介されたり、子供の学力を調べられたり、ただのデータ採集の為に通わされただけでした。大阪の方にはひきこもり家庭に通ってくれる所もあるとか、●県は町村部のみ家庭訪問してくれる傾聴セラピーとかがあるそうですがうちの隣は町ですがうちは市なので来てくれません
- ・傾聴セラピーに来ていただいても何か変わるとは思いませんが。傾聴は最初の3ヶ月位までその後は具体的な支援をしてくれる機関が欲しいです。場所を紹介してくれるだけでなく紹介した場所へ本人家族の了承を得て今の状態を伝えて欲しいです。次に必要な場所に行くにも最初に引きこもった時期理由などをまた最初から話す所から始めるのは苦痛でしかない。家族会が最後の砦です。専門家よりずっと頼りになります
- ・相談者の情報の共有で、相談時に同じ事を何度も話さなくて良い状態にし、相談時間内で色々な話ができる様にしてほしい(色々な症例(実例)から特別な事ではないと安心したい)

実態調査

- ・地域支援センターに、相談に来る人を待っているのではなく現状はどうか?と調査をして支援の手を差し出して行く姿勢がいまやるべき事ではないですか。
- ・全戸調査を行い実態の把握をして欲しいです

センターの必要性を感じない

- ・本人(当事者)がひきこもり地域センター等の外部団体に全く興味を示さず、むしろ、避ける傾向にあるので、親としても知ろうとする動機が欠如しているから
- ・センターの必要性が私自身理解できていない

個人情報保護

- ・プライバシーが守られるような相談部屋であって欲しい

- ・個人情報の保護

あるのか不明

- ・県庁所在地とかだと充実している、地方の中小市町では、センターがあるのかなのか不明。
- ・市の広報などにもそのような言葉が見当たらず存在しているのかわからない。

明るいイメージに

- ・ひきこもり支援センターのイメージがどうしても古いイメージに思うので、もっと明るくオープンなイメージにしてほしい
- ・カフェのようなきれいな環境になるよう建物も工夫してほしい

アウトリーチの充実

- ・本当に苦しんでいるひきこもりの人は、外で出ることができません。アウトリーチも充実させてほしいです。また、アウトリーチできる人材のスキルアップも力を入れてほしいです。ピアサポーターを適切に活用できる、仕組みも必要だと思います。
- ・アウトリーチができる

特になし

- ・特になし (2)
- ・今のそれぞれの家庭の人々が集まって互いにより良い方法を受け取っている、特に強化しなくても良いと考えます。又その内容は思いつきません。

わからない

- ・一生懸命考えましたが、「私が何とかしなければ」「私が変わらなければ」「私の責任」の考えが抜けなくて外に向けません。ごめんなさい。
- ・情報を収集している段階なので、よくわからない
- ・よくわからない。

その他

- ・●県の場合、こころの健康センターが近くの保健所を紹介してる。しかし、こころの健康センターでもひきこもりの会があって、講演会もやっている。それとは別にKHJの会もあり、各々独立して連携がない。こころの健康センターの会に参加しようとする、何かあまりきてほしくないようで、やる気のなさを感じた。県の機関は、本当にひきこもりの人を救いたいと思って取り組んでいるのか疑問に思っている。KHJの●の会は、それとは反対に、どうしたら、本人ととってよいのかいつも考えていて、心強いが、県の機関に働きかけようとしているが、ハードルが高く、足踏み状態。役所仕事は、政府の通達にとりあえず対処しているようにしか見えないし、思えない。コロナ発生後、広報にひきこもり相談会の日すらのせていない。以前からかかわった人しかわからない。

- ・現在、在住の市では支援センターが市内には配置しておらず、遠方まで行かなければならぬため利用していない。本人の他の兄弟も（現在 22 才）中学不登校で ASD と診断され現在はアルバイトをしている子がいるが、この子供は動きがあったため、公的な施設やカウンセリングなど、いろいろな所に行きましたが、理解のないまま職されている方が多くいらっしやる印象を受けます。現在ひきこもりの息子に安心して勧められる場所があるのか、母子家庭であることもあり強く促せない現状です。
- ・息子がひきこもりの現状になって、あまりにも年数がたっていますが、昨年、本人が自立したいと言って支援センターの TELNO を私に伝えました。自立、仕事と簡単ではないと思っておりますが、専門家の方の意見をお聞きしながら、息子が一步步自立できるよう願っております。昨年、支援センターの方とかかわりを持って事に感謝しております。そして、今年はセンターの方と息子が、つながりを持ってくれればと思っております。
- ・その子の気持をどこ迄ひきだしてくれるか。中々はきだしてくれない我が子は大変難しいと思う。私達親子は 80-50 進行中でございます。子●才で措置入院-統合失調症（かんきょうと遺伝だそうです）まさにその通りでございます。子には申し訳ないと痛感している。漢字が思いださなくて申し訳ございません。
- ・●市では、精神障害が少しでもあると、基本的には対応してもらえる窓口がひきこもり地域支援センターではなく、精神障害者の方々用の窓口になるようで、ひきこもりの方々の居場所も利用対象外と伺っている。発達障害のグレーゾーンのような青少年もケアして頂けるよう切に願う。
- ・まずは相談したいことを受けとめてくれること。その上でどのような支援を利用した方がよいか教えてくれる。家族会と支援センターが連携しあえばよいと思うが行政の中にある支援センターは自らの中で〇〇しようとしていて連携できない。一方家族会は活動しようとするとお金がない。会員への負担も多くはできないのでその限界も感じています。
- ・私は県の支援センターにまだ 2.3 度しか行っていませんので、くわしいことは、知りません。当事者の意見が聞けるのは大変貴重ではありますが、専門家の方に、直接相談したい事もあります。また、家族同志、当事者同志でチームになって、力を合わせられたら.. という思いもあります。
- ・国民年金保険料納入期間延長 国民年金受給も延長 「ひきこもり年金ないね」と言う友がいた。今年度に入り、ひきこもり地域支援センター職員の方が毎回例会に顔を出している。心理士の相談も地区会としてやっている 見守隊として関与してほしいと思う。
- ・地域（地元）では、センター利用者どうして知っている人がいると「〇〇さんが～」と本人は知られたくないのに、必要以外の人たちに知られたり、うわさになったりしてしまうので、本人は地元の支援センターの利用を希望しない。
- ・地域支援センターが、直接、ひきこもりを支援することは、人的にも予算的にも時間的にも難しいと考えるので、NPO 等の既存の組織に資金を援助するなどの間接的な方法で、ひきこもりの支援を拡充して欲しい。
- ・●保健所（保健課、●の会、親の会）で定期的集いがある。KHJ●（●）親の会月/1 会報など関係資料等郵送されてきます。年/2 回程度月例会に参加予定です。
- ・本人には母親からのことばのみなので、お手紙かハガキなど来るといいかなと思います。

年齢がどんどん増し確実に安心出来ることが見えると嬉しいが少しでも安心出来ますように！

- ・当事者と同世代の職員との距離感（少し年齢がはなれていた方がコミュニケーションがしやすいと思う。そういう方ができてから、つないでいった方がよいのではないか。）
- ・現在、参加させて頂きまだ2回目ですが、スタッフの方も対応も良くお話ししやすいですが、なかなか将来が見えず、不安です。なんとか就職につながればと思います。
- ・親も子もひきこもりの情報を知らない方、私をはじめどうして良いか悩んでらっしゃる方が多いと思います。拡充する政策が進むという事は、とても嬉しいです。
- ・広報で知りました。地域支援センターを利用していますが、本人はあまり仕事に対してとか話しません。何を話しているのかもおしえてもらえません。
- ・元教員の方の再任用先にはしないで欲しい。（支援職などご本人のキャリア、性格をみて採用してほしい）（上から目先のな方が足をひっぱるのでは？）
- ・年令を制限せずに本人が自立して仕事出来るようより沿って指導、相談、カウンセリングしてもらえるか？
- ・働けない事への劣等感が大きいですが、障害年金には該当しない。治療を拒む理由としてお金の問題もある。経済面での支援が欲しいと
- ・子供がひきこもりである現実を親が認める事ができなければ支援センター等を知ろうと思わないのではないのでしょうか
- ・親子の健康と年令、経済的困きゅうサポートがない気がする。福祉であれ、何であれ、社会の問題として、とらえてほしい。
- ・センターに行けば将来一人になった時の必要なことがすべて分かる様にして欲しい。今は〇〇行政のマドグチにないので。
- ・同じような立場にある家族や当事者、経験者が相談対应用員として配置されている
- ・引き込もりに対する理解を持とうとしている会社に説明会や、見学の場があればと思います。
- ・年に一度全国のセンターが勉強会を開催して協議報告を行い、次へつないでいって欲しいです。
- ・本人だけでなく親・兄弟の状況や希望をとり入れたライフプランを相談できる所
- ・高校卒業～20代くらいまでの若者支援に力を入れていただきたいです。
- ・親の会でたくさんのお話を学ばせていただき感謝しています。
- ・2022年3月より利用しています。十分に対応いただいています。
- ・当事者家族会を包摂した取り組みをして欲しい。
- ・最後はやはり親子さんがとの答多く思うと行きづらい
- ・社会に役立つかどうかを基準にしないで欲しい
- ・色々な所に相談しています
- ・相談回数が決められてるので困る
- ・拠点の環境整備。
- ・wi-fi 環境

【ご本人の回答】

就労支援、就労してからの支援

- ・昨年 11 月よりひきこもり地域支援センターでお世話になっており、昨年、職業安定所による、介護の職業訓練を受講し、現在就職活動を行っております。就職活動については、ハローワークで相談させていただき、就職活動の中における「ひきこもりという経歴」についての悩みなどは、ひきこもり地域支援センターに相談しております。一番、苦労しているのは、自分の責任ですが、履歴書内のひきこもり期間について質問された際、返答にあたいする答えがみつからないことです。正直なところ、結局、このままひきこもりから脱け出すことはできないのではないかと不安があります。私は、ひきこもり地域支援センターを拡充する政策が進められるとともに、ひきこもり地域支援センターと職業安定所（ハローワーク）が連携して、ひきこもりから就職できるような就労支援に力を入れていただきたいと思います。
- ・就労に繋がる支援プログラム、特に具体的なものが欲しい。いま受けているものはあくまでひきこもりを脱出するためのソフトランディングなものになっていて、それ自体はいいものだと思っているけれど、ゴールはやはり就労に至ることだと思うので、ひきこもり脱出のあとのことに不安がある。
- ・ひきこもり後、就労してからの支援をもっと充実して欲しい。働いてはいるが、ひきこもっている時と同じ孤立している状態。ひきこもっていた時の方が、支援者も含め、もっと人とかわりがあった。ひきこもり後の対応も考えて欲しい。相談できるように。
- ・働きたい・働ける人には生きていけるだけの賃金がもらえる仕事につなげてほしいですし、働けない人は生活保護につなげてほしいです。
- ・地域の青少年センターで支援の拡充をしているのを知りましたが、仕事や就労に対しての強化の実施をして欲しいです。
- ・ひきこもりに理解のある職場をあっせんしてくれる場所がほしい。
- ・仕事できるような所がほしい。
- ・就職関係

情報を得たい、情報を発信してほしい

- ・拡充するという話はあっても特に変わりなしという状況が続いているように思うが、本当に拡充されるのだろうか。センターがあることは知っているが、何をやっているかあまり伝わってこないなので、広報の予算もつけた方がよいのかも。
- ・就労がゴールではないとして、どのような生き方の選択肢があるのか、具体的なモデルを多く知ることができるようになると、希望を持ちやすくなると思うので、そのような情報が得られる場やものが増えたら嬉しいです。
- ・高齢者の地域包括支援センターは知っていますが、ひきこもり地域支援センターは情報がなく、メディアで見たことがないので、知りませんでした。名称が似ているので間違えそうですね。
- ・自分から調べられない人をいるであろうからチラシを入れるのとかは強化してほしい。引きこもりが多く見られる県だけでなく、それ以外の県にも配慮してほしい。

- ・何を支援してもらえるのかがわからない。そのために、電話やメールで連絡する時点でハードルが高い。知名度がないのか、動画サイトのCMとか入れてほしい。
- ・インターネット上でひきこもり地域支援センターの情報を誰でもみれるように公開し、誰でも参加しやすい雰囲気を作ってもらいたいと思います。
- ・もっといろいろおしえてほしい
- ・地域社会への啓発活動

拠点を増やして欲しい

- ・センターは市に一つしかなく、そこへ通うための交通費が大きな負担です。市内にもいくつかあればと思います。
- ・家の近くにあること、交通費があまりかからないこと→当事者はお金が無いので。●は広いので。
- ・車のらない人でもてがるに利用できる。障害を持っている自分をもとめたくない。
- ・私が住んでいる街にひきこもり地域支援センター等が無いから
- ・できるだけ拠点を増やしてほしい。
- ・場所を増やして欲しい

ピアサポーター

- ・センターの人員として、専門職（コーディネーター）などの他に、ピアサポーターを常駐させてほしい。専門職の方とピアサポーターの両方に話を聞いてもらいたい。安心できる。話をしやすい。共感してもらえやすい。
- ・センターには、ピアサポーターがいません。いわゆる専門家だけです。なので、ピアサポーターが、いつも居てくれると行きやすくなると思います。
- ・社会に出てる人のピアサポーター。ひきこもり当事者のピアサポーターはいらない。
- ・当事者・経験者同士を繋げる取り組み
- ・ピア・サポーターを設置してほしい。
- ・ピアの設置

人材育成・人材確保

- ・当事者と相性の良い職員、支援者、責任者が配置されるかどうか、できれば当事者からの評価等を含めて考慮してほしいです。
- ・専門性と地域性、物理的に遠くそもそもアクセスできないし、苦勞して行って素人に説明するのもしんどい。
- ・ひきこもりへの支援を経験している人が職員にいて未経験の人と2人で当事者を支援してほしい。
- ・最初に連絡してから実際に会って相談出来るまで時間がかかる。人が足りてないのだと思う。
- ・専門的な知識を有する人材の育成に力を入れるべき
- ・スタッフの理解力、専門性の強化

安心できる場に

- ・引きこもり問題は当事者を始めとして家族も「恥ずかしい」と強く感じる傾向が未だ根強い。プライバシーに十分配慮する事が第一に求められる。私自身の経験として「引きこもりの人間はダメ」と家族・親戚・世間全体から人格否定を受け、現在就労状態にありながらも当時のフラッシュバックに苦しみ通院中。精神障害手帳2級所持。何故こんな迫害を受けなければならなかったのかと悔しい。「心の居場所」となるような、ご本人の失われた自己肯定感を取り戻せる様な雰囲気、声掛けを宜しくお願い致します。
- ・気軽に利用できる、失敗をおそれないで行けるような空気作り。あまり利用したことがない為あまり詳しくないです。
- ・やさしい人がいること。親の会の人がいると行きやすい。
- ・自分のことわかってくれる人がいてほしい。
- ・安心していられる場所である事を望みます。

親や支援する側のサポート、ケア

- ・子供がひきこもりの家族の場合は、両親のケア、カウンセリングを強化していく方が良いと思います。自分から情報を取りにいかないで情報は得る事はできません。
- ・当事者はもちろん、家族やひとり身なら友人、活動センターのスタッフなど本人を含めた周りの人のサポートを強化してほしい。支援者の支援も大切にしてほしい。
- ・支援する側の方たちのサポートや理解も大切なのでそこも強化して欲しいと少し思いました。
- ・子供よりも親に対する支援、メンタルケアを強化した方が良いかもしれない
- ・本人だけではなく家族ごと支援できるような仕組みになってほしいです。

居場所

- ・年齢が上の方の人でも、参加しやすい居場所があれば有り難いと思います。
- ・より多くの方が自分と近い年齢の人と複数人関われること。
- ・対面の居場所をなるべく増やしてほしい。
- ・居場所機能の拡充
- ・居場所

他機関との連携強化

- ・強化というより、「とりあえずやって（建てて終わり）のよくある頼れない行政サービスにならないよう、ひきこもり問題とじっくり取り組むことを重視してほしい。支援センターだけで解決はしないので、他とつながりを持ち、時にはひきこもっている本人の力も借りていくことを考えながらやってほしい。
- ・センターの職員が（ひきこもり当事者団体）と定期的に交流すること。・センターが得られた知見を地域の企業や市長、議会、行政などにフィードバックすること。・利用者がセンターを評価する（アンケートなど）ができること。・センターの担当区域以外からの利用にも応じること（地元では相談しにくい人のため）・センターどうしが情報共有す

ること。

- ・民間の横のつながりがもう少しあれば良いのかな？と思います。政策として進めているのなら、せめて現住所の都道府県では、どのセンターに行っても、マイナンバーカードを提供した場合、自身の状況を説明しなくて済む様に。
- ・それ自体を知らないが、そもそも自分の地域が怖いことから、他地域の人と連携することを普通と考える仕組みが必要。
- ・関係各所との繋がりや場合によっては情報共有がある事

年齢を気にせず利用できること

- ・30～40代で就労経験が無いので就労支援を受ける際の年齢制限が少し気になった。年齢や経験等で幅広い支援があったら大変有り難いです。
- ・ひきこもり支援の対象がいまだに20歳以下の若者というイメージが強いので近づきがたい
- ・ねんれいせいげんで使用できないところばかりなのでせいげんをなくしてほしい。

知らない、調べる余裕がない

- ・知らないことを何故知らないのかというのはおかしい質問では？その聞き方だと自分たちはこれだけやっているのに何故知らないんだといっている様な受け取り方もできてしまいます。知らない人は知る機会がなかったそれだけだと思います。
- ・目の前のことで精一杯で、調べる余裕がないからです。
- ・知りませんでした。実はこのページで初見でした。
- ・そこへさえ、アクセスできない状態
- ・その情報自体にリーチできていない
- ・知らない。支援が必要ないため。
- ・調べたことはない

いつでも対応してほしい

- ・つらいのは夜、夜に対応してくれるとうれしい。役所みたいな対応するのはイヤ。
- ・いつでも対応してくれたら助かります。
- ・いつでも行ける環境があること

料金があまりかからないこと

- ・就労支援のための機関を紹介してもらってはいるが複数の箇所に通うのは金銭的にも精神的にも結構な負担がかかっていると感じる
- ・プライバシーも守られて、料金的にもあまりかからないと参加し易くて嬉しいなど思います。
- ・利用料金があまりかからないことと、

ひきこもり経験、得意なことを活かせる場

- ・長いひきこもり 体力 夢やりがいい 適性 活かしたしごとに〇〇 ひきこもり (だった) だからといって対人関係が苦手ときめつけてほしくない。Art、デザイン、語学力など、活かせる”いきがい”をもたせつつ、自身老化に対応できない。おりあいがつけられない。サポートがほしい。(まわりをみてきてない。親くらいしか。同年代周りにいない。)
- ・私は現在ひきこもりとは関係ないですが KHJ●の会で家族会の相談にのっています。自分のひきこもり経験が生かしたい。実っさいに、当事者のお母さん方にアドバイスが本当に出来るから変な自信が出来た。
- ・スキルを活かした働き方を強力にサポートしていただけるシステムを導入していただきたい。例/英語力

上から目線の対応はやめてほしい

- ・役人の目線で物事を見ないでほしい、支援といっても就労や社会的自立だけに偏るのではなく、何年もの休養が必要であること、その休養期間は生活保護など経済的、医療的に安心して支援を受けられる体制が必要であること。生活保護は決して悪いことではなく、親に遠慮して何もできなくなるよりは、医療や生活面で安心して支援を受けられることは、ひきこもり本人も親も親族も重荷を無くすことにつながる。そんな余裕ができてから、ひきこもりの問題の解決は始まるのだと思う。また、働いて得る収入だけでなく、株式や金の積み立てなどの投資も、本人がやってみたいのであればやらせてみるのもいいと思う。ただし、最初は月三千円程度でできる小規模な投資をしてみるのが良いと思う。理想は、本人に対する税金類は無税が望ましい。
- ・上から目線はやめてほしい。若い人を入れてほしい。

わからない、特にない

- ・自分でも何を求めたらいいのかわからないので、強化して欲しい点を聞かれてもわからない。
- ・特にありません

その他

- ・話しが大きすぎるかもしれないが、とある人が言った「現在、支援がビジネスモデルとしてなりたたない」との言に深く共感した。結局、今の日本では言葉は悪いが、金を廻せられる仕組み、人物がかかわりたくなる魅力や意識が必要と思う。又、政治活動の必要もあると思う。次の選挙は生まれて初めて投票するつもりです。
- ・「就労事業所につないだら終わり」といった支援センターにならない事を望みます。「家から出す」という事にフォーカスされると当事者は利用する気持ちが失せてしまいます。自宅にいながらも社会活動ができる方法を示して頂けると嬉しいです。支援センターを知らない理由は2つあり、1つは、本人や家族は情報収集をあきらめている。2つは、行政に相談しても支援センターを紹介してもらえないからです。
- ・とうろくなどをかんたんにと。ストレスをこれ以上かけられたくない。しごとの話をされて(こればかりのやつばかり)人を殺害したいと24時間考えていなければならないよう

な場所かとそうぞうしてしまうのでしえんの方向が回復ではなくしゅうろうな場合つかいみちがない。

- ・まずは人に慣れるところから進めてほしい。そこからコミュニケーションを取っていけるようになること。自分のペースでできること。そのあとは自立して、自分で生活していけることなどの支援をして欲しい。
- ・住んでいる市には、ひきこもり地域支援センターは無い。市役所と社協に、ひきこもり当事者支援を進めて欲しいと、電話・来訪して要望したりしている。支援者向け研修会の情報等見つけたら、お知らせがてら市役所に電話する。当市の社協は「家族（親兄弟）」支援の事しか考えてない。多様な生き方を肯定してくれる相談体制を作って欲しい。
- ・よくわからないんですが、地域の保健師さんの訪問を受けてます。母がそこに行ったんだったような？強化は、予算と人員（研修はもちろん）まず、働いてる人たちの身の上の保証というか。ギリギリの人には頼りづらいです。「どこもギリギリ」のご時世では、本当に、私のような者はきつい。何人かの保健師さんにお会いしましたが、訪問予約の間があき気味で、退職、となった方がいました。多忙そうでした。社会的に、支援職の人たちの地位を、もっと…保全というか…何をしている人たちなのかが理解され、待遇もよくなってほしいです。私たち利用者と、実際に私がお世話になっている人たちが、どのように何をしているのかの情報も、もっと広がったらいいですね。“ケア”“支援”のイメージが貧しすぎるのを感じます。（それが実際に支援を受ける時の、強固な壁になってしまう。以前から母がつながっていた、私のような場合でさえも。「たやすく助けを求めていい」空気が必要です。現状、逆です）国、地域、個人、メディア、政治的に、文化的に、もっと、いろいろな“ケア”についての、幅広い情報の共有が、本当に必要です。メジャーなメディア、タレント、現与党や、人気のある党など、現在発言権の強い人たちは、それを壊していく側でしかないような様子が続いていて、心底、怖いです。「政治/メディア状況がもっとまともであってほしいのに…」と、ずっと辛く思っています。…こういう話は、そこに行かざるを得ない気がします。いろいろ長くなりました。何らかの参考になれば幸いです。ありがとうございました～。
- ・まずは人に慣れるところから進めてほしい。そこからコミュニケーションを取っていけるようになること。自分のペースでできること。そのあとは自立して、自分で生活していけることなどの支援をして欲しい。
- ・個人的には年齢に余裕がないため年代ごとのものを勘案してらえたらと思うこともある
- ・オンライン体制の強化と引きこもり家庭の状況に応じたパソコンなどの端末の提供は必須だと思います。
- ・見学、体験をする機会を増やし、いつでも行けるというのが必要。
- ・ひきこもり経験はないが精神疾患などで困っている人など幅広い間口にして欲しいです。
- ・既にあるひきこもり当事者会が継続できるための経済的サポートをしてほしい。
- ・旅行やイベントなどを多く計画してほしい。センターの中に食堂を作ってほしい。
- ・初回のハードルの低さ。いきなり対人・電話は高すぎる
- ・高卒認定試験のサポート

おわりに

コロナ禍にもようやく終わりが見え、新たな時代がまさに始まろうとしています。コロナ禍において社会は大きく様変わりしましたが、その中でもオンラインの活用の進展には目覚ましいものがあります。オンライン活用は、ひきこもり支援においても大いに期待されているところです。本年度の調査においては、ひきこもり支援におけるオンラインの活用のあり方に関して調査を行いました。調査から明らかになったのは、ひきこもり本人と家族においてはオンラインの活用に格差があるということです。ひきこもり本人の年代においては、オンラインは非常に身近なツールとして普及していますが、家族においてはオンラインよりも従来の媒体の方が身近なツールとして活用されているようです。こうしたことから、KHJ 全国ひきこもり家族会連合会としては紙媒体のような従来の手法による情報発信を続けていく必要があると考えられます。

本年度の調査においても一つ調べたのが、ひきこもり経験者の就労に関する意識です。調査の結果から、ひきこもり経験者の多くが就労意欲を持っているということが明らかになりました。ひきこもり支援の目標は就労ではありませんが、就労意欲を持っている本人にとっては、ひきこもり経験者に理解のある就労の場を用意することが求められているのかもしれませんが、ひきこもりに対する理解を社会に求めていく上では、就労の場も含めた社会全体への理解を求めていくことが重要になると考えられます。

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会の支部を主な対象とし、2003年から20年にわたって実施してきた全国規模の本調査は、家族調査の延べ対象者数が8231名、ひきこもり本人調査の延べ対象者数が1414名に上っています。本調査は、その時代のひきこもりの実態を示す貴重な資料ではないかと考えています。これからも、本調査を通じて、その時のひきこもりの実態を社会に伝えていければと願っています。

令和5年3月吉日

調査事業委員長

境 泉洋（宮崎大学教育学部 教授）

調査事業委員

野中 俊介（東京未来大学こども心理学部 講師）

尾之上 麗（宮崎大学教育学部 事務補佐員）

前川 由貴子（宮崎大学教育学部 事務補佐員）

参考・引用文献

- 中村 光、植田健太、境 泉洋、嶋田洋徳、金沢吉展、坂野雄二、NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2005). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書②－NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態－.
- 境 泉洋、斎藤まさ子、本間恵美子、真壁あさみ、内藤 守、小西完爾、NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2013). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑩－NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態－.
- 境 泉洋、植田健太、中村 光、嶋田洋徳、坂野雄二、NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2004). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書①－NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態－.
- 境 泉洋、川原一紗、& NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2008). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑤－NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態－.
- 境 泉洋、川原一紗、木下龍三、久保祥子、若松清江、& NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2009). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑥－NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態－.
- 境 泉洋、中垣内正和、& NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2007). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書④－NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態－.
- 境 泉洋、中村 光、& NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2006). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書③－NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態－.
- 境 泉洋、平川沙織、原田素美礼、& NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2012). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑨－NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態－.
- 境 泉洋、堀川 寛、野中俊介、松本美菜子、平川沙織、& NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2011). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑧－NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態－.
- 境 泉洋、野中俊介、大野あき子、& NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2010). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑦－NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態－.
- 特定非営利活動法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2014). ひきこもりピアサポーター養成・派遣に関するアンケート調査報告書.
- 特定非営利活動法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2015). ひきこもりの実態およびピアサポーター養成・派遣に関するアンケート調査報告書.
- 特定非営利活動法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2016). ひきこもりの実態に関するアンケート調査報告書.
- 特定非営利活動法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2017). ひきこもりの実態に関するアンケート調査報告書.

- 特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 (2018). ひきこもりの実態に関するアンケート調査報告書.
- 特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 (2019). ひきこもりの実態に関するアンケート調査報告書.
- 特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 (2020). ひきこもりの実態に関するアンケート調査報告書.
- 特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 (2021). 当事者が求めるひきこもり支援者養成に関する調査報告書.

資料

資料 1

ご家族用

アンケートの説明

本調査は、令和3年度社会福祉振興助成事業（補正予算事業）「多機関と連携したひきこもり支援体制の向上と情報の相互共有事業」の助成を得て実施しています。

本調査は、オンラインを活用したひきこもり支援を求められていることを明らかにすることとを目的としています。本調査の結果は、今後のひきこもり支援を発展させる資料として、当会のホームページでの公開をはじめ、報告書、学術論文、学会発表等で発表し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。なお、本調査は、無記名で実施されますが、追跡調査にご協力いただいた方には、氏名、住所等のご記入をお願ひしております。氏名、住所等の情報は、追跡調査の依頼にのみ使用します。回答時間はおよそ20～30分程度です。

本調査の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力下さいませよう、お願ひ申し上げます。記述内容や調査結果の解析において個人が特定されることはありません。また、提出されたアンケート用紙は返却致しませんので、ご了承ください。本調査は、宮崎大学教育学部研究倫理委員会の承認を得て実施されます。

調査の回答に際してご注意ください点

- ① 本調査では、このアンケートに答えていただいている方（ご家族など）を「あなた」、ひきこもりの状態にある（あった）方を「ご本人」と表記しています。
- ② この質問紙には、正しい答えや間違った答えというものはありませんので、他の方とは相談せずに、お一人でご回答ください。
- ③ 参加は完全に任意です。理由を挙げることなく参加を拒否したり途中で参加を止めることができます。それによって不利益を被ることはありません。
- ④ このアンケートの提出をもって、本研究へのご協力に同意していただけたものとさせていただきます。
- ⑤ 無記名での調査であるため、アンケート提出後は、研究参加（データ利用）の中止のお申し出には応じられませんので、予めご了承ください。

このページは切り離してお持ち帰りください。

次ページ以降を2023年1月末日までに返信用封筒にてご返送ください。

本調査について何か疑問が生じたり、あるいは調査の過程で何か問題が生じた場合には、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

実施責任者連絡先

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地

宮崎大学教育学部 境 泉洋

TEL & FAX 0985-58-7458

E-mail : sakaimotohiro.n8@cc.miyazaki-u.ac.jp

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-16-12-301

NPO 法人 KHU 全国ひきこもり家族会連合会事務局

Tel 03-5944-5250 Fax 03-5944-5290

E-mail : info@kjh-h.com

Webからも回答可能



KHU

ひきこもりの状態・・・この調査では、社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形で外出をしていない）のこを言います。

A. 以下の質問について、該当するところに○をつけるか、ご記入ください。

1. ご本人は現在、ひきこもりの状態ですか？ → a. はい b. いいえ
2. ご本人は過去に、ひきこもりの状態を経験されたことがありますか？ → a. はい b. いいえ
3. ひきこもりの状態にある人が、ご家族に2人以上いる方は次の問いにお答えください。
ご家族の中でひきこもりの状態にある方の人数をお答えください。 → [] 人

1. 2. の質問に両方とも「b. いいえ」と答えた方は、ここでアンケートは終了です。

ご協力いただき、誠にありがとうございます。

2人以上いると回答された方は、ひきこもりの状態を経験された方1人につき、一部の質問紙に、あなたお一人でご回答くださいますようお願いいたします。

4. あなたが住んでいる都道府県をお答え下さい：
_____都・道・府・県 その他（具体的に_____）

5. ご本人から見た、あなたの立場をお答え下さい：
a. 母親 b. 父親 c. その他（具体的に_____）

6. あなたの年齢をお答え下さい：（_____歳）
→年齢が19歳以下の場合：本調査に協力することに保護者の同意が得られていますか？
a. はい b. いいえ

「b. いいえ」と答えた方は、ここでアンケートは終了です。
ご協力いただき、誠にありがとうございます。

7. ご本人の性別をお答え下さい： a. 男性 b. 女性 c. その他（_____）

8. ご本人の年齢をお答え下さい：（_____歳）

9. 下の例を参考に、ご本人のひきこもり期間をお答えください。

(例) 19才から1年6か月間と、24才から5年3か月間ひきこもった場合

1回目：(19) 才から、(1) 年 (6) か月間

2回目：(24) 才から、(5) 年 (3) か月間

1回目：() 月から、() 年 () か月間
 2回目：() 月から、() 年 () か月間
 3回目：() 月から、() 年 () か月間

10. ご本人のここ1か月の外出日数をお答えください。
 → 1か月につき () 日
11. 以下の質問は、ご本人の最近2週間 (別居の場合、知りうるかぎり最近) の状態についてお聞きするものです。それぞれ当てはまるものを1つを丸 (○) で囲んでください。

0=全く当てはまらない 1=あまり当てはまらない
 2=少し当てはまる 3=非常に当てはまる

- ①自由に外出する.....【 0 1 2 3 】
 ②対人交流が必要な場所に行く.....【 0 1 2 3 】
 ③対人交流が必要でない場所に行く.....【 0 1 2 3 】
 ④家庭内では自由に行動する.....【 0 1 2 3 】
 ⑤家庭内で避けている場所がある.....【 0 1 2 3 】
 ⑥自室に閉じこもる.....【 0 1 2 3 】

12. ご本人が家庭内で貢献している家事等があれば具体的に書きください。
 ()

B. 下記の質問は、ご本人の支援機関の利用状況についてお尋ねするものです。

1. ご本人にとって支援は必要ですか？
 a. はい b. いいえ c. わからない
2. ご本人は、ひきこもりに関して支援・医療機関等を利用したことがありますか？ 利用したことがある場合、継続的に利用していますか？
 a. はい → ①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない
 b. いいえ
 c. わからない
3. ご本人が医療を必要としても、受診が難しい状況にありますか？
 a. はい b. いいえ c. わからない
 「a. はい」の場合、受診が難しい理由はなんでしょうか。具体的に書きください。
 ()
4. ご本人にとって訪問型の医療サービスの充実が必要ですか。
 a. 必要 b. 不要 c. わからない

その他、医療受診に必要なサービスがあれば具体的に書きください。
 ()

C. 下記の質問は、あなたの支援機関の利用状況についてお尋ねするものです。

1. あなたにとって支援は必要ですか？ → a. はい b. いいえ
2. あなたは、ひきこもりのご本人に関して支援・医療機関等を利用したことがありますか？ 利用したことがある場合、継続的に利用していますか？
 a. はい → ①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない
 b. いいえ

D. 下記の質問は、あなたの家族会への参加状況についてお尋ねするものです。

1. あなたは家族会に参加したことがありますか？ → a. はい b. いいえ
2. あなたが入会しているKHU 家族会 (以下、家族会) の支部についてお答えください。
 ※複数ある場合は、主に活動している支部名をお書きください。
 a. 会の名前 () b. 入会していない
3. 家族会に参加したことで、あなた自身の気持ちや家族関係などに何らかの良い変化がありましたか？
 → a. はい b. いいえ c. わからない

E. 下記の質問は、あなたが普段ウェブサイトの閲覧などに使用されるデバイス (情報電子機器) についてお尋ねするものです。以下の各機器の使用頻度について、もっとも当てはまる数字1つを○ (丸) で囲んでください。

0=全く使わない	1=ほとんど使わない	2=少し使う	3=かなり使う
①iPad やタブレット (Android).....	[0 1 2 3]		
②スマホ.....	[0 1 2 3]		
③パソコン.....	[0 1 2 3]		
④その他 ().....	[0 1 2 3]		

F. 下記の質問は、あなたが普段使用している通信手段についてお尋ねするものです。以下の各通信手段について、もっとも当てはまる数字1つを○ (丸) で囲んでください。また、手段について使っているものすべての口に✓をしてください。

0=全く使わない	1=ほとんど使わない	2=少し使う	3=かなり使う
1. 音声通話.....	[0 1 2 3]		
□ 携帯電話	□ 固定電話	□ LINE 通話	□ その他 ()

2. 文字.....【 0 1 2 3 ? 】
 メール ショートメッセージ LINE Facebook メッセージャー Twitter のメッセージ
 Instagram のメッセージ Tik Tok のメッセージャー 電子掲示板 ブログ Fax
 手紙、ハガキ その他 (.....))
3. ビデオ通話.....【 0 1 2 3 ? 】
 Zoom Teams V-cube Google ミート その他 (.....))
4. その他の通信手段.....【 0 1 2 3 ? 】
 Slack などのビデオチャットツール オンラインゲーム メタバース
 その他 (.....))

G. 下記の質問は、あなたが普段、ひきこもりに関する情報を入力する情報源についてお尋ねするものです。以下の各サイトについて、どのくらい利用されているか、もっとも当てはまる数字 1 つを○ (丸) で囲んでください。ご存知でなければ、「？」に○をつけてください。

○=全く使わない 1=ほとんど使わない 2=少し使う 3=かなり使う ?=知らない

1. 検索サイト
- ①google.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ②Yahoo.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ③goo.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ④Bing.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑤その他 (.....).....【 0 1 2 3 ? 】
2. SNS
- ①Twitter.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ②Tik Tok.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ③LINE.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ④Facebook.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑤Instagram.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑥mixi.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑦その他 (.....).....【 0 1 2 3 ? 】
3. 動画や文章
- ①ニコニコ動画.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ②Youtube.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ③ブログ.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ④Note.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑤その他 (.....).....【 0 1 2 3 ? 】
4. 掲示板
- ①5 チャンネル.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ②その他 (.....).....【 0 1 2 3 ? 】
5. ウェブサイト
- ①国や自治体のウェブサイト.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ②民間の支援機関やNPO 団体などのウェブサイト.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ③ひきこもりに関する情報などが集まっているポータルサイト.....【 0 1 2 3 ? 】

- ④Yahoo ニュースなどのニュースサイト.....【 0 1 2 3 ? 】
- ⑤その他 (.....).....【 0 1 2 3 ? 】
6. マスメディア
- ①新聞.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ②テレビ.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ③ラジオ (オンラインラジオを含む).....【 0 1 2 3 ? 】
 - ④その他 (.....).....【 0 1 2 3 ? 】
7. オンラインとマスメディア以外
- ①本.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ②雑誌.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ③チラシ.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ④自治体の広報.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑤回覧板.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑥利用者の口コミ.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑦相談支援窓口.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑧イベント (講演会やKHU 全国大会、当事者会など).....【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑨家族会の会報誌.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑩KHU 本部の情報誌「たひだち」.....【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑪その他 (具体的に.....).....【 0 1 2 3 ? 】

※あなたがひきこもりに関する情報を検索する際、どのようなキーワードで検索をしていますか？具体的に
 にお書きください。

検索キーワード (具体的に.....)

※ひきこもりに関する相談機関を検索する際に、どんな情報を知りたいですか？知りたい情報のすべての
 □に✓をしてください。

- 利用料金 支援の内容 支援対象エリア 開所時間 場所 電話番号 メールアドレス
- ウェブサイト オンラインでの利用が可能かどうか 予約の要不要 予約方法
- スタッフの情報 (ピア、専門家など) スタッフの男女比 スタッフがひきこもりに詳しいか否か
- スタッフの資格 (臨床心理士、KHUピアサポーターなど) 立場 評判 (口コミ) 対象年齢
- 動画情報 (メッセージなど) 画像情報 (施設の外觀など) メッセージ 利用上必要な手続き
- その他 (自由記述.....)

※あなたは、ひきこもりに関してインターネットなどを通じて直接対面せずに行うオンライン支援を利用
 したことがありますか？利用したことがある場合、継続的に利用していますか？

- a. はい → ①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない
- b. いいえ

※オンライン支援を受けたことがある場合、その感想や効果について具体的に書き込んでください。

[Blank box for writing responses to Q11]

H. あなたがオンライン支援を受けるときに、下記の条件はどの程度重要だと思いますか。各項目について、「0=全く重要ではない~3=かなり重要だ」のうち、もっとも当てはまる数字1つを○(丸)で囲んでください。わからない場合は、「？」に○をつけてください。

0=全く重要ではない 1=ほとんど重要ではない
2=少し重要だ 3=かなり重要だ ?=わからない

- 1. リアルタイムかどうか?
①リアルタイムのやり取り (オンライン居場所、オンライン相談など) [0 1 2 3 ?]
②リアルタイムではないやり取り (Eメール、掲示板など) [0 1 2 3 ?]
2. 発信者は誰か?
①支援者・専門家からの発信 (オンライン講演会、情報ウェブサイトなど) [0 1 2 3 ?]
②当事者からの発信 (体験談、当事者のインタビューなど) [0 1 2 3 ?]
③双方向からの発信 (オンライン相談、チャット相談など) [0 1 2 3 ?]
3. やり取りする相手は誰か?
①ひきこもり経験者やその家族とのやり取り [0 1 2 3 ?]
②支援者・専門家とのやり取り [0 1 2 3 ?]
③AIやロボットなどの機械とのやり取り [0 1 2 3 ?]
4. 受け取る情報の種類は何か?
①文字情報 (メールマガジン、イベント情報など) [0 1 2 3 ?]
②音声情報 (ラジオ、Twitterのスペースなど) [0 1 2 3 ?]
③画像情報 (漫画、写真など) [0 1 2 3 ?]
④動画情報 (アニメ、ビデオなど) [0 1 2 3 ?]
5. やり取りのときの匿名性は?
①実名を名乗らなくてよい (ニックネームや匿名での利用ができる) [0 1 2 3 ?]
②自分の顔が映らない (ビデオオフやアバターで参加できる) [0 1 2 3 ?]
③自分の声が出ない (チャットで参加できる) [0 1 2 3 ?]
6. 利用時間は?
①24時間いつでも利用できる [0 1 2 3 ?]
②一回で利用できる時間の長さに制限がない [0 1 2 3 ?]
7. 料金の有無は?
利用料金が平均でいくらまで使ってみてみたいと思いますか?以下から上限を一つ選んでください。
□無料 □100円まで □500円まで □1000円まで □1000円以上でも可
8. オンライン支援を何のために使いたいか?

- ①講演を聞く [0 1 2 3]
②居場所に参加する [0 1 2 3]
③就労 (支援を受ける、収入を得る、情報を受け取るなど) [0 1 2 3]
④就学 (支援を受ける、資格を取る、情報を受け取るなど) [0 1 2 3]
⑤自己表現 (文章、イラスト、動画などを発信する) [0 1 2 3]
⑥医療情報の収集・相談 [0 1 2 3]
⑦福祉情報の収集・相談 [0 1 2 3]
⑧ご本人のことに 대해 相談する [0 1 2 3]
⑨その他 (自由にお書きください)

※ご本人は就労経験がありますか? → a. ある b. ない

※就労経験がある場合、就労する中でご本人が傷ついたことがあれば具体的に書き込んでください。

[Blank box for writing responses to Q12]

※ご本人は、現在、働きたいという思いがありますか? → a. はい b. いいえ c. わからない

※ご本人は、オンラインやテレワークで働きたいという思いがありますか? → a. はい b. いいえ c. わからない

I. ご本人が働く上で職場や働き方として、あなたが求めていることについてお尋ねします。下記の各項目について、もっとも当てはまる数字1つを○(丸)で囲んでください。

0=全く求めていない 1=あまり求めていない 2=やや求めている 3=かなり求められている

- ①働く経験が少ない人の心情や個性を理解しようとしている [0 1 2 3]
②電話応対が少ない [0 1 2 3]
③上から目線、頭ごなしの指導はしない [0 1 2 3]
④職場にひきこもり経験者がいる [0 1 2 3]
⑤専門家 (臨床心理士、産業カウンセラーなど) を職場に配置している [0 1 2 3]
⑥働く経験が少ない人の体力・精神状態に配慮している [0 1 2 3]
⑦こまめな休憩をとるように職場が指示している [0 1 2 3]
⑧他人とくらべない [0 1 2 3]
⑨ひきこもりに理解のある企業であるか分かる情報を公開している [0 1 2 3]
⑩仕事内容に変更があった場合は、できそうか確認がある [0 1 2 3]

- ① 会社がひきこもりに関する研修を実施している.....【 0 1 2 3 】
- ② 言葉での説明だけでなく、実際に手順をやって見せている.....【 0 1 2 3 】
- ③ 職場の人が難に対してでも丁寧な言葉づかいで声かけをしている.....【 0 1 2 3 】
- ④ どのような業務がありその内容も詳しくわかるような情報を公開している.....【 0 1 2 3 】
- ⑤ やる気を維持するために、仕事内容を選択できる.....【 0 1 2 3 】

- ⑥ 早い時期に会社がご本人を理解するために十分な時間を設けている.....【 0 1 2 3 】
- ⑦ 職場に慣れるためのプランを作成し、実施状況の確認をしている.....【 0 1 2 3 】
- ⑧ 仕事以外でも親身になってくれる仲間が職場にいる.....【 0 1 2 3 】
- ⑨ 出張がない.....【 0 1 2 3 】
- ⑩ 写真や写真等で具体的な作業手順が書かれている.....【 0 1 2 3 】

- ⑪ ご本人の状況、必要な配慮などを記載した資料を関係者に配布している.....【 0 1 2 3 】
- ⑫ ご本人に治療が必要かを確認している.....【 0 1 2 3 】
- ⑬ 出勤時や退勤時に挨拶などの声かけをしている.....【 0 1 2 3 】
- ⑭ 雇用条件が明確である.....【 0 1 2 3 】
- ⑮ 言葉だけでなく紙に書いて指示をしている.....【 0 1 2 3 】

- ⑯ 対人関係のない仕事や作業がある.....【 0 1 2 3 】
- ⑰ いい所はほめて育てようとしている.....【 0 1 2 3 】
- ⑱ 就労経験がない人でも採用している職場である.....【 0 1 2 3 】
- ⑲ 業務を確実に遂行できているか確認している.....【 0 1 2 3 】
- ⑳ 短時間から徐々に始めることができる.....【 0 1 2 3 】

- ㉑ 在宅で働ける.....【 0 1 2 3 】
- ㉒ 同じことを何度聞いても嫌がらずに答えている.....【 0 1 2 3 】
- ㉓ 非効率であったとしても多様な人材を受け入れている.....【 0 1 2 3 】
- ㉔ 一つが終わってから次の指示を出すなど、業務指示は1つずつ行う.....【 0 1 2 3 】
- ㉕ 自宅の近くで働ける.....【 0 1 2 3 】

- ㉖ 仕事上の感謝や今後の期待を伝えている.....【 0 1 2 3 】
- ㉗ 採用の年齢制限がない.....【 0 1 2 3 】
- ㉘ 通院などのために休暇を柔軟に取れる.....【 0 1 2 3 】
- ㉙ 日雇いなどの単発的な働き方ができる.....【 0 1 2 3 】
- ㉚ 話し合いは自由に感想などを言えるようにしている.....【 0 1 2 3 】

- ㉛ 楽しめる仕事がある.....【 0 1 2 3 】
- ㉜ ご本人の気持ちをよく聞こうとしている.....【 0 1 2 3 】
- ㉝ 仕事が重荷になっていないかなどについて定期的な面談がある.....【 0 1 2 3 】
- ㉞ 連絡帳などで職場がご家族と情報交換をしている.....【 0 1 2 3 】
- ㉟ やりかたのある仕事がある.....【 0 1 2 3 】

- ㊿ 職場の人がひきこもりに偏見なく対応している.....【 0 1 2 3 】

- ① キャリアアップ、スキルアップのサポートがある.....【 0 1 2 3 】
- ② 定期的に支援機関とご本人を交え働き方を検討する場を設けている.....【 0 1 2 3 】
- ③ 職場の人に認められる経験ができる.....【 0 1 2 3 】
- ④ 失敗した後、その失敗をマイナスに捉えず、どう生かすかの助言がある.....【 0 1 2 3 】

- ⑤ お客さんに喜んでもらえる経験ができる.....【 0 1 2 3 】
- ⑥ いつでも相談できる担当者が職場にいる.....【 0 1 2 3 】
- ⑦ 欠勤をご本人がマイナスと捉えないよう職場が精神面をケアしている.....【 0 1 2 3 】
- ⑧ 社会に役に立った経験ができる.....【 0 1 2 3 】
- ⑨ 毎日、体調を職場の人に伝える仕組みがある.....【 0 1 2 3 】

- ⑩ 仕事以外で楽しめる場 (スポーツ大会など) を用意している.....【 0 1 2 3 】
- ⑪ 職場でいつでもひとりのになれる休憩場所がある.....【 0 1 2 3 】
- ⑫ 定期的にご本人へのアンケートを実施している.....【 0 1 2 3 】
- ⑬ 体調や集中力に応じて仕事量が柔軟である.....【 0 1 2 3 】
- ⑭ 指示した内容について、ご本人がメモを取る時間を設けている.....【 0 1 2 3 】

- ⑮ 責任の少ない働き方 (インターンシップ、アルバイト) から始められる.....【 0 1 2 3 】
- ⑯ ご本人が快適に仕事ができる物理的環境 (人の出入り、温度、騒音、光など) がある.....【 0 1 2 3 】
- ⑰ ストレスとの付き合い方を学ぶ機会がある.....【 0 1 2 3 】
- ⑱ 採用時、複数の職場を見学し、働きやすい職場の方を選べる.....【 0 1 2 3 】

J. 下記の質問について、あなたの考えを自由に書きください。

1. ひきこもり支援をオンラインで受ける際に、どのようなことが心配ですか? あなたの考えを自由に書きください。

Blank text area for response to question 1.

2. 現在、ひきこもり地域支援センターを拡充する政策が進められていますが、拡充する際どのような点を強化して欲しいと考えていますか? あなたの考えを自由にお書きください。ひきこもり地域支援センターをご存知ないようでしたら、なぜご存知ないのかを可能な範囲でお書きください。

Blank text area for response to question 2.

資料 2

ご本人用

アンケートの説明

本調査は、令和3年度社会福祉振興助成事業(補正予算事業)「多機関と連携したひきこもり支援体制の向上と情報の相互共有事業」の助成を得て実施されています。

本調査は、オンラインを活用したひきこもり支援を求められていることを明らかにすることを目的としています。本調査の結果は、今後のひきこもり支援を発展させる資料として、当会のホームページでの公開をはじめ、報告書、学術論文、学会発表等で発表し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。なお、本調査は、無記名で実施されますが、追跡調査にご協力いただける方には、氏名、住所等のご記入をお願いしております。氏名、住所等の情報は、追跡調査の依頼にのみ使用します。回答時間はおよそ20~30分程度です。

本調査の趣意をご理解いただき、是非ともご協力下さいますよう、お願い申し上げます。記述内容や調査結果の解析において個人が特定されることはありません。また、提出されたアンケート用紙は返却致しませんので、ご了承ください。本調査は、宮崎大学教育学部研究倫理委員会の承認を得て実施されます。

調査の回答にご注意いただきたい点

- ① この質問紙には、正しい答えや間違った答えというものはありませんので、他の方とは相談せずに、お一人でご回答ください。
- ② 参加は完全に任意です。理由を挙げることなく参加を拒否したり途中で参加を止めることができます。それによって不利益を被ることはありません。
- ③ このアンケートの提出をもって、本研究へのご協力に同意していただけたものとさせていただきます。
- ④ 無記名での調査であるため、アンケート提出後は、研究参加(データ利用)の中止のお申し出には応じられませんので、予めご了承ください。

このページは切り離してお持ち帰りください。

次ページ以降を2023年1月末日までに返信用封筒にてご返送ください。

本調査について何か疑問が生じたり、あるいは調査の過程で何か問題が生じた場合には、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

実施責任者連絡先

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地

宮崎大学教育学部 境 泉洋

TEL & FAX 0985-58-7458

E-mail : sakaimotohiro.n8@cc.miyazaki-u.ac.jp

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-16-12-301

NPO 法人 KHU 全国ひきこもり家族会連合会事務局

Tel 03-5944-5250 Fax 03-5944-5290

E-mail : info@kjh-h.com

Webからも回答可能



KHU

ひきこもりの状態・・・この調査では、社会的参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など)を回避し、概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしていない)のよいことを言います。

A. 以下の質問について、該当するところに○をつけるか、ご記入ください。

1. あなたは現在、ひきこもりの状態ですか? → a. はい b. いいえ
2. あなたは過去に、ひきこもりの状態を経験されたことがありますか? → a. はい b. いいえ

1. 2. の質問に両方とも「b. いいえ」と答えられた方は、ここでアンケートは終了です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

3. あなたの年齢をお答え下さい:()歳
→年齢が19歳以下の場合:本調査に協力することに保護者の同意が得られていますか?
a. はい b. いいえ

「b. いいえ」と答えられた方は、ここでアンケートは終了です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

4. あなたの性別をお答え下さい: a. 男性 b. 女性 c. その他 ()
5. あなたが住んでいる都道府県をお答え下さい: _____都・道・府・県 その他(具体的に_____)

6. 下の例を参考に、あなたのひきこもり期間をお答えください。

(例) 19才から1年6か月間と、24才から5年3か月間ひきこもった場合

1回目:(19)才から、(1)年(6)か月間
2回目:(24)才から、(5)年(3)か月間

1回目:()才から、()年()か月間
2回目:()才から、()年()か月間
3回目:()才から、()年()か月間

7. 以下の質問は、あなたの最近2週間の状態についてお聞きするものです。それぞれ当てはまるもの1つを丸(O)で囲んでください。

0=全く当てはまらない 1=あまり当てはまらない
2=少し当てはまる 3=非常に当てはまる

①自由に外出する..... [0 1 2 3]
②対人交流が必要な場所に行く..... [0 1 2 3]

- ③対人交流が必要でない場所に行く..... 【 0 1 2 3 】
- ④家庭内では自由に行動する..... 【 0 1 2 3 】
- ⑤家庭内で避けている場所がある..... 【 0 1 2 3 】
- ⑥自室に閉じこもる..... 【 0 1 2 3 】

8. あなたのここ**1か月**の外出日数をお答えください。
→ 1か月につき () 日

9. 外出できている場合、どんな所になら出かけていますか？具体的に書きください。
()

B. 下記の質問は、あなたの支援利用状況についてお尋ねするものです。

1. これから生活していくうえで、何らかの支援を望んでいますか？
a. はい b. いいえ c. わからない
2. ひきこもりに関して支援、医療機関を利用したことがありますか。
利用したことがある場合、継続的に利用していますか。
a. はい → ①継続的に利用している ②継続的に利用していない
b. いいえ

3. あなたが医療を必要としても、受診が難しい状況にありますか？
a. はい b. いいえ c. わからない
「a. はい」の場合、受診が難しい理由はなんでしょうか。具体的に書きください。
()

4. あなたにとって訪問型の医療サービスの充実が必要ですか。
a. 必要 b. 不要 c. わからない
その他、医療受診で必要なサービスがあれば具体的に書きください。
()

C. 下記の質問は家族会に関するお尋ねするものです。

1. あなたは家族会に参加したことがありますか？ → a. はい b. いいえ
2. あなたが加入しているKHU 家族会 (以下、家族会) の支部についてお答えください。
※複数ある場合は、主に活動している支部名をお書きください。
a. 会の名前 () b. 入会していない
3. あなたのご家族は家族会に参加したことがありますか？
→ a. はい b. いいえ c. わからない
「はい」と答えた方 → ご家族が家族会に参加したことで変化がありましたか？
→ a. はい b. いいえ

「はい」と答えた方 → 家庭内でどのような変化が感じられましたか？具体的に書きください。
()

4. あなたのご家族が加入しているKHU 家族会 (以下、家族会) の支部についてお答えください。
※複数ある場合は、主に活動している支部名をお書きください。

- a. 会の名前 () b. 入会していない c. わからない

D. 下記の質問は、あなたが普段ウェブサイト閲覧などに使用されるデバイス (情報電子機器) についてお尋ねするものです。以下の各機器の使用頻度について、もっとも当てはまる数字 1 つを○ (丸) で囲んでください。

	1=ほとんど使わない	2=少し使う	3=かなり使う
①iPad やタブレット (Android).....			【 0 1 2 3 】
②スマホ.....			【 0 1 2 3 】
③パソコン.....			【 0 1 2 3 】
④その他 ().....			【 0 1 2 3 】

E. 下記の質問は、あなたが普段使用している通信手段についてお尋ねするものです。以下の各通信手段について、もっとも当てはまる数字 1 つを○ (丸) で囲んでください。また、手段について使っているものすべての口に✓をしてください。

- | | 1=ほとんど使わない | 2=少し使う | 3=かなり使う |
|--|------------|--------|-------------|
| 1. 音声通話.....
□携帯電話 □固定電話 □LINE 通話 □その他 () | | | 【 0 1 2 3 】 |
| 2. 文字.....
□メール □ショートメッセージ □LINE □Facebook メッセージャー □Twitter のメッセージ □Instagram のメッセージ □TikTok のメッセージャー □電子掲示板 □ブログ □Fax □手紙、ハガキ □その他 () | | | 【 0 1 2 3 】 |
| 3. ビデオ通話.....
□Zoom □Teams □V-cube □Google ミート □その他 () | | | 【 0 1 2 3 】 |
| 4. その他の通信手段.....
□Slack などのビデオチャットツール □オンラインゲーム □メタバース □その他 () | | | 【 0 1 2 3 】 |

F. 下記の質問は、あなたが普段、ひきこもりに関する情報を入力する情報源についてお尋ねするものです。以下の各サイトについて、どのくらい利用されているか、もっとも当てはまる数字1つを○(丸)で囲んでください。ご存知でなければ、「？」に○をつけてください。

- 0=全く使わない 1=ほとんど使わない 2=少し使う 3=かなり使う ?=知らない
- 検索サイト
 - ①google【 0 1 2 3 ? 】
 - ②Yahoo【 0 1 2 3 ? 】
 - ③goo【 0 1 2 3 ? 】
 - ④Bing【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑤その他 ()【 0 1 2 3 ? 】
 - SNS
 - ①Twitter【 0 1 2 3 ? 】
 - ②TikTok【 0 1 2 3 ? 】
 - ③LINE【 0 1 2 3 ? 】
 - ④Facebook【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑤Instagram【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑥mixi【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑦その他 ()【 0 1 2 3 ? 】
 - 動画や文章
 - ①ニコニコ動画【 0 1 2 3 ? 】
 - ②Youtube【 0 1 2 3 ? 】
 - ③ブログ【 0 1 2 3 ? 】
 - ④Note【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑤その他 ()【 0 1 2 3 ? 】
 - 掲示板
 - ①5ちゃんねル【 0 1 2 3 ? 】
 - ②その他 ()【 0 1 2 3 ? 】
 - ウェブサイト
 - ①国や自治体のウェブサイト【 0 1 2 3 ? 】
 - ②民間の支援機関やNPO 団体などのウェブサイト【 0 1 2 3 ? 】
 - ③ひきこもりに関する情報などが集まっているポータルサイト【 0 1 2 3 ? 】
 - ④Yahoo!ニュースなどのニュースサイト【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑤その他 ()【 0 1 2 3 ? 】
 - マスメディア
 - ①新聞【 0 1 2 3 ? 】
 - ②テレビ【 0 1 2 3 ? 】
 - ③ラジオ (オフラインラジオを含む)【 0 1 2 3 ? 】
 - ④その他 ()【 0 1 2 3 ? 】
 - オンラインヒマスメディア以外
 - ①本【 0 1 2 3 ? 】
 - ②雑誌【 0 1 2 3 ? 】

- 2022KHU 全国調査 (本人用)
- ③チラシ【 0 1 2 3 ? 】
 - ④自治体の広報【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑤回覧板【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑥利用者の口コミ【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑦相談支援窓口【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑧イベント (講演会やKHU 全国大会、当事者会など)【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑨家族会の会報誌【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑩KHU 本部の情報誌「たびだち」【 0 1 2 3 ? 】
 - ⑪その他 (具体的に)【 0 1 2 3 ? 】

※あなたがひきこもりに関する情報を検索する際、どのようなキーワードで検索をしていますか?具体的に
にお書きください。

検索キーワード (具体的に)

※ひきこもりに関する相談機関を検索する際に、どんな情報を知りたいですか?知りたい情報のすべての
□に✓をしてください。

- 利用料金 □支援の内容 □支援対象エリア □開所時間 □場所 □電話番号 □メールアドレス
- ウェブページ □オンラインでの利用が可能かどうか □予約の要不要 □予約方法
- スタッフの情報 (ピア、専門家など) □スタッフの男女比 □スタッフのひきこもりに詳しいか否か
- スタッフの資格 (臨床心理士、KHUピアサポーターなど) □立場 □評判 (口コミ) □対象年齢
- 動画情報 (メッセージなど) □画像情報 (施設の外觀など) □メッセージ □利用上必要な手続き
- その他 (自由記述)

※あなたは、ひきこもりに関してインターネットなどを通じて直接対面せずに行うオンライン支援を利用
したことがありますか?利用したことがある場合、継続的に利用していますか?

- a. はい → ①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない
- b. いいえ

※オンライン支援を受けたことがある場合、その感想や効果について具体的ににお書きください。

G. あなたがオンライン支援を受けるときに、下記の条件はどの程度重要だと思いますか。各項目について、「0=全く重要ではない~3=かなり重要だ」のうち、もっとも当てはまる数字1つを○(丸)で囲んでください。わからない場合は、「？」に○をつけてください。

0=全く重要ではない 1=ほとんど重要ではない
2=少し重要だ 3=かなり重要だ ?=わからない

- 1. リアルタイムかどうか?
①リアルタイムのやり取り (オンライン居場所、オンライン相談など)
②リアルタイムではないやり取り (Eメール、掲示板など)
2. 発信者は誰か?
①支援者・専門家からの発信 (オンライン講演会、情報ウェブサイトなど)
②当事者からの発信 (体験談、当事者のインタビューなど)
③双方向からの発信 (オンライン相談、チャット相談など)
3. やり取りする相手は誰か?
①ひきこもり経験者やその家族とのやり取り
②支援者・専門家とのやり取り
③AIやロボットなどの機械とのやり取り
4. 受け取る情報の種類は何か?
①文字情報 (メールマガジン、イベント情報など)
②音声情報 (ラジオ、Twitterのスペースなど)
③画像情報 (漫画、写真など)
④動画情報 (アニメ、ビデオなど)
5. やり取りのときの匿名性は?
①実名を名乗らなくてよい (ニックネームや匿名での利用ができる)
②自分の顔が映らない (ビデオオフやアバターで参加できる)
③自分の声が出ない (チャットで参加できる)
6. 利用時間は?
①24時間いつでも利用できる
②一回で利用できる時間の長さに制限がない
7. 料金の有無は?
利用料金が月平均いくらまでなら使ってみたいと思いますか?以下から上限を一つ選んでください。
□無料 □100円まで □500円まで □1000円まで □1000円以上でも可
8. オンライン支援を何のために使いたいですか?
①講演を聞く
②居場所に参加する
③就労(支援を受ける、収入を得る、情報を受け取るなど)
④就学(支援を受ける、資格を取る、情報を受け取るなど)
⑤自己表現(文章、イラスト、動画などを発信する)
⑥医療情報の収集・相談
⑦福祉情報の収集・相談
⑧その他(自由にお書きください)

※あなたは就労経験がありますか? → a. ある b. ない

※就労経験がある場合、就労する中で傷ついたりという思いがありますか? → a. はい b. いいえ

Blank box for response to Q.10

※あなたは現在、働きたいという思いがありますか? → a. はい b. いいえ

※あなたは、オンラインやテレワークで働きたいという思いがありますか? → a. はい b. いいえ

H. あなたが働く上で職場や働き方として求めていることについてお尋ねします。下記の各項目について、もっとも当てはまる数字1つを○(丸)で囲んでください。
※現在、あなたに働く気持ちがない場合でも、お答えください。

0=全く求めている 1=あまり求めている 2=やや求めている 3=かなり求めている

- ①働く経験が少ない人の心情や個性を理解しようとしている
②電話面談が少ない
③上から目線、頭ごなしの指導はしない
④職場にひきこもり経験者がいる
⑤専門家(臨床心理士、産業カウンセラーなど)を職場に配置している
⑥働く経験が少ない人の体力・精神状態に配慮している
⑦こまめな休憩をとるように職場が指示している
⑧他人とくらべない
⑨ひきこもりに理解のある企業であるか分かる情報を公開している
⑩仕事内容に変更があった場合は、できそうが確認がある
⑪会社がひきこもりに関する研修を実施している
⑫言葉での説明だけでなく、実際に手順をやって見せている
⑬職場の人が誰に対しても丁寧な言葉づかいで声かけをしている
⑭どのような業務がありその内容も詳しくわかるような情報を公開している
⑮やる気を維持するために、仕事内容を選択できる
⑯早い時期に会社があなたを理解するために十分な時間を設けている
⑰職場に慣れるためのプランを作成し、実施状況の確認をしている
⑱仕事以外でも親身になってくれる仲間が職場にいる

- ①出張がない.....【 0 1 2 3 】
- ②図や写真等で具体的な作業手順が書かれている業務マニュアルがある.....【 0 1 2 3 】
- ④あなたの状態、必要な配慮などを記載した資料を関係者に配布している.....【 0 1 2 3 】
- ⑤あなたに治療が必要かを確認している.....【 0 1 2 3 】
- ⑥出勤時や退勤時に挨拶などの声かけをしている.....【 0 1 2 3 】
- ⑦雇用条件が明確である.....【 0 1 2 3 】
- ⑧言葉だけでなく紙に書いて指示をしている.....【 0 1 2 3 】
- ⑩対人関係のない仕事や作業がある.....【 0 1 2 3 】
- ⑪いしほはめて育てようとしている.....【 0 1 2 3 】
- ⑫就労経験がない人でも採用している職場である.....【 0 1 2 3 】
- ⑬業務を確実に遂行できているか確認している.....【 0 1 2 3 】
- ⑭短時間から徐々に始めることができる.....【 0 1 2 3 】
- ⑯自宅で働ける.....【 0 1 2 3 】
- ⑰同じことを何度聞いても嫌がらずに答えている.....【 0 1 2 3 】
- ⑱非効率であったとしても多様な人材を受け入れている.....【 0 1 2 3 】
- ⑲一つが終わってから次の指示を出すなど、業務指示は1つずつ行う.....【 0 1 2 3 】
- ⑳自宅の近くで働ける.....【 0 1 2 3 】
- ㉑仕事上の感謝や今後の期待を伝えている.....【 0 1 2 3 】
- ㉒採用の年齢制限がない.....【 0 1 2 3 】
- ㉓通院などのために休暇を柔軟に取れる.....【 0 1 2 3 】
- ㉔日雇いなどの単発的な働き方ができる.....【 0 1 2 3 】
- ㉕話し合いは自由に感想などを言えるようにしている.....【 0 1 2 3 】
- ㉖楽しめる仕事がある.....【 0 1 2 3 】
- ㉗あなたの気持ちをよく聞こうとしている.....【 0 1 2 3 】
- ㉘仕事が重荷になっていないかなどについて定期的な面談がある.....【 0 1 2 3 】
- ㉙連絡帳などで職場がご家族と情報交換をしている.....【 0 1 2 3 】
- ㉚やりがいのある仕事がある.....【 0 1 2 3 】
- ㉛職場の人がひきこもりに偏見なく対応している.....【 0 1 2 3 】
- ㉜キャリアアップ、スキルアップのサポートがある.....【 0 1 2 3 】
- ㉝定期的に支援機関とあなたを交え働き方を検討する場を設けている.....【 0 1 2 3 】
- ㉞職場の人に認められる経験ができる.....【 0 1 2 3 】
- ㉟失敗した後、その失敗をマイナスに捉えず、どう生かすかの助言がある.....【 0 1 2 3 】
- ㊱お客さんに喜んでもらえる経験ができる.....【 0 1 2 3 】
- ㊲いつでも相談できる担当者が職場にいる.....【 0 1 2 3 】
- ㊳欠勤をあなたがマイナスと捉えないよう職場が精神面をケアしている.....【 0 1 2 3 】
- ㊴社会に役に立った経験ができる.....【 0 1 2 3 】

- ⑤毎日、体調を職場の人に伝える仕組みがある.....【 0 1 2 3 】
- ⑥仕事以外で楽しめる場 (スポーツ大会など) を用意している.....【 0 1 2 3 】
- ⑦職場でいつでもひとりになれる休憩場所がある.....【 0 1 2 3 】
- ⑧定期的にあなたへのアンケートを実施している.....【 0 1 2 3 】
- ⑨体調や集中力に応じて仕事量が柔軟である.....【 0 1 2 3 】
- ⑩指示した内容について、あなたがメモを取る時間を設けている.....【 0 1 2 3 】
- ⑪責任の少ない働き方 (インターンシップ、アルバイト) から始められる.....【 0 1 2 3 】
- ⑫あなたが快適に仕事ができる物理的環境 (人の出入り、温度、騒音、光など) がある.....
-【 0 1 2 3 】
- ⑬ストレスとの付き合い方を学ぶ機会がある.....【 0 1 2 3 】
- ⑭採用時、複数の職場を見学し、働きやすい職場の方を選ぶ.....【 0 1 2 3 】

I. 下記の質問について、あなたの考えを自由にお書きください。

1. ひきこもり支援をオンラインで受ける際に、どのようなことが心配ですか？あなたの考えを自由にお書きください。

2. 現在、ひきこもり地域支援センターを拡充する政策が進められていますが、拡充する際どのような点を強化して欲しいと考えていますか？あなたの考えを自由にお書きください。ひきこもり地域支援センターをご存知ないようでしたら、なぜご存知ないのかを可能な範囲でお書きください。

メモ

メモ

メモ

問い合わせ先

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 3-16-12-301
NPO 法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会事務局
Tel 03-5944-5250 Fax 03-5944-5290
E-mail : info@khj-h.com

〒889-2192 宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地
宮崎大学教育学部 境 泉洋
TEL & FAX 0985-58-7458
E-mail : sakai.motohiro.n8@cc.miyazaki-u.ac.jp